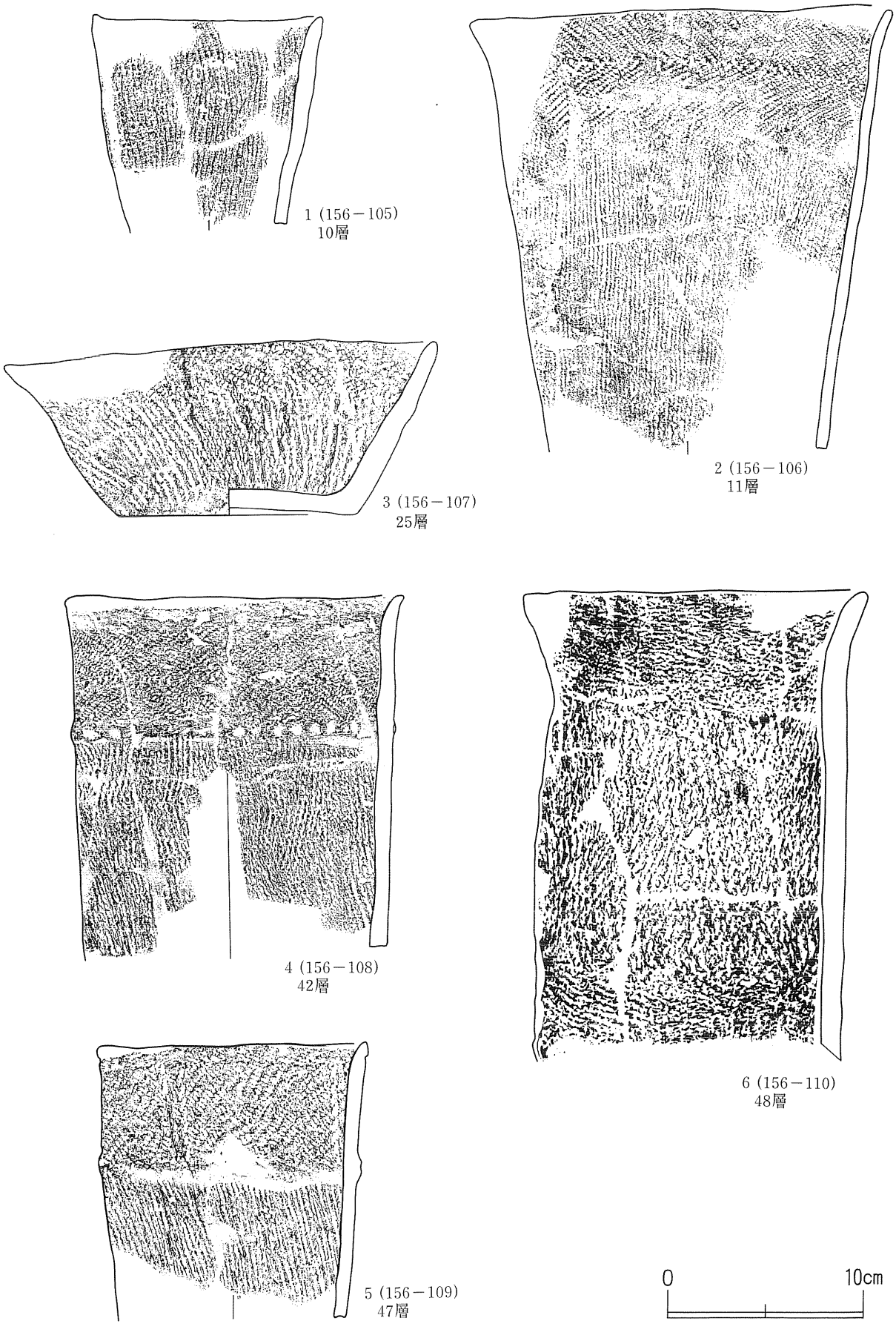
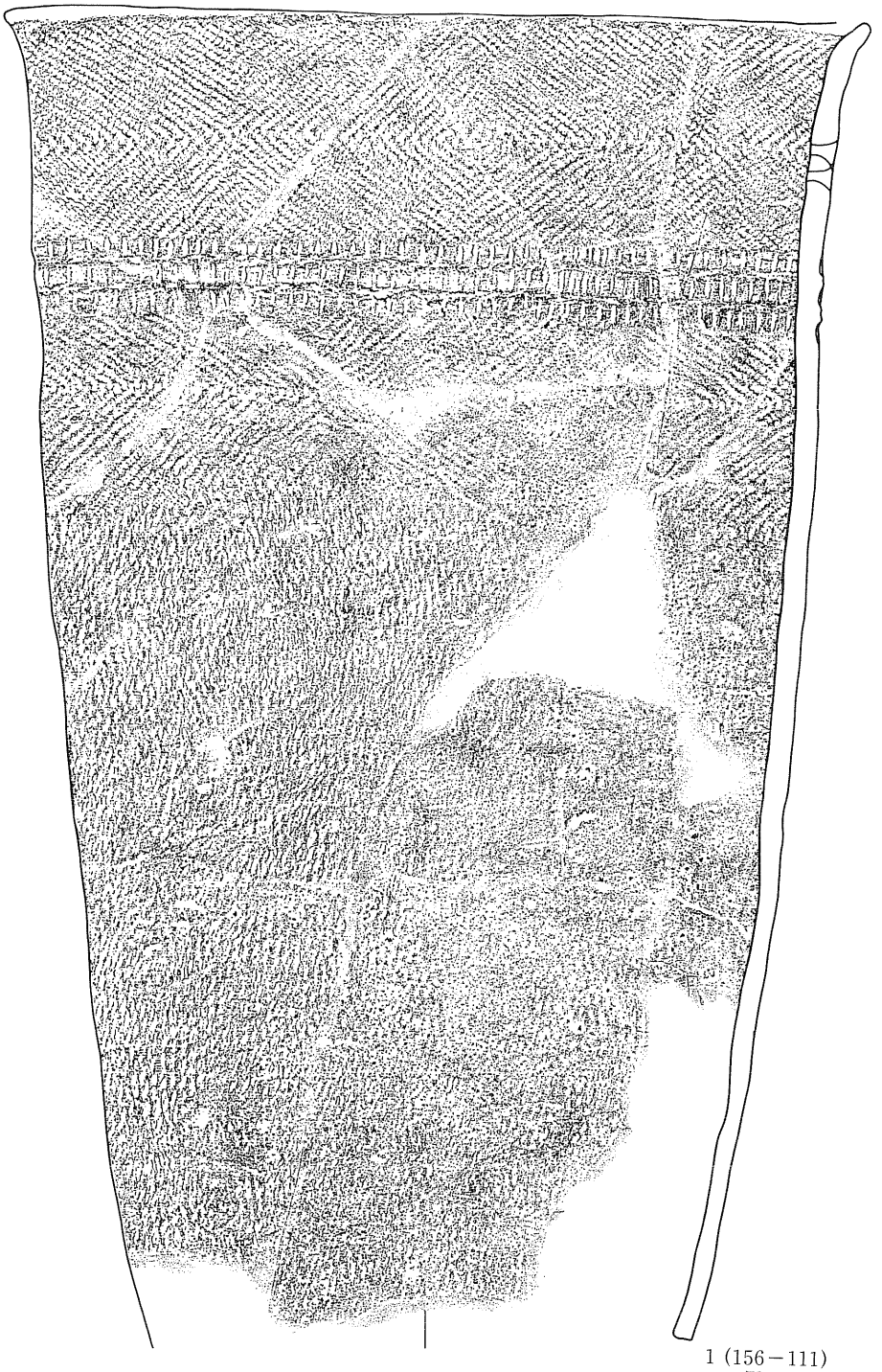


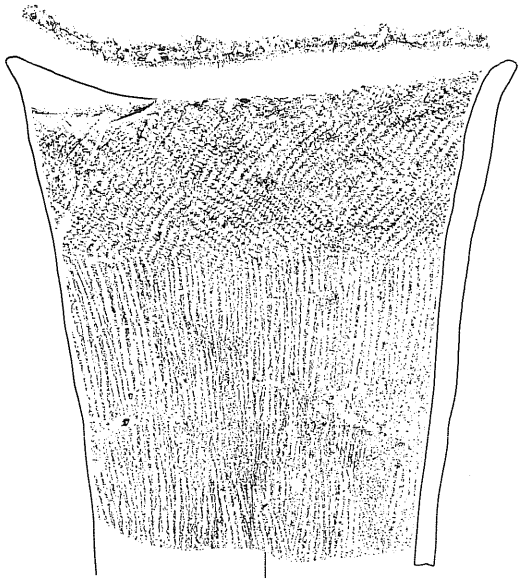
第509図　ＳＴ156谷土層ベルト中層位毎採取土器（１）



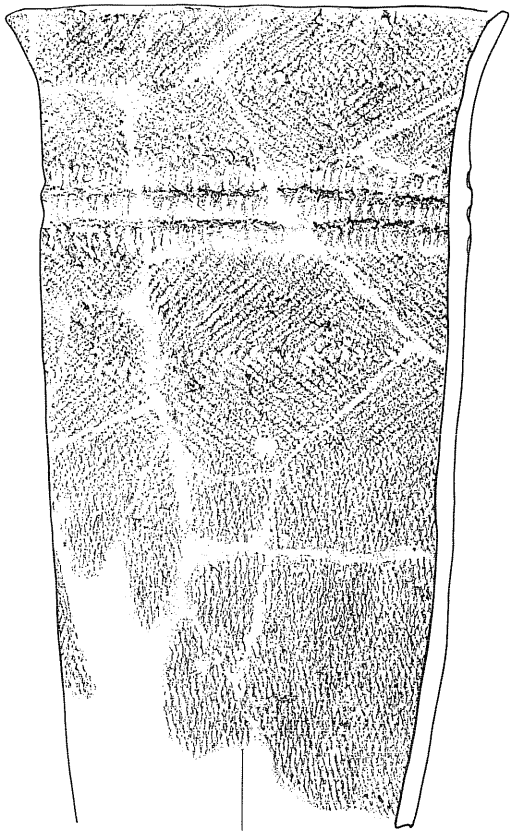
1（156－111）
48層＋51層

0　10cm

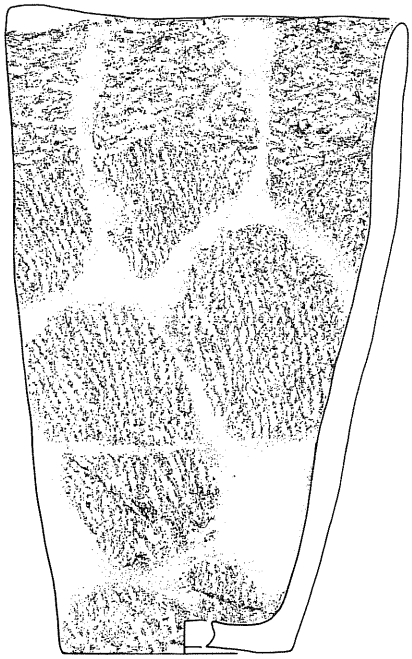
第510図　ＳＴ156谷土層ベルト中層位毎採取土器（２）



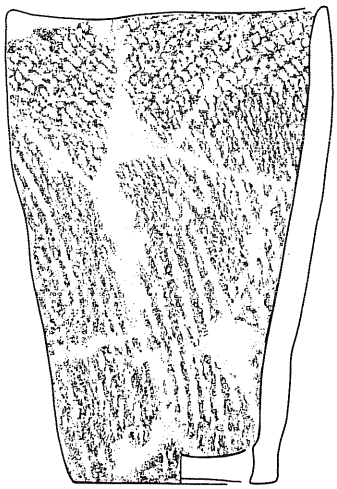
1（156－112）
53層



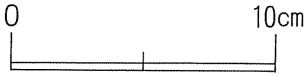
2（156－113）
53層



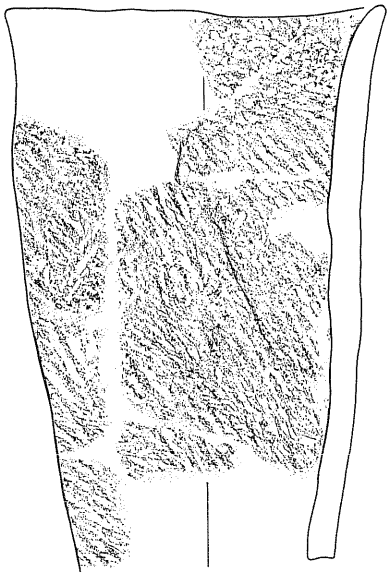
3（156－114）
64層



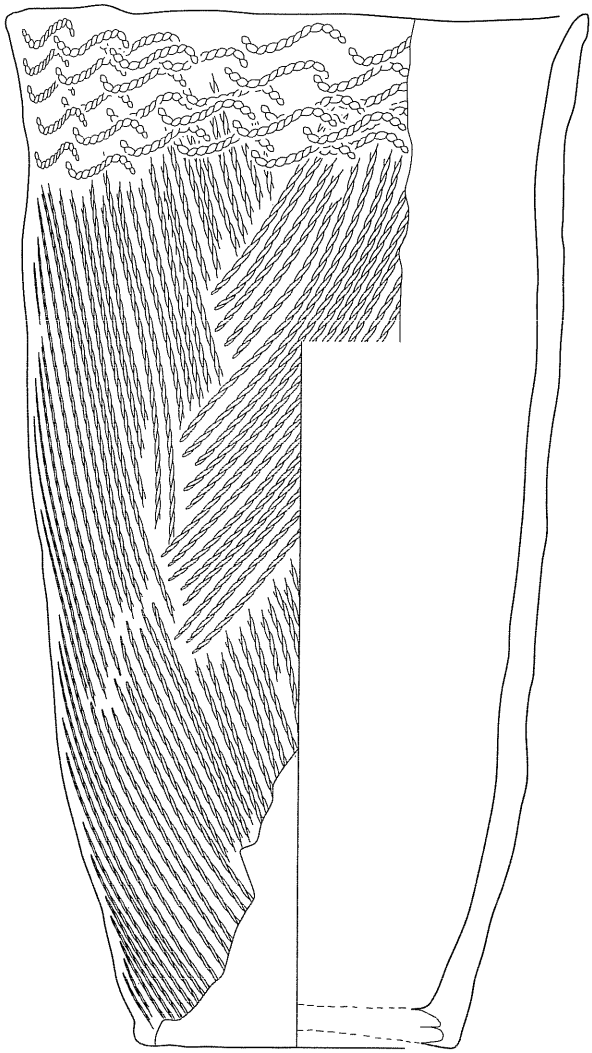
4（156－115）
65層



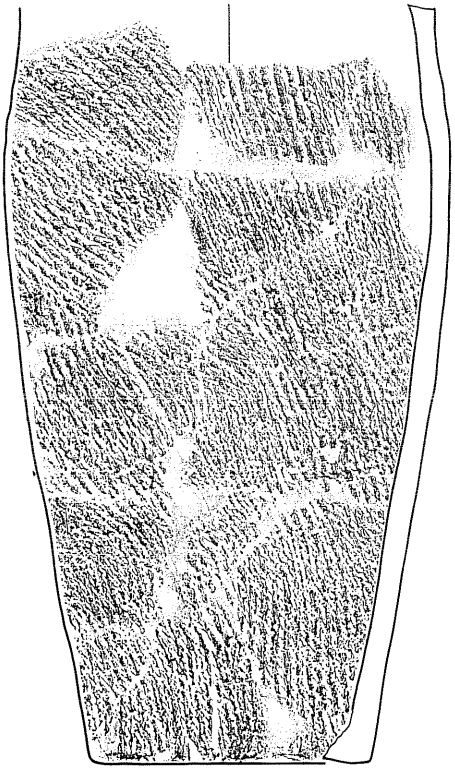
第511図　ＳＴ156谷土層ベルト中層位毎採取土器（３）



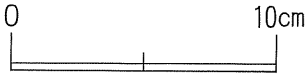
1（156－116）
68層



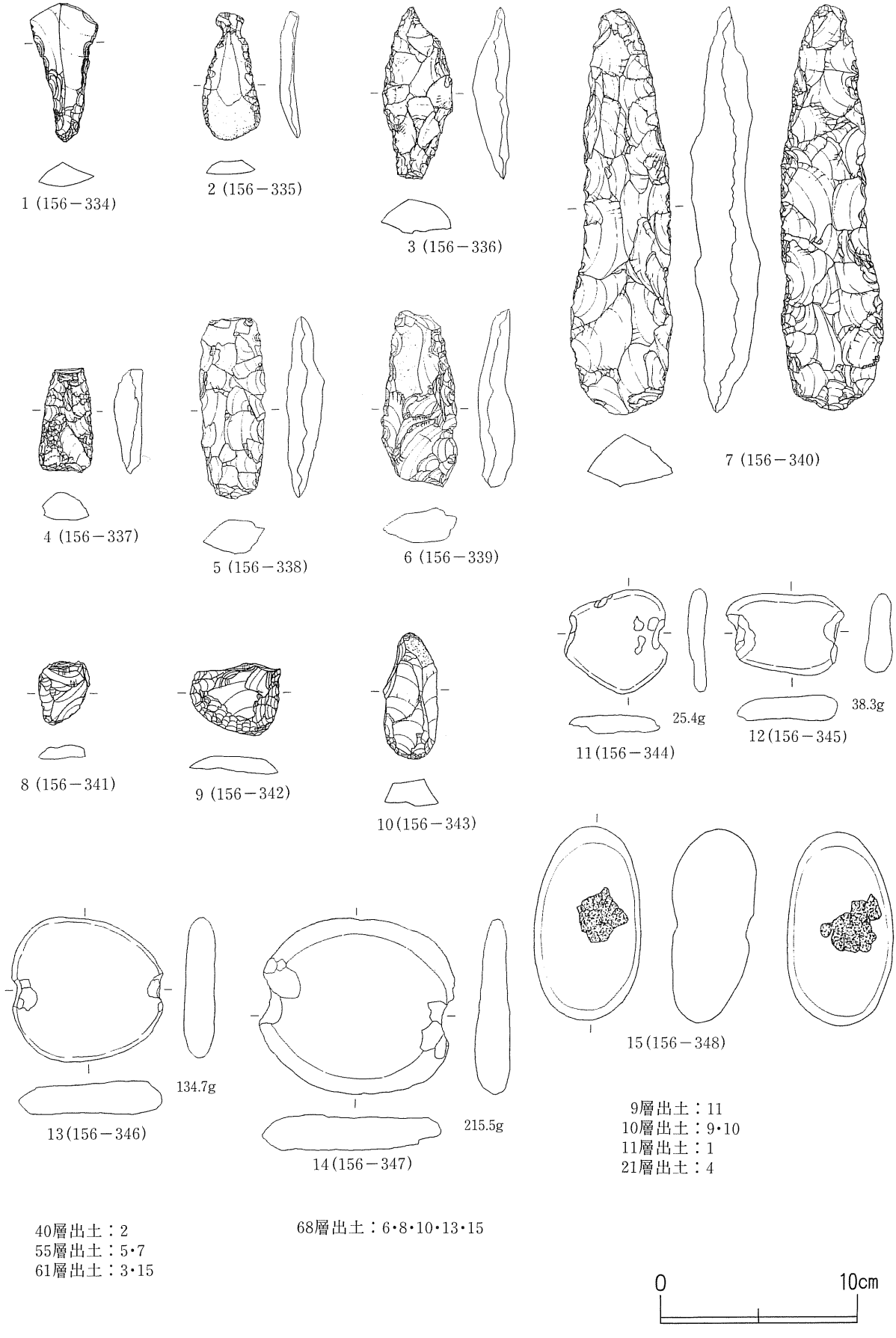
3（156－118）
68層



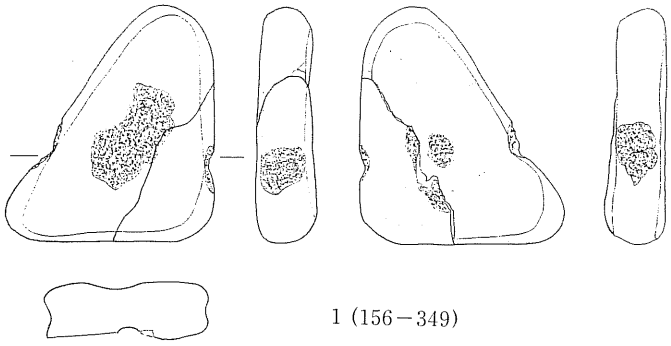
2（156－117）
68層



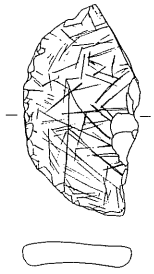
第512図　ＳＴ156谷土層ベルト中層位毎採取土器（４）



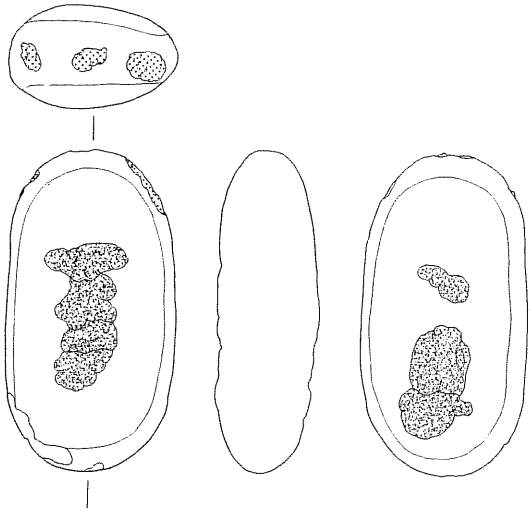
第513図　ＳＴ156谷ベルト中層位毎出土石器（１）



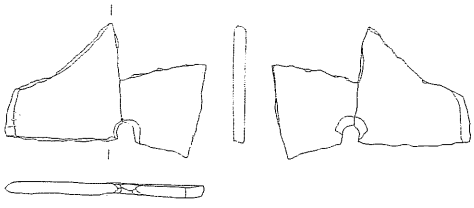
1（156－349）



5（156－353）

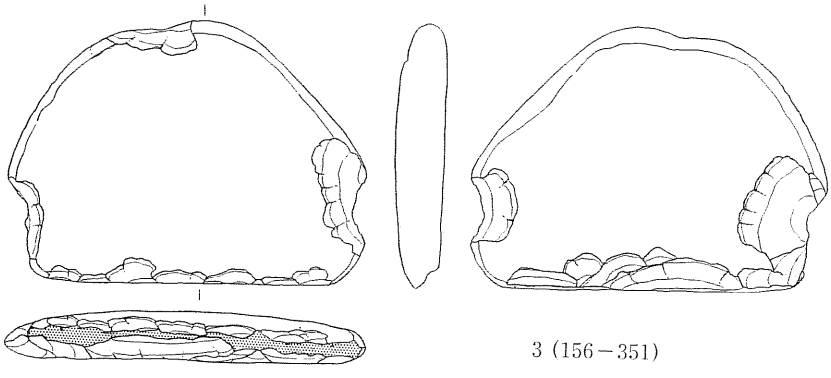


2（156－350）



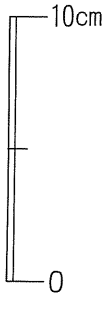
6（156－354）

1層出土：5
55層出土：2・3
68層出土：1・6
70層出土：4

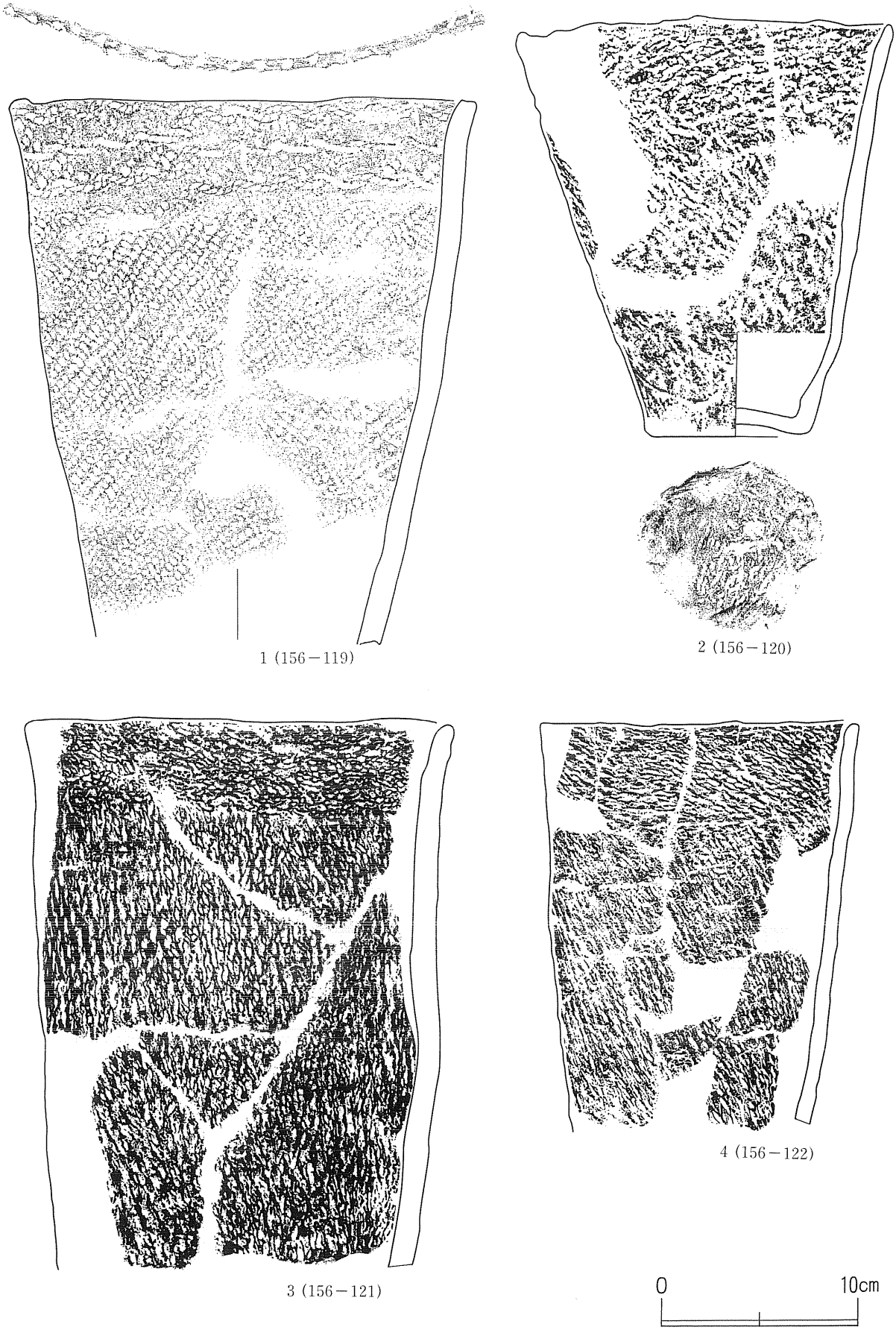


3（156－351）

4（156－352）

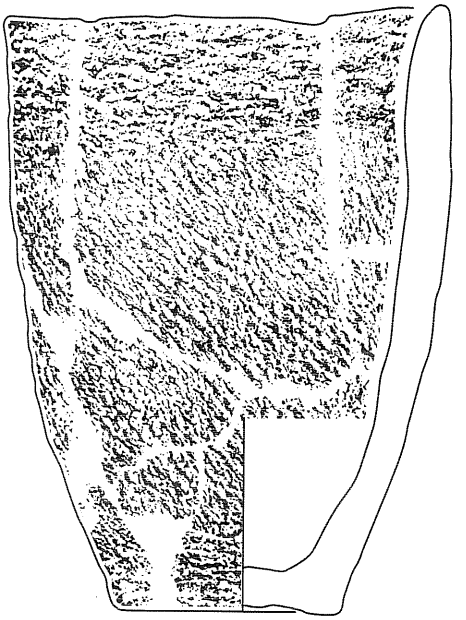


第514図　ＳＴ156谷ベルト中層位毎出土石器（２）

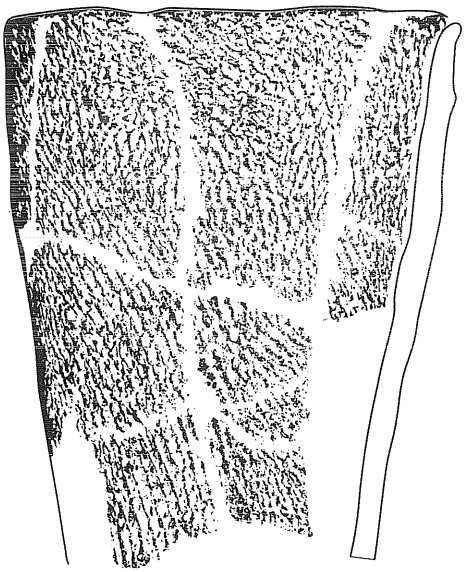


第515図　ＳＴ156谷一括採取土器（１）

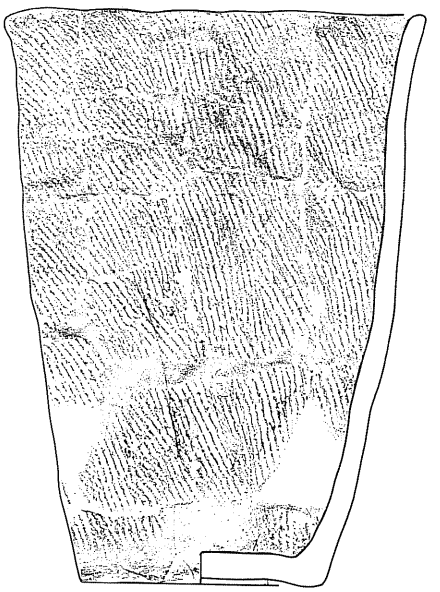
1（156－123）



2（156－124）



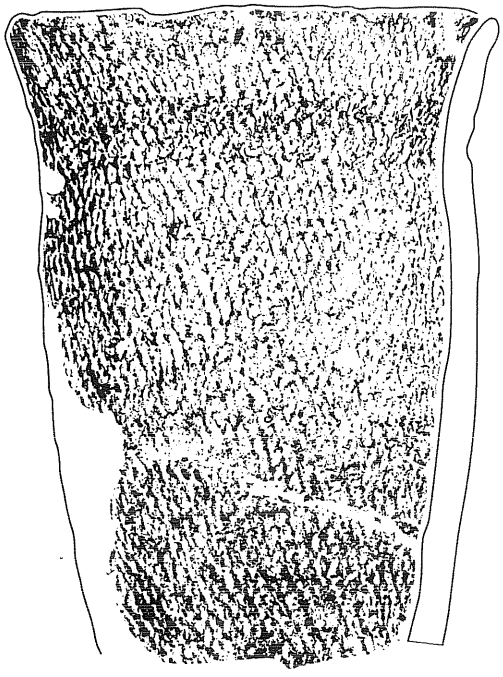
3（156－125）



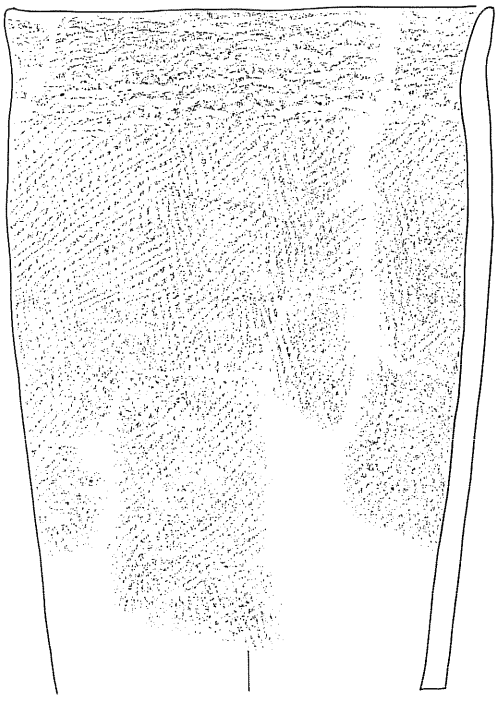
4（156－126）

0　10cm

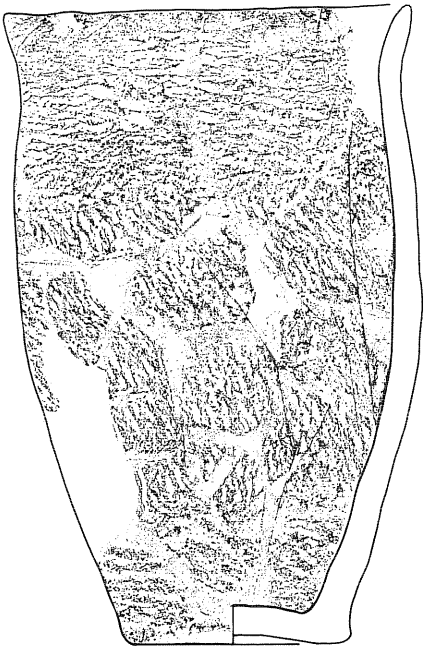
第516図　ＳＴ156谷一括採取土器（２）



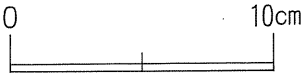
1（156－127）



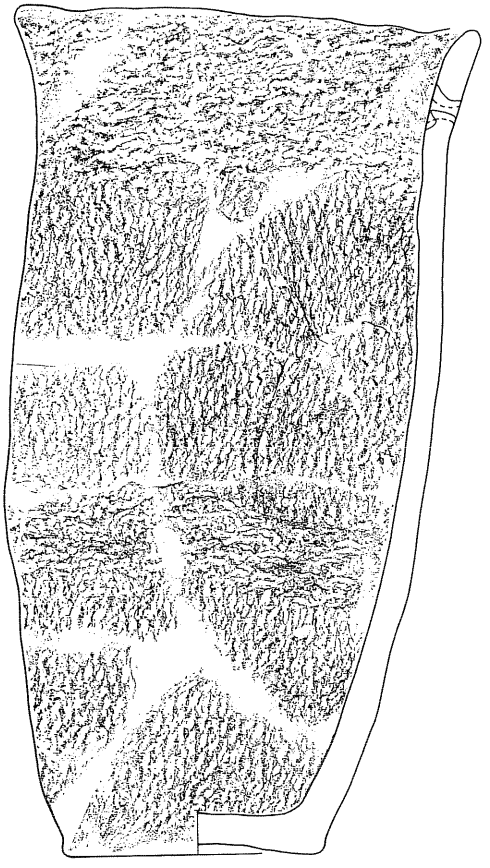
2（156－128）



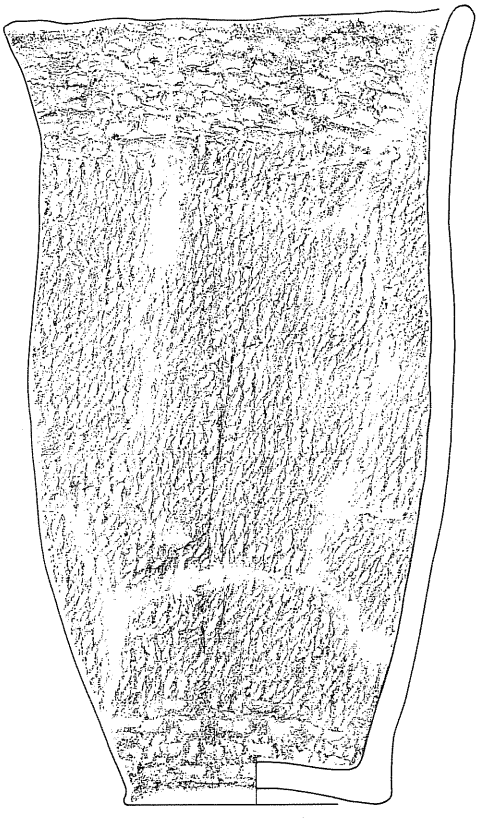
3（156－130）



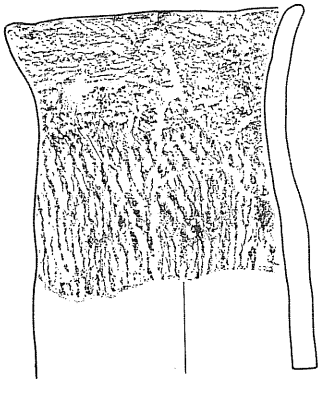
第517図　ＳＴ156谷一括採取土器（３）



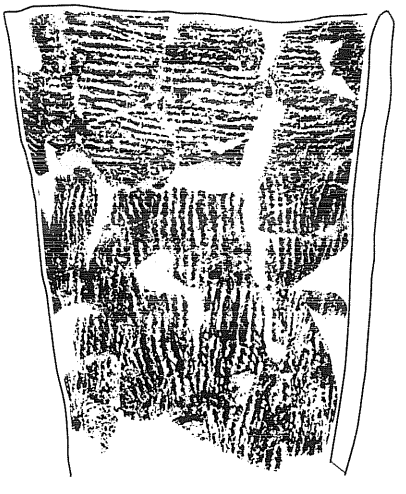
1（156－131）



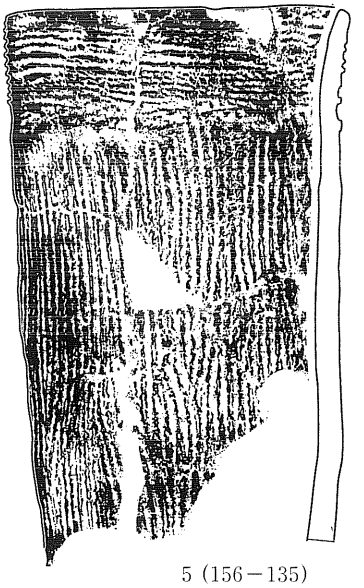
2（156－132）



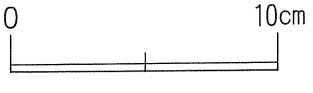
3（156－133）



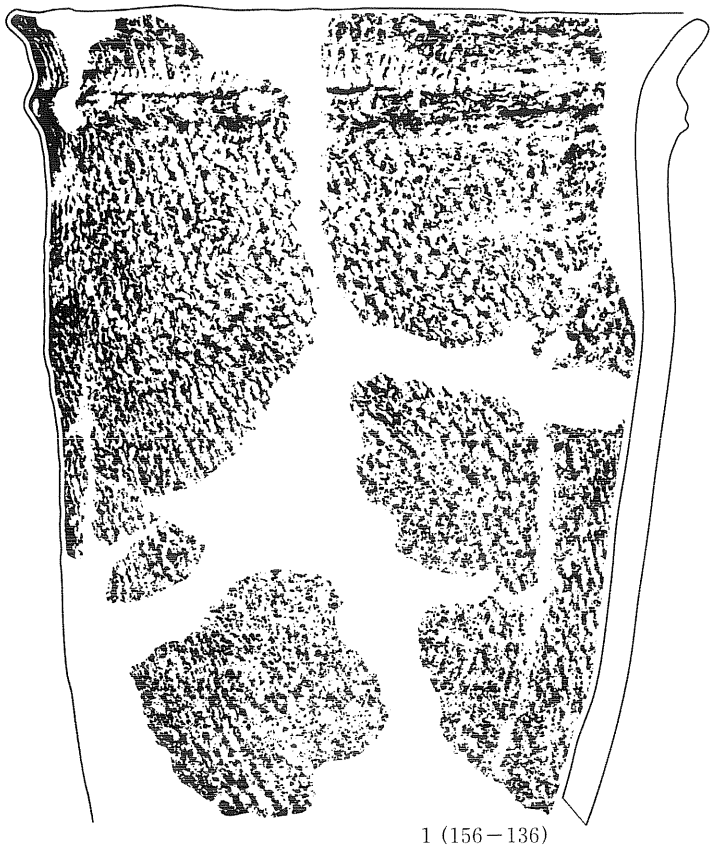
4（156－134）



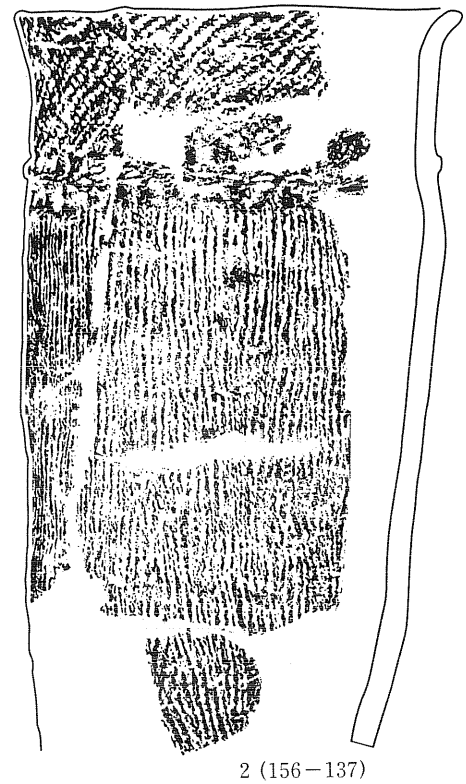
5（156－135）



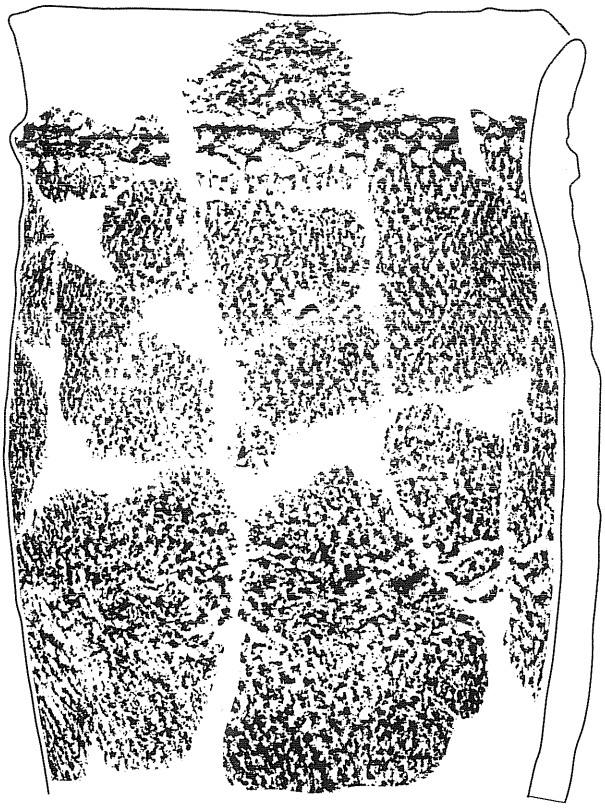
第518図　ＳＴ156谷一括採取土器（４）



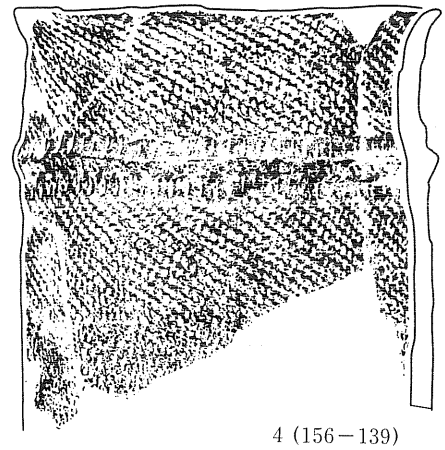
1（156－136）



2（156－137）



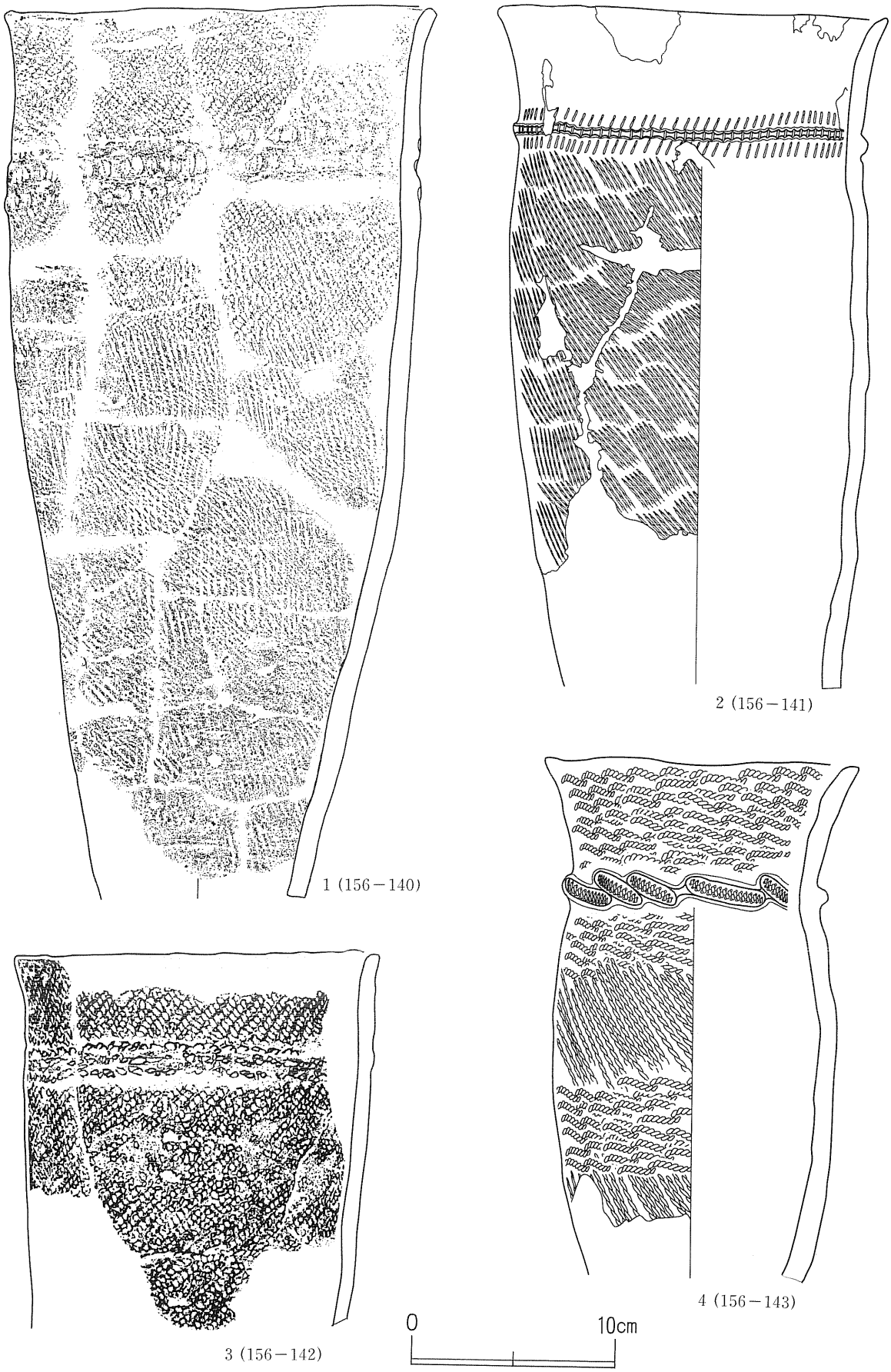
3（156－138）



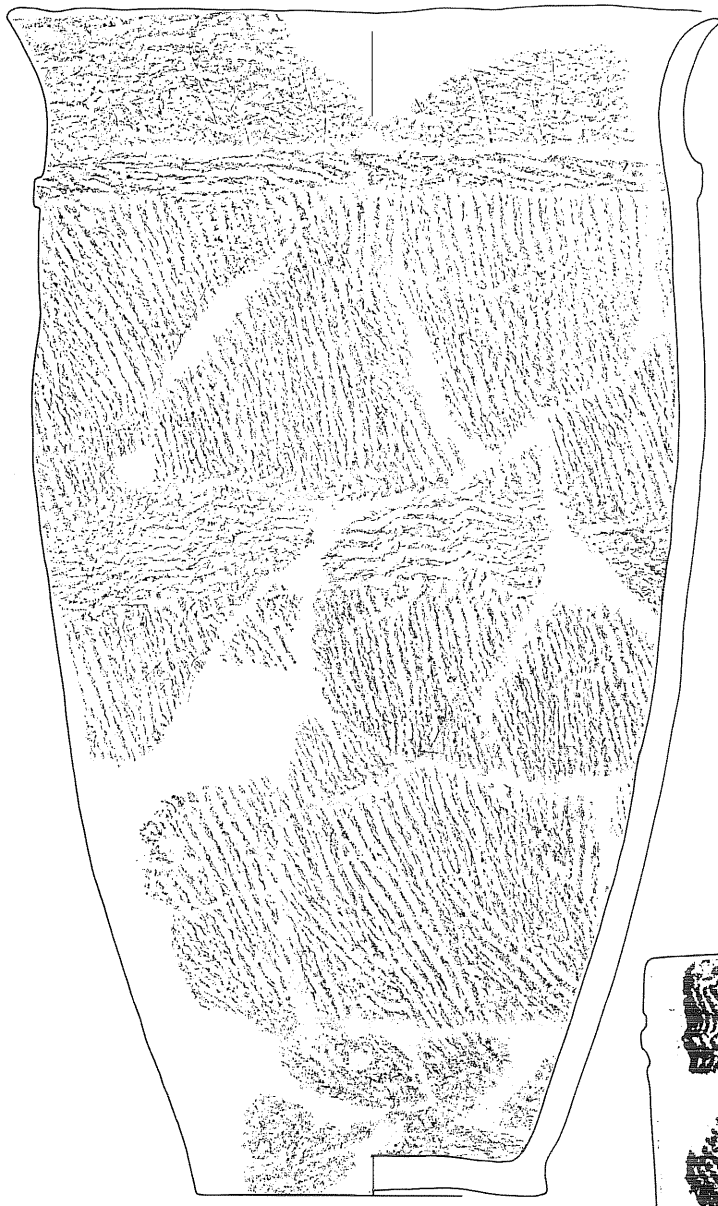
4（156－139）

0　10cm

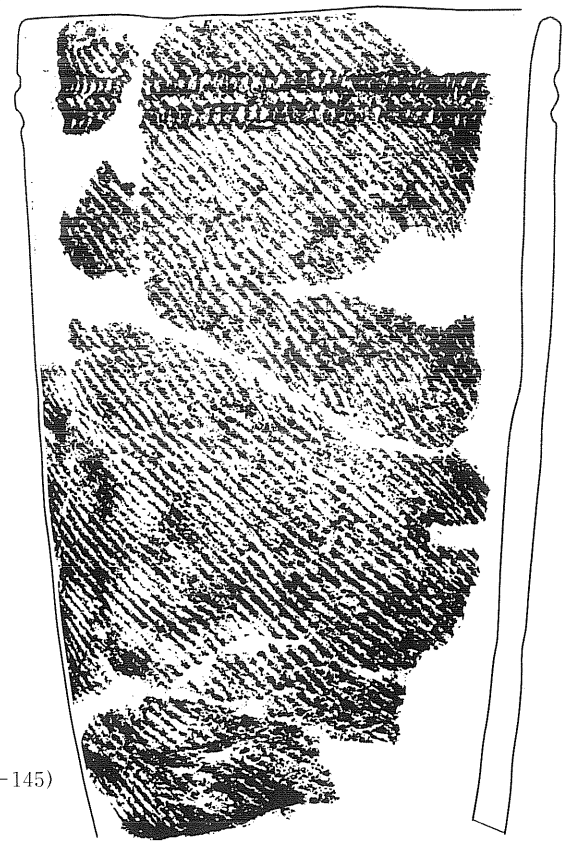
第519図　ＳＴ156谷一括採取土器（５）



第520図　ＳＴ156谷一括採取土器（６）



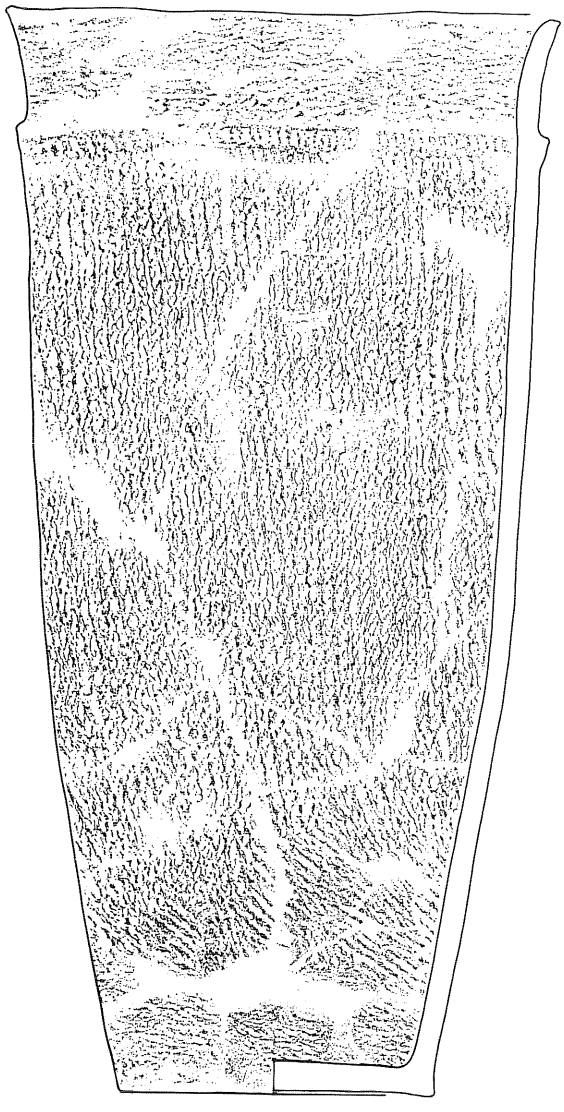
1（156－144）



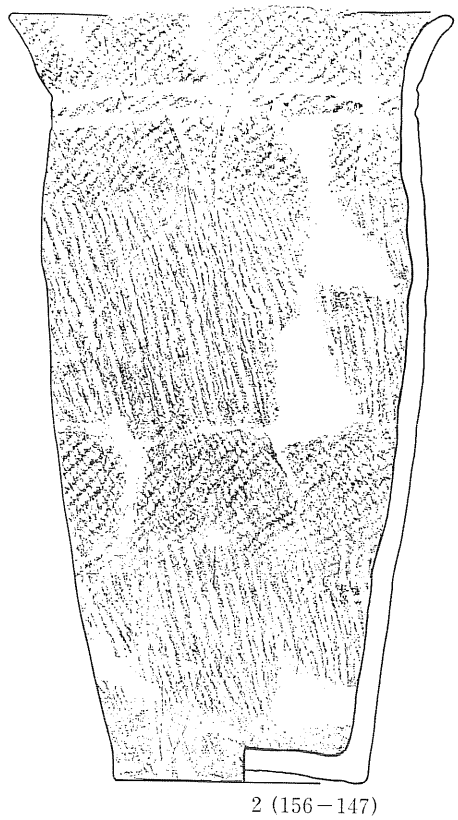
2（156－145）

0　10cm

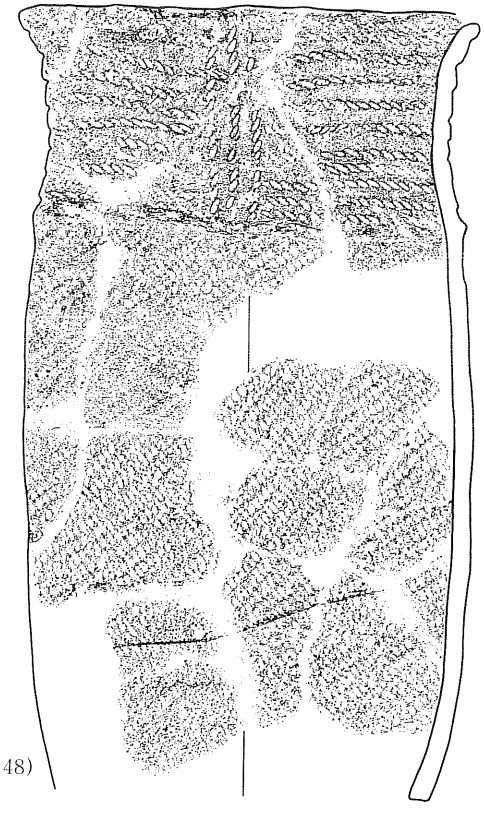
第521図　ＳＴ156谷一括採取土器（７）



1（156－146）



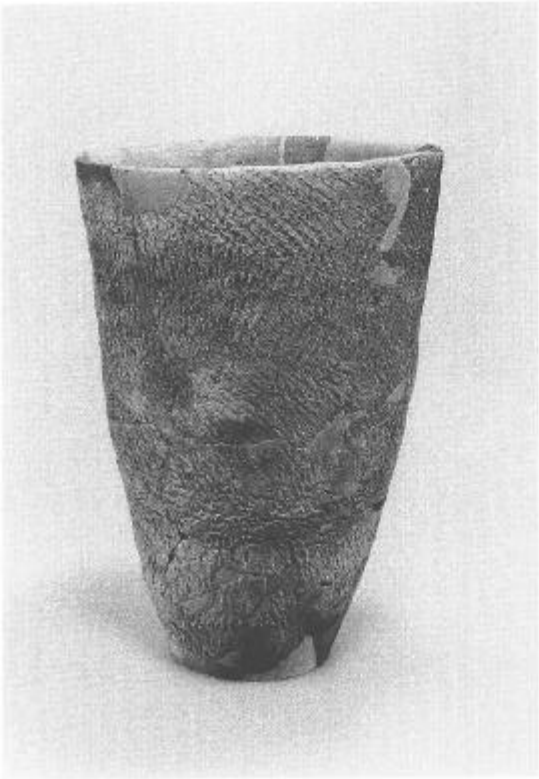
2（156－147）



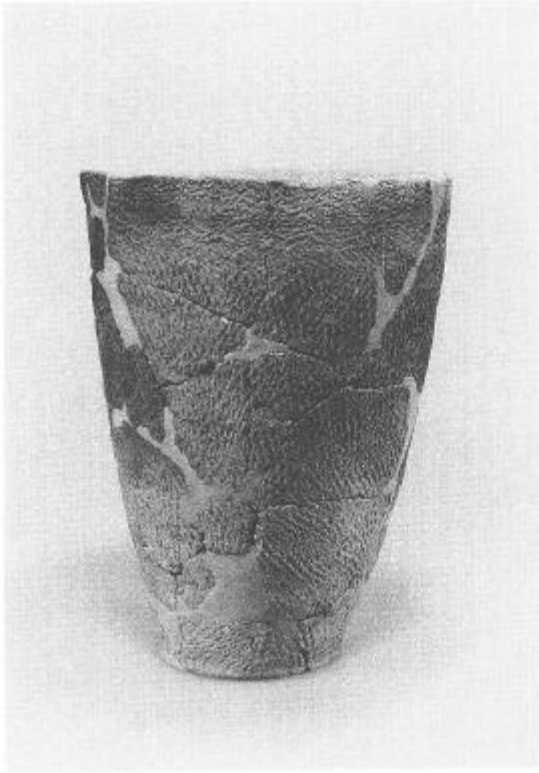
3（156－148）

0　10cm

第522図　ＳＴ156谷一括採取土器（８）



156－11（Ⅰ層）

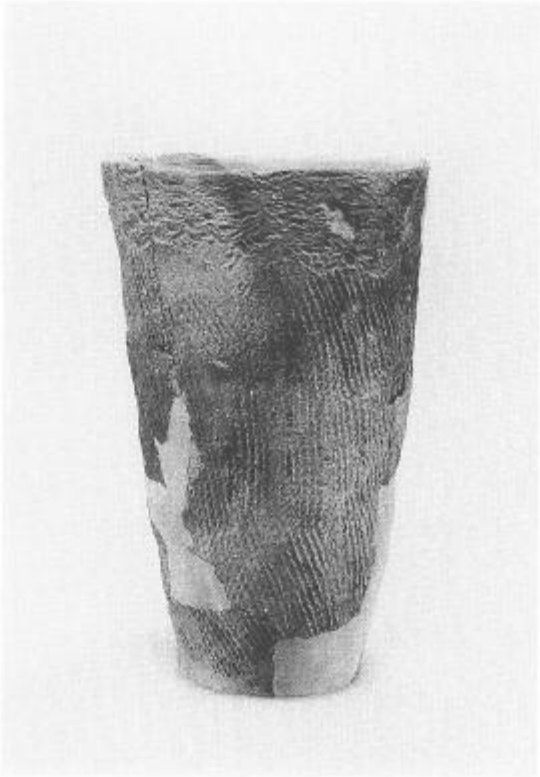


156－3（Ⅱ層）

156－132（層位不明）

写真10　ＳＴ156谷捨て場出土土器

156－5（Ⅰ層）

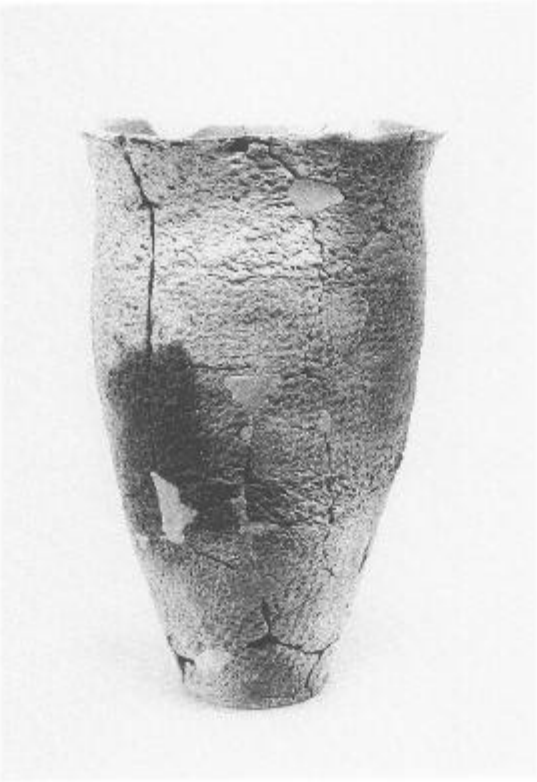


156－6（Ⅰ層）

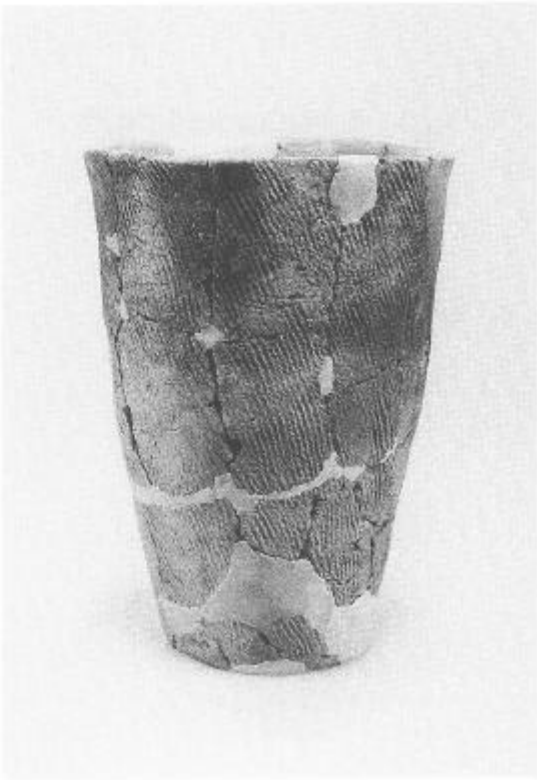
156－124（層位不明）

156－131（層位不明）

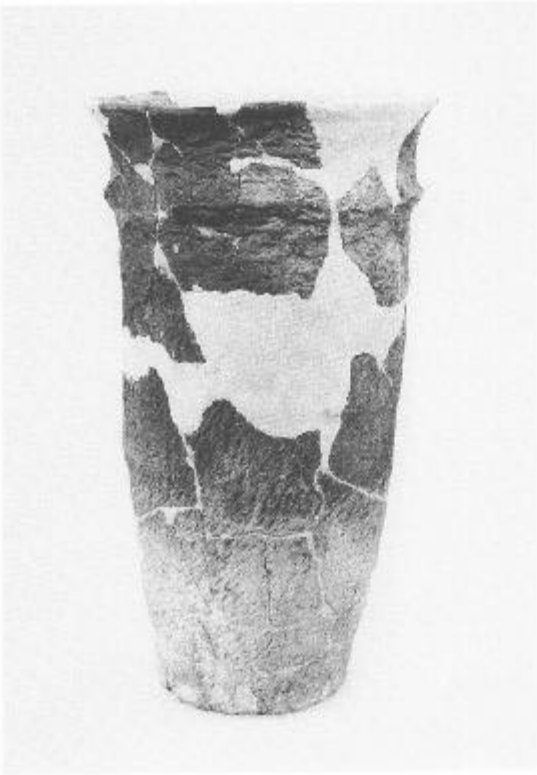
写真11　ＳＴ156谷捨て場出土土器



156－96（Ⅳ層）



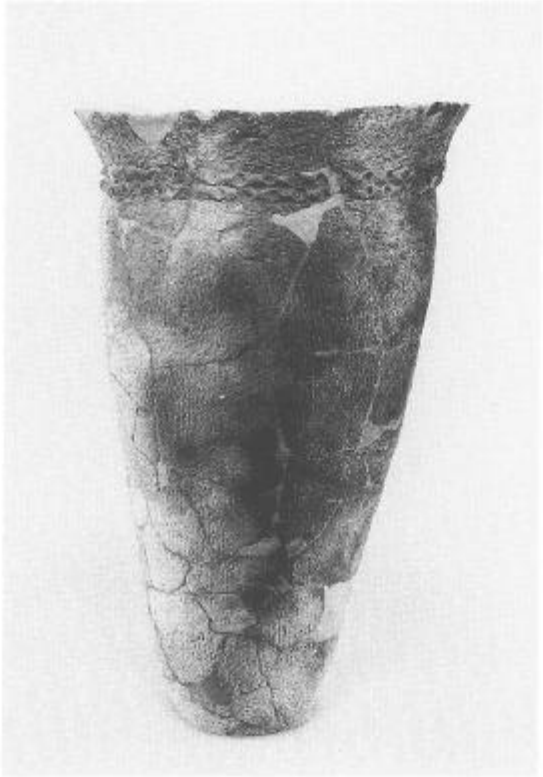
156－126（層位不明）



156－12（Ⅰ層）

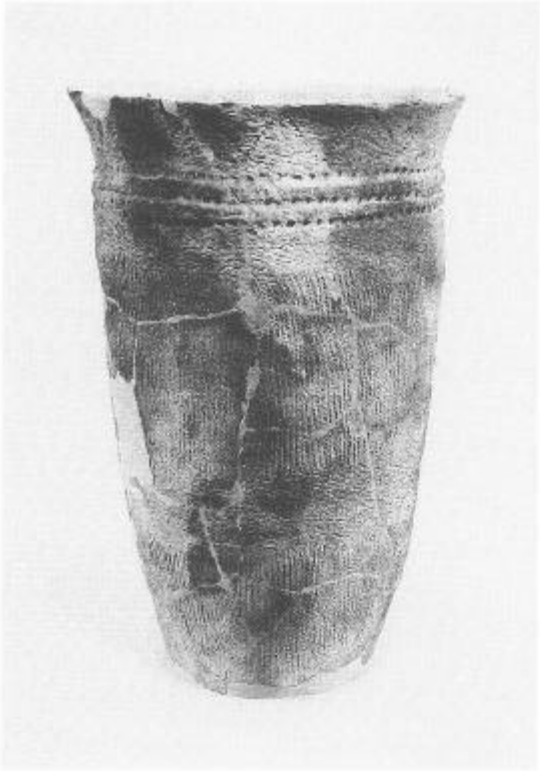
156－33（Ⅰ層）

写真12　ＳＴ156谷捨て場出土土器

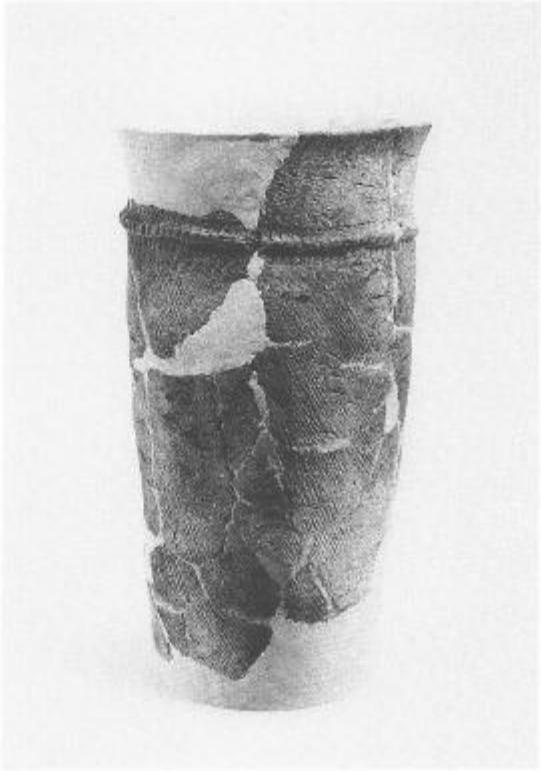


156－101（Ⅳ層）

156－30（Ⅰ層）



156－102（Ⅳ層）



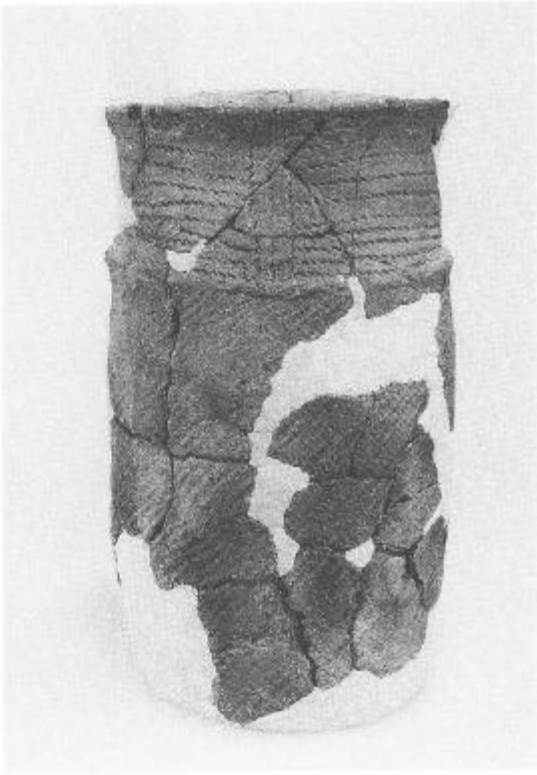
156－141（層位不明）

写真13　ＳＴ156谷捨て場出土土器

156－40（Ⅰ層）

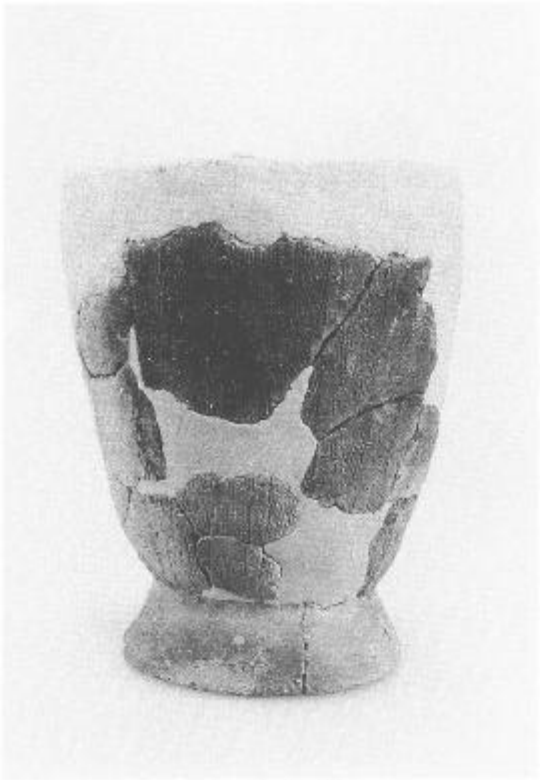
156－21（Ⅰ層）

156－93（Ⅳ層）



156－148（層位不明）

写真14　ＳＴ156谷捨て場出土土器



156－53（Ⅰ層）

156－19（Ⅰ層）

639－696（Ⅴ層）

写真15　ＳＴ156谷捨て場・ＳＴ639谷捨て場出土土器

第５節　ＳＴ396・504谷の捨て場

（１）概要と土層堆積状況

ＭＥ49、ＭＦ46～49、ＭＧ45～50、ＭＨ45～50、ＭＩ45～52、ＭＪ46～51、ＭＫ46～51、ＭＬ46～51、ＭＭ46～51、ＭＮ46～51、ＭＯ46～52、ＭＰ46～51、ＭＱ49～53、ＭＲ47～54、ＭＳ48～54、ＭＴ51～54、ＮＡ51～54、ＮＢ51～54、ＮＣ51～53、ＮＤ51・52のグリッドに検出できた。

谷頭から南西方向に17.6ｍの地点で南東方向に屈折した深い谷である。谷尻部分は調査区域外であるが、谷頭から調査区末端までの長さは78.2ｍ、上幅は最大26ｍ、最小４ｍである。

断面形状は、谷頭から屈折点までは上部が大きく開くＶ字形を呈するが、屈折点以下では上部が大きく開くＵ字形を呈する。屈折点のあたりに湧水が見られた。この湧水点の下方に水場遺構と見られる立杭と木組みを検出した。

谷頭から9.5ｍと13.4ｍの間はコンクリート塊などで埋め立てられて農道が通っていたが、土層断面と現状地形の観察では、農道を作る以前は屈折点以下のように谷頭区域も埋没しきらずくぼみとなっていたことが判る。谷頭区域は農道開設と前後するように埋め立てられて畑となったと理解される。

屈折点以下では、古代の降下火山灰である大湯浮石の厚い堆積が確認できたが、谷頭区域では検出できなかった。

遺物は、谷頭から屈折点の前後では谷幅が狭いという事情によるものか両側の傾斜する壁の中腹から谷底にかけて分布し、遺物の傾斜方向から投・廃棄の方向を把握できた。屈折点以下では、調査区境界付近の右岸（西側）の一カ所だけ中腹から谷底まで遺物が分布しており、上部の平坦面から遺物が投・廃棄されたと考えられたが、その他は谷底に多くの遺物が分布していたことから上部の平坦面あるいは中腹からの投・廃棄とは考えにくく、谷底に降りて来て捨てたものと解釈した。

（２）第Ｉ層から出土した遺物

①　土器　復元できた土器は６点（396・504－１～６）である。

頸部に低く幅広な隆帯が巡り、逆ベル・ボトム風の器形を呈し、外反する口縁部には単節縄文施文後に綾絡文を付加し、胴部には撚糸文を施文した土器（396・504－１）。

口唇部を欠失し、ずん胴な器形で、頸部に爪形文を１条巡らし、口縁部から胴部中半まで羽状縄文、下半には単節縄文、その下位に綾絡文を施文した土器（396・504－２）。

頸部に単軸絡条体圧痕で飾る隆帯が巡り、スマートなバケツ形を呈し、外反する口縁部から胴部上半には多条縄文を施文し以下には撚糸文を施文した土器（396・504－３）。

頸部がすぼまり羽状縄文を施文した口縁部はほぼ直立し、肩が張り胴部には撚糸文を施文した土器（396・504－４）。

数条の縄を横位に押捺施文した幅の狭い口縁部をもち、縄軸あるいは網目状撚糸文の原体を押捺した低い隆帯を巡らし、ずん胴な器形を呈する土器（396・504－５・６）で胴部に撚糸文（396・504－５）、木目状撚糸文（396・504－６）の２種がある。

②　石器　石器は128点出土した。その内訳は石鏃３点（396・504－384）、石槍４点（396・504－385～388）、石錐５点（396・504－389）、石匙39点（396・504－390～397）、篦状石器17点、削器10点（396・504－398～405）、掻器２点（396・504－406）、剥片・不定形石器72点、磨製石斧６点、石錘

12点（396・504－407～410）、半円状扁平打製石器30点、くぼみ石12点（396・504－412）、擦石６点（396・504－411・412複合石器）、石皿４点である。

③　石製品　有溝礫１点、石棒１点、円盤状石製品１点が出土した。このほかに、自然礫に穴の開いた有孔礫２点、石核４点が出土した。

（３）第Ⅱ層・Ⅱａ層・Ⅱｂ層・Ⅱｃ層から出土した遺物

①　土器　復元できた土器は44点（396・504－７～51）である。

逆ベル・ボトム風の器形を呈し、上半に回転方向を変えた単節縄文、下半には撚糸文を施文した土器（396・504－７）。

バケツ形を呈し、口縁部に単節縄文、胴部に撚糸文を施文した土器（396・504－８）。円筒形を呈し、全面に多条縄文を施文した土器（396・504－９）。

わずかに外反する口縁部をもつ円筒形を呈し、口辺部と胴部に回転方向を変えた多軸の撚糸文を施文し頸部に間隔を空けて２条の押圧縄文を付加した土器（396・504－10）。

頸部に上下を指頭圧痕で飾った低い隆帯が巡り、わずかに外反する口縁部をもつ円筒形を呈する土器で、口縁部から胴部上半には羽状縄文を施文し以下には撚糸文を施文した土器（396・504－11）。

頸部に指頭圧痕で飾った細く低い隆帯が巡り、わずかに外反する口縁部をもつスマートなバケツ形を呈する土器で、口縁部から胴部上半には綾絡文を施文し以下には撚糸文を施文した土器（396・504－12）。口縁部から胴部上半には羽状縄文を施文し、頸部に指頭圧痕で飾った細く低い隆帯を巡らした土器（396・504－13）。

スマートな逆ベル・ボトム風の器形を呈し、頸部に縄の圧痕で飾った隆帯を巡らし、上半に縄文、下半には撚糸文を施文した土器（396・504－14・15）。

わずかに外反する口縁部をもつ円筒形を呈する土器で、全面に撚糸文を施文した後、頸部に３条の押圧縄文を巡らし、口唇からも３条の押圧縄文を垂下させた土器（396・504－16）。

わずかに外反する口縁部をもつ円筒形を呈し、口縁部と胴部に回転方向を変えた撚糸文を施文し頸部に撚糸文で飾った隆帯を巡らした土器（396・504－17）。

ボリュームのある円筒形を呈し、頸部に複数条の押圧縄文を巡らし、口縁部から胴部上半には羽状縄文、下半には撚糸文を施文した土器（396・504－18・20・22・25）。

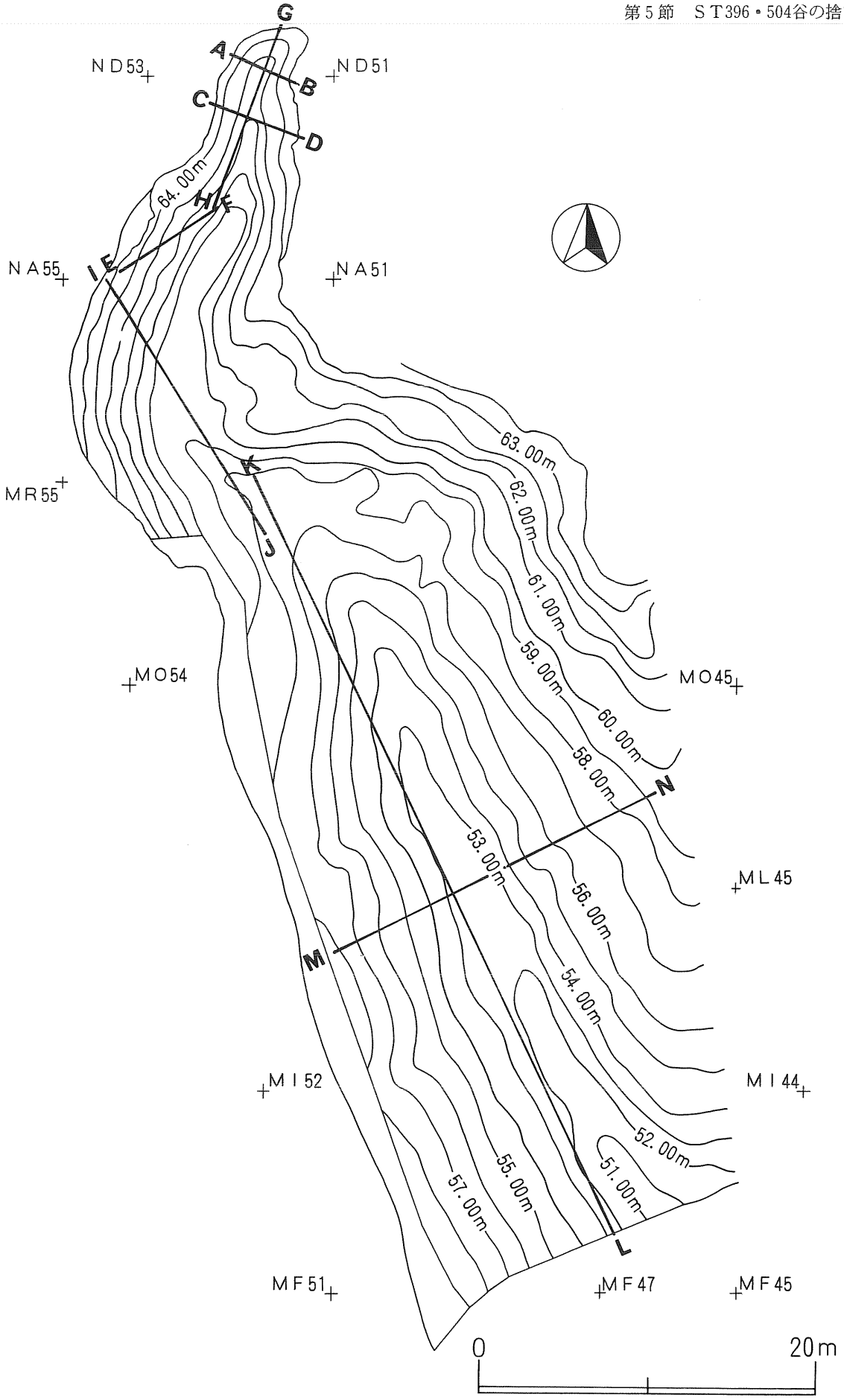
円筒形あるいはボリュームのある円筒形を呈し、頸部に複数条の多軸絡条体側面圧痕文を巡らし、口縁部には羽状縄文、下半には撚糸文を施文した土器（396・504－19・21）。

４単位の波状口縁をもつずん胴な円筒形を呈し、頸部には横位連続刺突文の上下に複数条の押圧縄文を付加した文様帯を巡らし、口縁部から胴部上半には羽状縄文を施文し以下には横位回転の撚糸文を施文した土器（396・504－22・23）。

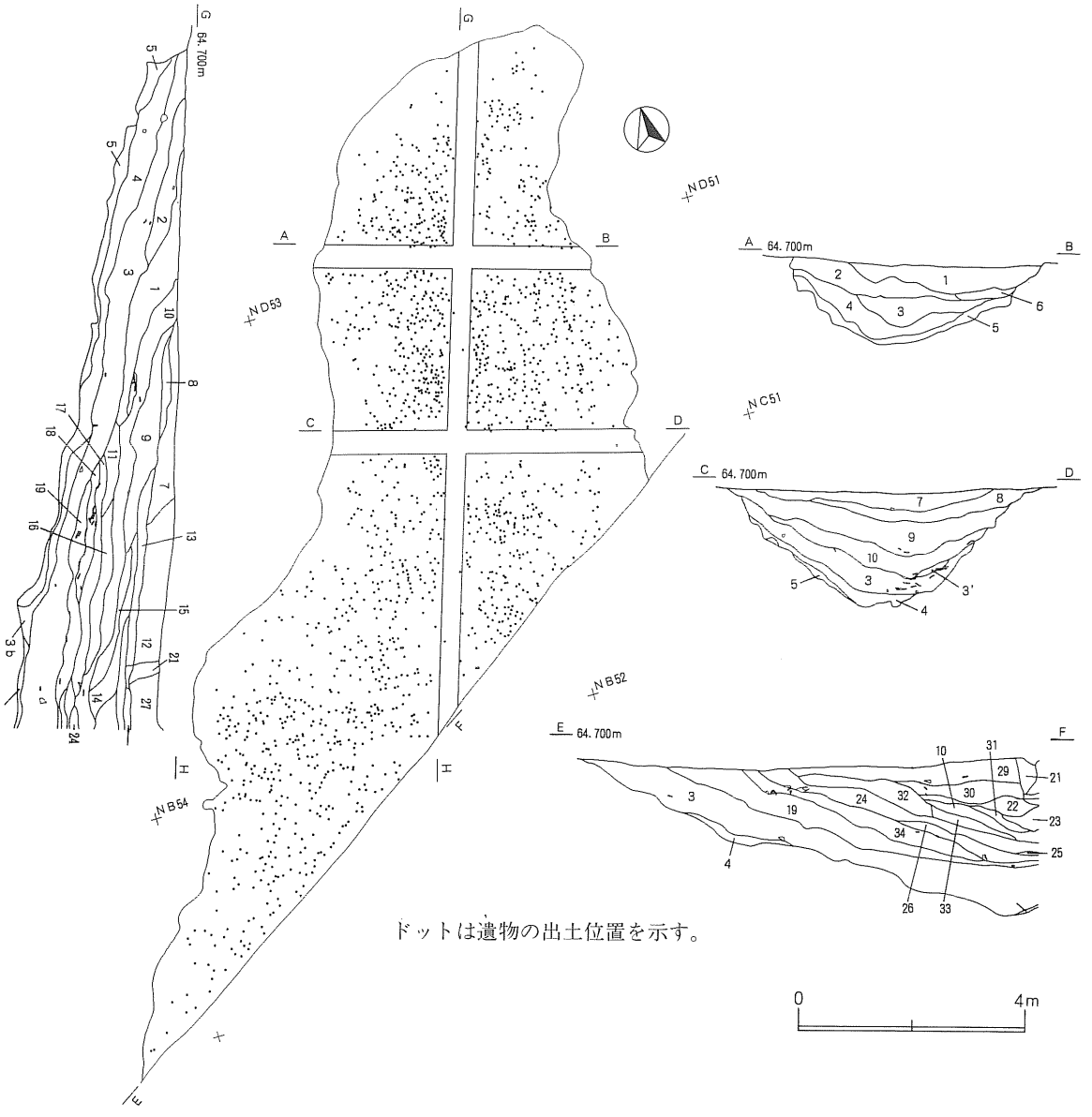
ずん胴な円筒形を呈し、頸部には低くやや幅広な隆帯を巡らし、口縁部には横走する複数条の押圧縄文を巡らした後口唇から垂下する３条の押圧縄文を付加し、胴部には単節縄文を施文した土器（396・504－24）。

バケツ形で、口縁部に横走する複数条の押圧縄文を巡らし、胴部には羽状縄文を施文した土器（396・504－26）。

スマートな円筒形で、上半に羽状縄文を施文後、撚りの異なる縄を２条１組として等間隔で押捺し



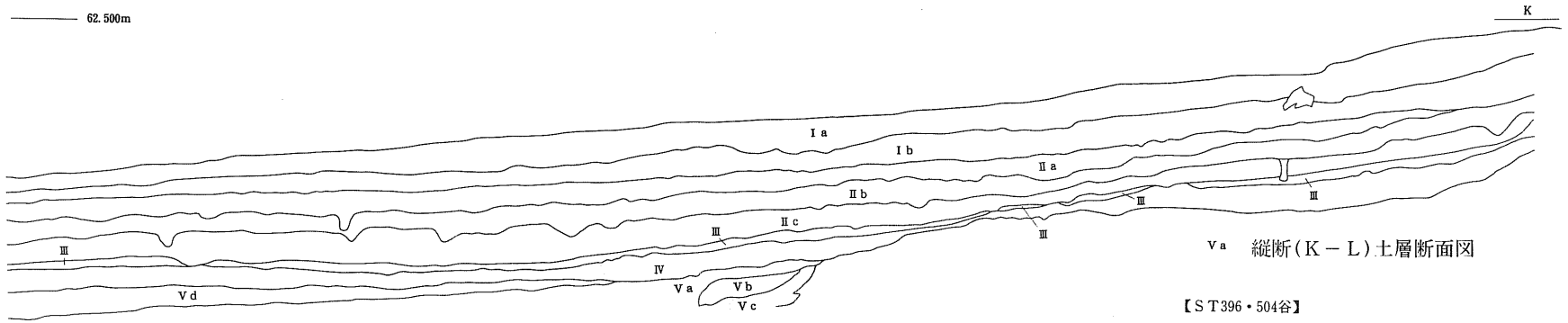
第523図　ＳＴ396・504谷全体平面図



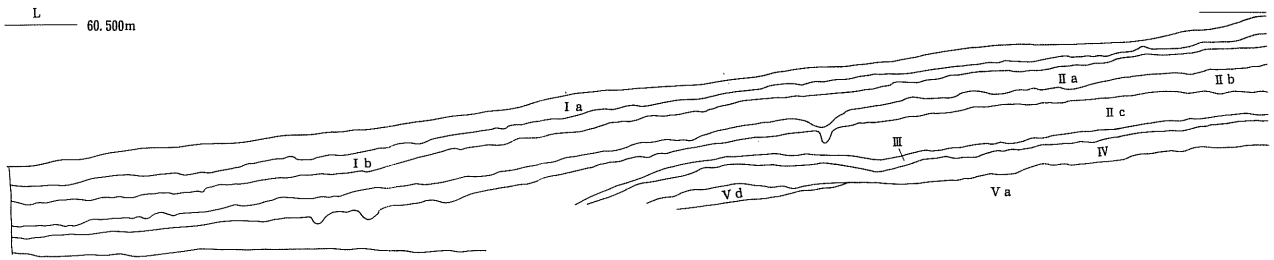
【ＳＴ396谷】

1　黒褐色土(10ＹＲ３／２)　地山粒と軽石粒および炭化物が多量混入。
2　黒褐色土(10ＹＲ２／２)　地山粒と炭化物が多量混入。軟らかい。
3　黒褐色土(10ＹＲ２／２)　地山粒と炭化物が多量混入。土器を多量に包含。２より軟らかい。
3′黒色土(10ＹＲ２／１)　炭化物少量混入。水分を含みやや粘性あり。
3ｂ黒褐色土(10ＹＲ２／２)　地山粒多量混入。
4　黒褐色土(10ＹＲ２／２)　地山粒と炭化物が多量混入。やや締まりあり。
5　褐色土(10ＹＲ４／４)　地山粒極めて多い。
6　黒褐色土(10ＹＲ２／３)　地山粒混入。締まりあり。
7　黒色土(10ＹＲ２／１)　やや締まりなし。
8　黒褐色土(10ＹＲ２／３)　地山粒と炭化物混入。
9　黒褐色土(10ＹＲ２／３)　地山粒多量混入。炭化物混入。
10　暗褐色土(10ＹＲ３／３)　地山粒と炭化物多量混入。
11　黒褐色土(10ＹＲ２／２)　地山粒と炭化物が混入。土器多量包含。
12　黒褐色土(10ＹＲ２／２)　地山粒混入。
13　黒褐色土(10ＹＲ３／２)　地山粒・塊が多量混入。炭化物と軽石粒が少量混入。
14　黒褐色土(10ＹＲ３／２)　地山粒と炭化物が少量混入。
15　黒褐色土(10ＹＲ３／２)　地山粒・塊と軽石粒が多量混入。炭化物が少量混入。
16　にぶい黄褐色土(10ＹＲ４／３)　地山粒を極めて多量に混入。炭化物が少量混入。土器包含。
17　黒褐色土(10ＹＲ２／２)　地山粒が多量に混入。炭化物少量混入。土器包含。
18　褐色土(10ＹＲ４／４)　炭化物少量混入。地山粒が多量混入。土器多量包含。
19　黒褐色土(10ＹＲ２／２)　地山粒少量混入。炭化物塊が多量混入。土器包含。
20　黒褐色土(10ＹＲ２／３)　炭化物と地山粒・塊が混入。
21　黒褐色土(10ＹＲ２／２)　地山粒混入。締まりなし。攪乱。
22　黒褐色土(10ＹＲ３／２)　地山塊が縞状に層を成している。
23　黒褐色土(10ＹＲ２／３)　土器少量包含。地山粒・塊と軽石粒混入。締まりあり。
24　黒褐色土(10ＹＲ３／２)　炭化物多量に混入。地山粒少量混入。
25　黒褐色土(10ＹＲ２／３)　地山粒少量混入。
26　にぶい黄褐色土(10ＹＲ４／３)　炭化物少量混入。地山粒多量混入。
27　黒褐色土(10ＹＲ３／１)　締まりなし。コンクリート塊混入。攪乱。
28　自然石。
29　黒色土(10ＹＲ２／１)　地山粒・塊混入。
30　黒褐色土(10ＹＲ３／２)　地山粒混入。土器包含。
31　黒褐色土(10ＹＲ２／２)　地山粒が層を成している部分がある。
32　黄褐色土(10ＹＲ５／８)　地山粒混入。
33　暗褐色土(10ＹＲ３／４)　炭化物と地山粒極めて多量に混入。
34　黒褐色土(10ＹＲ２／３)　地山粒混入。土器包含。

第524図　ＳＴ396・504谷谷頭部分土層断面図（１）

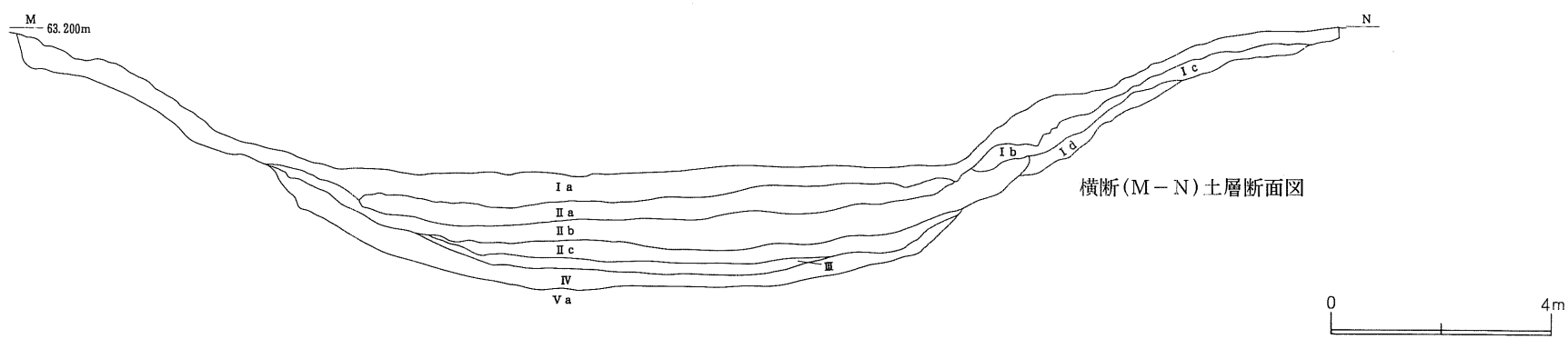


Ⅴa　縦断（Ｋ－Ｌ）土層断面図



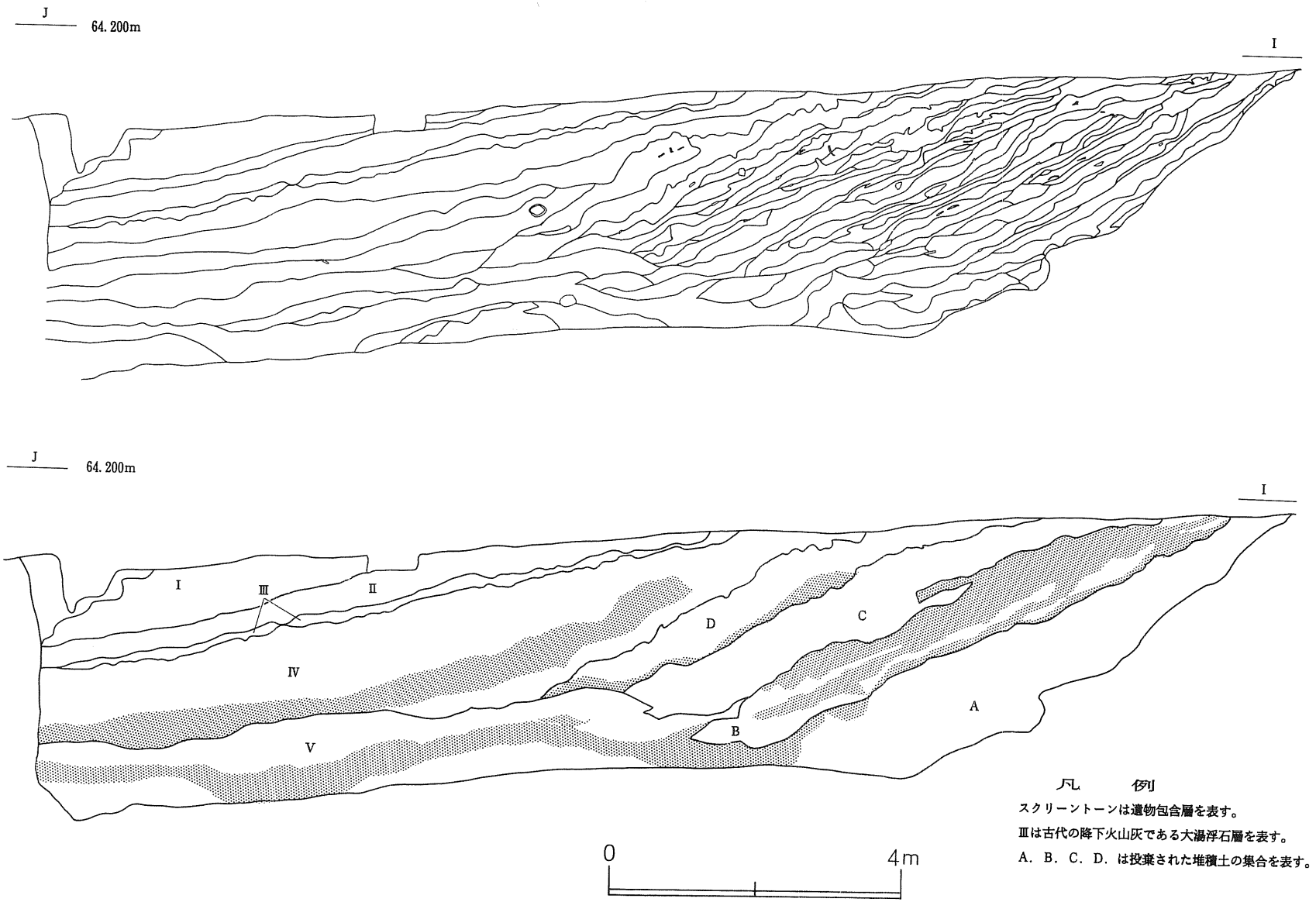
【ＳＴ396・504谷】

Ⅰa	黒褐色土(10ＹＲ３／１)	シルト質。地山粒を混入。締まりと粘性あり。
Ⅰb	黒色土(10ＹＲ２／１)	シルト質。地山粒を多量に混入。締まりと粘性あり。
Ⅱa	黒褐色土(10ＹＲ２／３)	地山粒を多量に混入。締まりと粘性あり。
Ⅱb	黒色土(10ＹＲ２／１)	シルト質。地山粒を多量に混入。締まり強い。
Ⅱc	黒褐色土(10ＹＲ２／２)	シルト～砂質。地山粒と炭化物を混入。締まりと粘性あり。
Ⅲ	大湯浮石層	
Ⅳ	黒褐色土(10ＹＲ２／３)	地山粒・塊を多量に混入。締まり悪い。
Ⅴa	黒褐色土(10ＹＲ３／１)	粘土～シルト質。地山粒と炭化物を混入。粘性強い。
Ⅴb	にぶい黄褐色土(10ＹＲ５／３)粘土と炭化物、地山塊を混入。粘性強い。	
Ⅴc	灰黄褐色土(10ＹＲ４／２)	粘土～シルト質。炭化物を混入。粘性弱い。
Ⅴd	黒褐色土(10ＹＲ２／２)	シルト質。炭化物を混入。粘性強い。

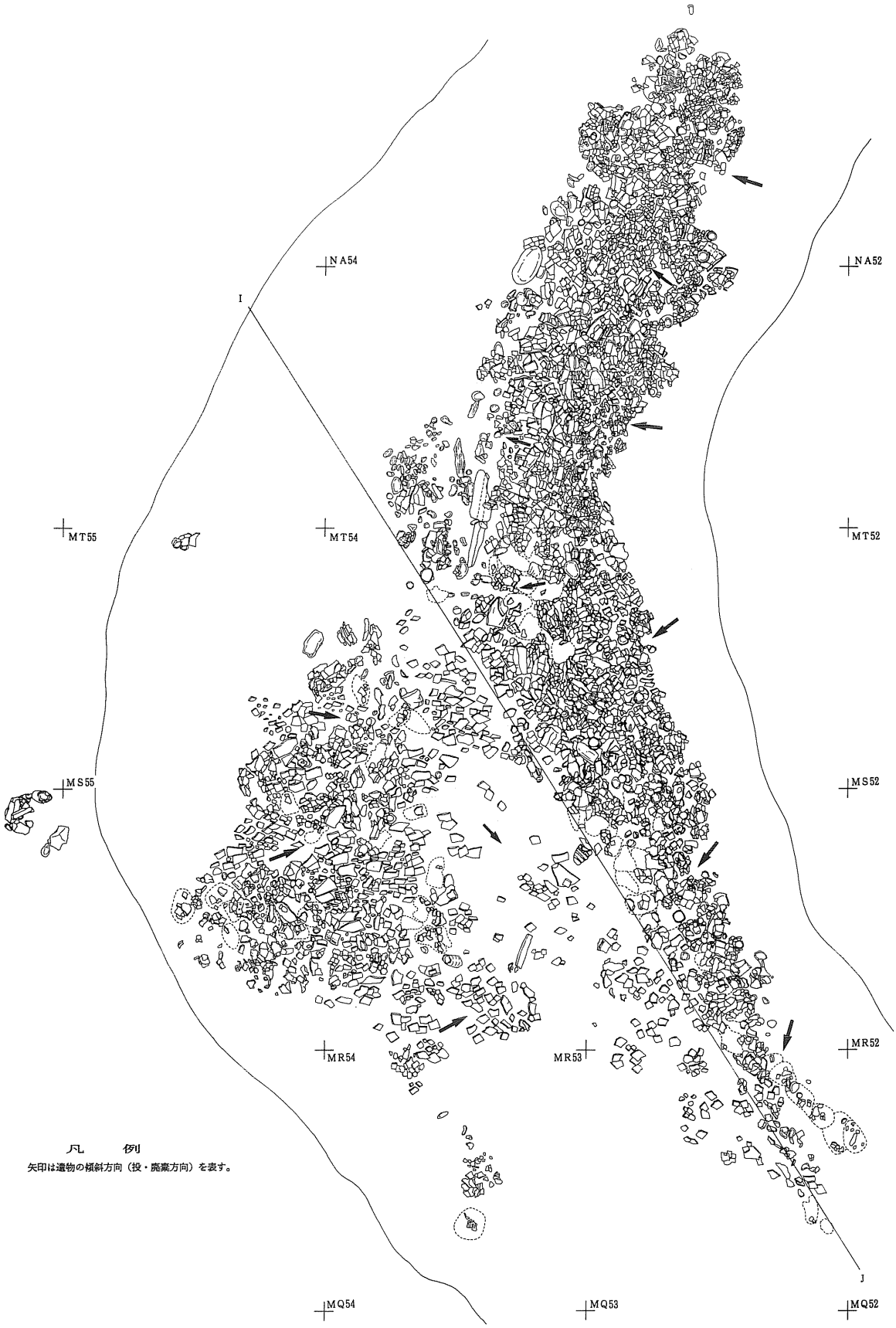


横断（Ｍ－Ｎ）土層断面図

第525図　ＳＴ396・504谷土層断面図（２）



第526図　ＳＴ396・504谷土層断面図（３）



第527図　ＳＴ396・504谷ＭＱ～ＮＳライン間遺物出土状況実測図

第528図　ＳＴ396・504谷ＭＦ～ＭＬライン間遺物出土状況実測図

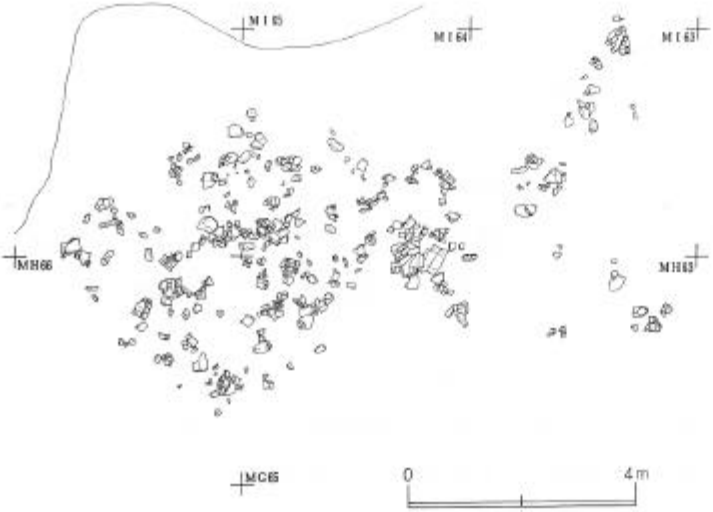
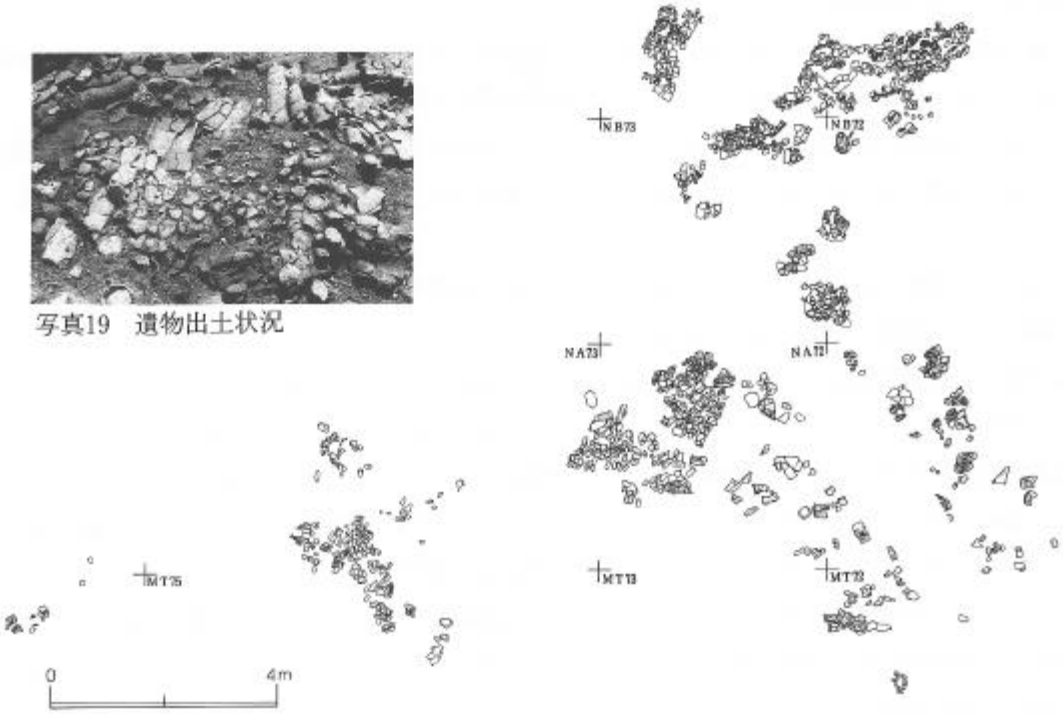


写真16　遺物出土状況

写真17　遺物出土状況

写真18　ＭＬ49・ＭＬ50グリッドの遺物出土状況

写真19　遺物出土状況



第529図　ＳＴ396・504谷底面遺物出土状況

てロ縁部文様帯を作出し、下半には撚糸文を施文した土器（396・504－27）。

４単位の波状ロ縁をもつバケツ形で、頸部に低く幅広な隆帯を巡らし、幅の狭いロ縁部には横走する複数条の押圧縄文を巡らした後、波頂部から綾絡文を垂下させ、胴部には木目状撚糸文を施文した土器（396・504－28）。

肩部で内側に屈曲した後、頸部で大きく外反する土器で、屈曲するロ縁部には横走する複数条の押圧縄文の間に網目状撚糸文原体の側面圧痕を付加して巡らした後、ロ唇から２条１単位の押圧縄文を垂下させ、肩部には横位連続刺突文、その下位には羽状縄文を２段巡らし、胴部には撚糸文を施文した土器（396・504－29）。

バケツ形でロ辺には単節縄文、以下には木目状撚糸文を施文した土器（396・504－30）。

スマートな逆ベル・ボトム風の器形を呈し、頸部には縦位の連続刺突文を１条巡らし、ロ縁部から頸部にかけて横走する複数条の押圧縄文を、胴部には木目状撚糸文を施文した土器（396・504－31）。

バケツ形に立ち上がり、肩部で内側に屈曲した後、頸部で外傾する土器で、ロ縁部には連続する半円状の押圧縄文とボタン状貼付文を、胴部には木目状撚糸文を施文した土器（396・504－32）。

ボリュームのあるずん胴形で、幅の狭いロ縁部には横走する複数条の押圧縄文、頸部には２条の横位連続刺突文で飾った低く偏平な隆帯を巡らし、胴部には中半下位まで木目状撚糸文を、以下には多軸の撚糸文を施文した土器（396・504－33）。

円筒形を呈し、ロ辺には横走する複数条の押圧縄文、胴部には多軸の撚糸文を施文した土器（396・504－34）。

ボリュームのある円筒形を呈し、外反するロ辺には横走する複数条の押圧縄文、胴部には羽状縄文と撚糸文を交互に施文した土器（396・504－35・36）。

ずん胴な円筒形を呈し、幅の狭いロ縁部には横走する複数条の押圧縄文、頸部には１条の押圧縄文で飾った低く偏平な隆帯を巡らし、胴部には多条の縄文を回転施文した土器（396・504－37）。

４単位の波状ロ縁をもち胴部中央と頸部で大きな屈曲するキャリパー形を呈し、全面に縄文を施文した後、内湾するロ縁部には２条１単位で２段に横走する沈線間に連続山形文を充填した土器（396・504－38）。

全面よく研磨され、２つの大きな波頂と高台の付いた鉢形土器（396・504－39）。

幅の広いロ縁部をもち、頸部に隆帯が巡りスマートな円筒形を呈する土器（396・504－40）で、ロ辺と隆帯上に押圧縄文、ロ縁部には網目状撚糸文、胴部には撚糸文を施文している。

（396・504－42～44・46）は隆帯とその上下、中間に爪形文を施文した土器で、いずれもロ縁部には羽状縄文を施文している。（396・504－41）は胴部のみであるが、網目状撚糸文を施文している。

（396・504－45）は円筒形を呈し、隆帯とその上下、中間に竹管刺突文を施文した土器である。

（396・504－47）は円筒形を呈し、ロ縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文している。

②　石器　石器は1,516点出土した。その内訳は石鏃20点（396・504－413～419・600～607・645・646）、石槍37点（396・504－420～439・592・593・595・608～611・647～650）、石錐14点（396・504－487）、石匙374点（396・504－440～486・490・587～591・613～618・651～662）、篦状石器52点（396・504－508～533・619・620・675～682・685）、削器335点（396・504－492～494・621～624・663）、掻器152点（396・504－495～507・550・551・594・625～635・664～674）、剥片・不定形石器198点（396

・504－488・489・491・534～549・683・684)、磨製石斧29点（396・504－570～573)、石錘15点（396・504－553～568・597・598・638～644・687～689)、半円状扁平打製石器206点（396・504－569・586・599・693)、くぼみ石42点（396・504－574～581・690～692)、敲石21点（396・504－579・581・596・686)、擦石18点、石皿３点である。

③　石製品　刻線礫３点、有溝礫３点（396・504－552)、石棒１点、有孔円盤状石製品４点（396・504－582～585)、円盤状石製品９点、垂飾品２点（396・504－636・637）が出土した。このほかに、自然礫に穴の開いた有孔礫16点、石核30点、軽石７点が出土した。

（４）第Ⅲ層から出土した遺物

①　土器　復元できた土器は96点（396・504－52～148）である。

器形と原体に差異はあるが、全面に回転施文した土器（396・504－52～58)。

幅広な口縁部をもち頸部に爪形文で飾る低い隆帯を巡らした土器（396・504－60～65）で、口縁部から胴部上半には羽状縄文、下半には撚糸文あるいは多軸撚糸文（396・504－63）を施文している。

頸部の爪形文の上下（396・504－61・62・64）あるいは間にも（396・504－63）押圧縄文を付加しているものもある。(396・504－64）には口辺にも押圧縄文を付加している。隆帯間を垂下する隆線で結合する土器（396・504－62）もある。

３個１単位の波状突起を付加する口縁部をもつキャリパー形を呈し、頸部に２段の指頭圧痕列を巡らす土器（396・504－66）で全面木目状撚糸文を施文している。

ずん胴な円筒形で頸部に指頭圧痕で飾った細く低い隆帯を巡らした土器（396・504－67)。直立する口縁部と膨らみのある胴部をもつ器形で、口縁部から胴部上半に羽状縄文、下半には撚糸文を施文している。

口辺に２条の押圧縄文を付加し、頸部には上下に押圧縄文を付加した指頭圧痕列を施文した土器（396・504－70)。

スマートな逆ベル・ボトム風の器形を呈し、頸部には２段の指頭圧痕列を巡らし、胴部には横位の波状沈線を何段にも巡らしてあたかもスズメバチの巣のような文様となっている土器（396・504－71)。

スマートな器形の頸部に横位の連続爪形文を巡らす土器（396・504－72～76）で、口縁部あるいは胴部上半まで羽状縄文、下半には撚糸文を施文しており、２段の横位連続爪形文列の間に絡条体側面圧痕文（396・504－72）と、横位連続爪形文列の上下に押圧縄文を付加している土器（396・504－73～76）がある。

口縁に４つの波頂をもつバケツ形（396・504－77）あるいは逆ベル・ボトム風の器形（396・504－78）で、頸部に２条の絡条体側面圧痕文を巡らした土器である。ずん胴な円筒形を呈し、頸部に１条の押圧縄文を巡らしているが、口縁部に網目状撚糸文、胴部に撚糸文を施文した土器（396・504－79）と、口縁部には横位の羽状縄文、胴部上半には縦位の羽状縄文、下半に撚糸文を施文した土器（396・504－80)。

頸部に２条の押圧縄文を巡らした土器（396・504－81～87）で、口縁部あるいは胴部中半まで羽状縄文、下半には単節縄文（396・504－81)、口縁部から胴部上半まで羽状縄文、下半に撚糸文（396・504－82・85・87)、全面に単節縄文（396・504－84・86)、全面に多軸絡条体（396・504－83）を施文している。

頸部に３条の押圧縄文を巡らした土器（396・504－88～96・98）で、口縁部から胴部中半まで羽状縄文、下半には単節縄文（396・504－88～93）、口縁部から胴部中半まで羽状縄文、下半には多軸絡条体（396・504－95）、口縁部から胴部中半まで単節縄文、下半には撚糸文（396・504－94）、口縁部あるいは胴部上半まで羽状縄文、下半に撚糸文（396・504－93・98）を施文している。

幅の広い口縁部に数条の押圧縄文を巡らしている土器（396・504－99～105）で、ずん胴な円筒形あるいは口縁部が外反する円筒形で胴部に横位の羽状縄文（396・504－99・103）、ずん胴な円筒形で縦位の羽状縄文（396・504－100）、スマートな逆ベル・ボトム風で単節縄文（396・504－101）、複節縄文（396・504－102）、頸部がすぼまり胴部に撚糸文（396・504－104）と胴部中半まで羽状縄文、下半には多軸絡条体（396・504－105）がある。

幅の広い口縁部をもち頸部に数条の押圧縄文を巡らし、口唇から頸部に２～３条１単位の押圧縄文が垂下する土器（396・504－106～110）である。（396・504－106・107）の頸部には低く幅広な隆帯が巡り、（396・504－110）には垂下する押圧縄文間にＶ字に縄文を押捺している。（396・504－106）の胴部には複節縄文、（396・504－108・109）の胴部には多条縄文、（396・504－110）の胴部には上半に羽状縄文、下半には多軸絡条体が施文されている。

ずん胴な円筒形を呈する土器（396・504－111）の頸部には低い隆帯を巡らし、口縁部には撚糸文で幅の広いＶ字文様を、胴部には撚糸文を施文している。

ボリュームのあるバケツ形を呈する土器（396・504－112）の口縁部には縄の押捺により菱形文様を、胴部には多軸絡条体を施文している。

ずん胴な円筒形を呈する土器（396・504－113）の口縁部には縄と丸棒の押捺によりユニオン・ジャック様の文様を４単位施文し、下位に綾絡文、縄文を施文している。

やや胴膨らみな器形の土器（396・504－113）の幅広な口縁部には縄の押捺により曲線的な菱形文様を、その下位には撚糸文、縄文、羽状縄文を施文している。

（396・504－115・116・119）は高台のついたバケツ形を呈する土器で、幅の狭い口縁部には縄を数条押捺し、頸部には連続刺突列で飾る細く低い隆帯を巡らし胴部には木目状撚糸文（396・504－115・116）、あるいは羽状縄文（396・504－119）を施文している。

（396・504－117・118）は、幅の狭い口縁部をもち頸部に２段の長円形の連続刺突列を巡らし、口縁部から胴部上半にかけて羽状縄文、以下に綾絡文を付加する撚糸文（396・504－117）、あるいは単節縄文（396・504－118）施文した土器である。

円筒形を呈する（396・504－120）は、口縁部には横位、胴部には縦位の撚糸文を施文した土器である。バケツ形を呈する（396・504－121・122・124～127）は、横走あるいは波状を呈する数条の押圧縄文が施文された幅の狭い口縁部をもち、胴部には綾絡文を付加する撚糸文（396・504－121）、羽状縄文（396・504－122・124・126・127）、撚糸文と羽状縄文を交互に施文（396・504－125）した土器で、（396・504－122）の頸部には連続刺突列で飾る細く低い隆帯が巡る。

やや胴膨らみの円筒形を呈する土器（396・504－123）は横走する数条の押圧縄文が施文された幅の狭い口縁部をもち、胴部上半には多軸撚糸文、以下には単軸撚糸文を施文している。

ずん胴な円筒形を呈する土器（396・504－128）は横位の撚糸文が施文された幅の狭い口縁部をもち、頸部には斜位の撚糸文で飾った広く低い隆帯を巡らし、胴部には撚糸文を施文している。

バケツ形を呈する土器（396・504－129）は横走する数条の押圧縄文の上に押圧縄文で連続山形文を作出した幅の狭い口縁部をもち、胴部には撚糸文の上に多軸撚糸文と羽状縄文が施文されている。

外反する口縁部に４つの波頂部をもち、頸部に連続刺突列で飾る鋭角的な隆帯を巡らし、球形を呈する胴部、すぼまった底部をもつ土器（396・504－130）の口縁部には、絡条体側面圧痕による横位施文の上に連続山形文を施文し、胴部から底部まで羽状縄文が施文されている。（396・504－131）も同様の土器であるが、器形がいびつで口縁部と胴部には撚糸文が施文されている。

バケツ形を呈する土器（396・504－132）は、幅の狭い口縁部に絡条体側面圧痕による横位施文、頸部には連続刺突列で飾る鋭角的な隆帯を巡らし、胴部には木目状撚糸文を施文している。

バケツ形を呈し幅の狭い口縁部に横走する数条の押圧縄文を施文し、頸部に低い隆帯を巡らした土器(396・504－133・135～139)の胴部には羽状縄文(396・504－133・137)、撚糸文(396・504－135・136)、綾絡文を付加する撚糸文(396・504－138)、上半に羽状縄文で以下に多軸絡条体を施文している。

縦位の羽状縄文と綾絡文を施文した球形の胴部に大きく外反する口縁部のついた土器（396・504－146）は底部を欠失するが、口縁部に間隔を空けた３段の連続刺突列を巡らし、ボタン状貼付文が見られる。

胴膨らみのある土器（396・504－147）は口辺に貼付した幅広な隆帯に縦位の長円形連続刺突列を巡らし、以下には沈線文を施文している。

（396・504－148）は鉢形を呈する土器である。

②　石器　石器は470点出土した。その内訳は、石鏃１点（396・504－694)、石槍９点（396・504－695～703)、石錐20点（396・504－704～706)、石匙91点（396・504－707～715)、篦状石器８点（396・504－716～721)、削器17点（396・504－722～738)、掻器35点（396・504－739～745)、剥片・不定形石器203点（396・504－746～748)、磨製石斧６点（396・504－749～751)、石錘８点（396・504－752～756)、半円状扁平打製石器42点、くぼみ石15点（396・504－757～762)、敲石２点、擦石10点、石皿３点である。

③　石製品　石棒１点、円盤状石製品２点（396・504－763・764）が出土した。このほかに、自然礫に穴の開いた有孔礫11点、石核３点、軽石７点が出土した。

（５）第Ⅳ層から出土した遺物

①　土器　復元できた土器は32点（396・504－149～181）である。

頸部に隆帯を巡らし全面に撚糸文を施文した土器（396・504－149)、スマートなバケツ形を呈し、口縁部に縄文、胴部に撚糸文を施文した土器（396・504－150・151)。

円筒形を呈し、頸部に低い隆帯を巡らした土器で、口縁部に縄文、胴部に撚糸文を施文（396・504－152)、口縁部と胴部に原体の異なる撚糸文を施文した土器（396・504－149)。

ボリュームのある円筒形を呈し、頸部に絡条体側面圧痕文で上下を飾る低い隆帯を巡らし、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文した土器（396・504－153)。

円筒形を呈し、頸部に爪形文で飾る低い隆帯を巡らした土器（396・504－155～163）であるが、低い隆帯が１条（396・504－155～158）と、２条（396・504－158～163）の土器がある。また、爪形文の上下、あるいは上中下に縄を１条押捺しているものもある。全面に撚糸文を施文（396・504－155・156)、口縁部から胴部上半まで羽状縄文で以下に撚糸文を施文（396・504－157・158・160)、口縁

部から胴部上半まで縄文で以下に撚糸文を施文（396・504－159)。頸部に指頭圧痕文で飾る隆帯を巡らした土器（396・504－164～166）で、円筒形で全面に撚糸文を施文（396・504－164)、口縁部から胴部上半まで羽状縄文で以下に撚糸文を施文(396・504－165)、バケツ形で全面に単節縄文を施文(396・504－166)。

頸部に横走する数条の押圧縄文を施文している土器(396・504－167～170・172・173)で、口縁部から胴部上半まで羽状縄文で以下に撚糸文を施文(396・504－167～170・171)、口縁部に縄文、胴部に撚糸文を施文(396・504－172)、口縁部に網目状撚糸文、胴部に単軸撚糸文を施文(396・504－172)。

頸部に撚糸文を施文した低い隆帯を巡らし口縁部に網目状撚糸文、胴部に単軸撚糸文を施文した土器（396・504－171)。

頸部に低く目立たない隆帯が巡り、幅の狭い口縁部に数条の押圧縄文を巡らし、胴部には羽状縄文を施文（396・504－174)、羽状縄文と撚糸文を交互に施文した土器（396・504－178)。

肩部が張り出し、頸部がすぼまる器形を呈し、肩部に２条の平行沈線を巡らし全面に羽状縄文を施文（396・504－175)、口縁部に数条の押圧縄文を巡らし、胴部には羽状縄文を施文（396・504－176・177）した土器。

スマートな円筒形を呈し、頸部に上下を押圧縄文で飾る横長の刺突列を巡らした土器（396・504－175）で、口縁部に羽状縄文、胴部に撚糸文を施文している。

円筒形の胴部に、大きく外反し口辺が立ち上がる口縁部のついた土器（396・504－180）で、口唇部には沈線で円を描いた４つの突起、横長のくぼみ、それらの間に充填された細い縦長の沈線で飾り、口縁部には時計回りの渦巻文を描き、それらを連結するかのように斜走する沈線で大きな連続山形を配している。頸部には貼り付けた粘土紐を上下から交互に突き刺して連続山形（波状）文を削り出している。胴部には口縁部の渦巻文下方に、内部に刺突列と同心円状の弧状隆帯文を充填した隆帯を垂下させ、その外側にも上下２つの同心円状の弧状隆帯文を充填したように土器表面を削り出している。地文の縄文がわずかに残っている。土器胎土は精選され、焼成良好で堅緻な作りである。

口辺が内彎し底部に小さな突起状の脚がついた鉢形土器（396・504－181）で、口辺を除き細い単節縄文が施文されている。

②　石器　石器は382点出土した。その内訳は石鏃５点（396・504－765～767)、石槍16点（396・504－768～772)、石錐６点（396・504－773～777)、石匙115点（396・504－778～793)、篦状石器10点（396・504－811～818)、削器68点（396・504－819・820)、掻器32点（396・504－794～810)、剥片・不定形石器44点、磨製石斧７点（396・504－822)、石錘12点（396・504－823～836)、半円状扁平打製石器34点、くぼみ石17点（396・504－838～843)、敲石５点（396・504－837)、擦石10点（396・504－821)、石皿１点である。

③　石製品　刻線礫１点（396・504－844)、有溝礫１点、円盤状石製品３点が出土した。このほかに、自然礫に穴の開いた有孔礫２点、石核５点、軽石１点が出土した。

（６）第Ⅴ層・Ⅴｂ層から出土した遺物

①　土器　復元できた土器は201点（396・504－182～383）で、このうち第Ⅴ層から出土した土器は138点である。

バケツ形を呈し全面に撚糸文を施文した土器（396・504－182～184・186)。

やや膨らみのある円筒形あるいは口縁部がやや外反するバケツ形を呈し、撚糸文の同一原体の回転方向を変えて文様帯を作出した土器（396・504－185・187・192）。

口縁部がやや外反するバケツ形を呈し、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文した土器（396・504－188～191・193・195・197・199）。

円筒形あるいは口縁部が外反し膨らみのある円筒形を呈し、綾絡文を口縁部と胴部中半に施文した土器（396・504－194・196）。

やや膨らみのある円筒形で口縁部に縄文、胴部に撚糸文を施文した土器（396・504－198）。

スマートな逆ベル・ボトム風の器形で、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文した土器（396・504－200）。

円筒形を呈し頸部に2条の刺突列を巡らし全面に撚糸文を施文した土器（396・504－201）。

バケツ形を呈し口縁部に単節縄文（396・504－203・208）あるいは複節縄文（396・504－204）、羽状縄文（396・504－207）を、胴部に撚糸文を施文した土器。

頸部がすぼまる円筒形を呈し肩部に2条の押圧縄文を巡らし全面に撚糸文を施文した土器（396・504－205）。

バケツ形を呈し胴部上半に羽状縄文、下半に撚糸文を施文した土器（396・504－206・212・213）。バケツ形を呈し全面に羽状縄文を施文した土器（396・504－209・211）。

バケツ形を呈し胴部上半に羽状縄文、下半に縄文を施文した土器（396・504－210）。

スマートな円筒形を呈し頸部に絡条体側面圧痕を巡らし口縁部に単節縄文、胴部に撚糸文を施文した土器（396・504－214）。

口縁部が外反しやや膨らみのある円筒形で頸部に隆帯を巡らした土器（396・504－215～226）で、全面に撚糸文（396・504－215・216・219・220）、口縁部に単節縄文、胴部に撚糸文（396・504－217・218・224）、口縁部から胴部中半に羽状縄文、以下に撚糸文（396・504－221）、口縁部に綾絡文、胴部に単節縄文（396・504－225）、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文（396・504－226）を施文している。隆帯上は縄の押捺（396・504－215・217・226）、回転（396・504－216・218・225）、無文（396・504－219～224）である。無文の隆帯は尖鋭的な作りとなっている。

ずん胴で頸部に爪形文で上下を飾る2条の尖鋭的な隆帯を巡らした土器（396・504－227）である。

ずん胴なあるいはバケツ形を呈し頸部に指頭圧痕列で飾る低い隆帯を巡らした土器（396・504－229～238）で、指頭圧痕列が1条（396・504－228・230～232・234・235）、隆帯上に1条とそれを挟むように上下にも（396・504－229・233・236～238）施文している。また、これらの文様構成は口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文（396・504－228）、口縁部に羽状縄文、胴部に撚糸文（396・504－229・234・237）、口縁部から胴部上半と底辺部に綾絡文、胴部に撚糸文（396・504－230）、口縁部から胴部上半に単節縄文、胴部に撚糸文（396・504－233・236）、全面に撚糸文（396・504－231・232）、口縁部に羽状縄文、隆帯下方に綾絡文、胴部に撚糸文（396・504－235）、口縁部から胴部下半まで羽状縄文、底辺部に撚糸文（396・504－238）である。

わずかに外傾する口縁部をもつ円筒形で頸部に3条の押圧縄文を巡らした土器（396・504－240）で、口縁部から胴部上半まで羽状縄文、以下に撚糸文を施文している。

胴の膨らむ円筒形あるいはバケツ形を呈し、頸部に爪形文で飾る隆帯を巡らした土器（396・504－

239・241～256）で、爪形文列が１条（396・504－241～243）、２条（396・504－244・245・252）、２条の間に横位に爪形文を充填（396・504－239・248）、３条（396・504－246・247）の土器がある。また、これらの土器の文様構成は、口縁部から胴部上半が羽状縄文、下半が撚糸文（396・504－239・242・244・246）、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文（396・504－241）、口縁部に羽状縄文、胴部に撚糸文（396・504－243・248）である。

円筒形を呈し、頸部に押圧縄文を上下に付加した爪形文を巡らした土器（396・504－249）で、口縁部から胴部上半に羽状縄文、下半に撚糸文を施文している。

円筒形あるいはスマートな逆ベル・ボトム風な器形を呈し、頸部に縄を押捺した隆帯を巡らした土器（396・504－250・251）で、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文（396・504－250）、口縁部に単節縄文、胴部に綾絡文を付加した撚糸文（396・504－251）を施文し、隆帯の上下に爪形文を巡らしている。

円筒形で頸部に横位の爪形文とその上下の縦位の爪形文で飾る隆帯を巡らした土器（396・504－252～265）で、全面に単節縄文（396・504－252）、口縁部から胴部上半が単節縄文、下半が撚糸文（396・504－253）、口縁部から胴部上半が羽状縄文、下半が撚糸文（396・504－254～260・262・264・265）を施文している。

爪形文の上下に縄原体側面圧痕を巡らす土器（396・504－261・263）で、胴部中半にも縄原体側面圧痕を巡らしている（396・504－263）。

複数条の縦位の爪形文で飾る隆帯を巡らした土器（396・504－266・267）で、胴部中位に撚糸文、口縁部から胴部上半および下半に単節縄文（396・504－266）あるいは羽状縄文（396・504－267）を施文している。

頸部に縦位の爪形文を巡らし、口縁部から胴部上半に羽状縄文、下半に撚糸文を施文しているが胴部中位に綾絡文を付加した土器（396・504－268）。

頸部に複数条の縦位の爪形文で飾る隆帯を巡らし全面に羽状縄文を施文した土器(396・504－269)。口縁部がやや開くスマートな円筒形を呈し、頸部に横位の爪形文で飾る隆帯を巡らした土器（396・504－270）。

口縁部がやや開くスマートな円筒形を呈し、頸部に縦位の刺突列で飾る隆帯を巡らし、口縁部に羽状縄文、胴部に綾絡文を付加した撚糸文を施文した土器（396・504－271）。

スマートな円筒形を呈し頸部に単軸絡条体側面圧痕文の上下に縄原体側面圧痕を巡らした土器(396・504－272）で、口縁部から胴部上半に羽状縄文、下半に撚糸文を施文している。

口縁部がやや開くスマートな円筒形を呈し、頸部に縦位の刺突列で飾る隆帯を巡らし、口縁部から胴部上半に羽状縄文、下半に撚糸文を施文した土器（396・504－273・274）。

口縁部がやや開くスマートな円筒形を呈し、口縁部に縄原体側面圧痕を巡らす土器（396・504－275・276）で、全面に単節縄文（396・504－275）、多軸撚糸文（396・504－276）を施文している。

円筒形を呈し頸部に縄原体側面圧痕を巡らした土器（396・504－277～283・284～293）で、全面に羽状縄文（396・504－277・283）、方向を変え全面に撚糸文（396・504－278）、口縁部に羽状縄文、胴部に撚糸文（396・504－279・287・290）、口縁部から胴部上半に羽状縄文、下半に撚糸文（396・504－280・282・285・286・288・289・292・293）、口縁部に単節縄文、胴部に撚糸文（396・504－281）、全面に単節縄文（396・504－291）を施文している。

口縁部が開く円筒形を呈し、頸部に２条の押圧縄文を巡らし、幅の狭い口縁部に横走する押圧縄文、胴部に撚糸文を施文している（396・504－294）。

幅の広い口縁部に口唇から頸部へ押圧縄文を垂下させた土器（396・504－295～299）で、頸部には押圧縄文（396・504－295・296・299）、上下に押圧縄文を付加した指頭圧痕列（396・504－297）、単軸絡条体側面圧痕文の上下に縄原体側面圧痕を巡らす（396・504－298）、方向を変えた撚糸文（396・504－299）を施文している。

横走する押圧縄文を施文した幅の狭い口縁部をもつ土器（396・504－300・302）で、胴部上半に羽状縄文、下半に撚糸文（396・504－300）、下半に綾絡文を付加した撚糸文（396・504－302）を施文している。

ボリュームのあるバケツ形を呈し、頸部に横長の刺突列を巡らし、幅の狭い口縁部をもつ土器（396・504－301）で、全面に羽状縄文を施文している。

縄原体を横位と連続山形に施文した幅の狭い口縁部をもつ土器（396・504－303～306）である。（396・504－305・306）の縄原体は絡条体である。また（396・504－306）の頸部には横走する横長の刺突列を巡らしている。

押圧縄文を施文した幅の狭い口縁部をもつ土器（396・504－307）で、全面に羽状縄文を施文している。スマートなバケツ形で頸部に低い隆帯を巡らし幅の狭い口縁部に縄原体を横位と連続山形に施文した土器（396・504－308）。胴部には撚糸文と羽状縄文を交互に施文している。

口縁部が開く円筒形を呈し、頸部に単軸絡条体側面圧痕文を巡らし、口辺と側面圧痕文の上下に２条１単位の押圧縄文を横走させており、その間にも網目状に押圧しており胴部には単節縄文を施文している。

ゆるやかな波状口縁のバケツ形を呈し頸部には上下に押圧縄文を付加した横長の刺突列を巡らし、幅の狭い口縁部をもつ土器（396・504－310・312）で、口縁部から胴部上半に羽状縄文、下半に撚糸文を施文している。

円筒形を呈し、頸部には上下に押圧縄文を付加した横長の刺突列を巡らし、幅の狭い口縁部をもつ土器（396・504－311）で、胴部には全面に羽状縄文を施文している。

ボリュームのある円筒形を呈し、頸部には半截竹管の連続刺突列で飾る低い隆帯を巡らした土器（396・504－313）で、極めて幅の狭い口縁部には横走する押圧縄文、胴部には全面に羽状縄文を施文している。

（396・504－317）はバケツ形を呈するが文様構成は同一である。（396・504－314）はバケツ形を呈し頸部には上下に押圧縄文を付加した単軸絡条体側面圧痕文を巡らし、幅の狭い口縁部に押圧縄文を施文した土器で、胴部には全面に羽状縄文を施文している。

ボリュームのあるバケツ形を呈し、頸部に２条の横長の刺突列を巡らし、羽状縄文を施文した幅の狭い口縁部をもつ土器（396・504－315）で、胴部には撚糸文を施文している。

（396・504－316）は、台付きの鉢形土器である。

スマートなバケツ形を呈し頸部には縄を押捺した隆帯を巡らし、口縁部には押圧縄文、胴部には網目状撚糸文を施文した土器（396・504－318）。

張り肩で、頸部がすぼまり口縁が外反する器形を呈する土器（396・504－319・320）で、口縁部か

ら肩部には数条の押圧縄文、胴部上半には羽状縄文、下半には単節縄文（396・504－319）あるいは撚糸文（396・504－320）を施文している。

Ｖｂ層から出土した土器は62点である。

逆ベル・ボトム風な器形を呈し、全面に撚糸文を施文した土器（396・504－321～323）である。

スマートな円筒形を呈し、折返し様の膨らみをもつ口縁部とその下方には綾絡文、胴部には撚糸文を施文した土器（396・504－324）。

スリムなバケツ形を呈し幅広な口縁部には綾絡文、胴部には撚糸文を施文した土器（396・504－325）。逆ベル・ボトム風な器形を呈し、口縁部には単節縄文、胴部には撚糸文を施文した土器（396・504－326）である。

口縁が外反するずん胴な円筒形で全面に撚糸文（396・504－327）、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文（396・504－328）施文した土器。

円筒形を呈する土器（396・504－329～332・336）で、撚糸文の回転方向を変えて文様帯を作出（396・504－329）、口縁部に単節縄文、胴部に撚糸文（396・504－330～332）、口縁部から胴部上半に羽状縄文、下半に撚糸文（396・504－336）を施文している。

バケツ形を呈し口縁部に単節縄文、胴部に撚糸文を施文した土器（396・504－330～332）。

逆ベル・ボトム風な器形を呈する土器（396・504－334・341）で、全面に単節縄文（396・504－334）、口縁部に羽状縄文、胴部に撚糸文（396・504－341）を施文している。

４つの頂部のある波状口縁をもつ円筒形を呈し全面に羽状縄文を施文した土器（396・504－338）である。

円筒形を呈し頸部に指先圧痕列を施文した低い隆帯を巡らした土器（396・504－342～349・353）で、口縁部に羽状縄文、胴部に綾絡文を付加した撚糸文（396・504－342）、口縁部に羽状縄文、胴部に撚糸文（396・504－343・344）、口縁部に単節縄文、胴部上半に単軸絡条体圧痕文、下半に撚糸文（396・504－345）、口縁部から胴部上半に羽状縄文、下半に撚糸文（396・504－346～348）、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文（396・504－349）、口縁部から胴部上半に単節縄文、下半に撚糸文（396・504－353）を施文している。

円筒形を呈し頸部にその上中下に爪形文を付加した２条の指先圧痕列を施文した低い隆帯を巡らした土器（396・504－351）で、口縁部から胴部上半に羽状縄文、下半に撚糸文を施文している。

（396・504－352）は、ボリュームのある円筒形を呈し、頸部にその上中下に押圧縄文を付加した３条の指先圧痕列を施文した土器で、口縁部から胴部上半に羽状縄文、下半に撚糸文を施文している。

口縁がやや外反する円筒形を呈し、頸部に２段の爪形文を巡らす土器（396・504－354・355・357・359）で、口縁部から胴部上半に羽状縄文、下半に撚糸文を施文しているが、２段の爪形文の間に横方向の爪形文を付加（396・504－355・359）したものもある。

（396・504－356）は、頸部に指先圧痕列を施文した低い隆帯を巡らした土器で、隆帯の上下に爪形文を付加している。

（396・504－358・371）は口縁がやや外反する円筒形を呈し、頸部に単軸絡条体圧痕文を施文した低い隆帯を巡らし、全面に撚糸文（396・504－358）、口縁部に羽状縄文、胴部に撚糸文（396・504－371）を施文した土器である。

（396・504－360）は、口縁がやや外反する円筒形を呈し、頸部に単軸絡条体を押捺して文様帯区画し、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文した土器である。

（396・504－361）は、口縁がやや外反する円筒形を呈し、頸部に押圧縄文を上下に付加した2段の爪形文を巡らし、口縁部から胴部上半に羽状縄文、下半に撚糸文を施文した土器。

（396・504－362）は、幅が狭く外反する口縁の、ずん胴な円筒形を呈し、口縁部から頸部下方に羽状縄文、以下に撚糸文を施文したあと頸部に上下に押圧縄文を付加した横長の刺突列を巡らした土器。　（396・504－363・367）は、胴がやや膨らむ円筒形でやや幅広な口縁部から胴部上半に羽状縄文、下半に単節縄文を施文したあと、頸部に3条の押圧縄文を巡らした土器。

（396・504－366）は、円筒形を呈し頸部に2条の押圧縄文を巡らし、ほぼ直立する口縁部に羽状縄文、胴部に撚糸文を施文した土器。

（396・504－364）は、円筒形を呈し頸部に単節縄文を回転させた隆帯を巡らし、やや幅広な口縁部から胴部上半に羽状縄文、下半には撚糸文と羽状縄文を交互に施文した土器。

円筒形を呈し頸部に2条の隆帯を巡らした土器（396・504－368～370）で口縁部から胴部上半に単節縄文、下半に撚糸文（396・504－368・369）、口縁部から胴部上半に羽状縄文、下半に多軸撚糸文（396・504－370）を施文している。

円筒形を呈し頸部に2条の押圧縄文を巡らし口縁部に単節縄文、胴部に撚糸文を施文した土器（396・504－372・373）で、（396・504－372）には口辺にも2条の押圧縄文が巡る。

（396・504－374・375）は円筒形あるいはやや胴の膨らむ円筒形を呈し、上半に羽状縄文、下半に撚糸文を施文し、口縁部に数条の横走する押圧縄文を施文した土器で、（396・504－374）の口縁部はやや幅広であるが、（396・504－375）の幅は狭い。

（396・504－376）はバケツ形を呈し、頸部に細く低い隆帯を巡らして極めて幅の狭い口縁部には数条の押圧縄文を、胴部には細かい羽状縄文を施文している。

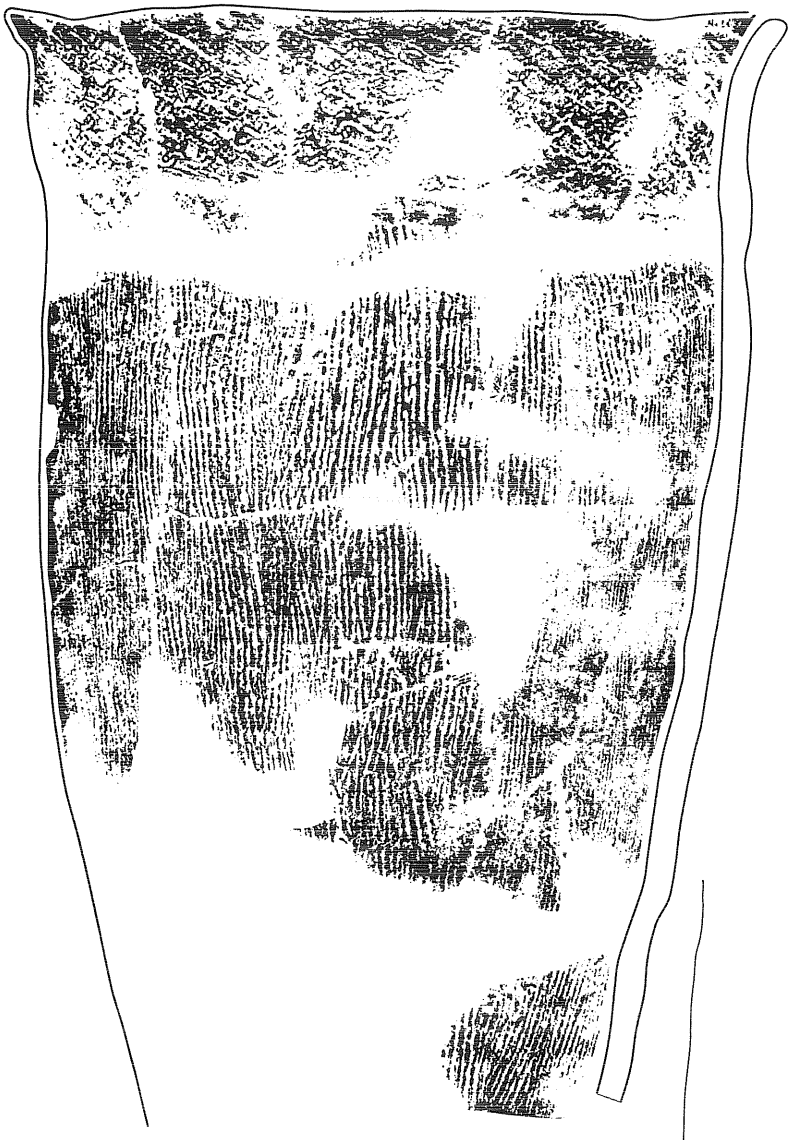
（396・504－377・378）はバケツ形を呈し、全面に細かい羽状縄文を施文している。

（396・504－379・380）は張り肩で頸部がすぼまる器形を呈し、（396・504－379）では肩部に半截竹管様の連続刺突列を、口縁部に数条の横走する押圧縄文を施文し、胴部には縦位の細かい沈線が施文されているが、（396・504－380）では、口縁部から肩部まで横長の刺突文と押圧縄文が交互に施文され、胴部には羽状縄文が施文されている。

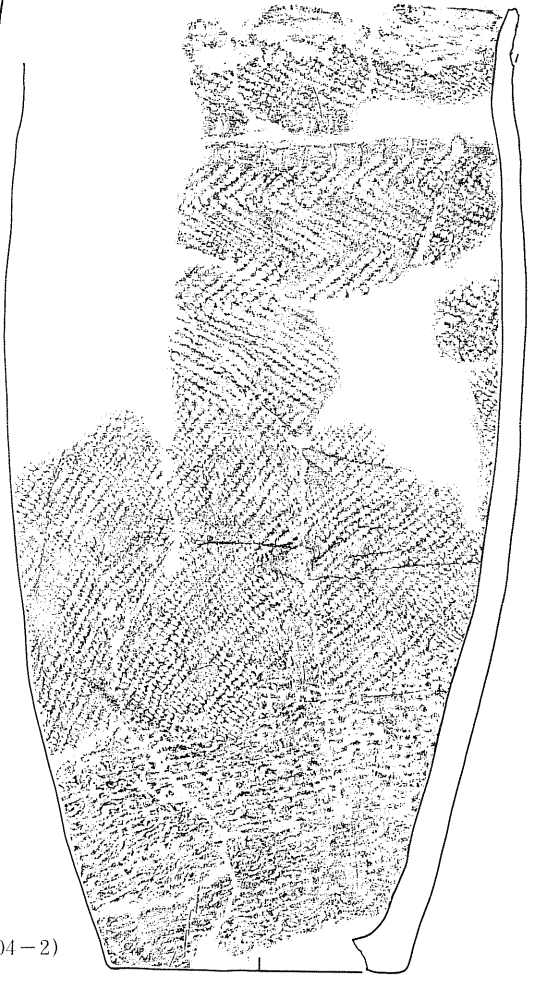
（396・504－381）は逆ベル・ボトム風の器形を呈し、頸部には隆帯を巡らされ、口辺は肥厚しボタン状突起が付加されている。口縁部には押圧縄文が多用され、胴部には羽状縄文が施文されている。

②　石器　石器は235点出土した。その内訳は石鏃4点（396・504－854・855・864・865）、石槍9点（396・504－845～847・856・866～869・901）、石錐2点、石匙61点（396・504－850・859～862・870～876・905）、篦状石器5点（396・504－857・858・890）、削器56点（396・504－848・849・851）、掻器23点（396・504－852・877～889）、剥片・不定形石器13点（396・504－891・899・900）、磨製石斧10点（396・504－892・893）、石錘5点（396・504－863・894・895）、半円状扁平打製石器27点（396・504－898・907）、くぼみ石12点（396・504－902～904）、敲石4点、擦石1点、石皿3点である。

③　石製品　刻線礫1点、石棒1点、円盤状石製品9点（396・504－853・896・897）が出土した。このほかに、自然礫に穴の開いた有孔礫2点、軽石1点が出土した。



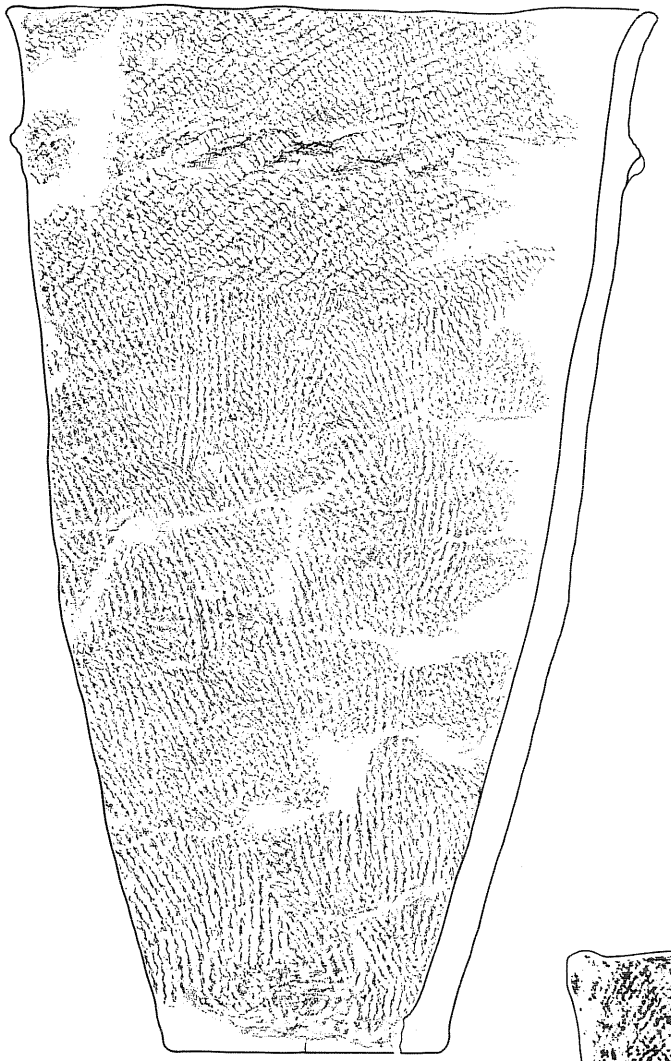
1（396・504－1）



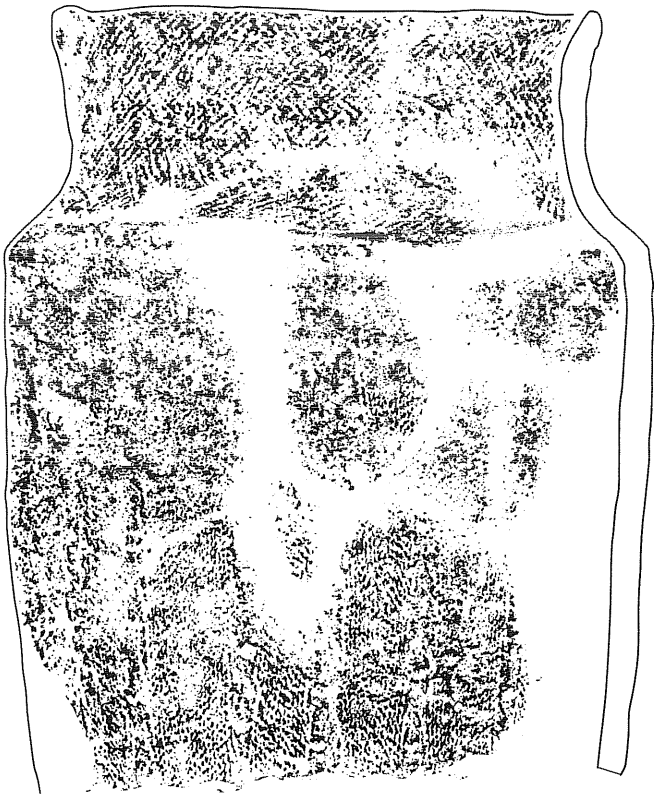
2（396・504－2）

0　10cm

第530図　ＳＴ396・504谷Ｉ層出土土器（１）



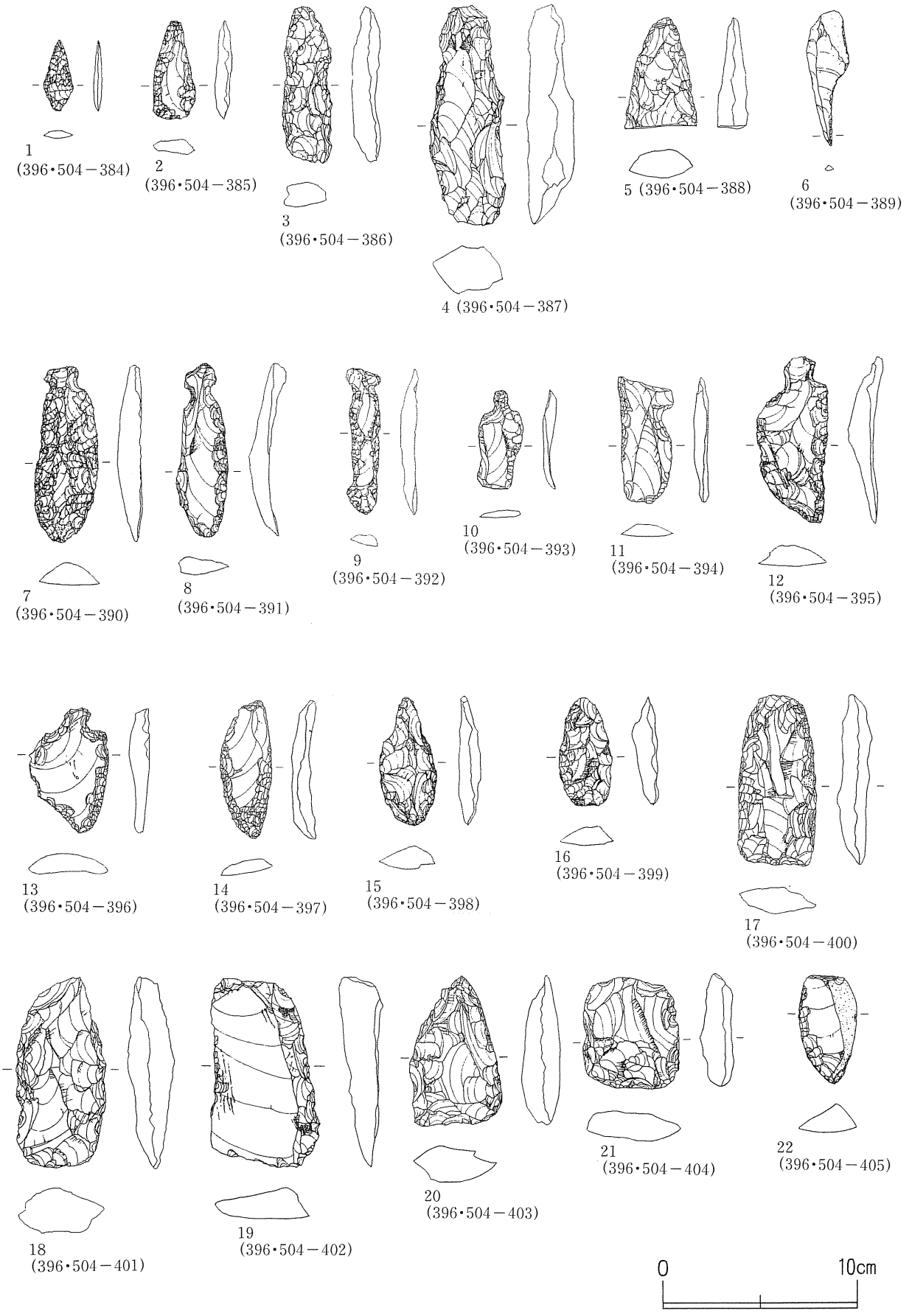
1（396・504－3）



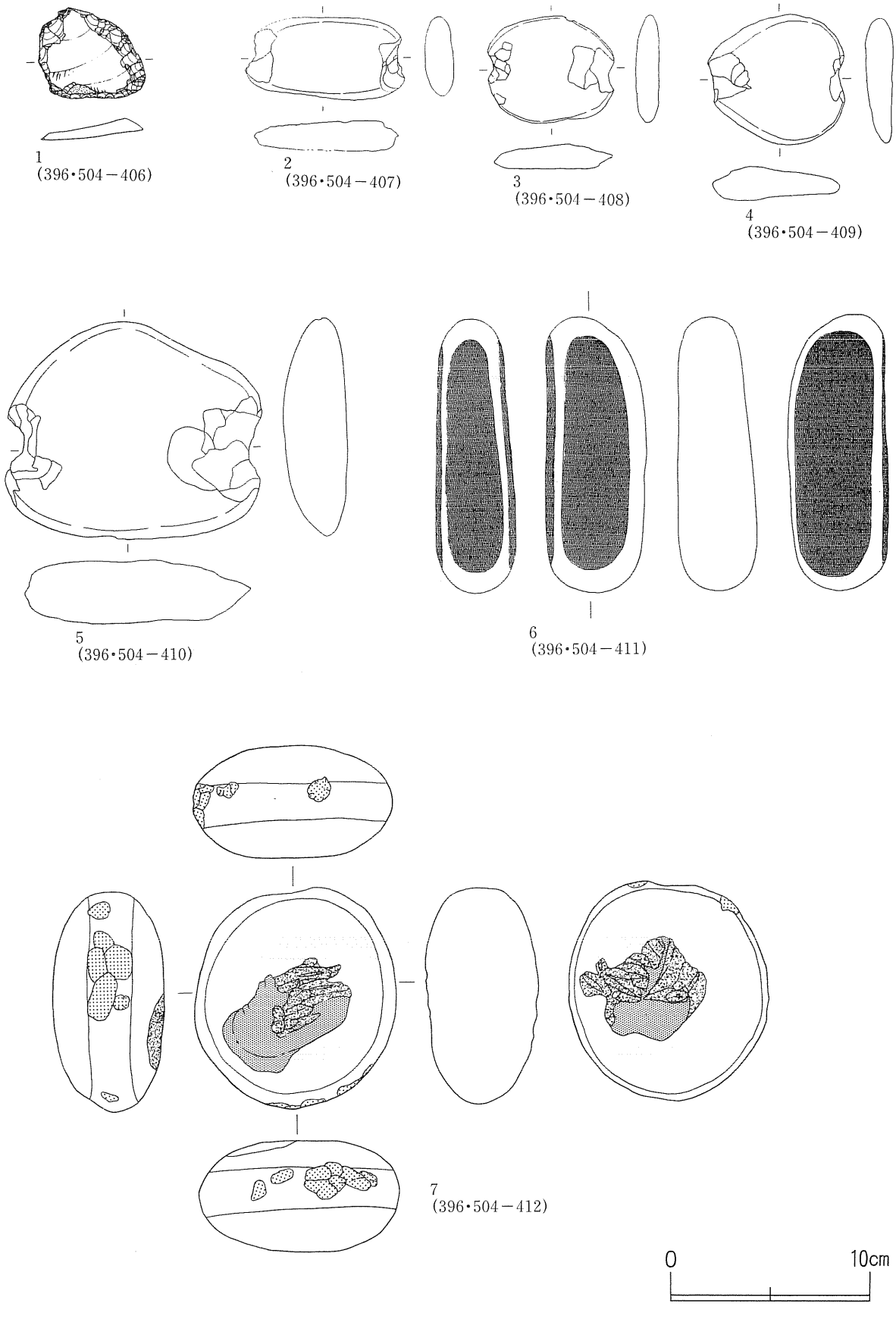
2（396・504－4）

0　10cm

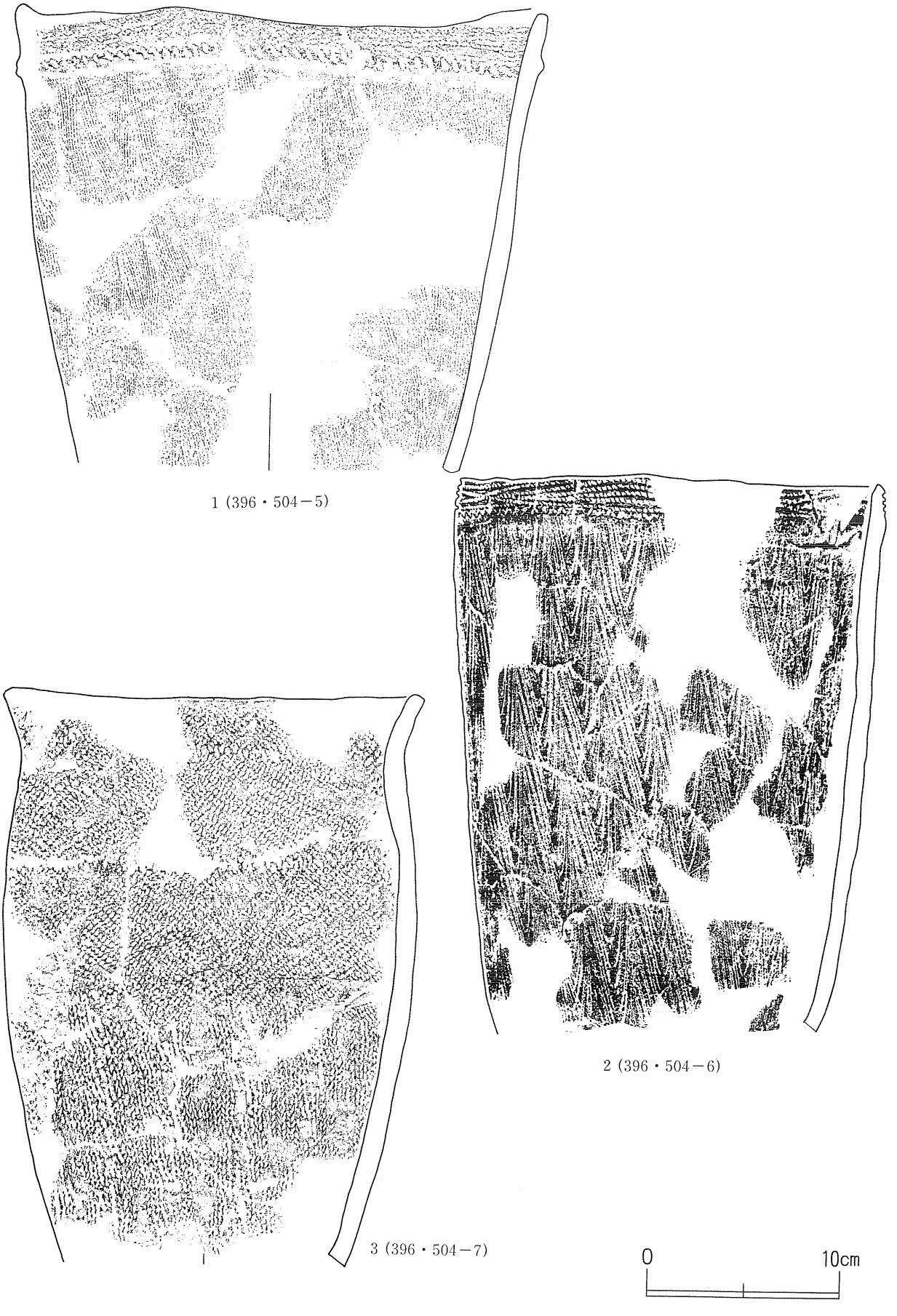
第531図　ＳＴ396・504谷Ⅰ層出土土器（２）



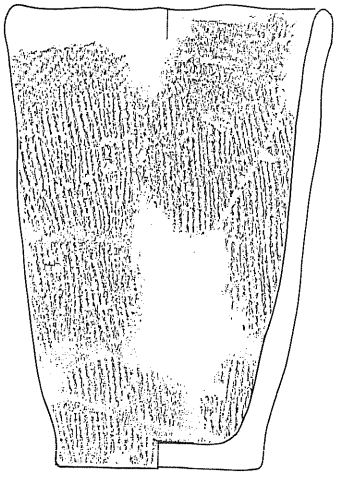
第532図　ＳＴ396・504谷Ｉ層出土石器（１）



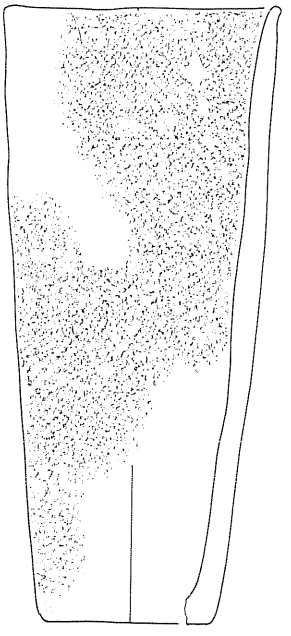
第533図　ＳＴ396・504谷Ｉ層出土石器（２）



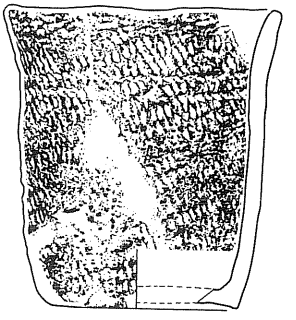
第534図　ＳＴ396・504谷Ⅰ層・Ⅱ層出土土器（１）



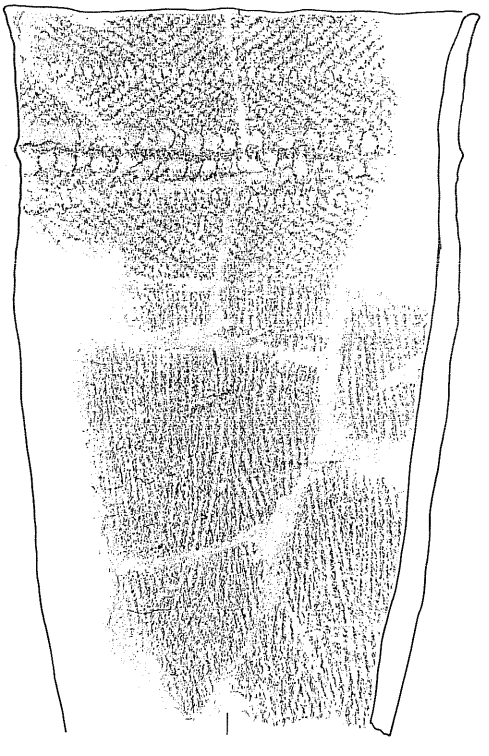
1（396・504－8）



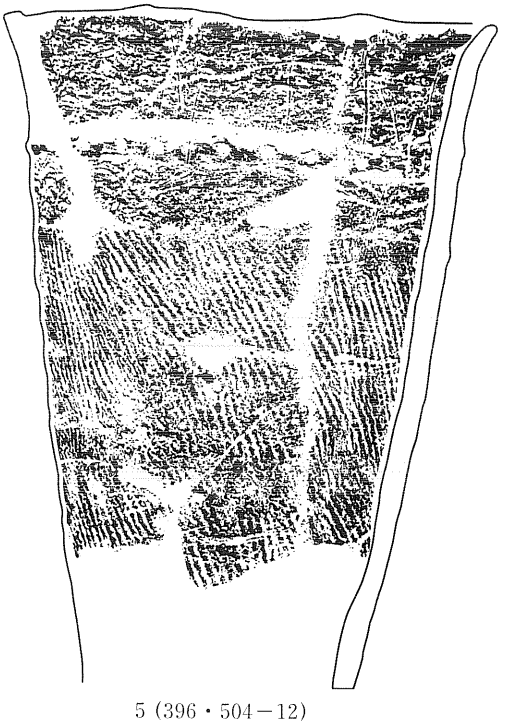
2（396・504－9）



3（396・504－10）



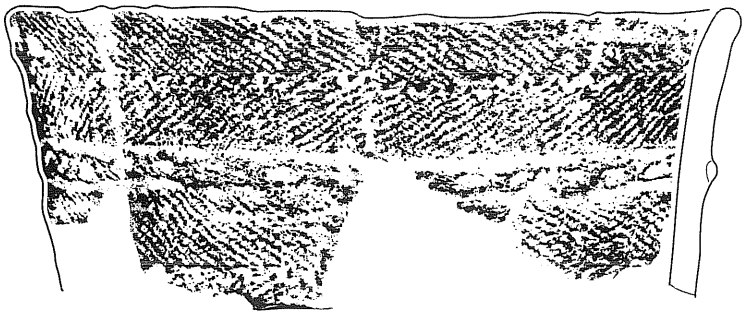
4（396・504－11）



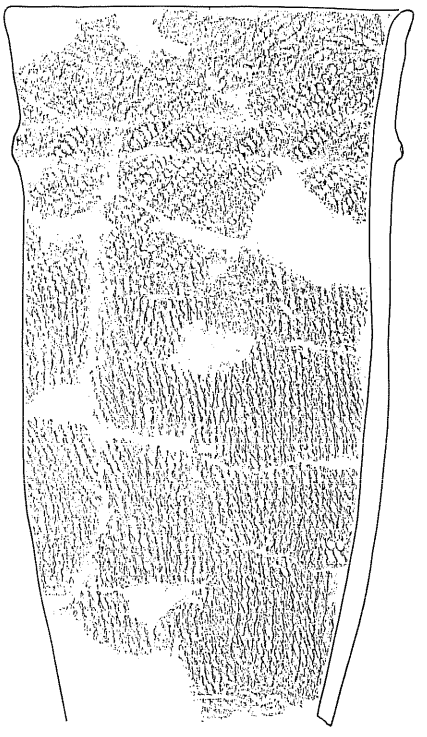
5（396・504－12）

0　10cm

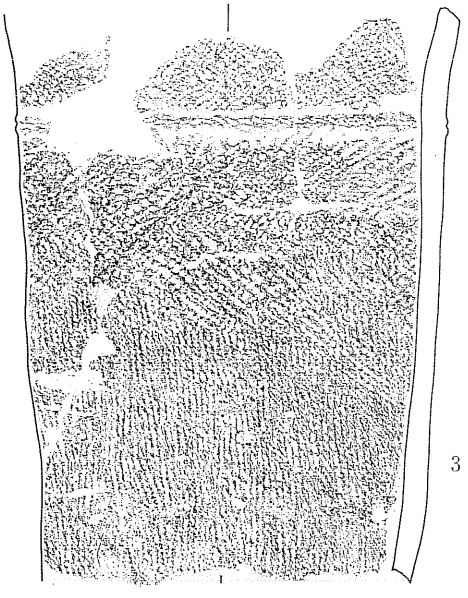
第535図　ＳＴ396・504谷Ⅰ層・Ⅱ層出土土器（２）



1（396・504－13）

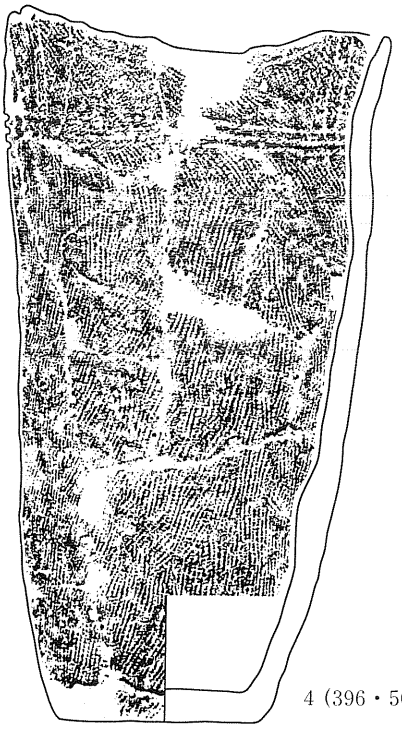


2（396・504－14）

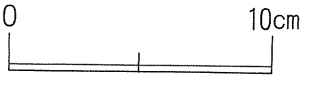


3（396・504－15）

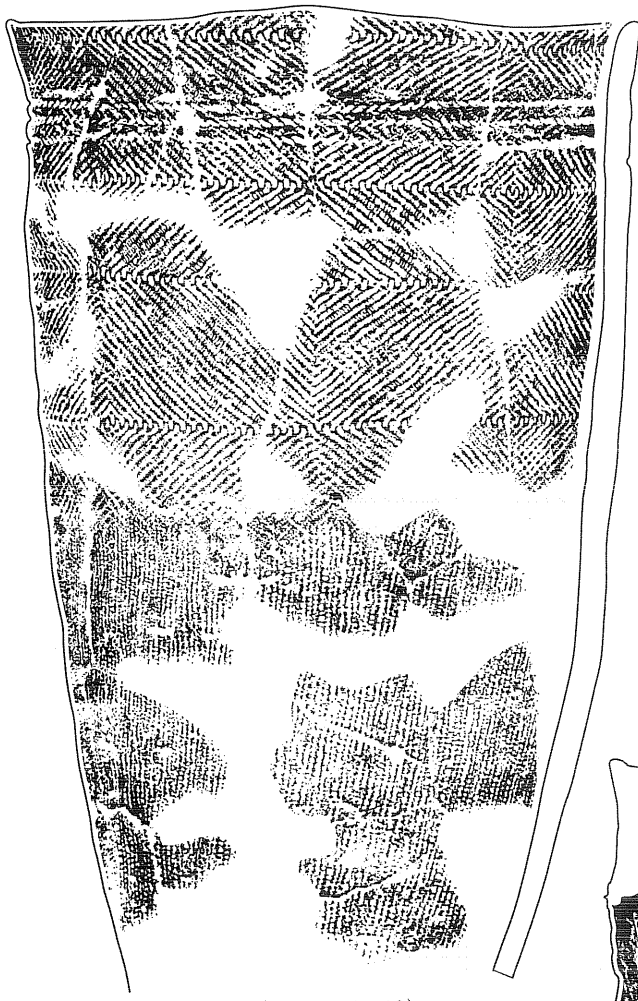
5（396・504－17）



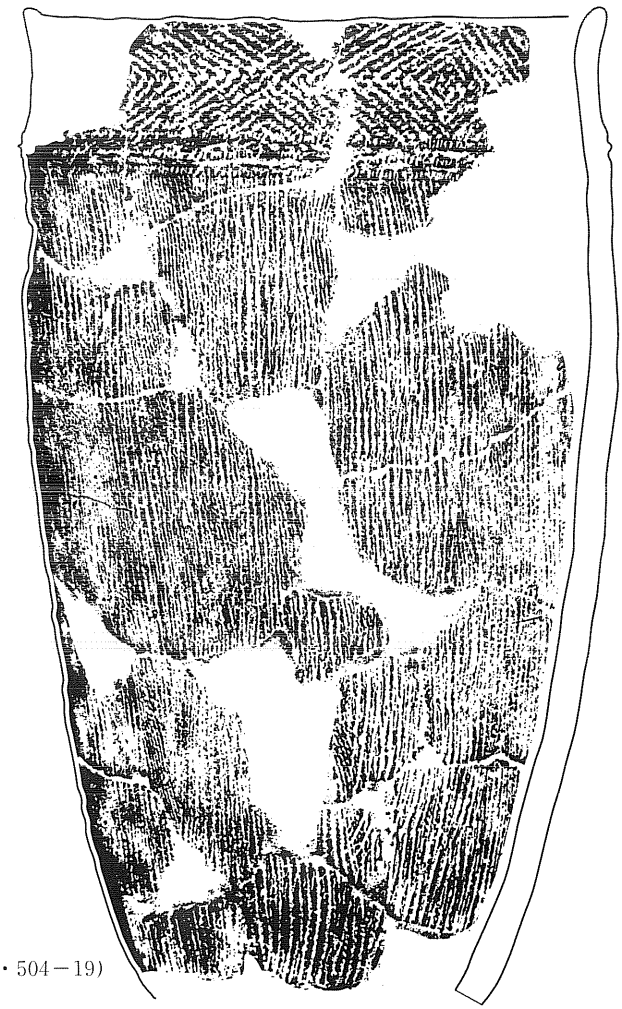
4（396・504－16）



第536図　ＳＴ396・504谷Ⅰ層・Ⅱ層出土土器（３）



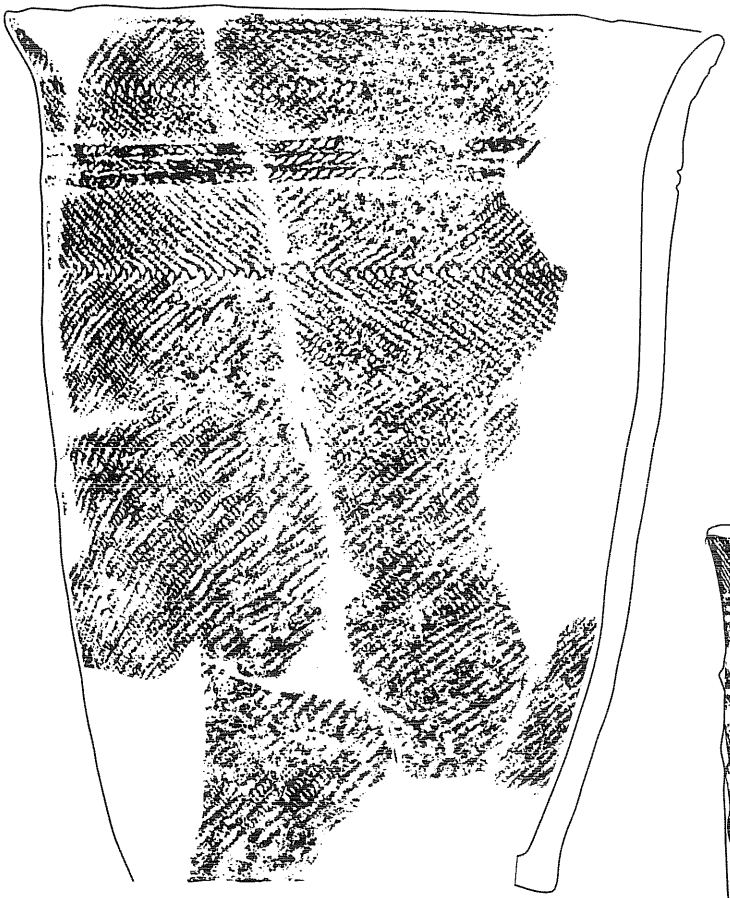
1（396・504－18）



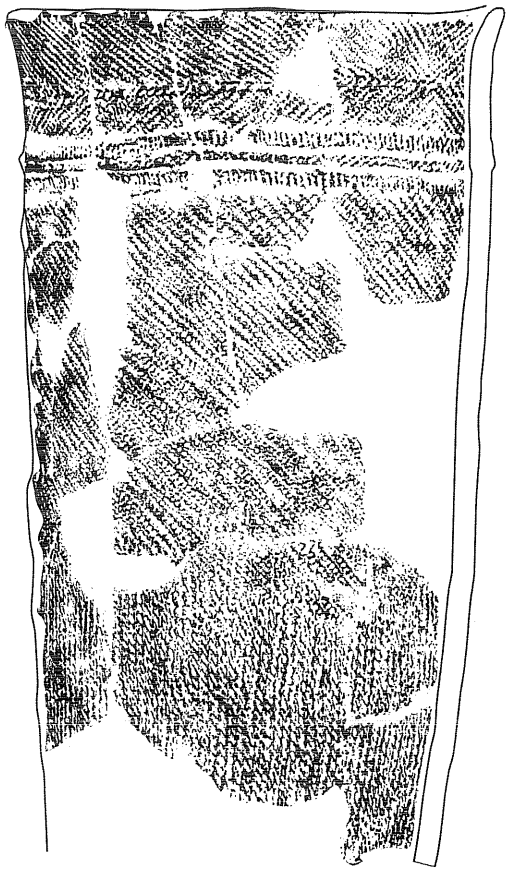
2（396・504－19）

0　10cm

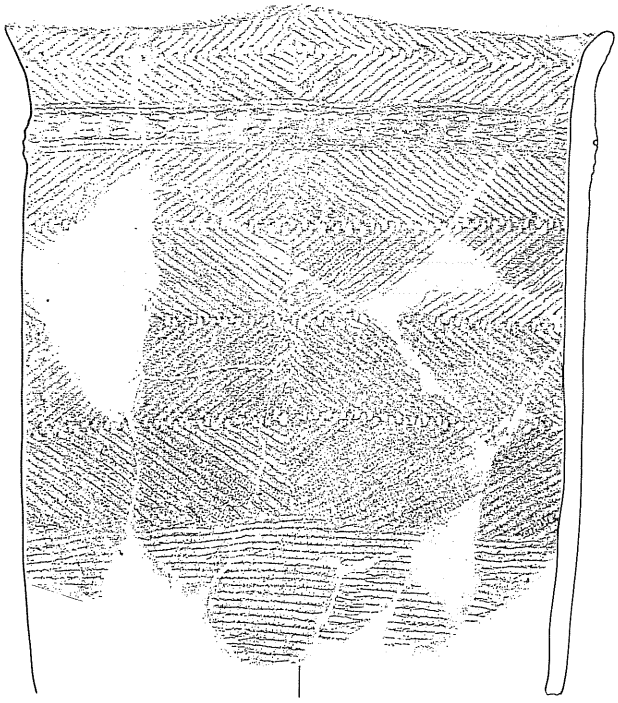
第537図　ＳＴ396・504谷Ⅰ層・Ⅱ層出土土器（４）



1（396・504－20）



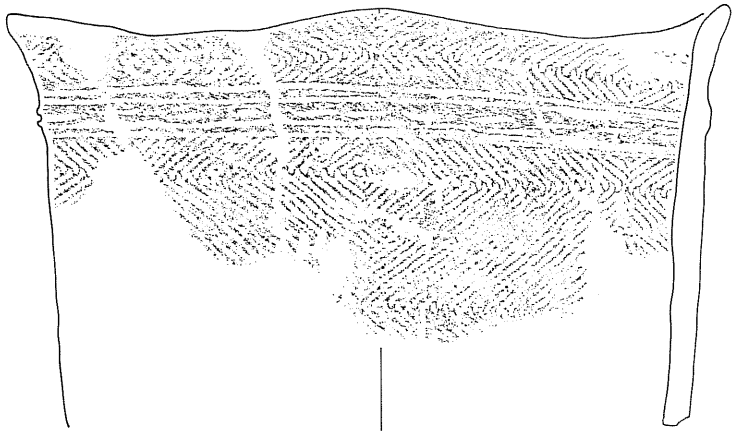
2（396・504－21）



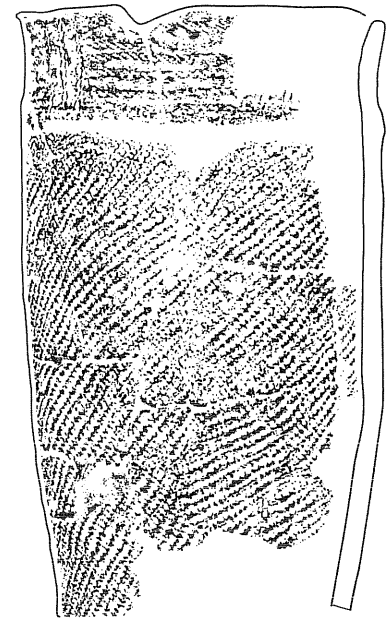
3（396・504－22）

0　10cm

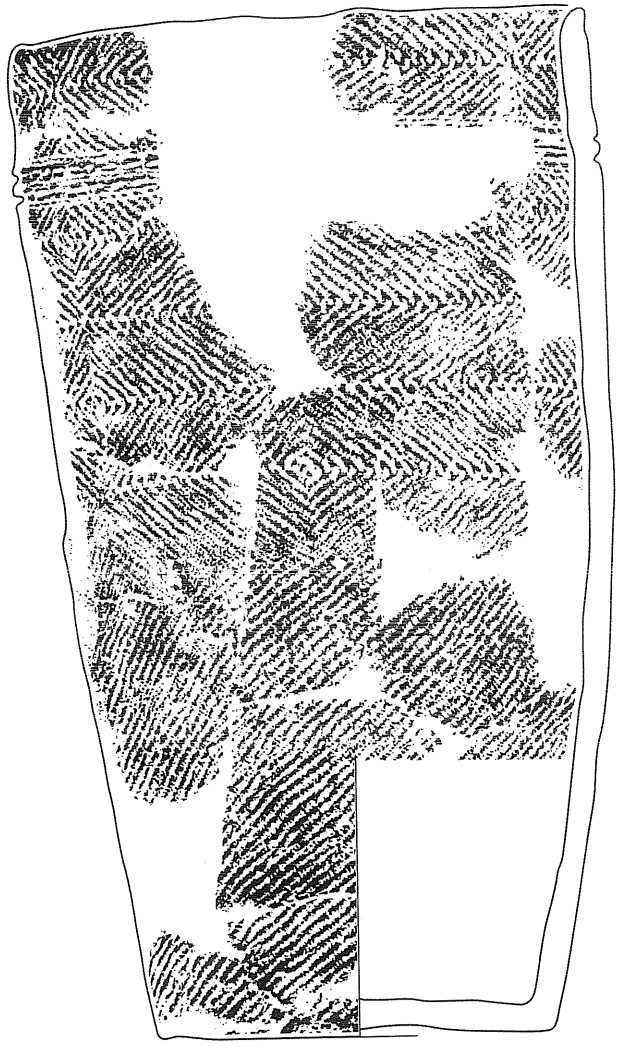
第538図　ＳＴ396・504谷Ⅰ層・Ⅱ層出土土器（５）



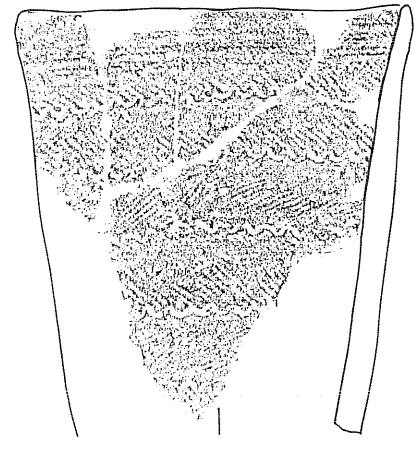
1（396・504－23）



2（396・504－24）



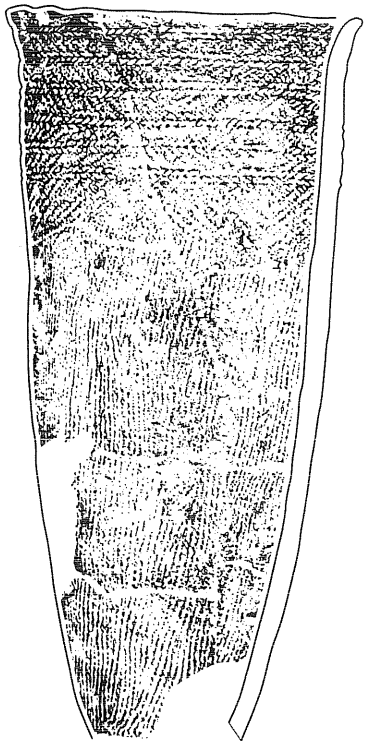
3（396・504－25）



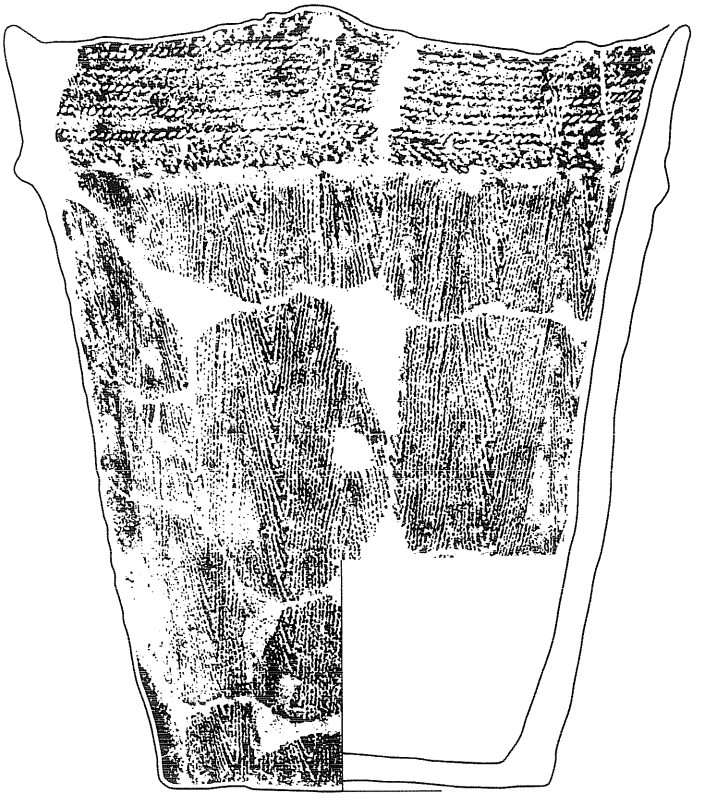
4（396・504－26）

0　10cm

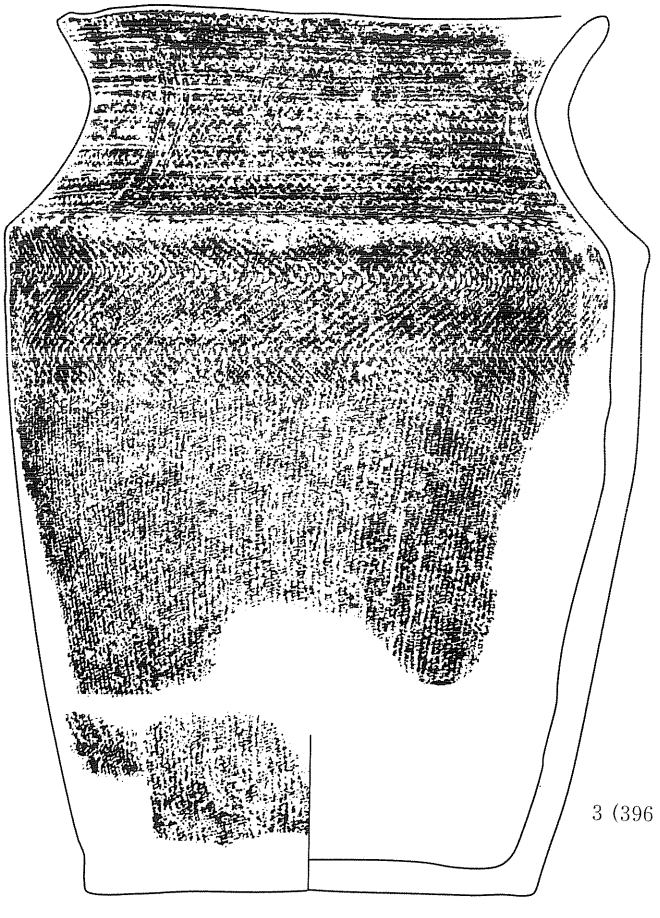
第539図　ＳＴ396・504谷Ⅰ層・Ⅱ層出土土器（６）



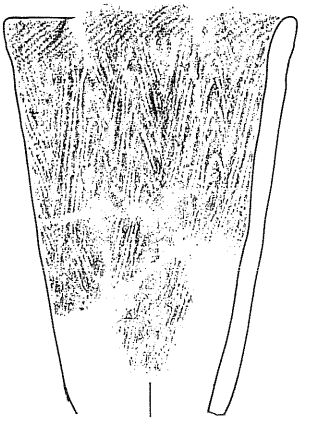
1（396・504－27）



2（396・504－28）



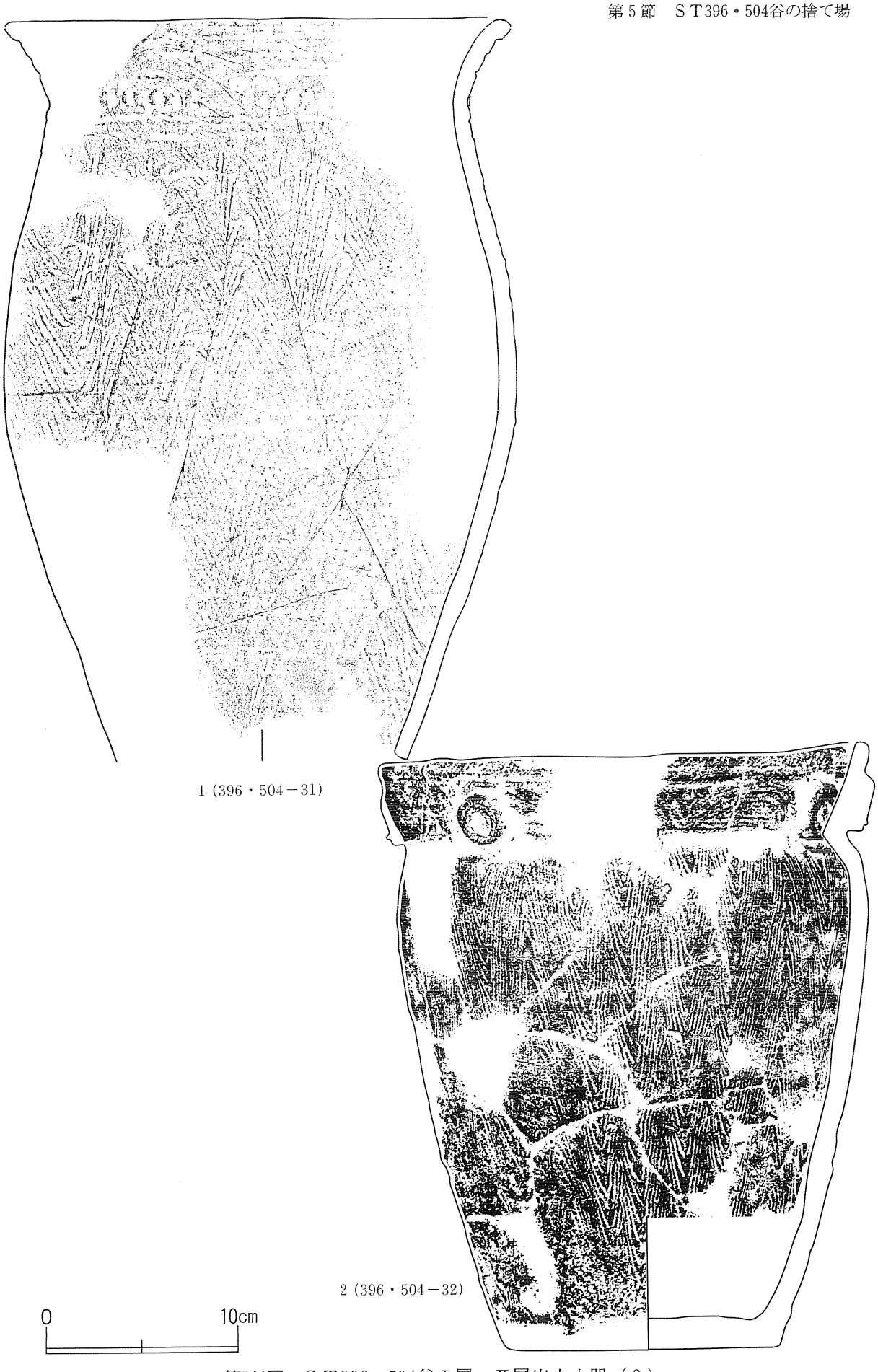
3（396・504－29）



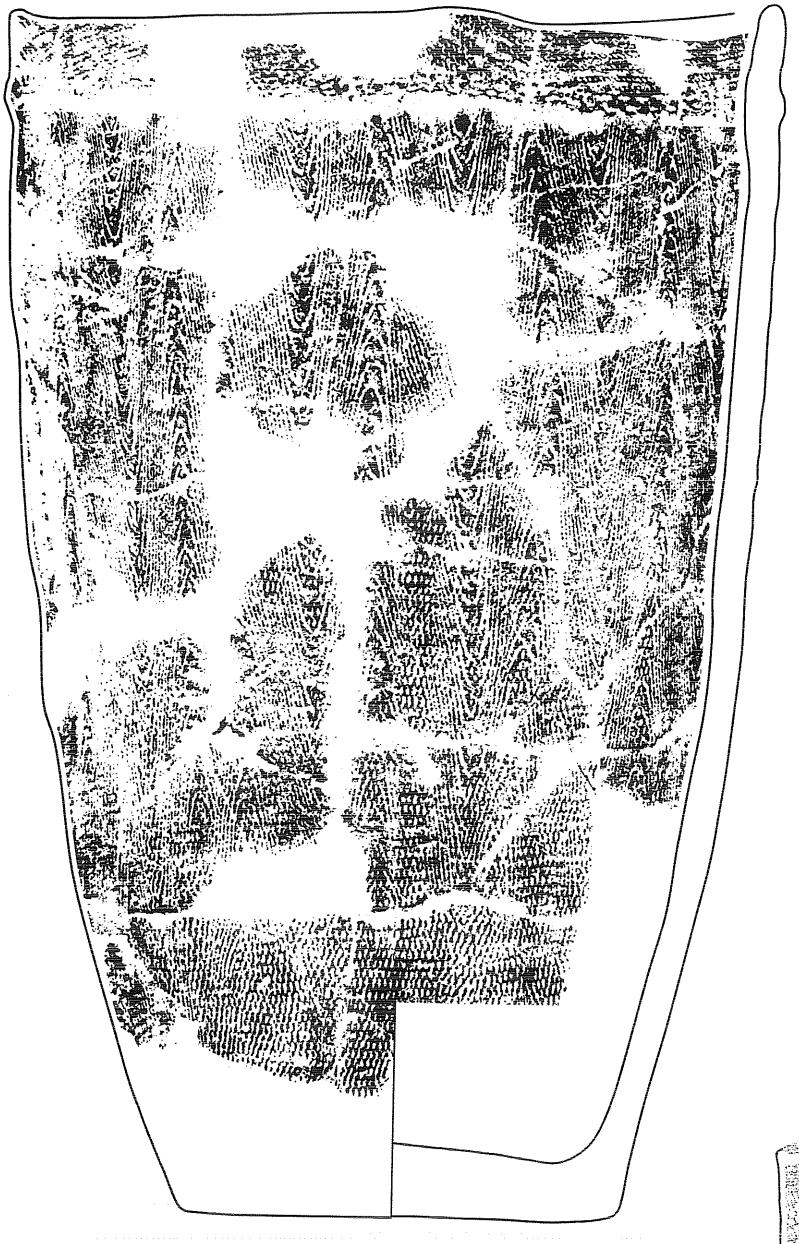
4（396・504－30）

0　10cm

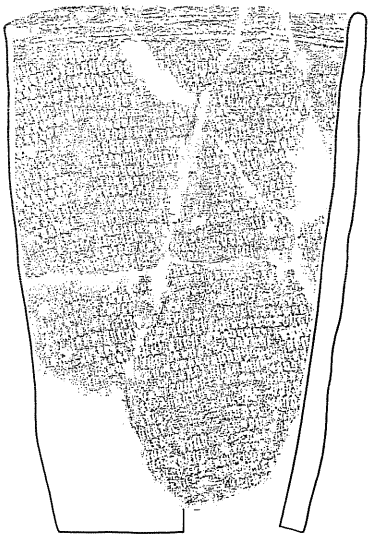
第540図　ＳＴ396・504谷Ⅰ層・Ⅱ層出土土器（７）



第541図　ＳＴ396・504谷Ⅰ層・Ⅱ層出土土器（８）



1（396・504－33）



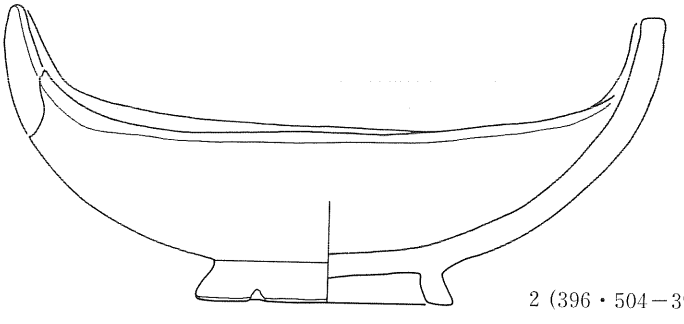
2（396・504－34）

0　10cm

第542図　ＳＴ396・504谷Ⅰ層・Ⅱ層出土土器（９）

第543図　ＳＴ396・504谷Ⅰ層・Ⅱ層出土土器（10）

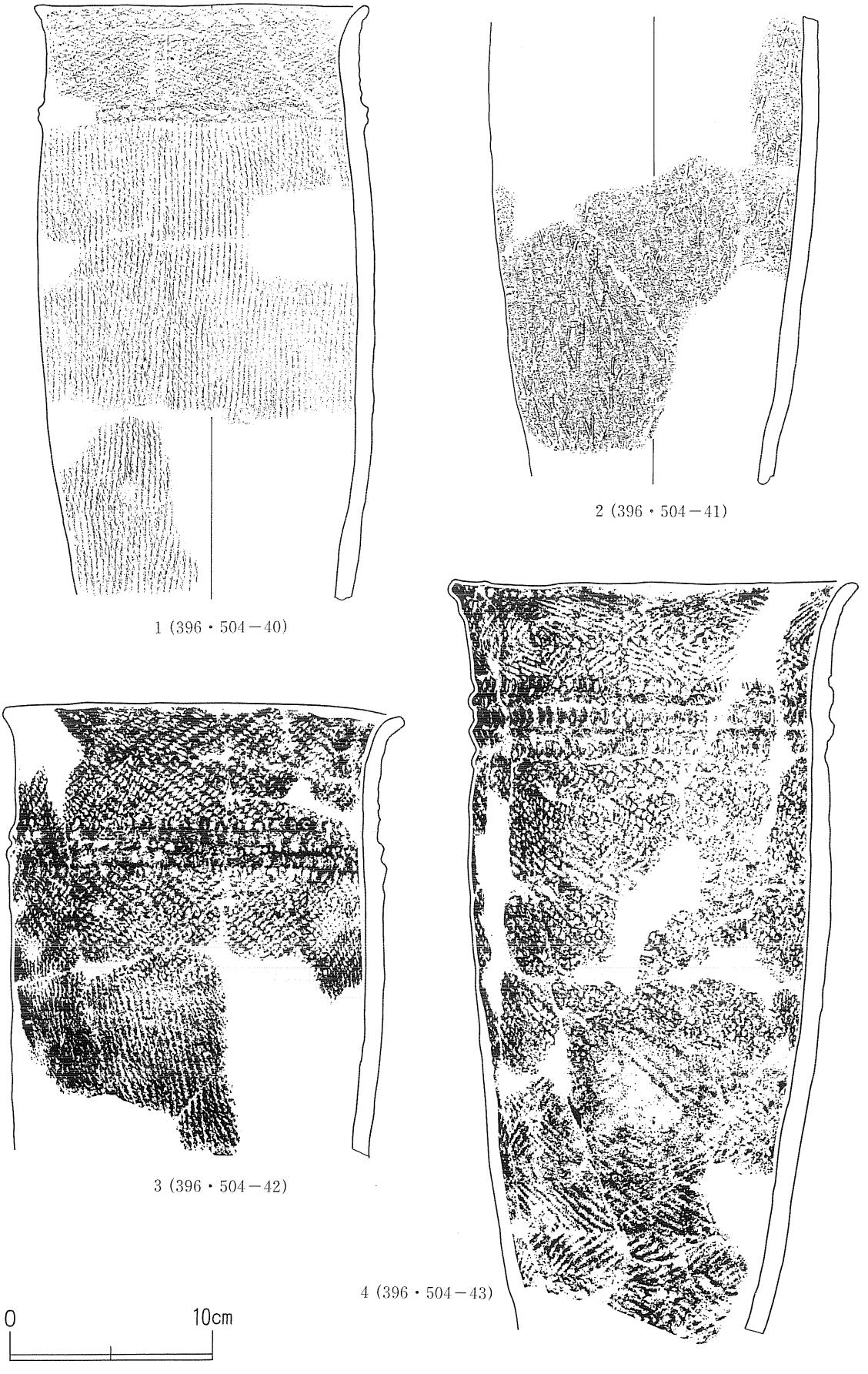
1（396・504－38）



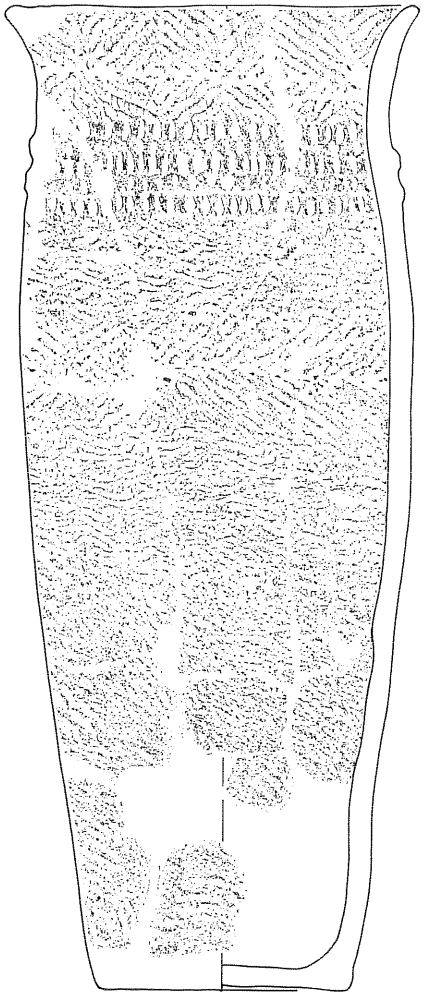
2（396・504－39）

0　10cm

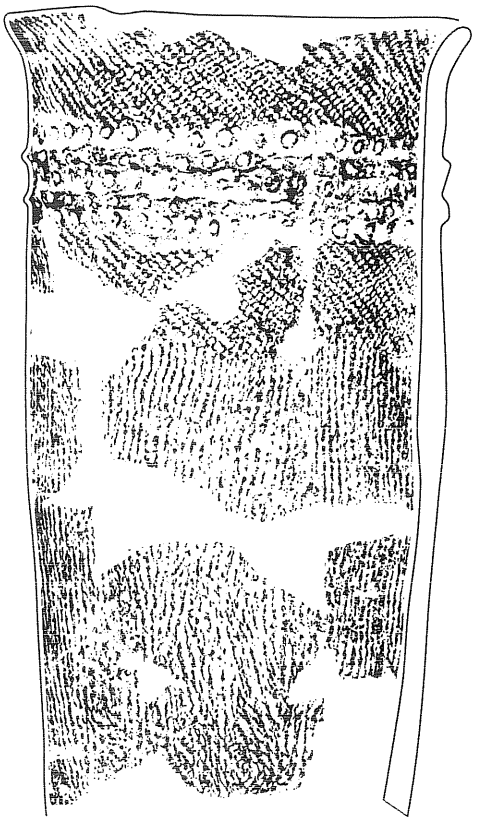
第544図　ＳＴ396・504谷Ⅰ層・Ⅱ層出土土器（11）



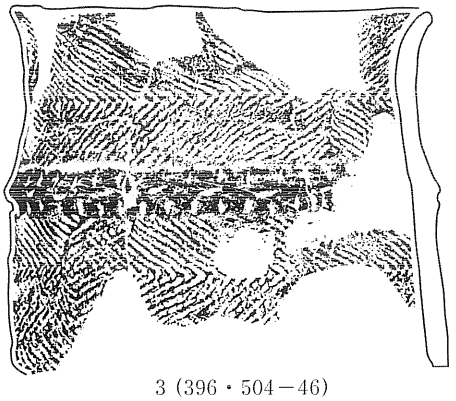
第545図　ＳＴ396・504谷Ⅱｂ層・Ⅱｃ層出土土器（１）



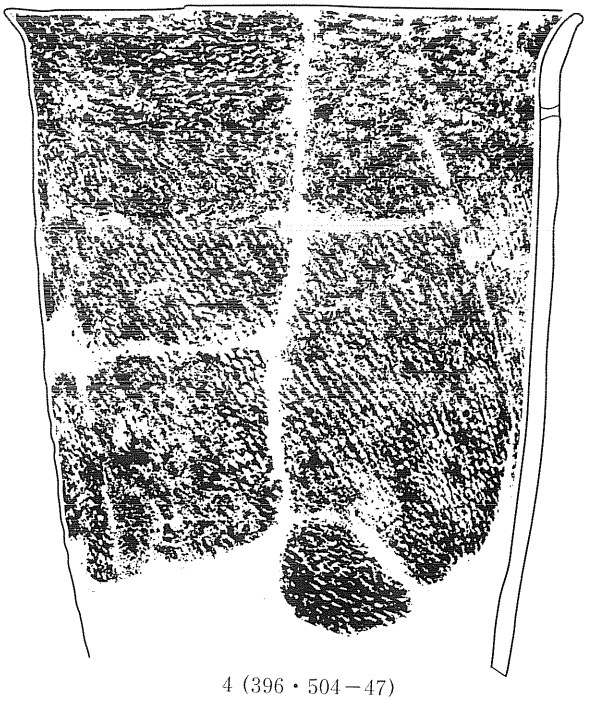
1（396・504－44）



2（396・504－45）



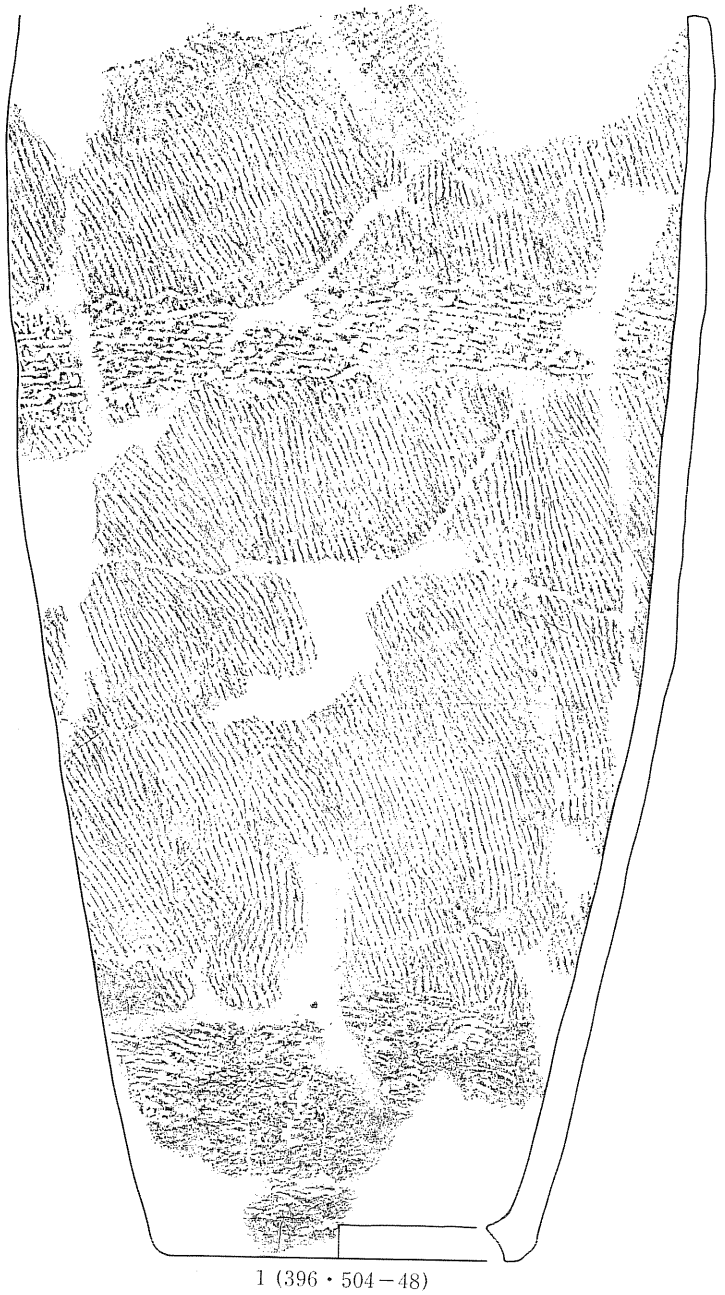
3（396・504－46）



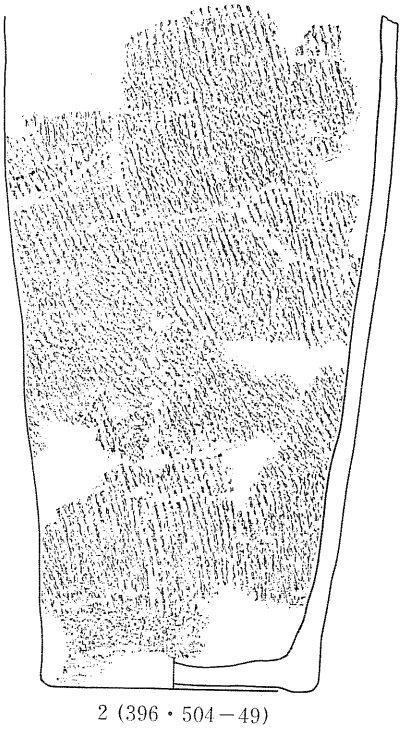
4（396・504－47）

0　10cm

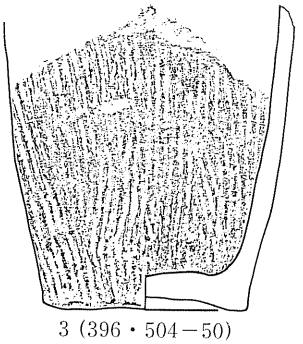
第546図　ＳＴ396・504谷Ⅱｃ層出土土器（２）



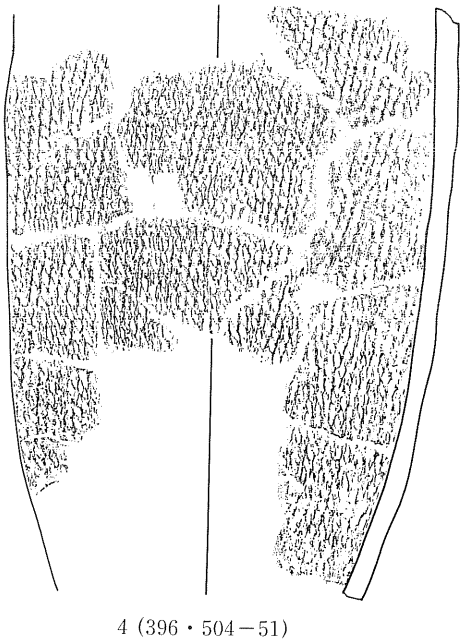
1（396・504－48）



2（396・504－49）



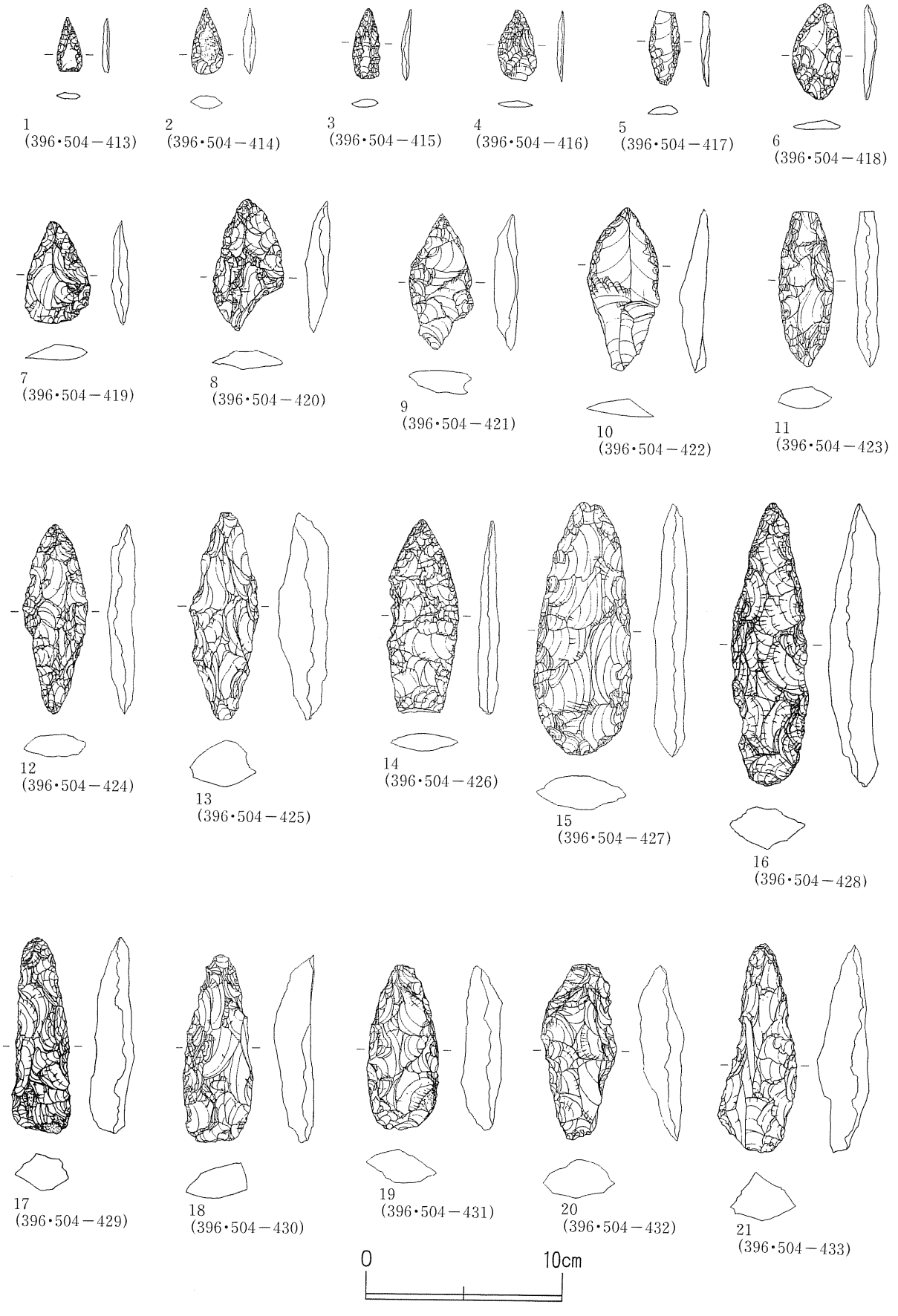
3（396・504－50）



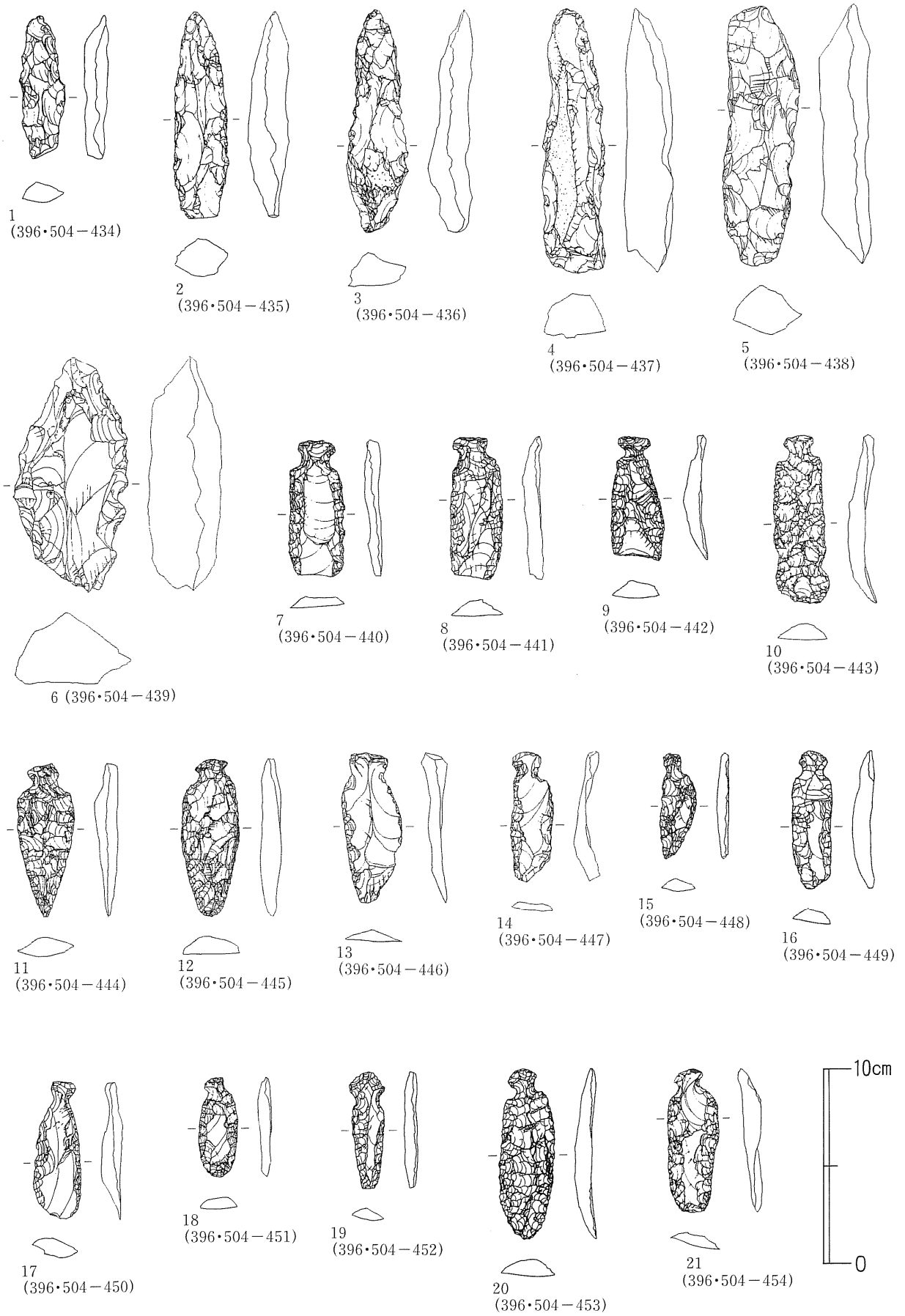
4（396・504－51）

0　10cm

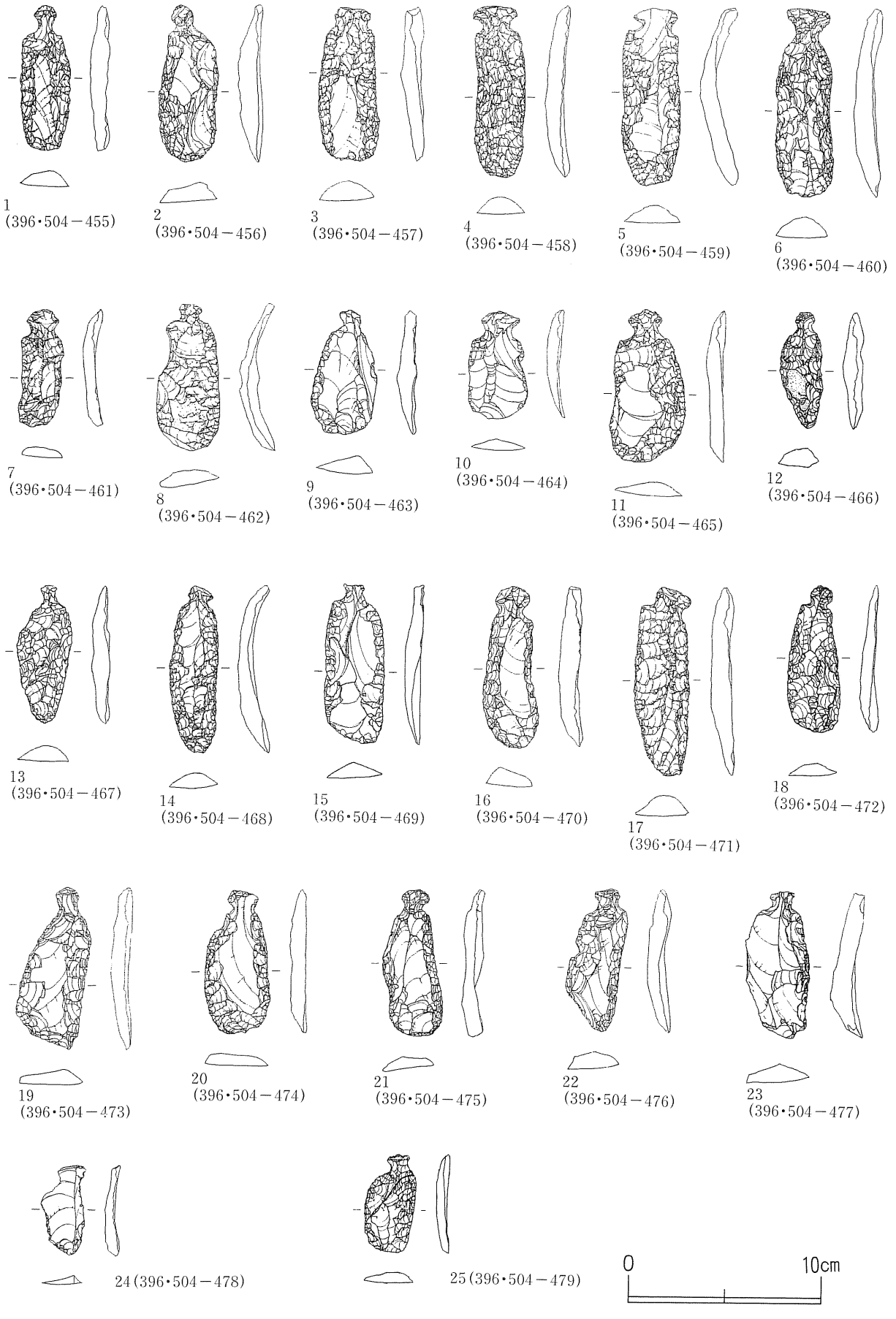
第547図　ＳＴ396・504谷Ⅱｃ層出土土器（３）



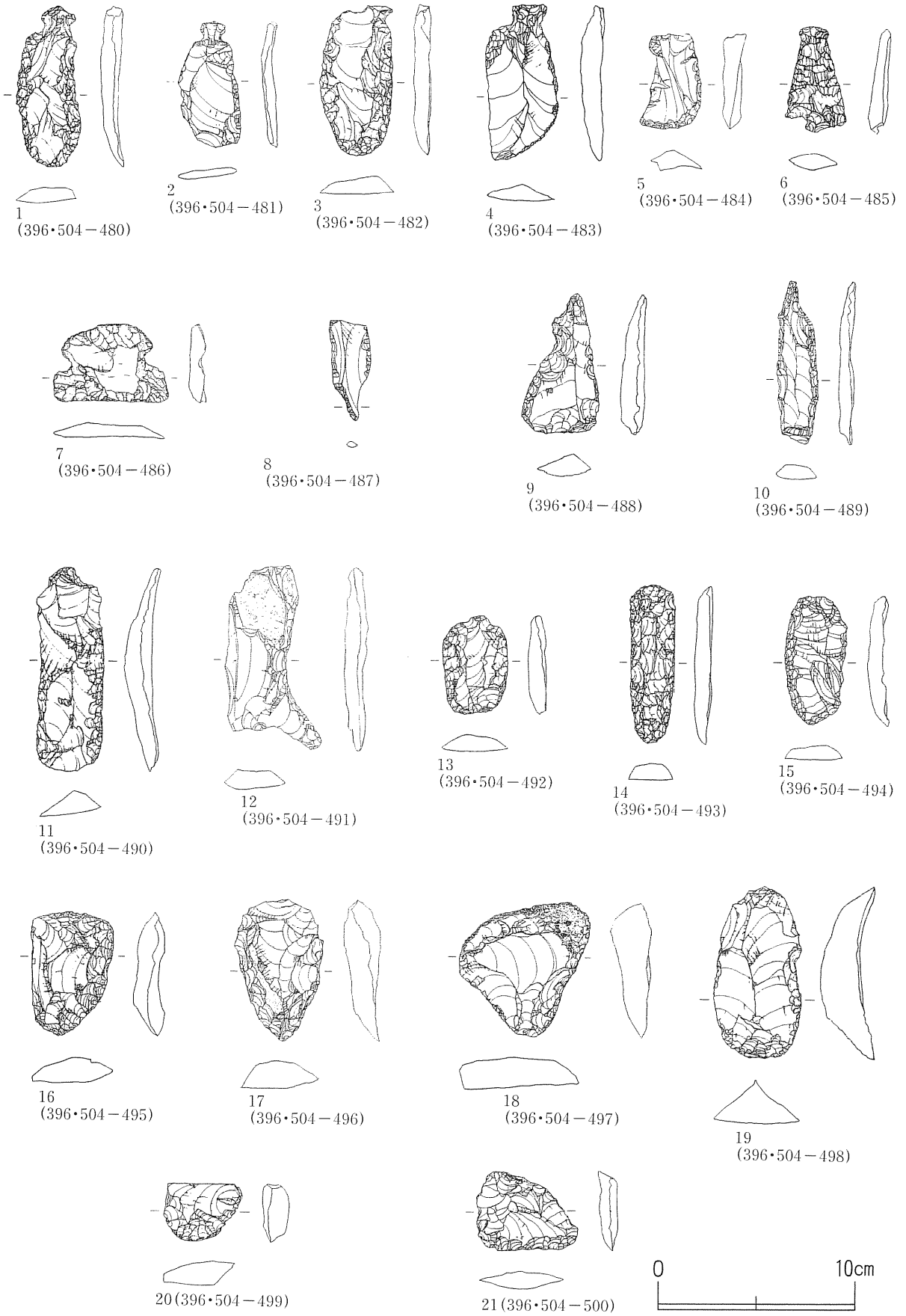
第548図　ＳＴ396・504谷Ⅱ層出土石器（１）



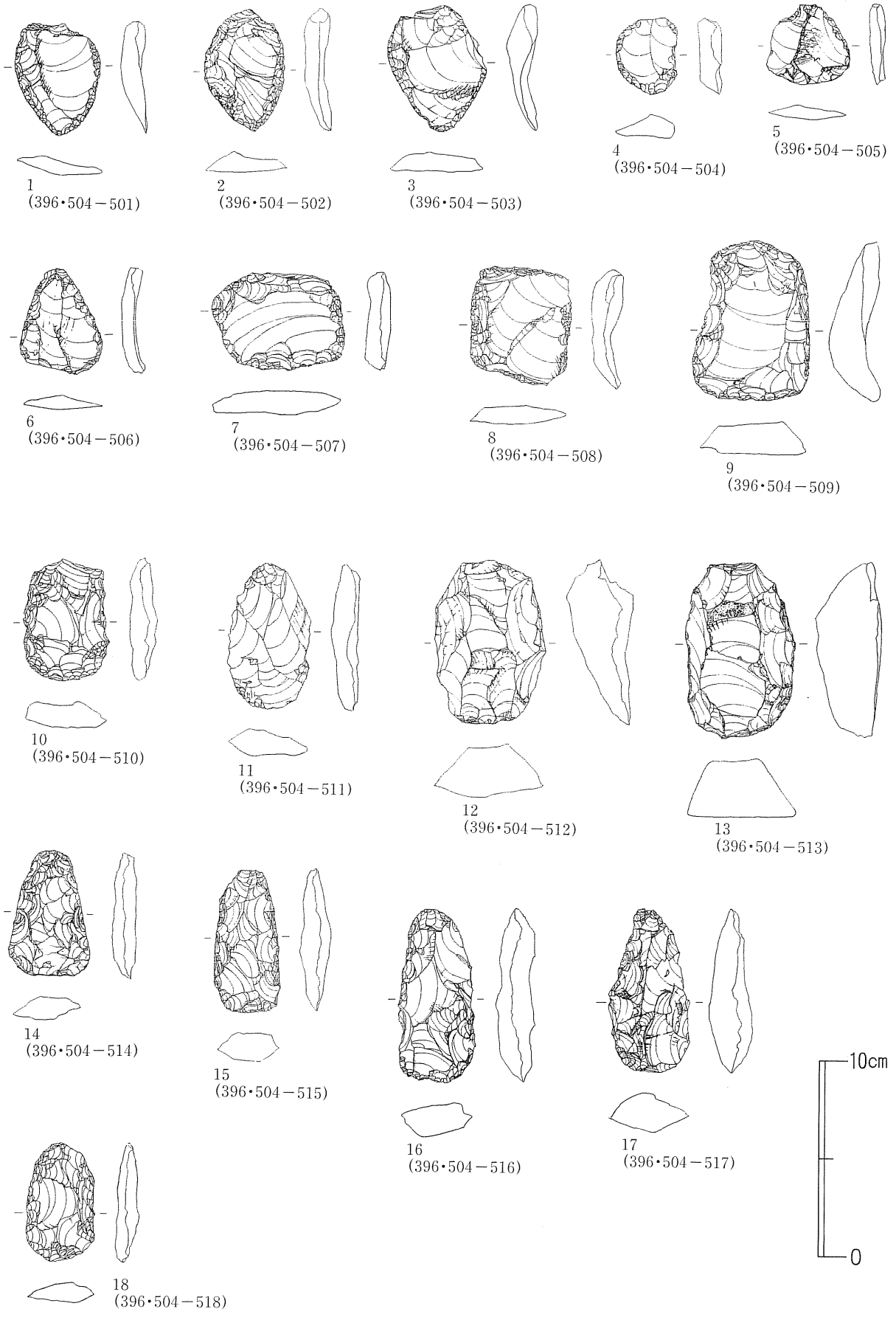
第549図　ＳＴ396・504谷Ⅱ層出土石器（２）



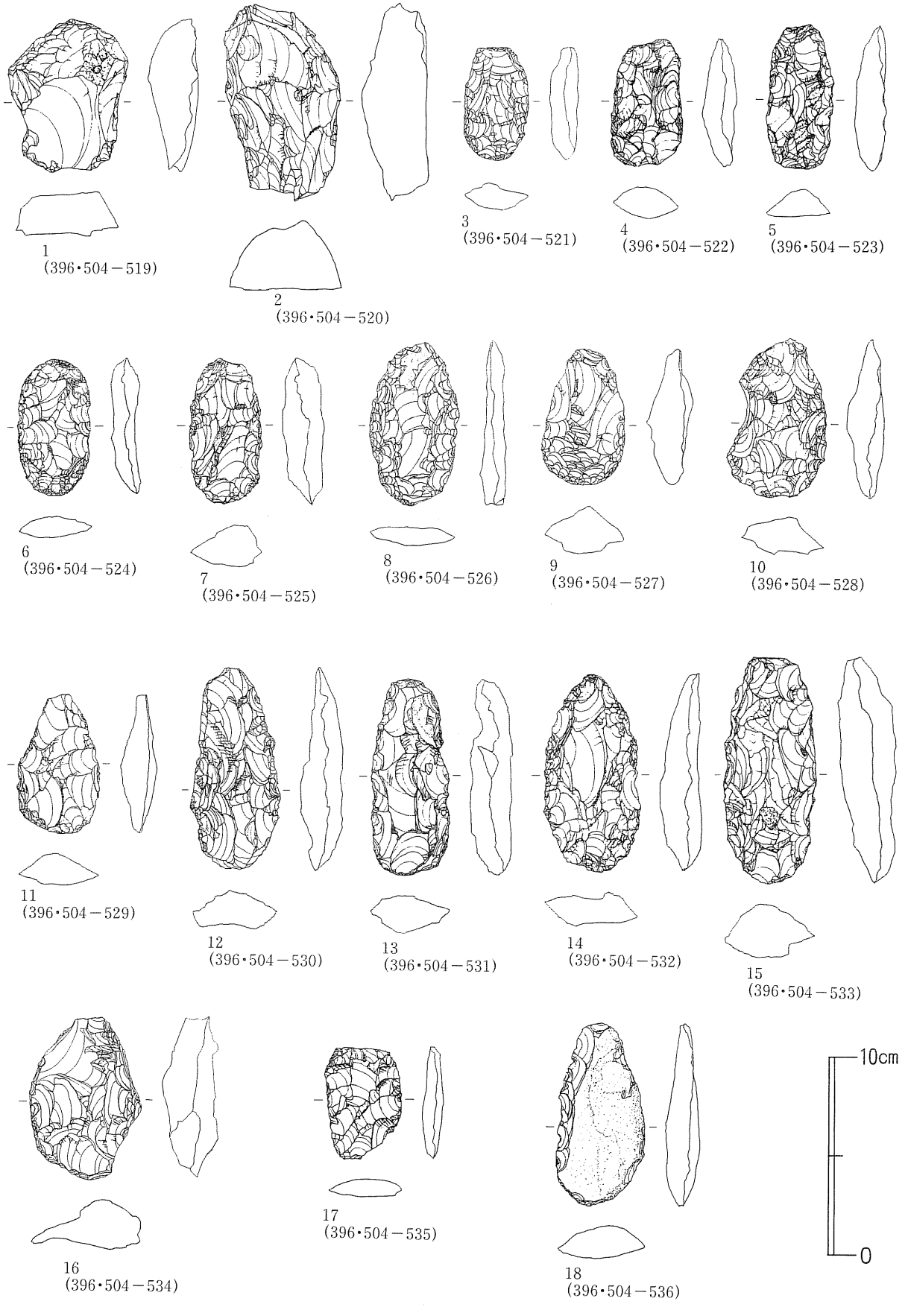
第550図　ＳＴ396・504谷Ⅱ層出土石器（３）



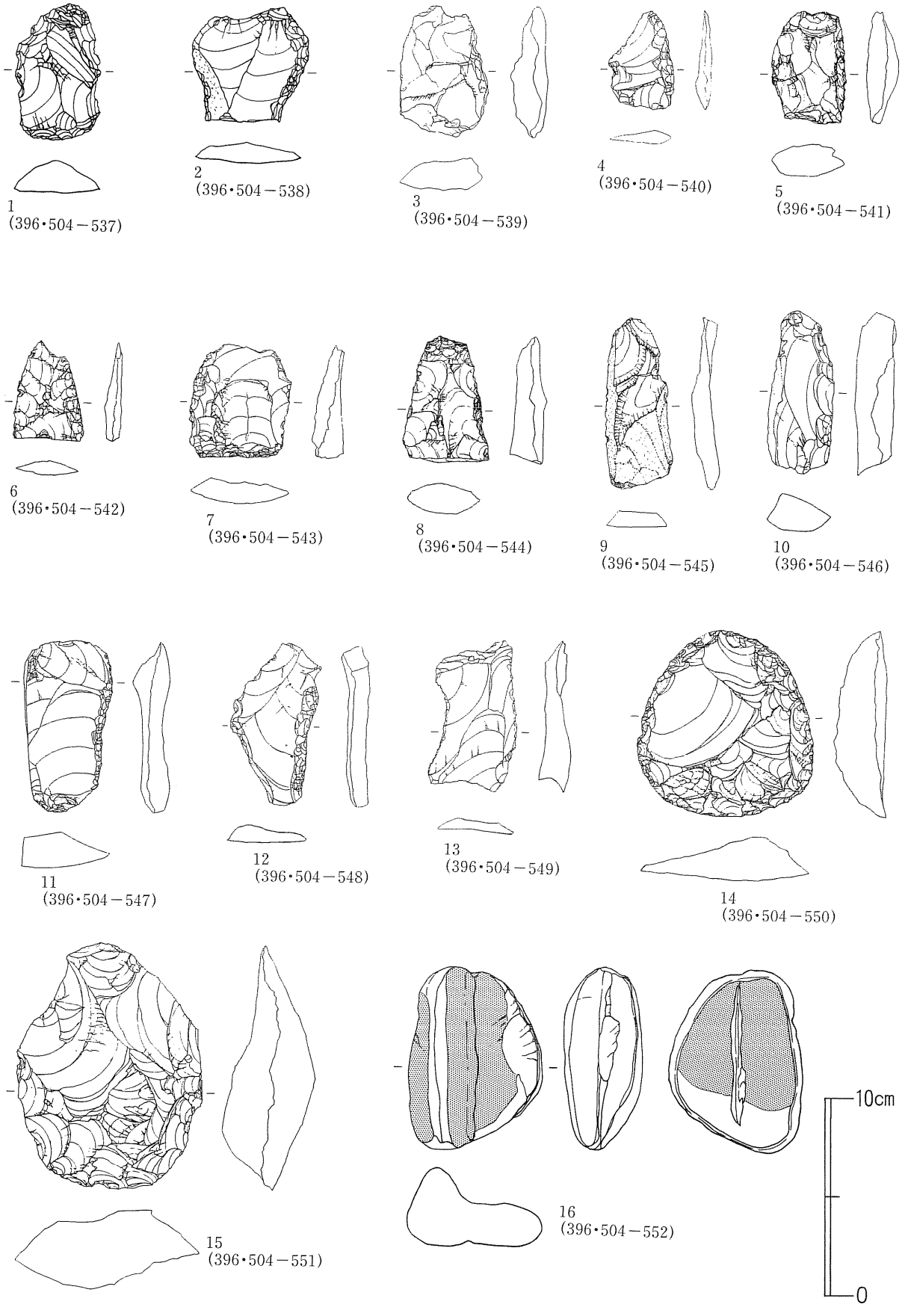
第551図　ＳＴ396・504谷Ⅱ層出土石器（４）



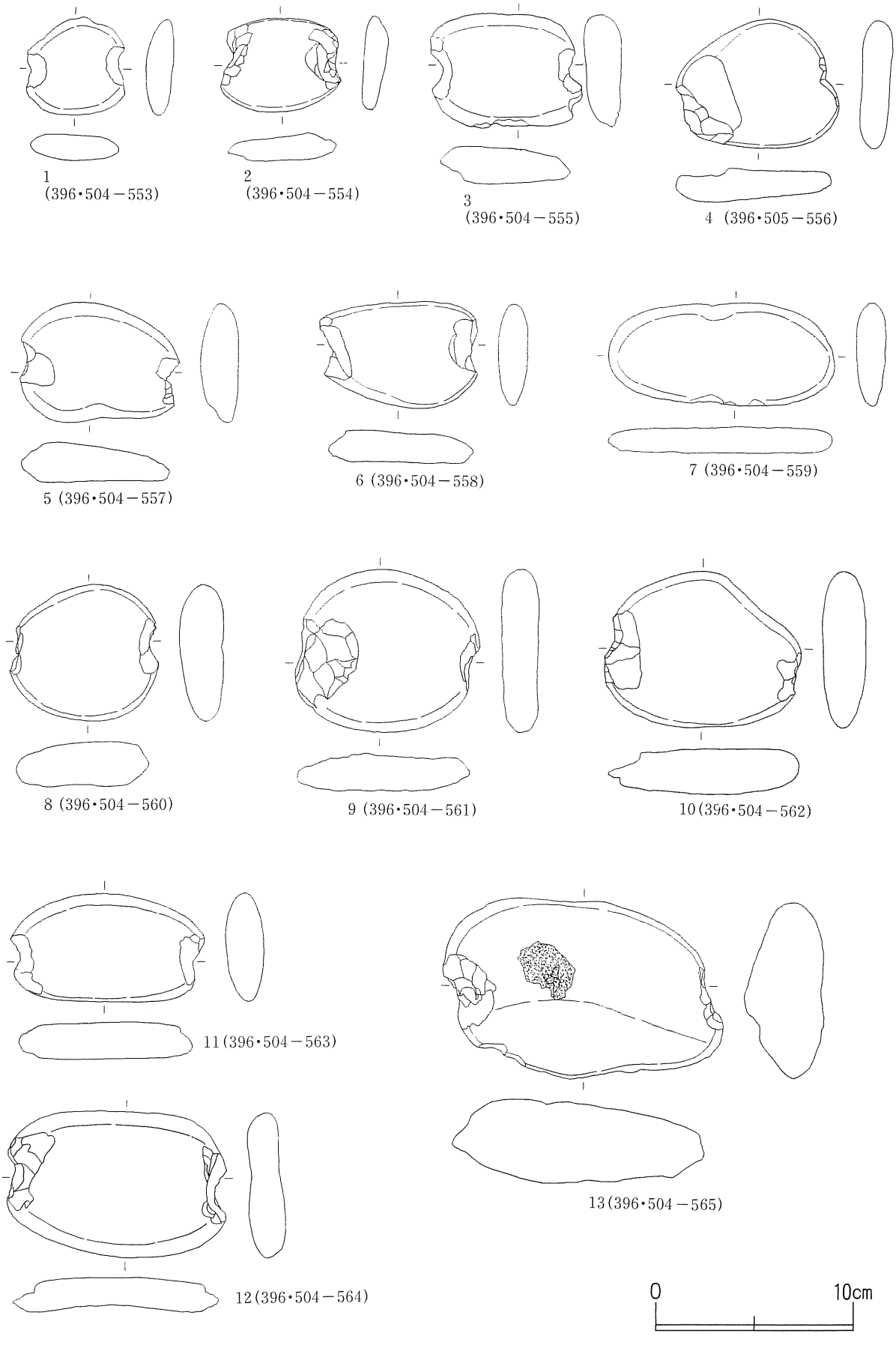
第552図　ＳＴ396・504谷Ⅱ層出土石器（５）



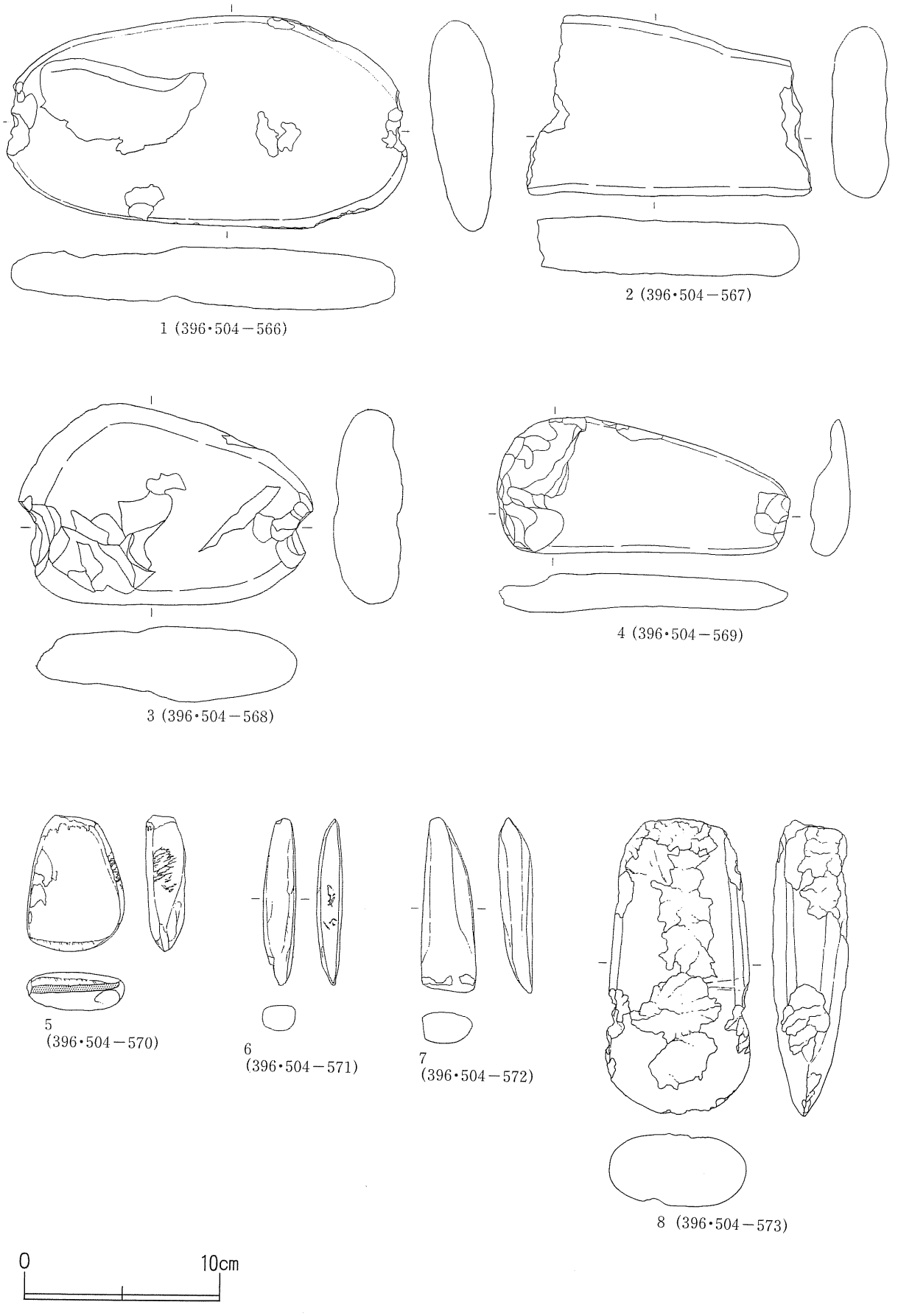
第553図　ＳＴ396・504谷Ⅱ層出土石器（６）



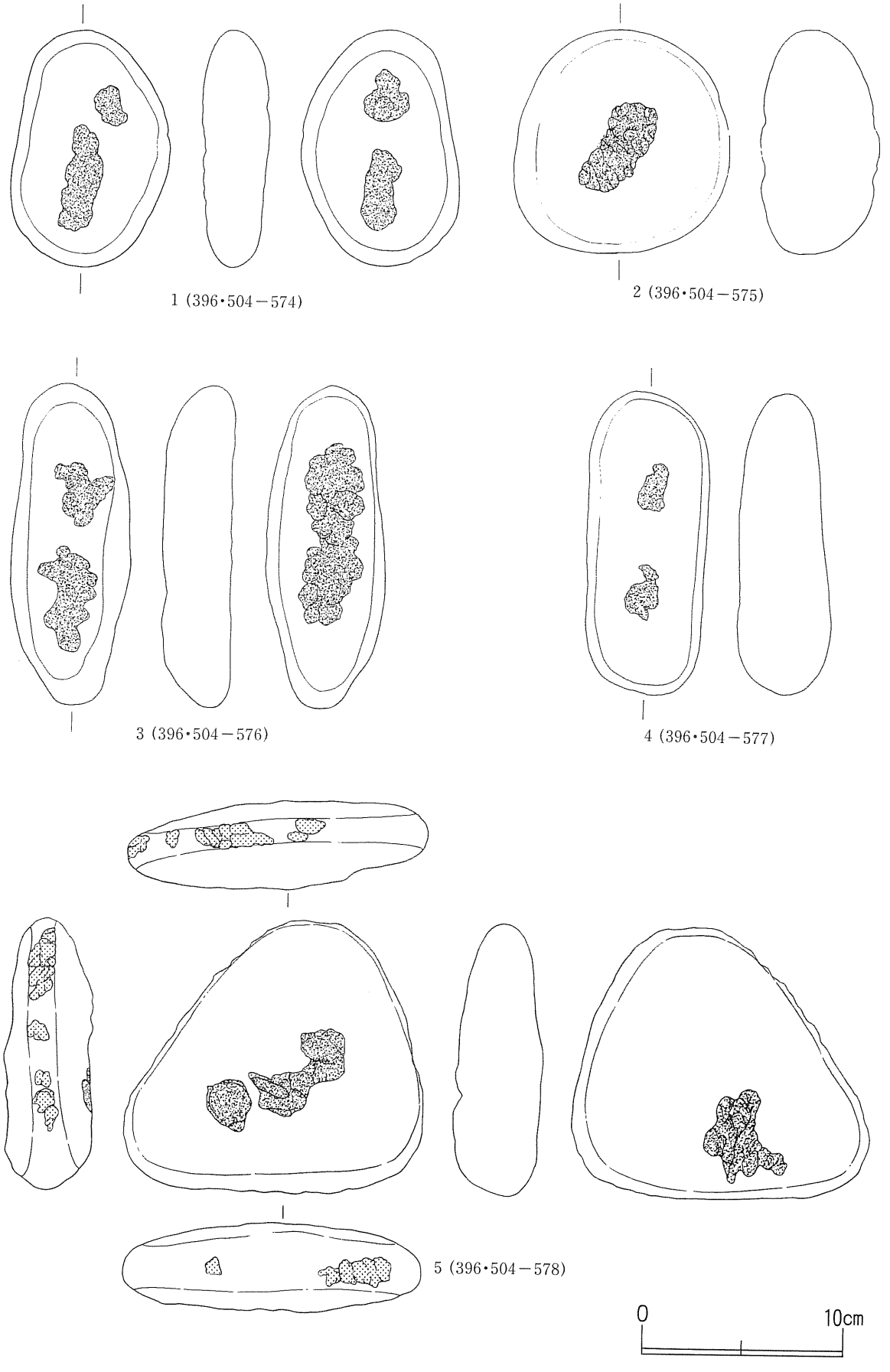
第554図　ＳＴ396・504谷Ⅱ層出土石器（７）



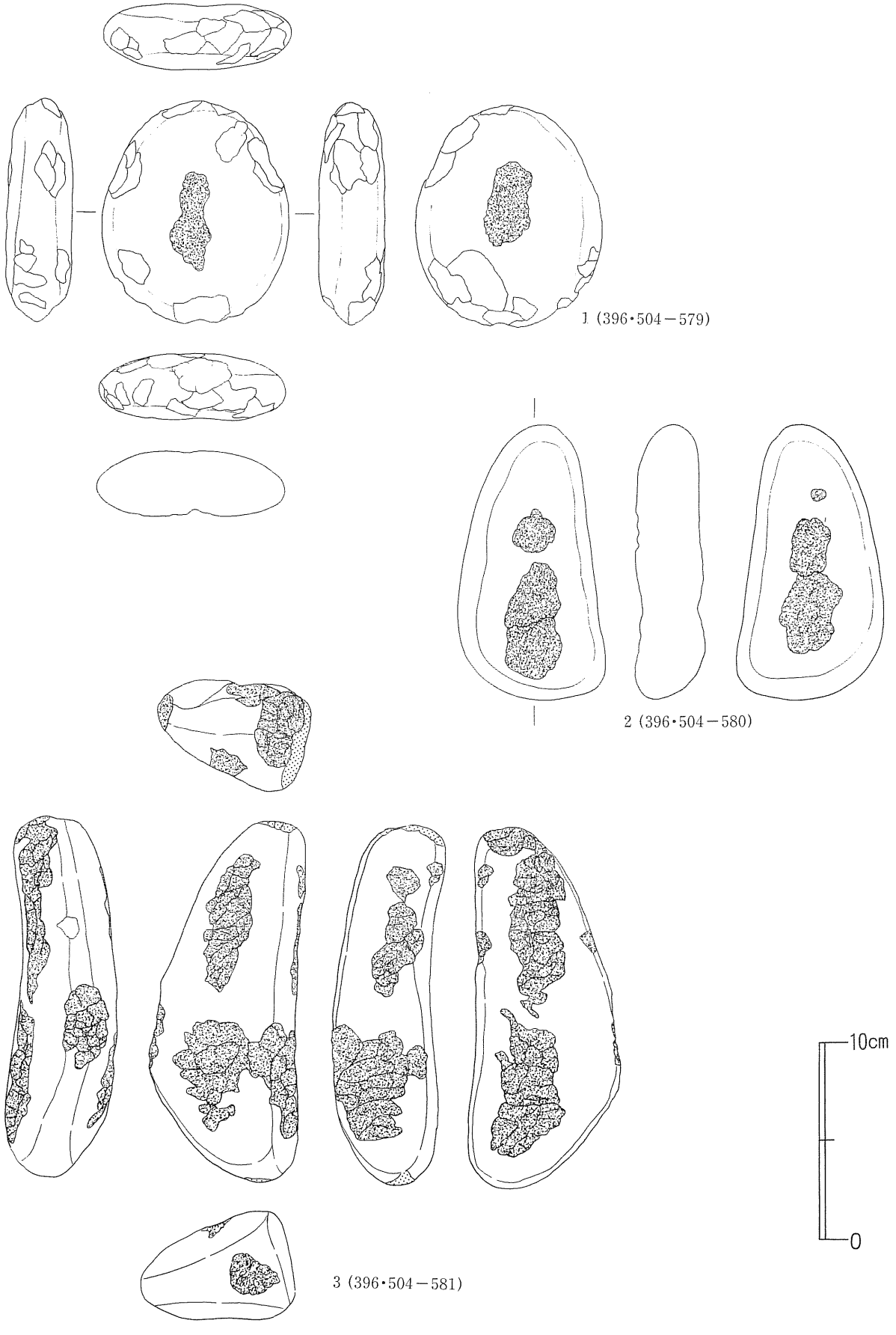
第555図　ＳＴ396・504谷Ⅱ層出土石器（８）



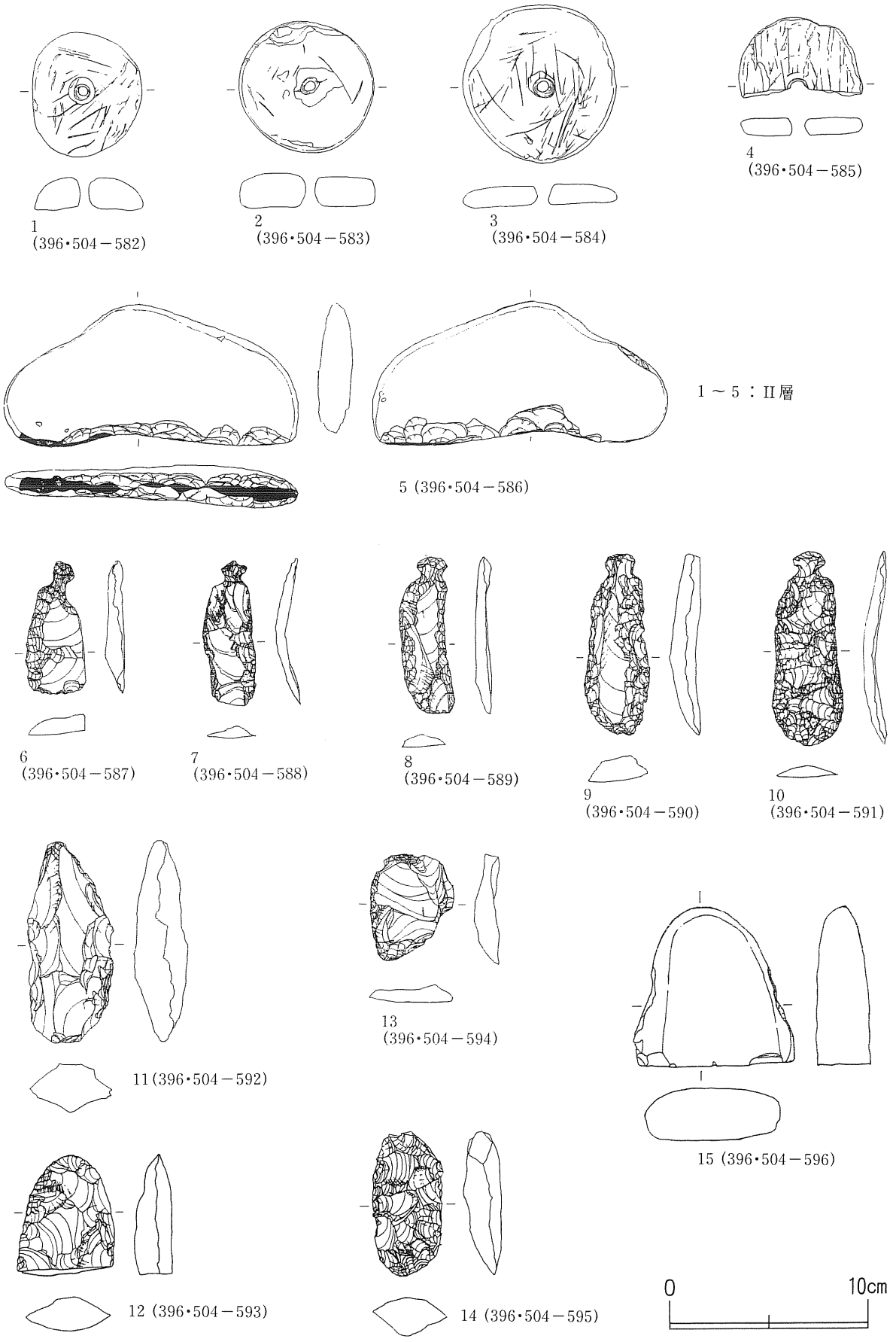
第556図　ＳＴ396・504谷Ⅱ層出土石器（９）



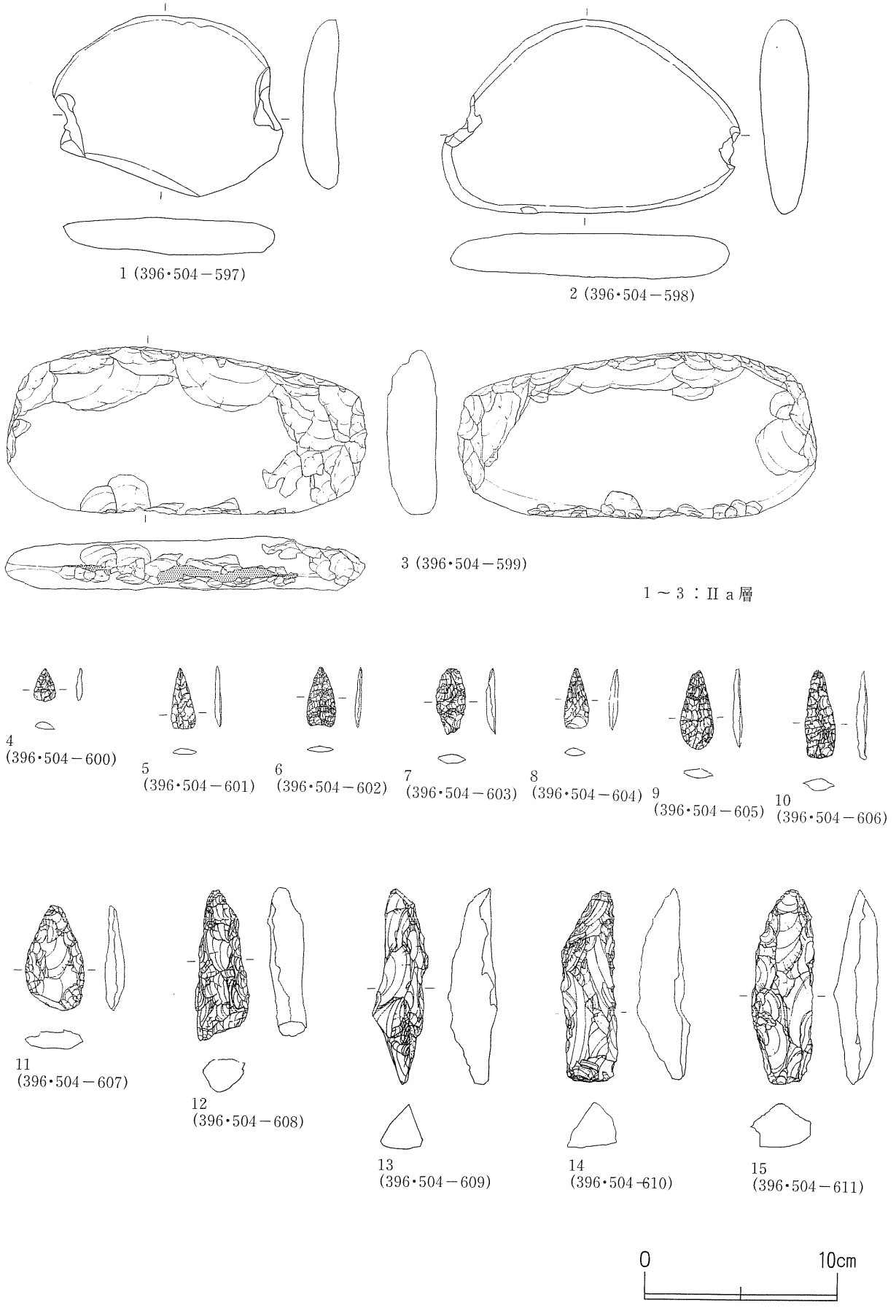
第557図　ＳＴ396・504谷Ⅱ層出土石器（10）



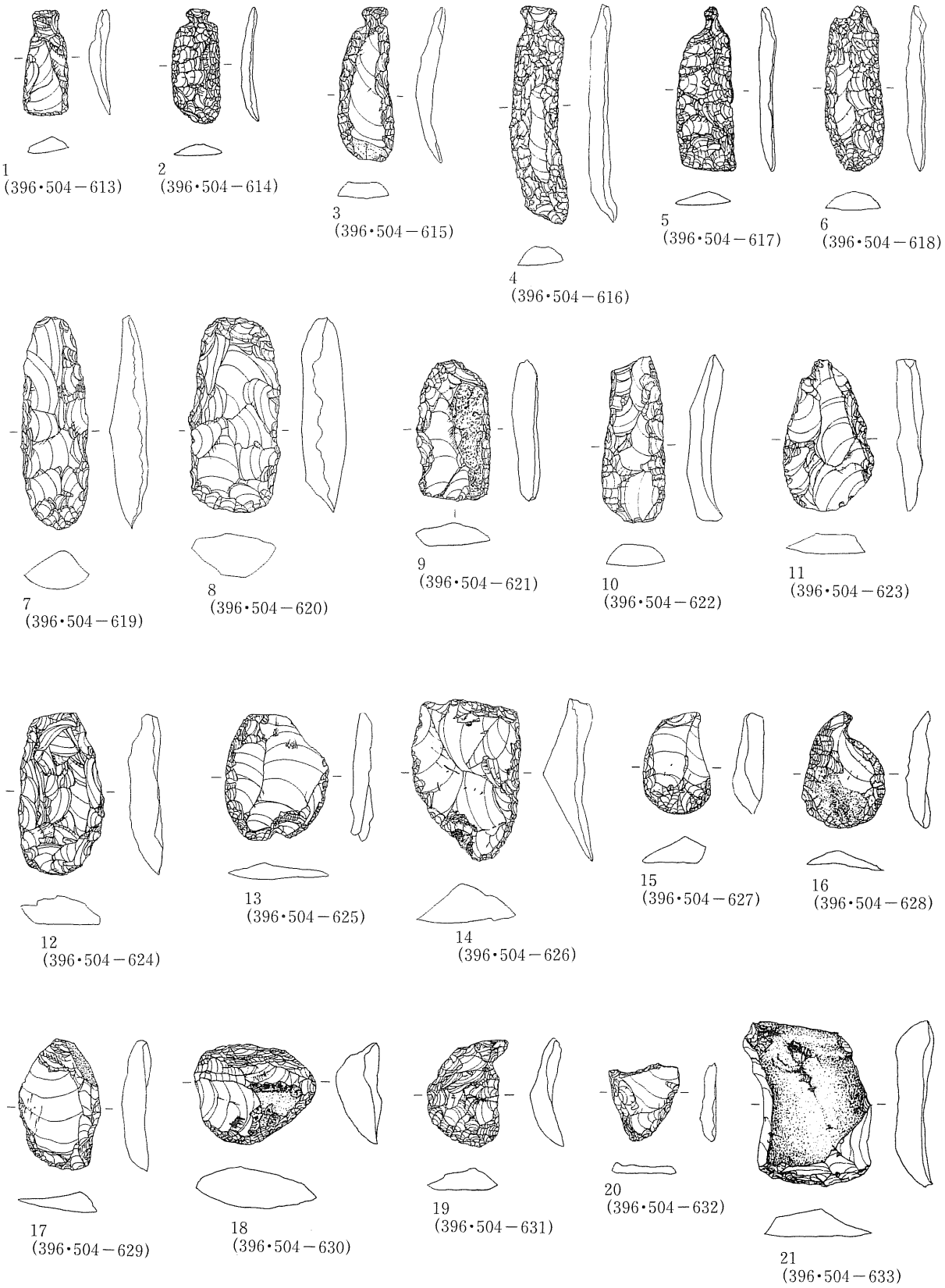
第558図　ＳＴ396・504谷Ⅱ層出土石器（11）



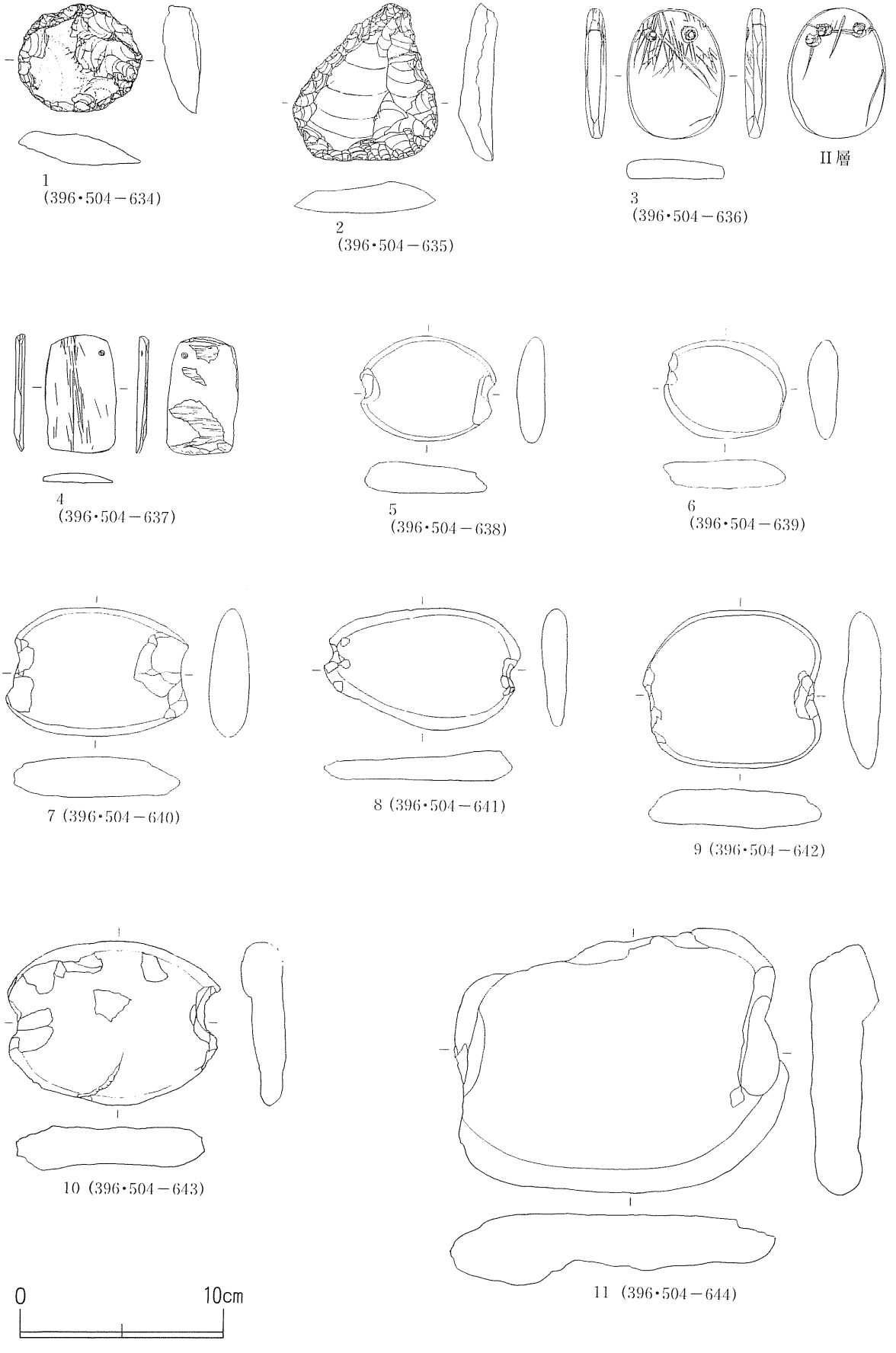
第559図　ＳＴ396・504谷Ⅱ層・Ⅱａ層出土石器（１）



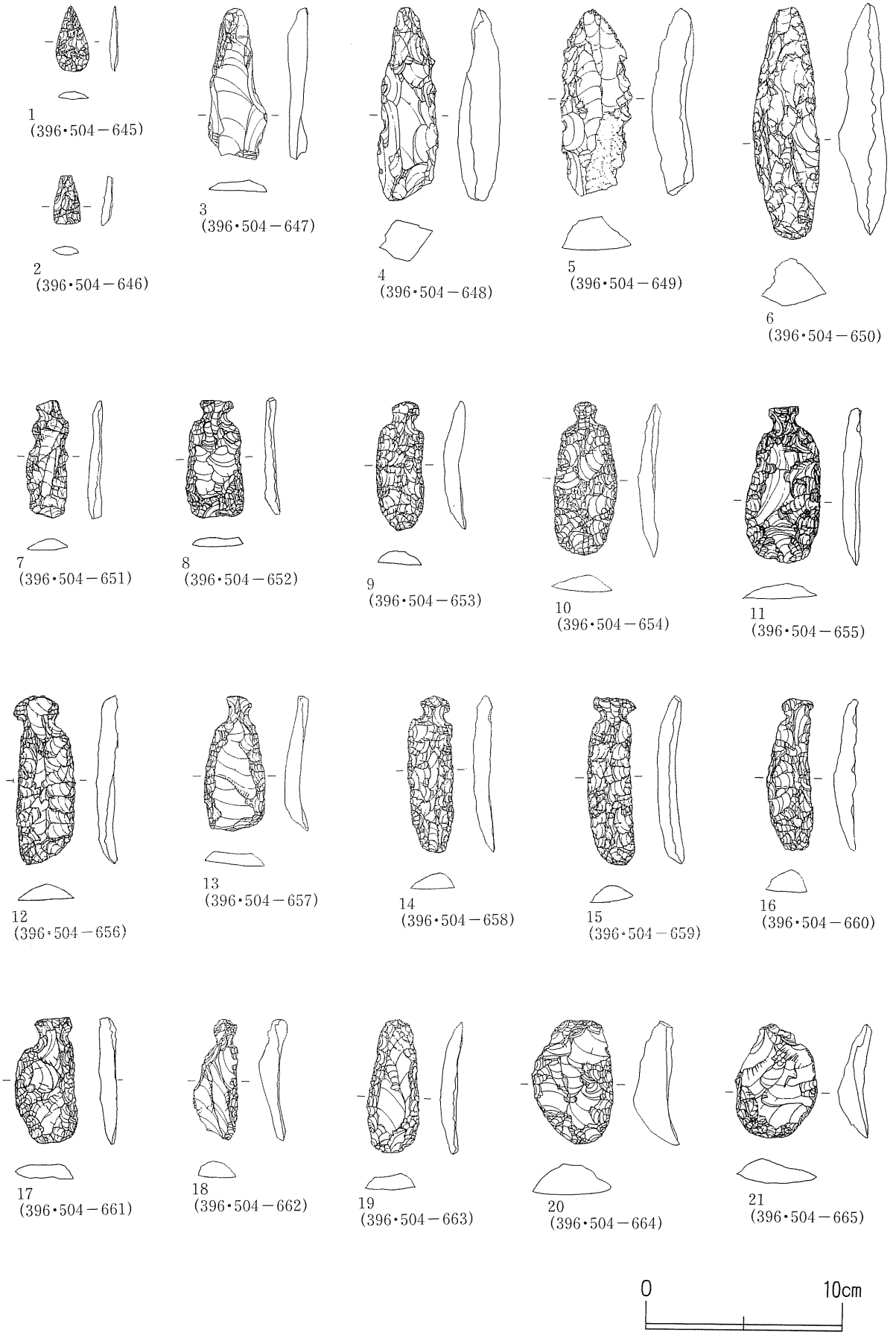
第560図　ＳＴ396・504谷Ⅱａ層・Ⅱｂ層出土石器（１）



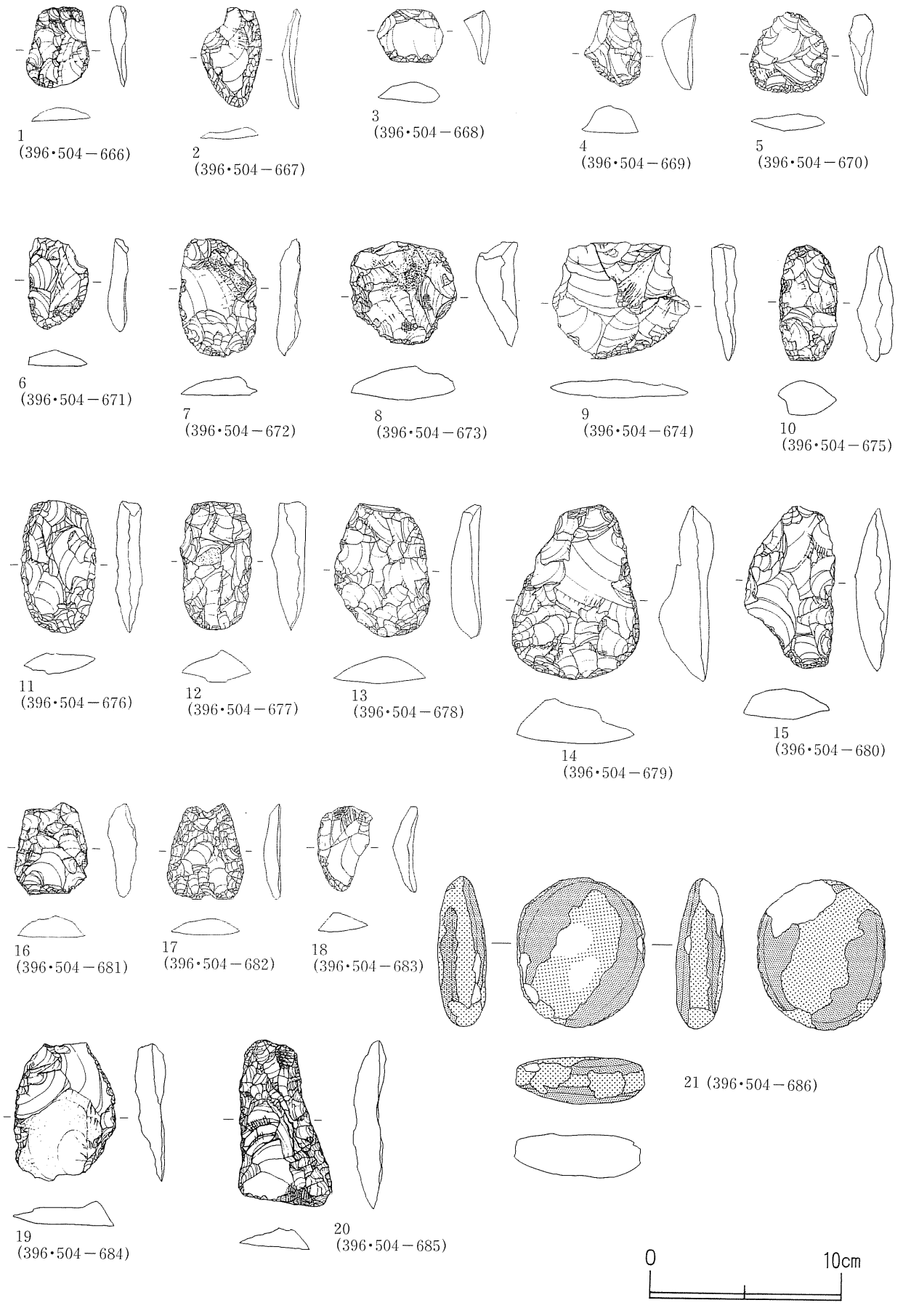
第561図　ＳＴ396・504谷Ⅱｂ層出土石器（２）



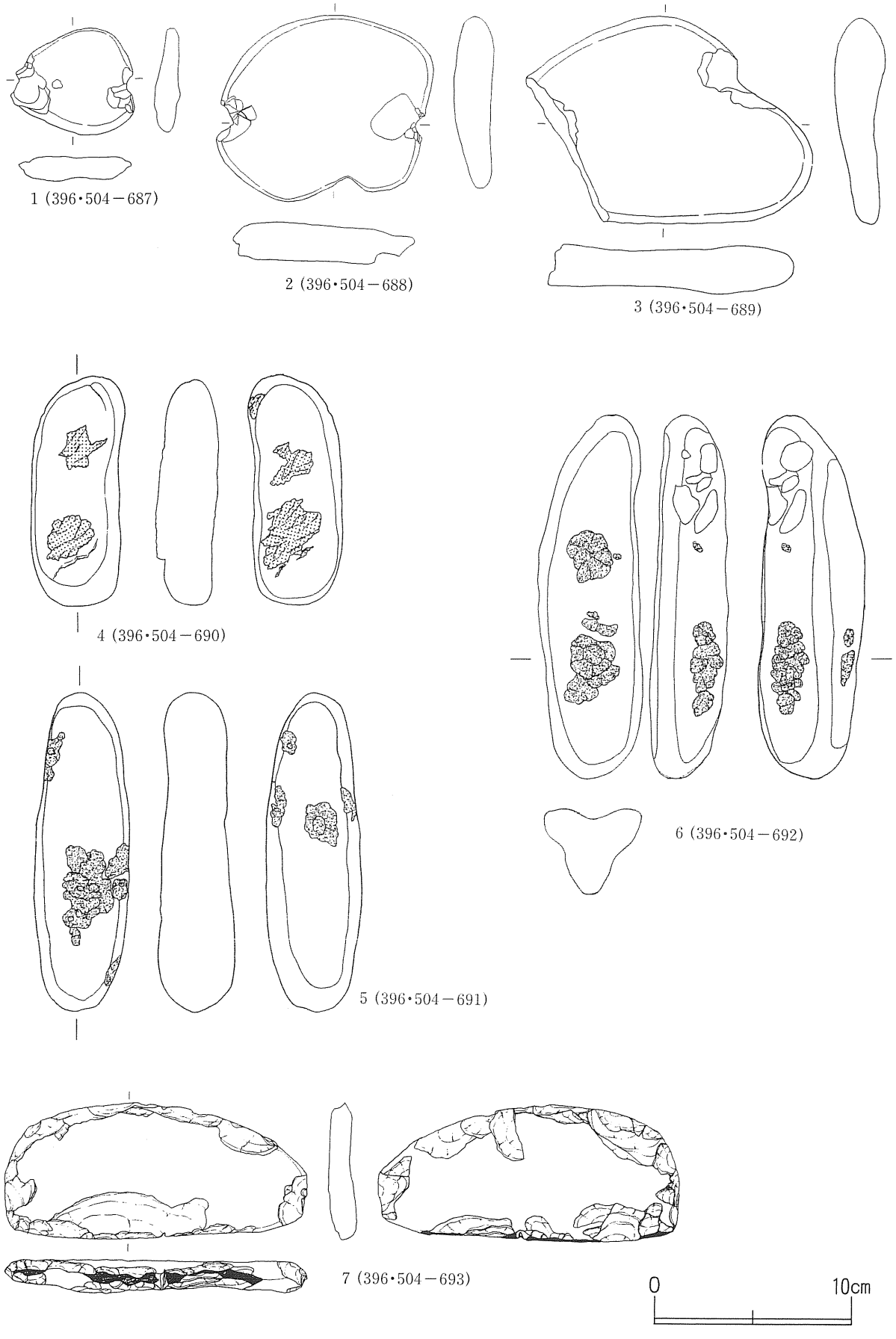
第562図　ＳＴ396・504谷Ⅱｂ層出土石器（３）



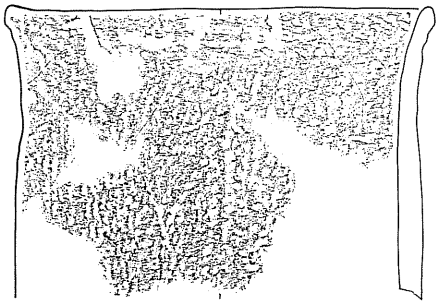
第563図　ＳＴ396・504谷Ⅱｃ層出土石器（１）



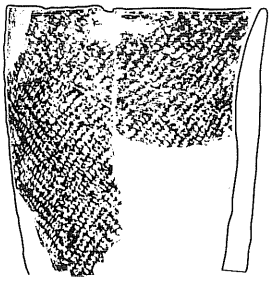
第564図　ＳＴ396・504谷Ⅱｃ層出土石器（２）



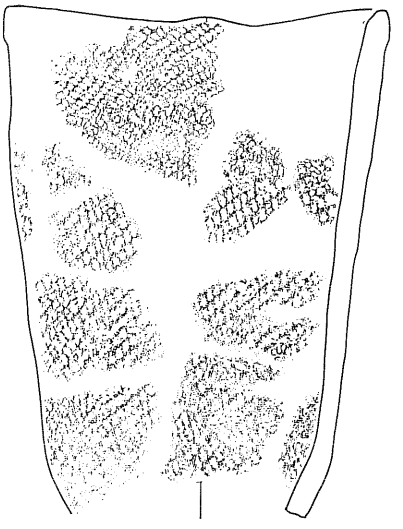
第565図　ＳＴ396・504谷Ⅱｃ層出土石器（３）



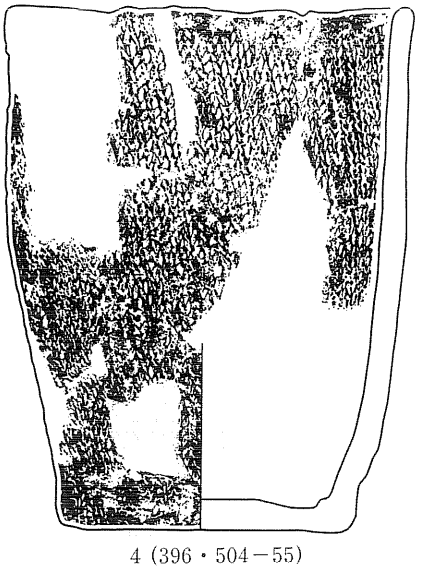
1（396・504－52）



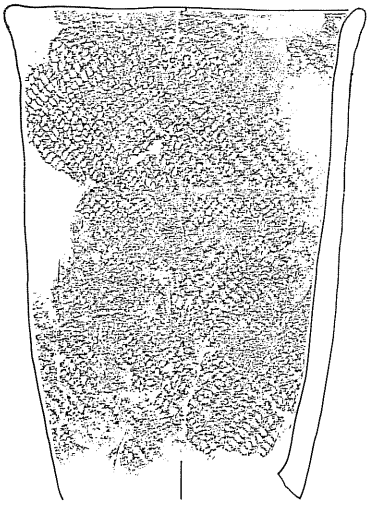
2（396・504－53）



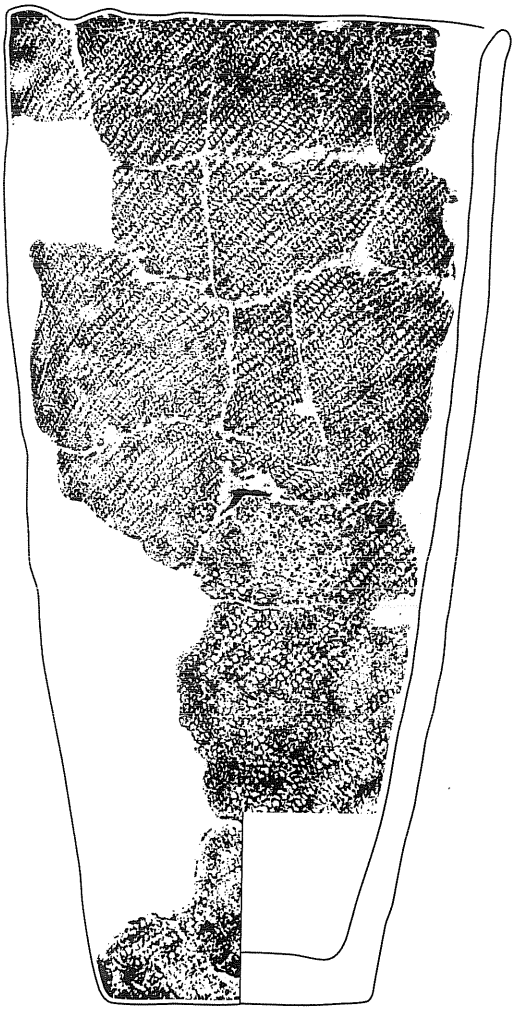
3（396・504－54）



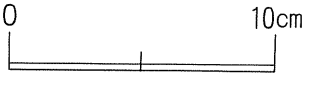
4（396・504－55）



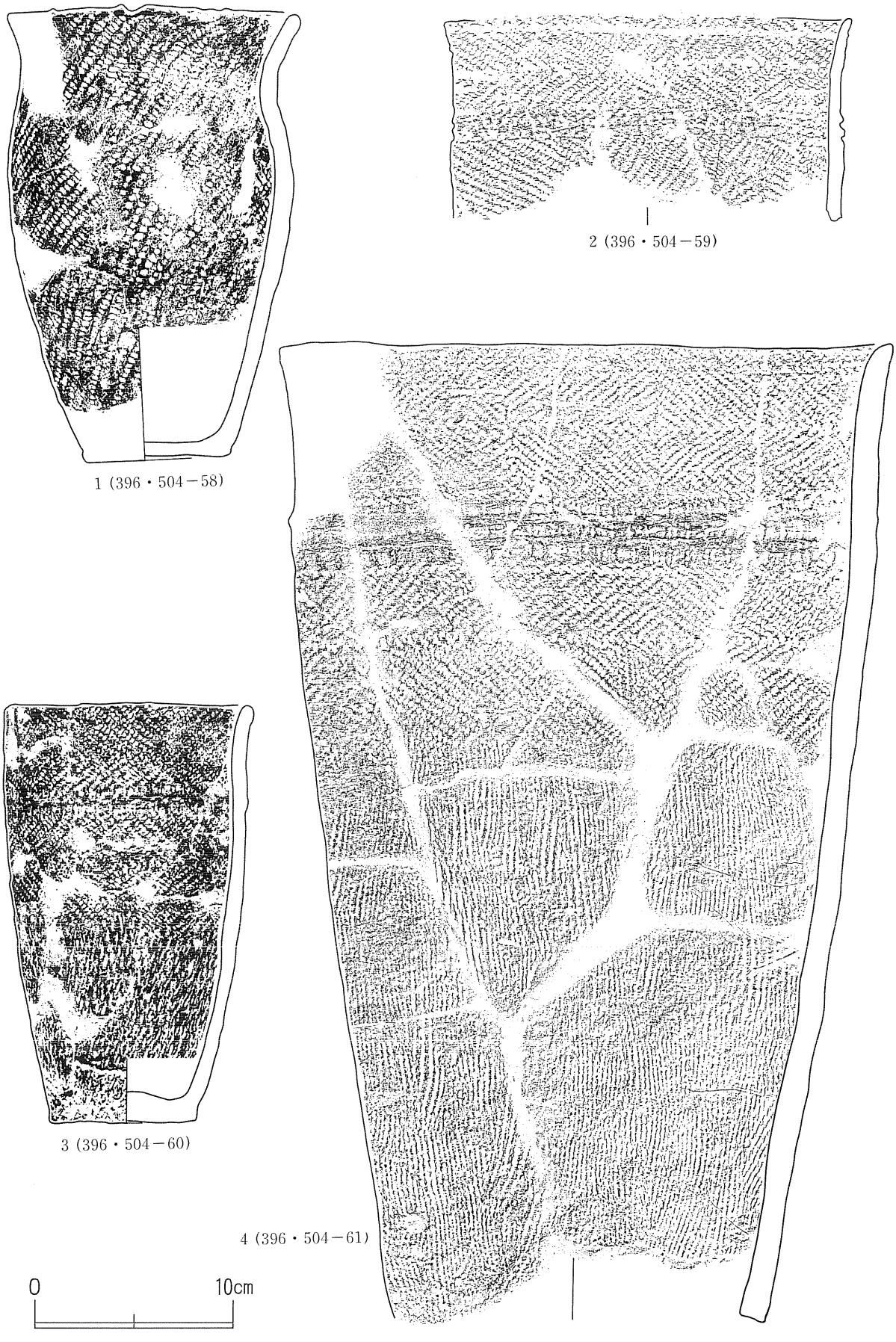
5（396・504－56）



6（396・504－57）

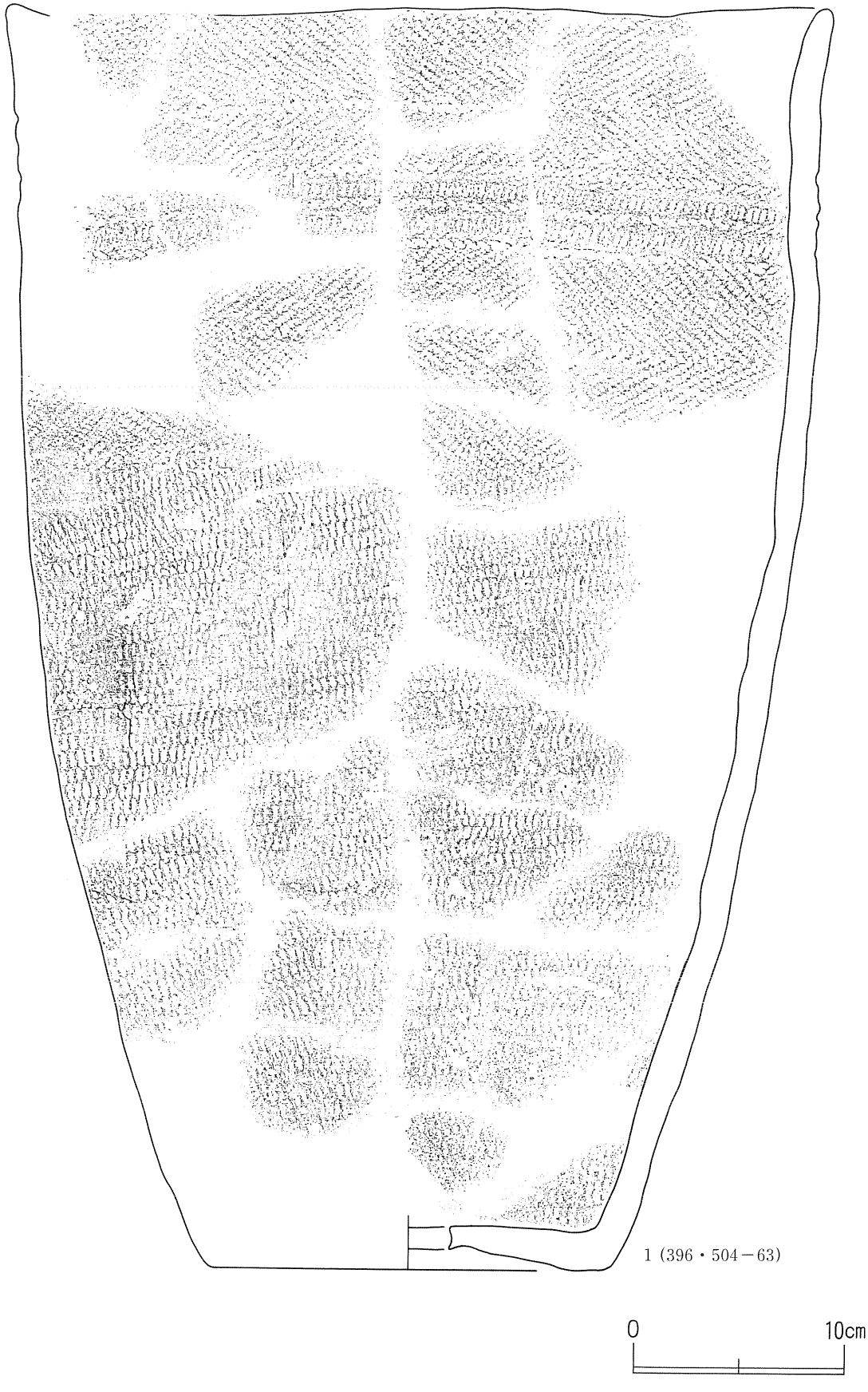


第566図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（１）

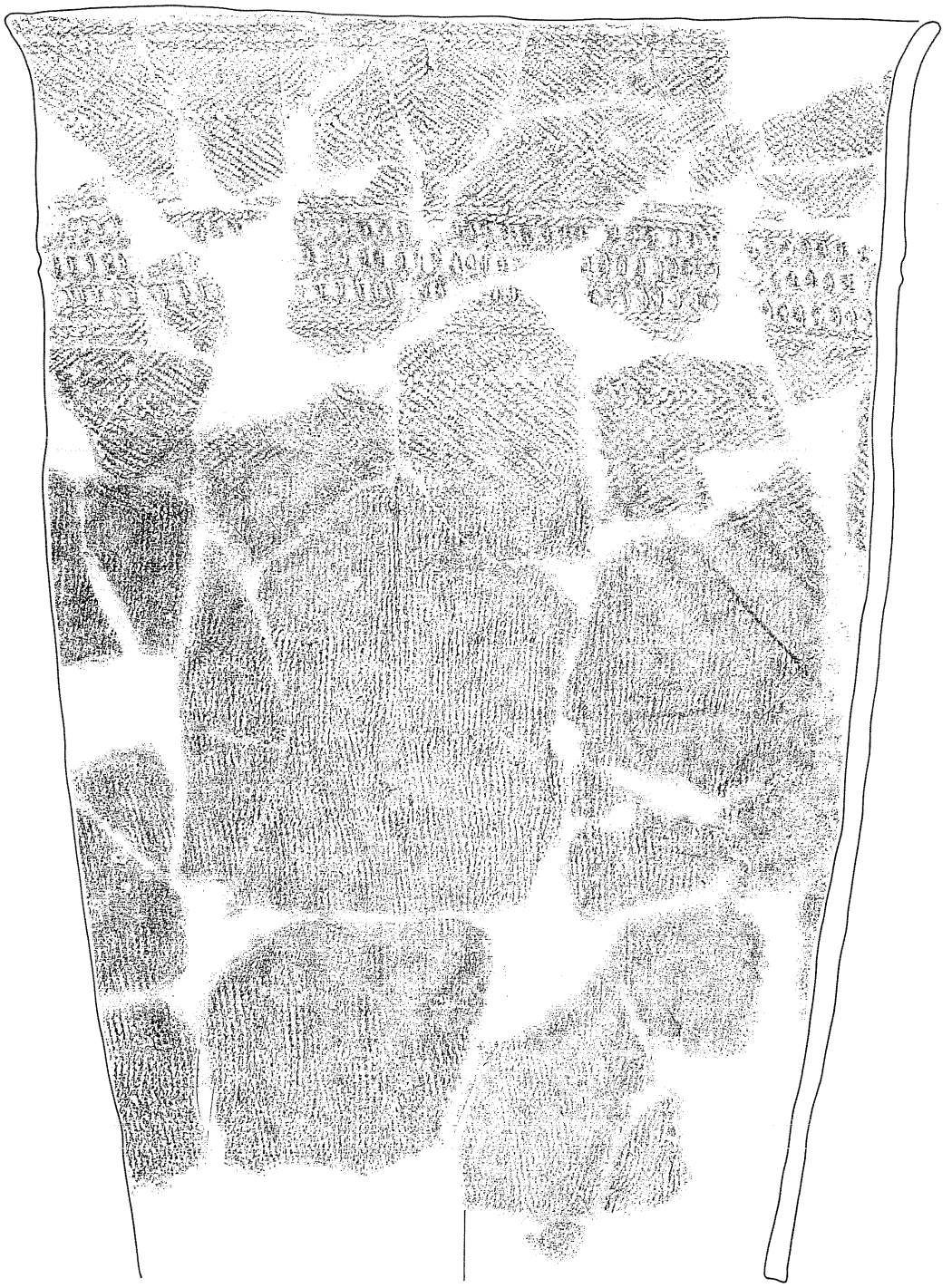


第567図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（２）

第568図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（３）



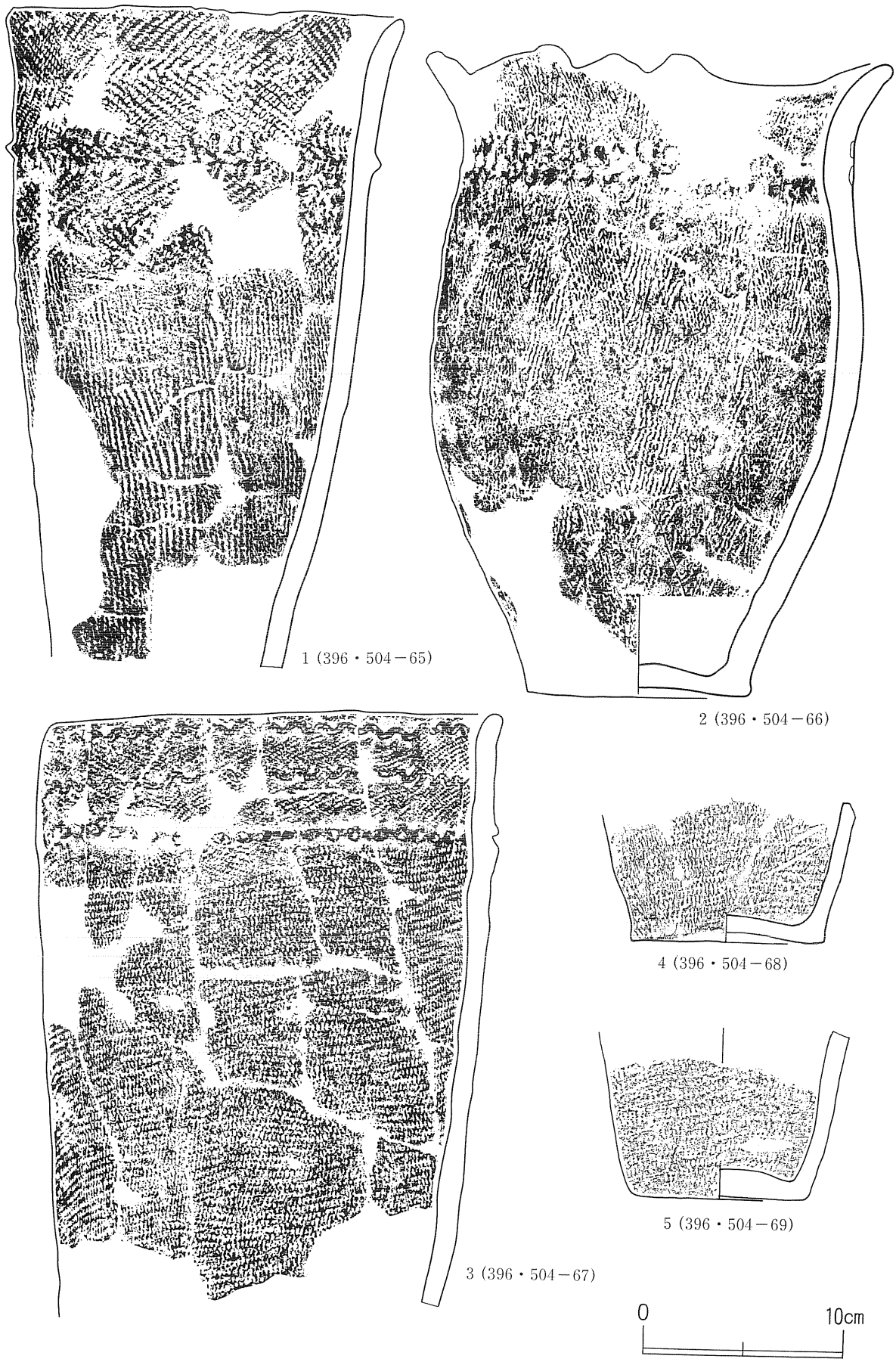
第569図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（４）



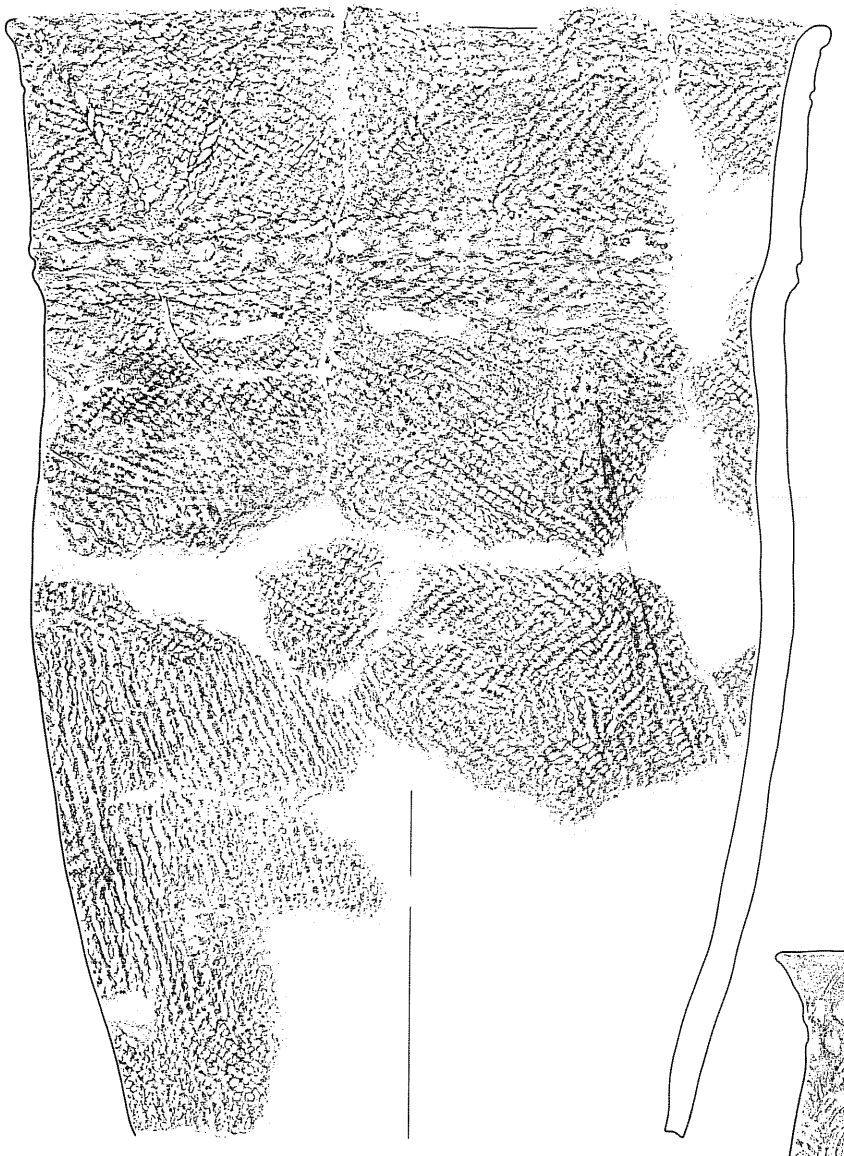
1（396・504－64）

0　10cm

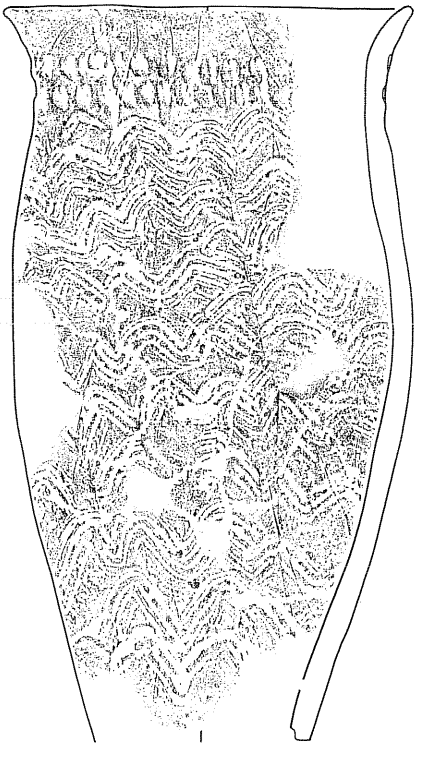
第570図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（５）



第571図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（６）



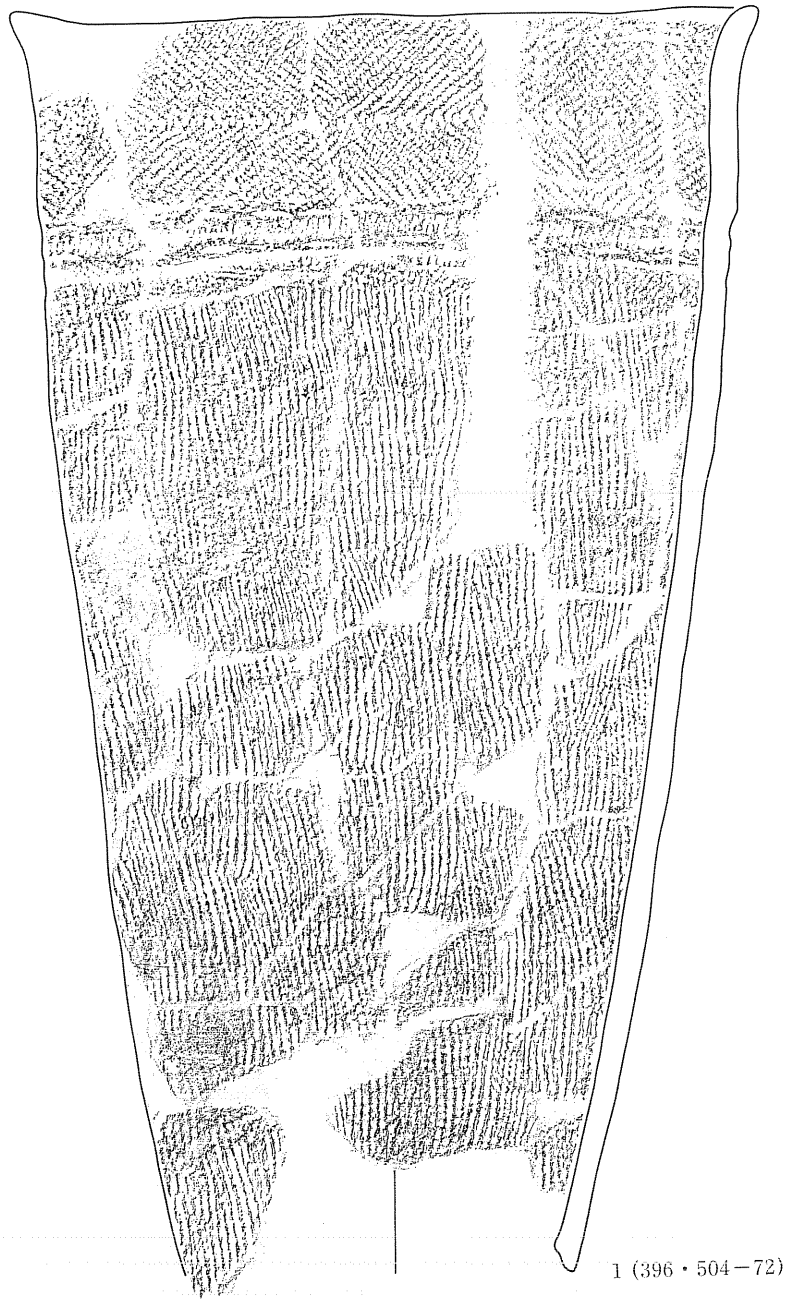
1（396・504－70）

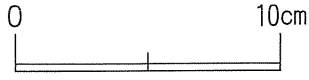


2（396・504－71）

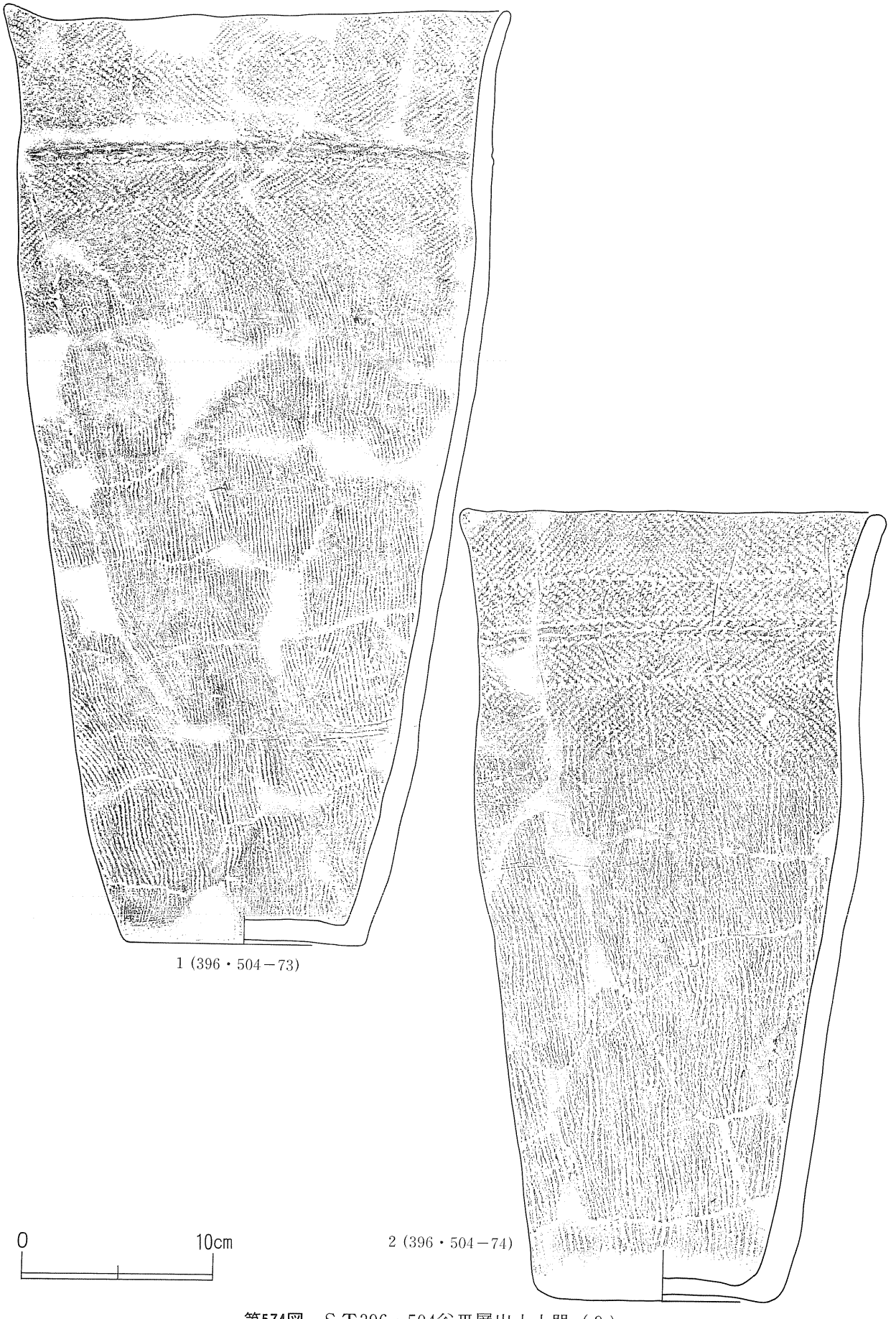
0　10cm

第572図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（７）

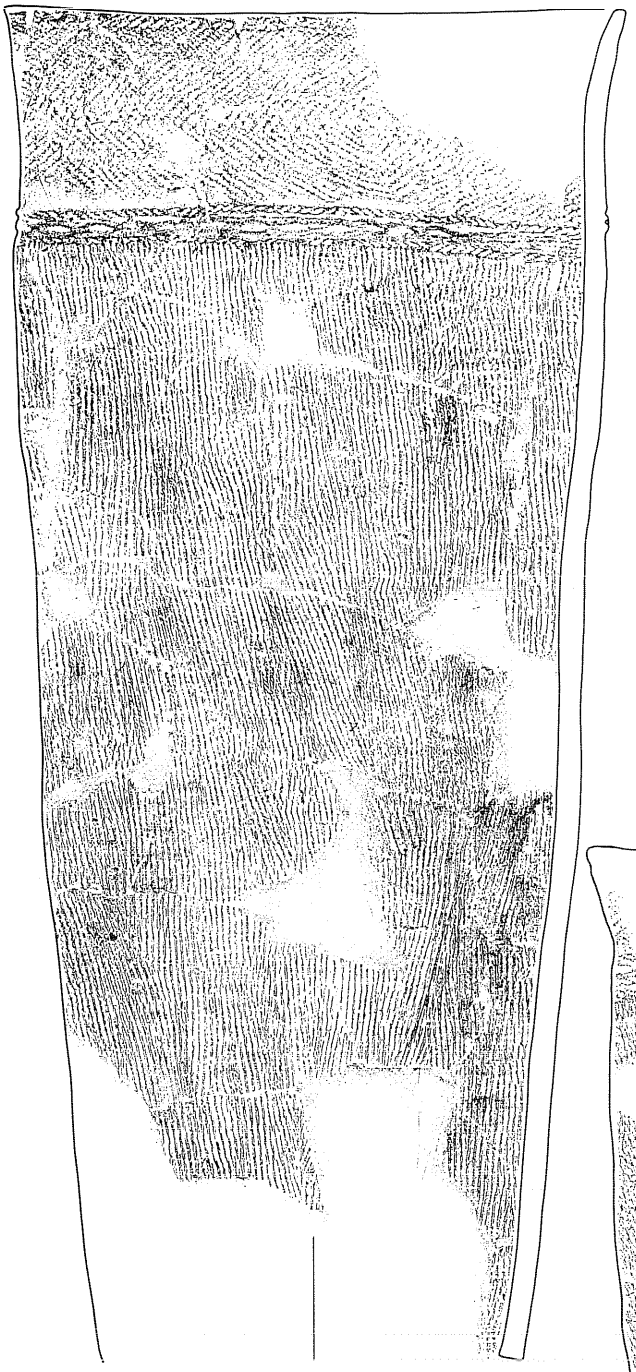




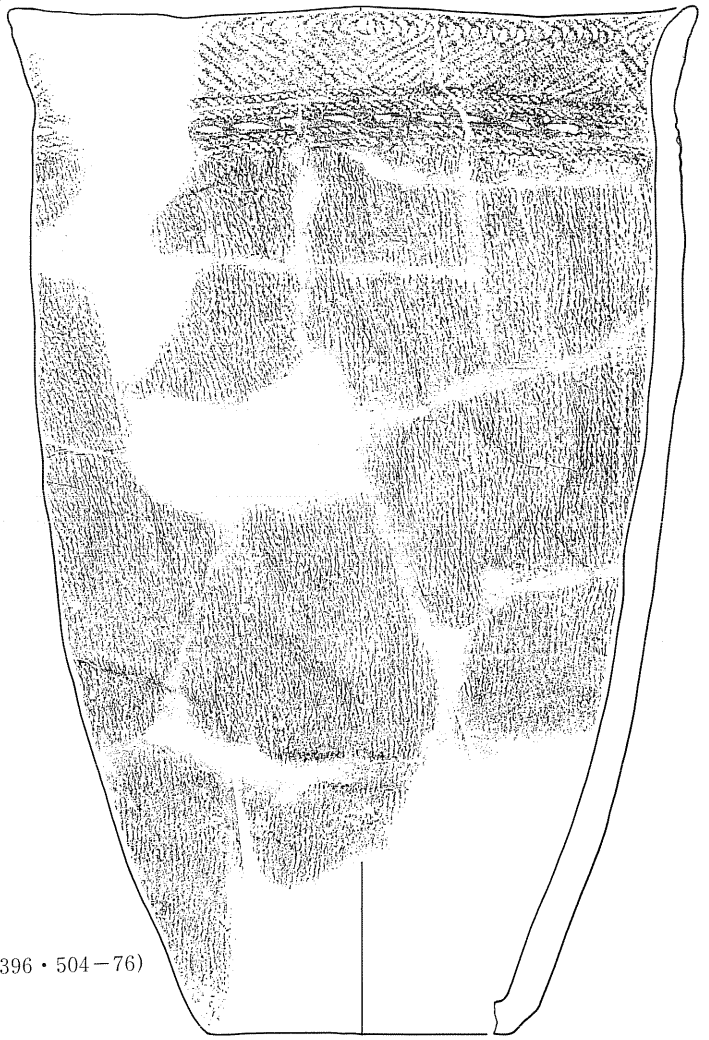
第573図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（８）



第574図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（９）



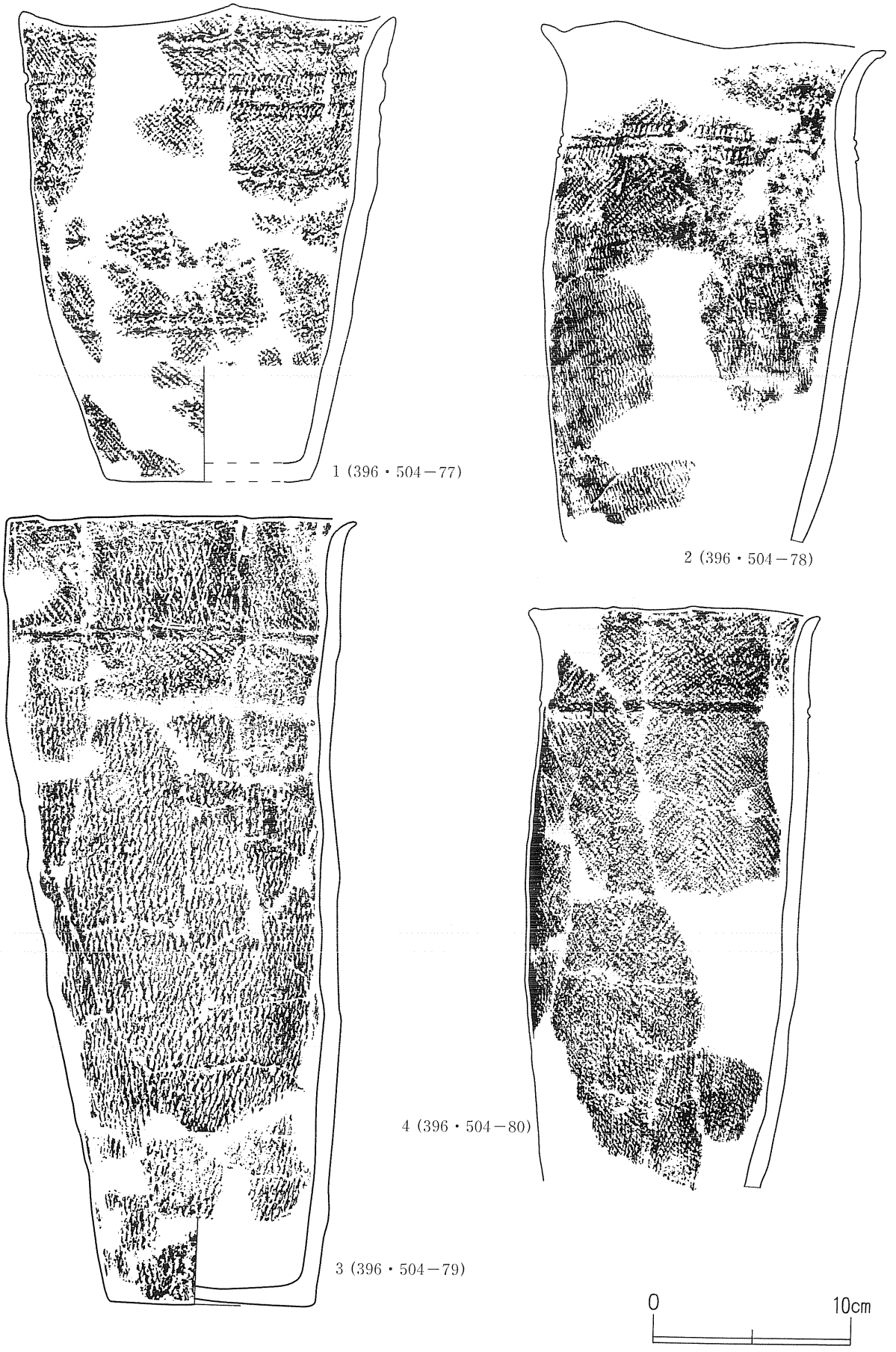
1（396・504－75）



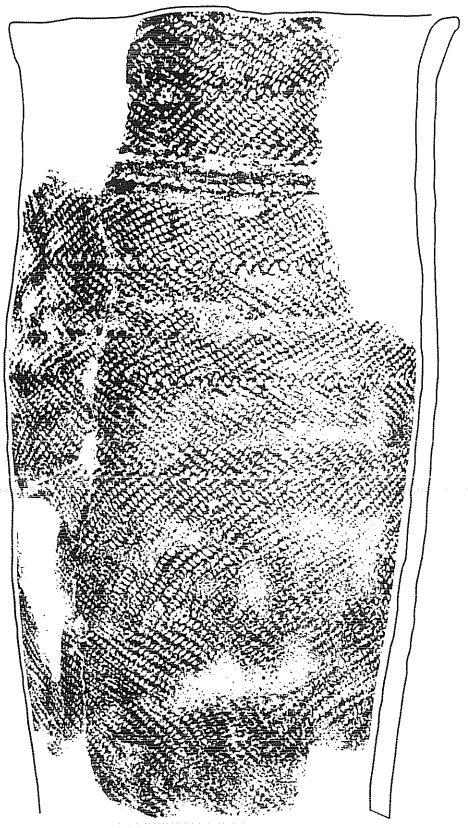
2（396・504－76）

0　10cm

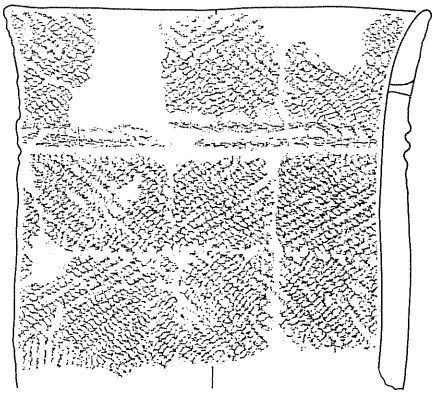
第575図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（10）



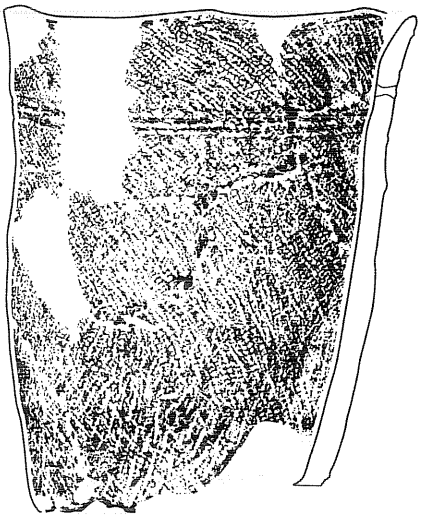
第576図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（11）



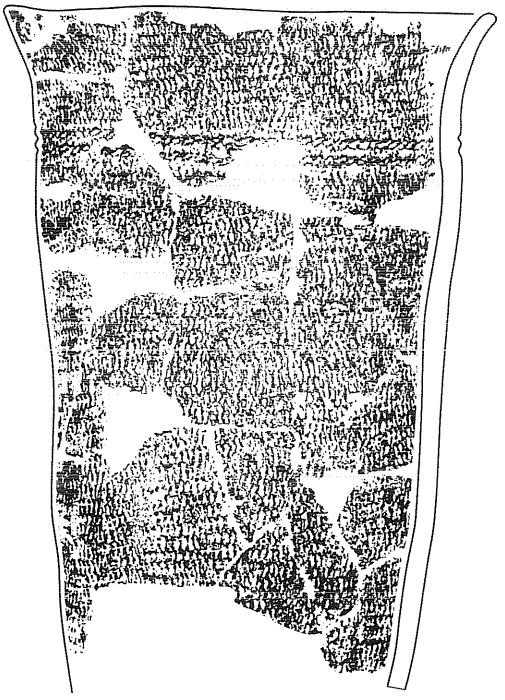
1（396・504－81）



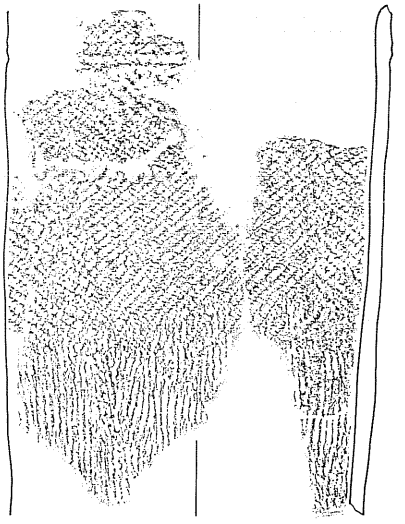
2（396・504－82）



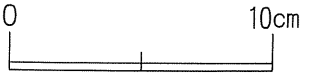
4（396・504－84）



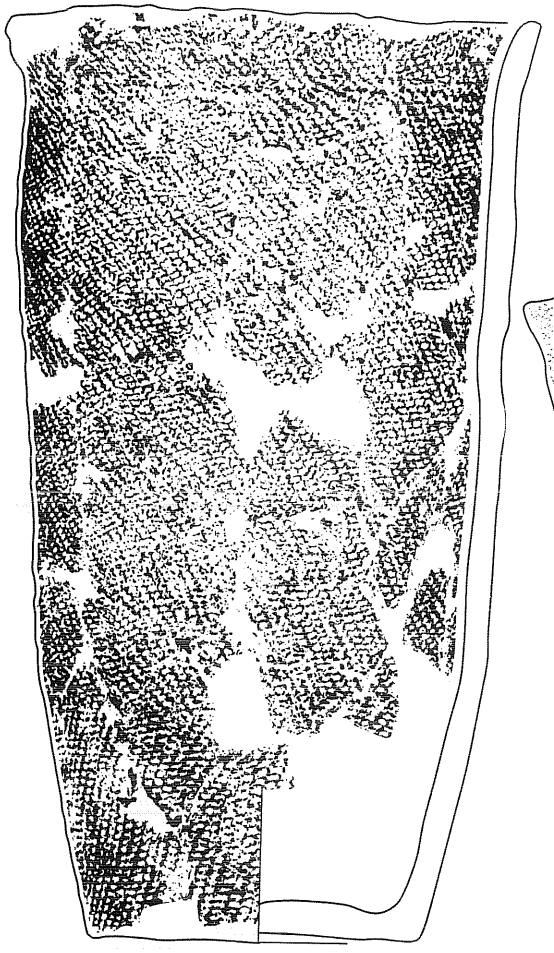
3（396・504－83）



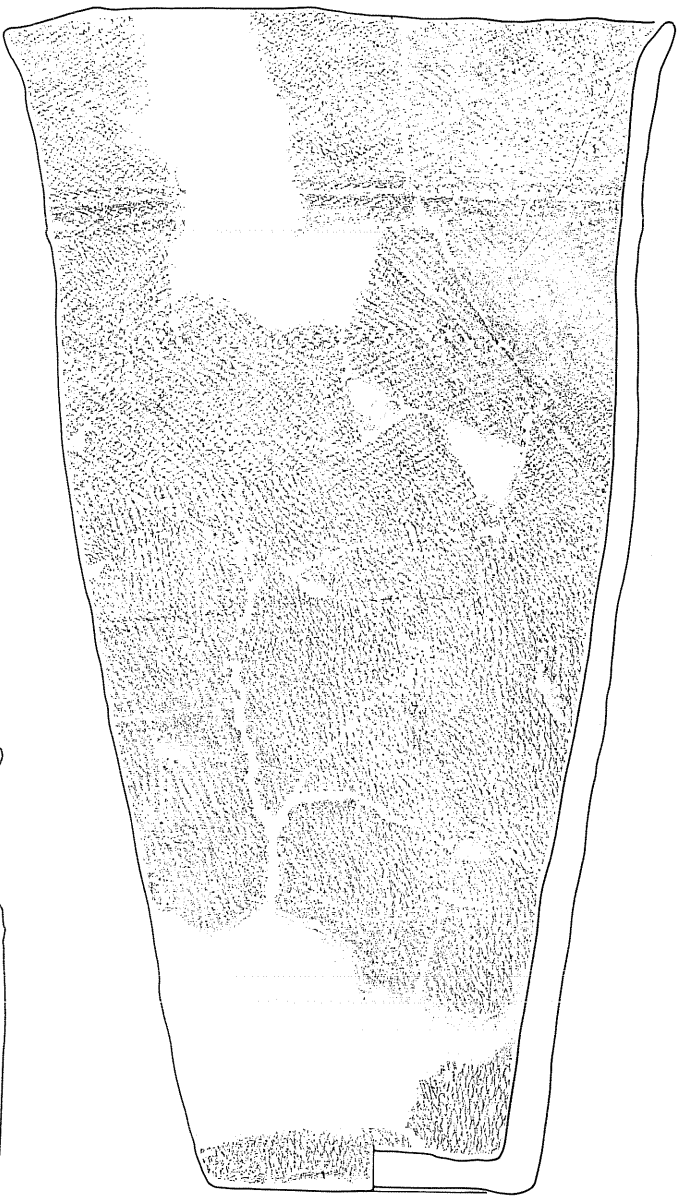
5（396・504－85）



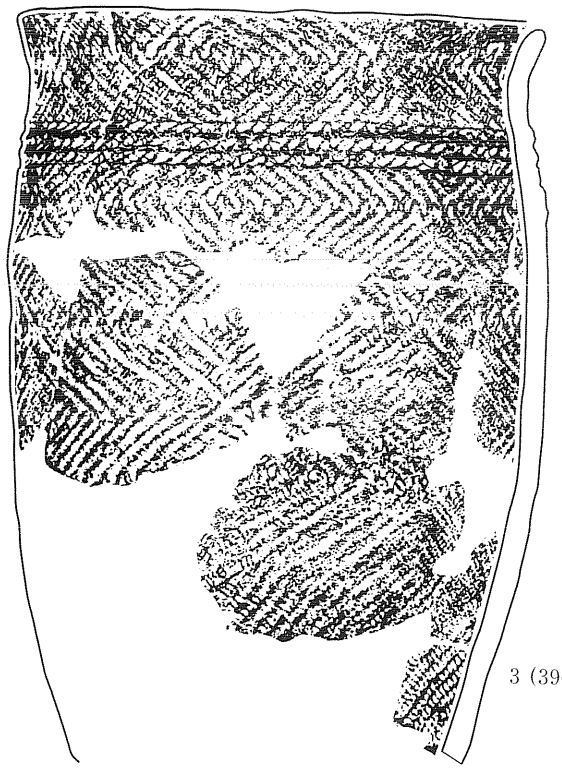
第577図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（12）



1（396・504－86）



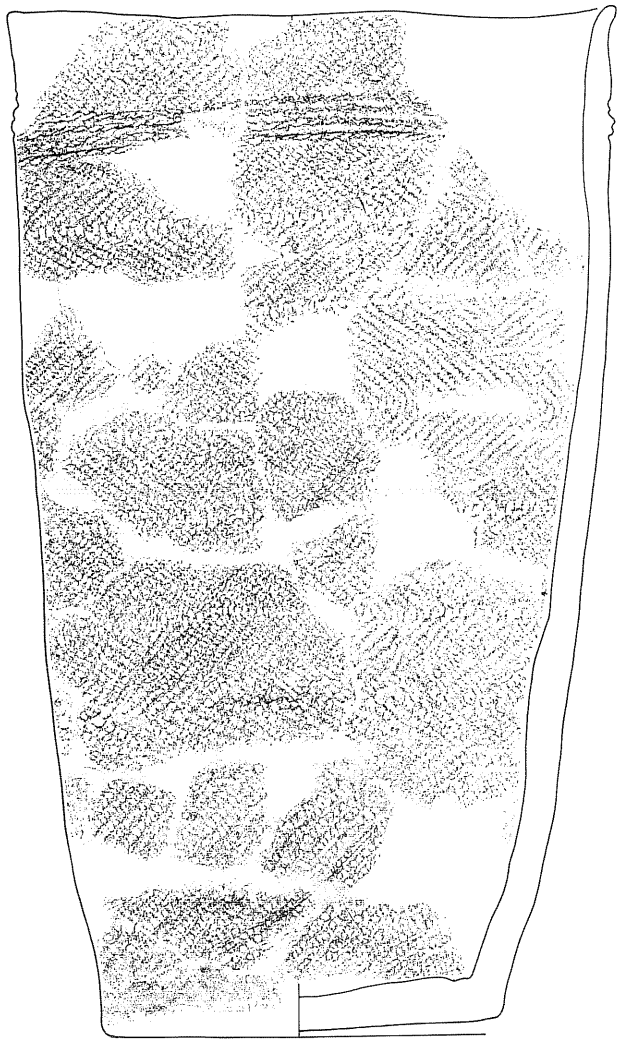
2（396・504－87）



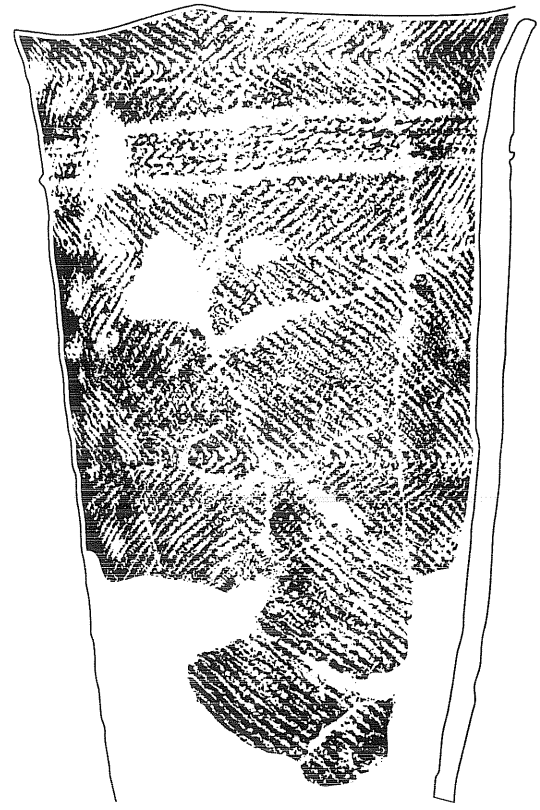
3（396・504－88）

0　10cm

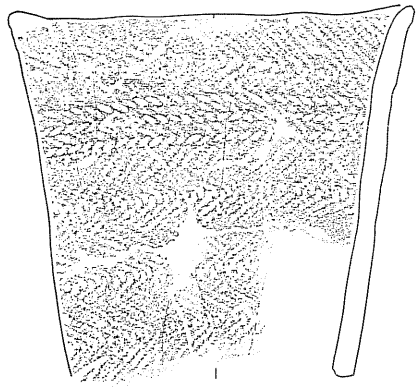
第578図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（13）



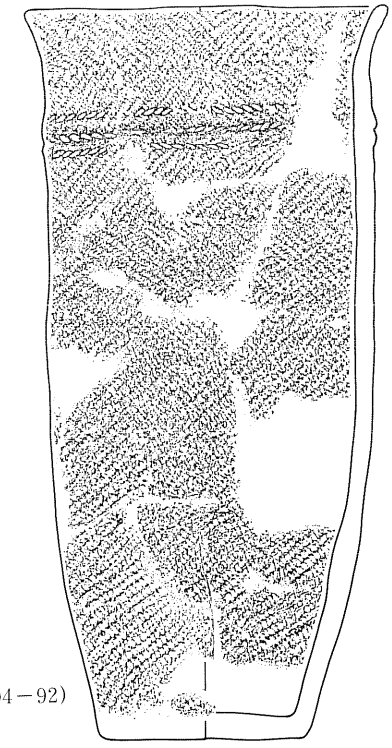
1（396・504－89）



2（396・504－90）



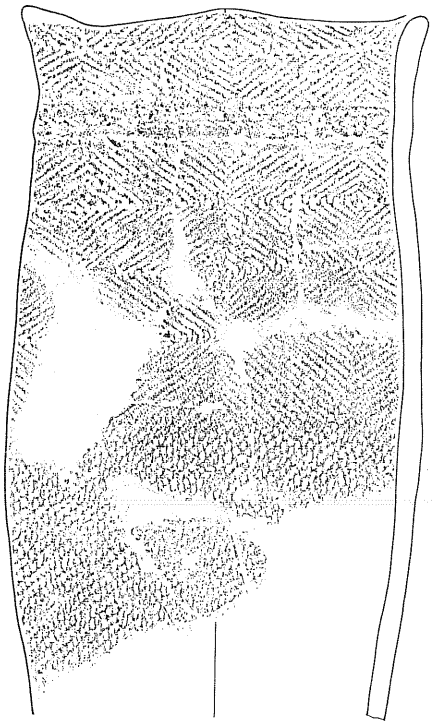
3（396・504－91）



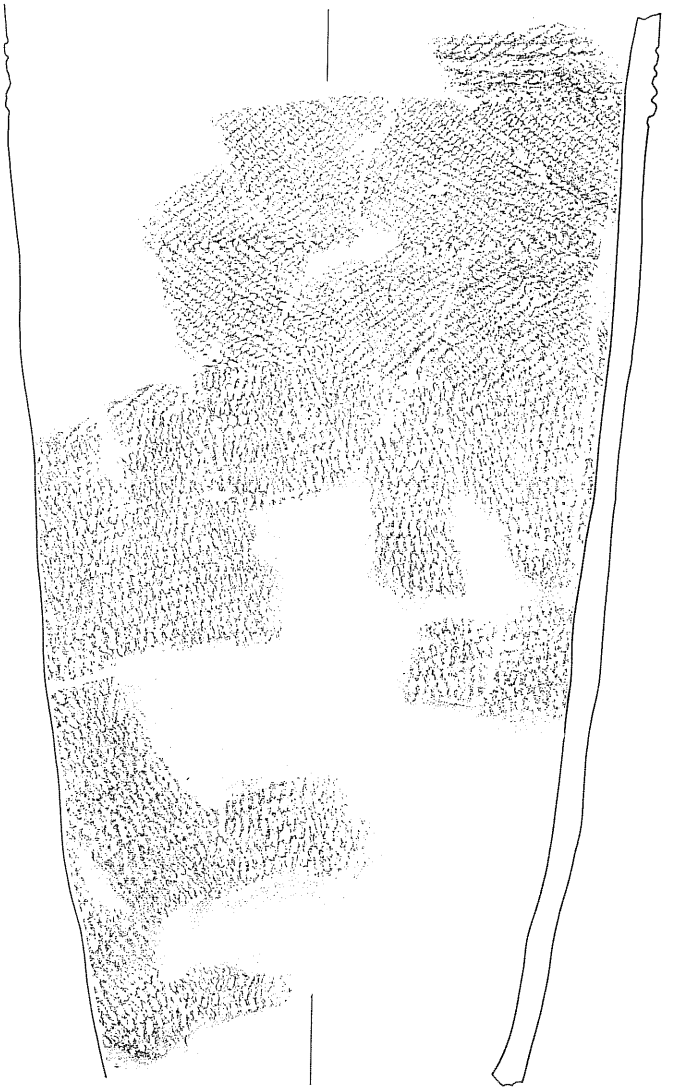
4（396・504－92）

0　10cm

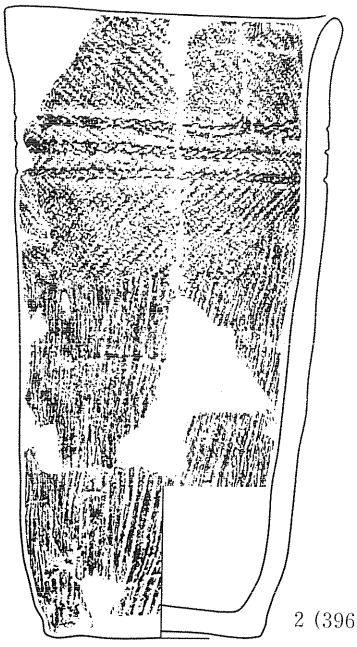
第579図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（14）



1（396・504－93）



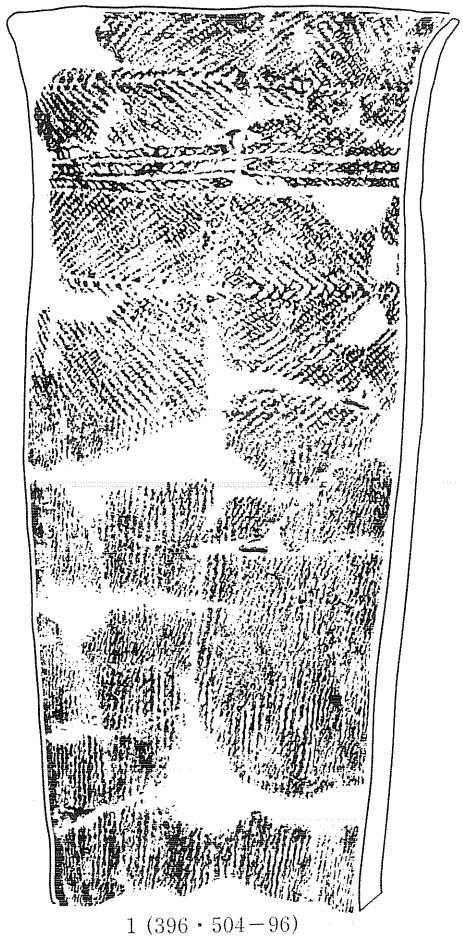
3（396・504－95）



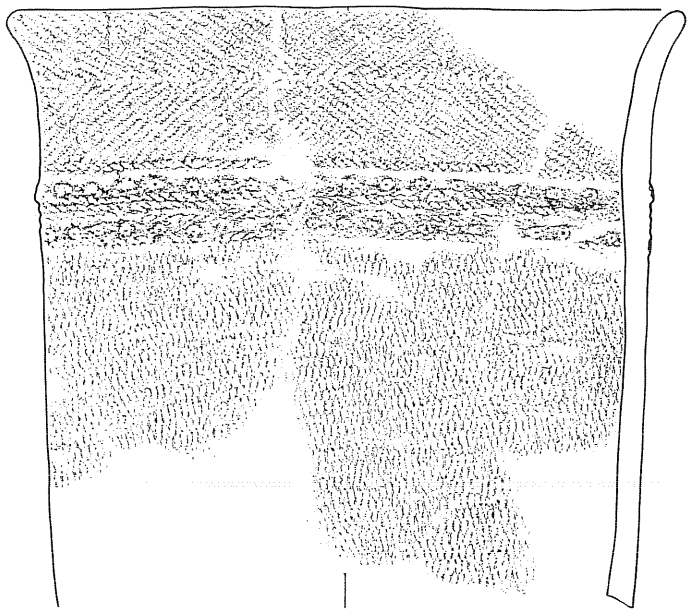
2（396・504－94）

0　10cm

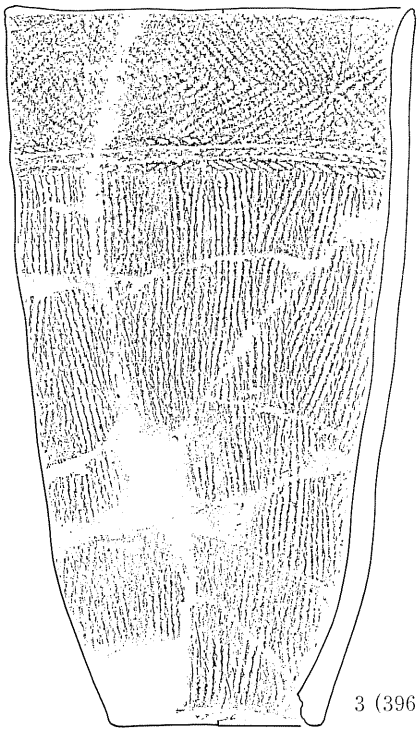
第580図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（15）



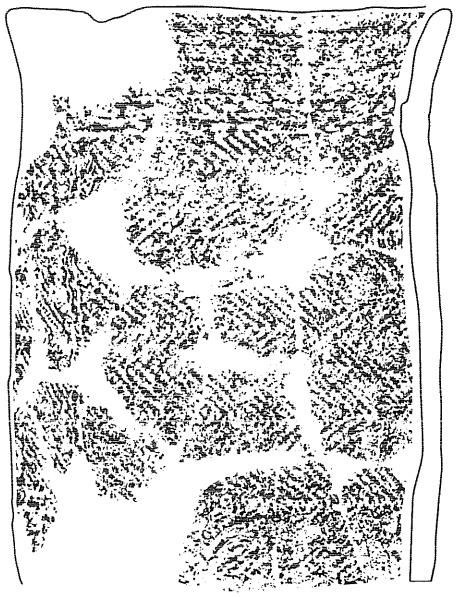
1（396・504－96）



2（396・504－97）



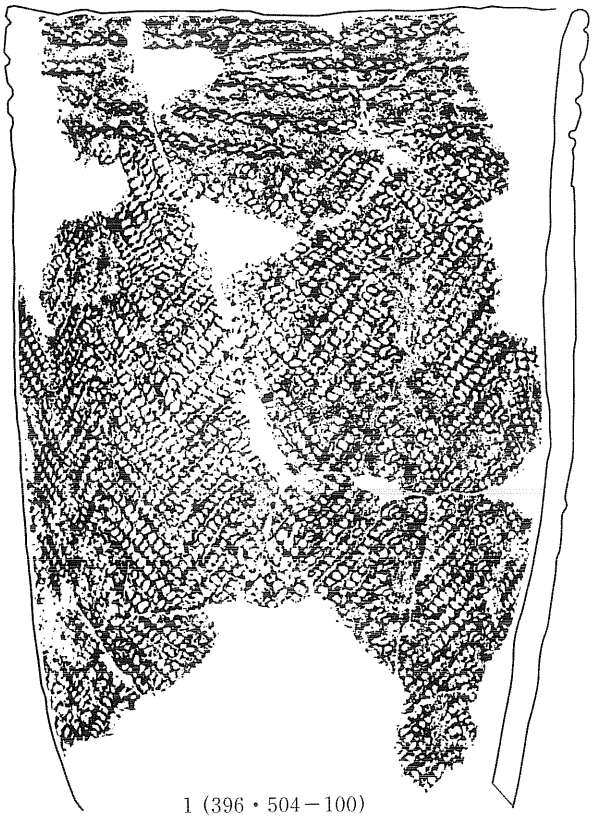
3（396・504－98）



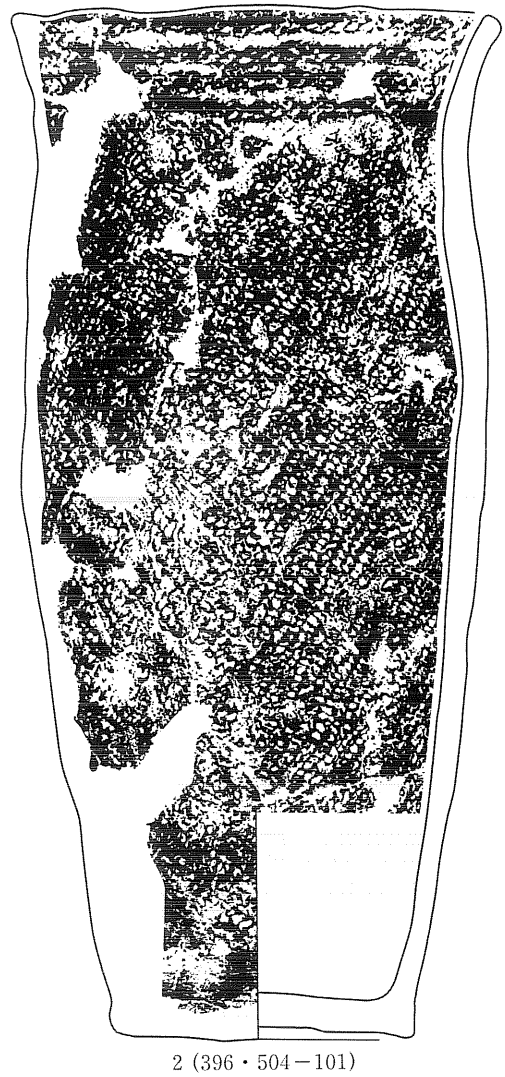
4（396・504－99）

0　10cm

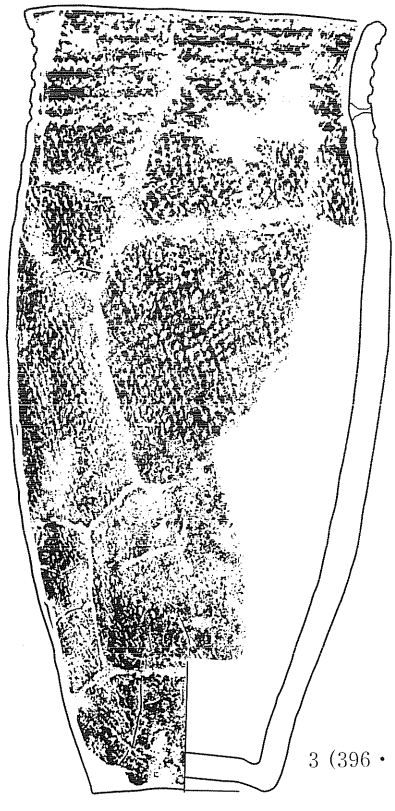
第581図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（16）



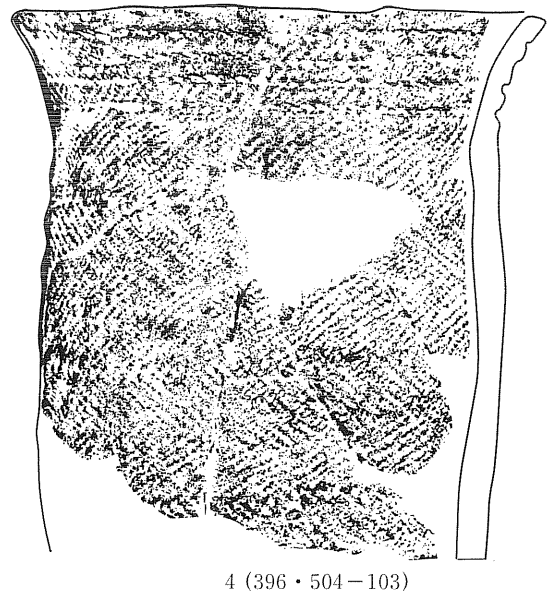
1（396・504－100）



2（396・504－101）



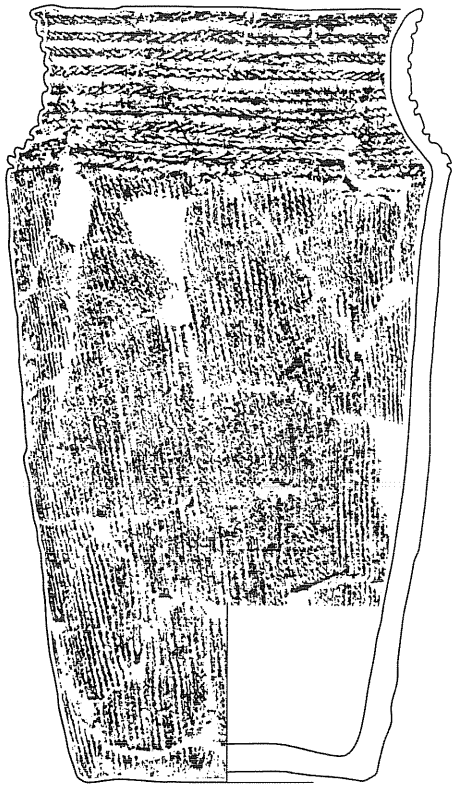
3（396・504－102）



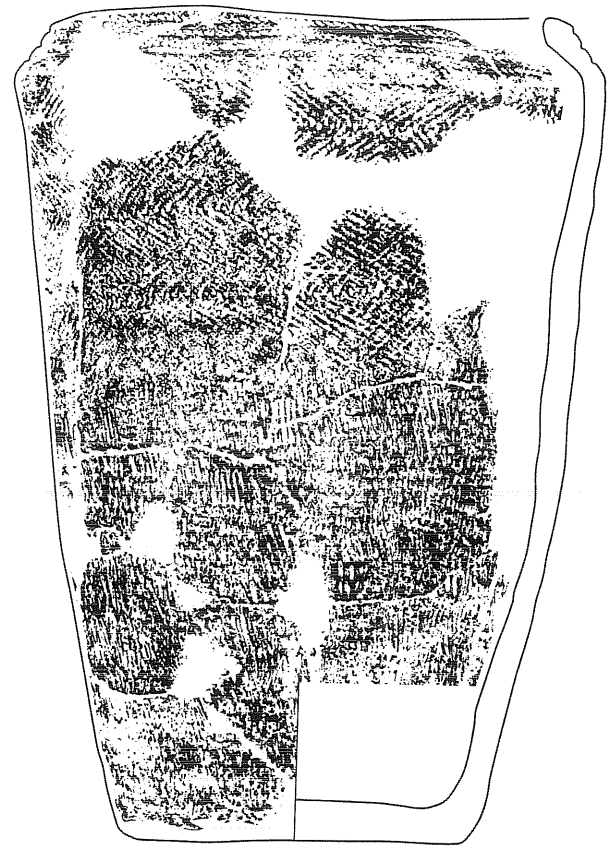
4（396・504－103）

0　10cm

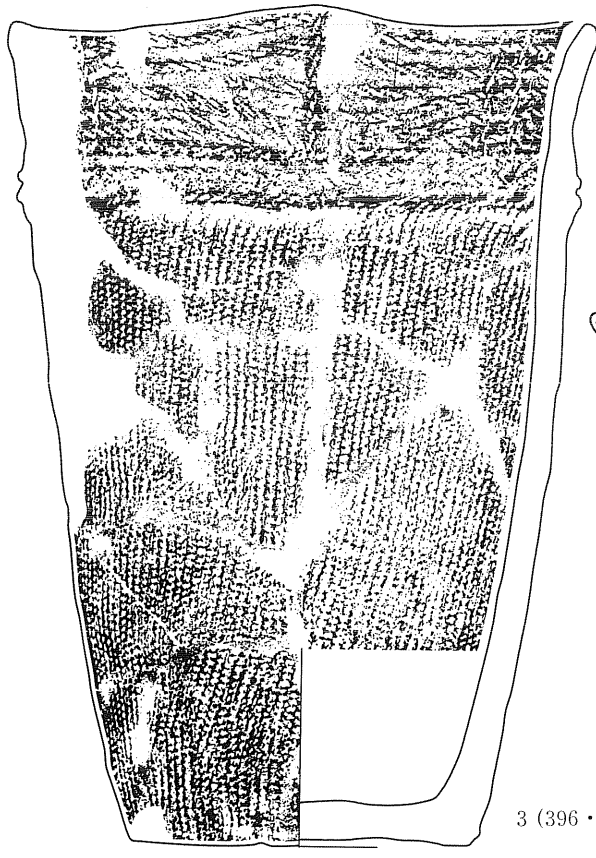
第582図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（17）



1（396・504－104）



2（396・504－105）

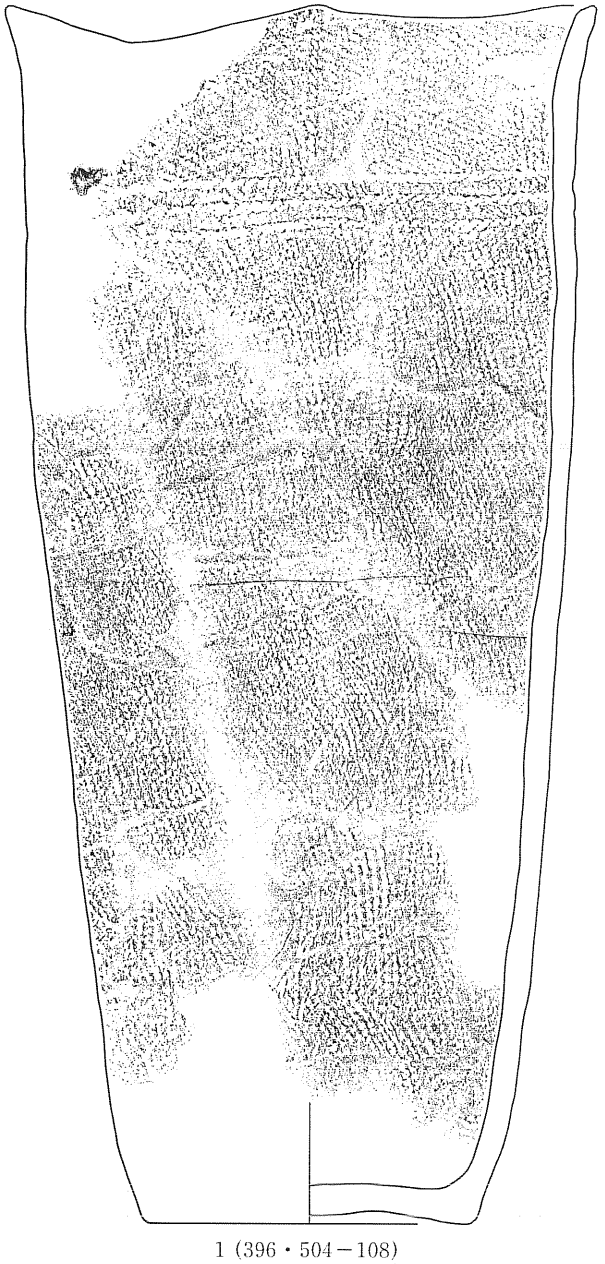


3（396・504－106）

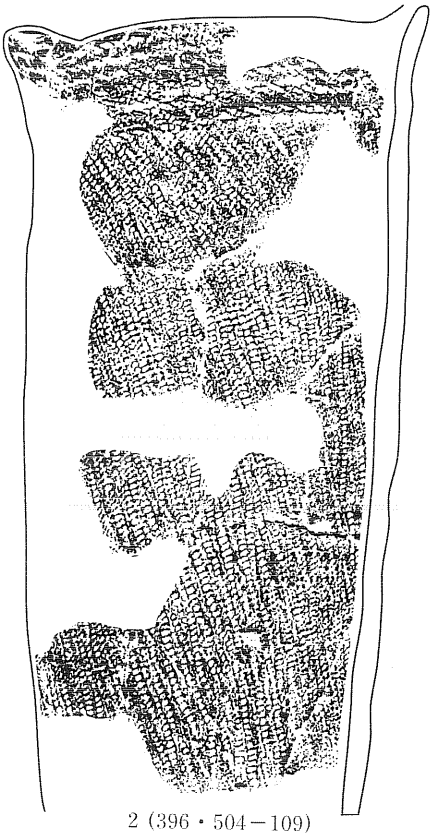
4（396・504－107）

0　10cm

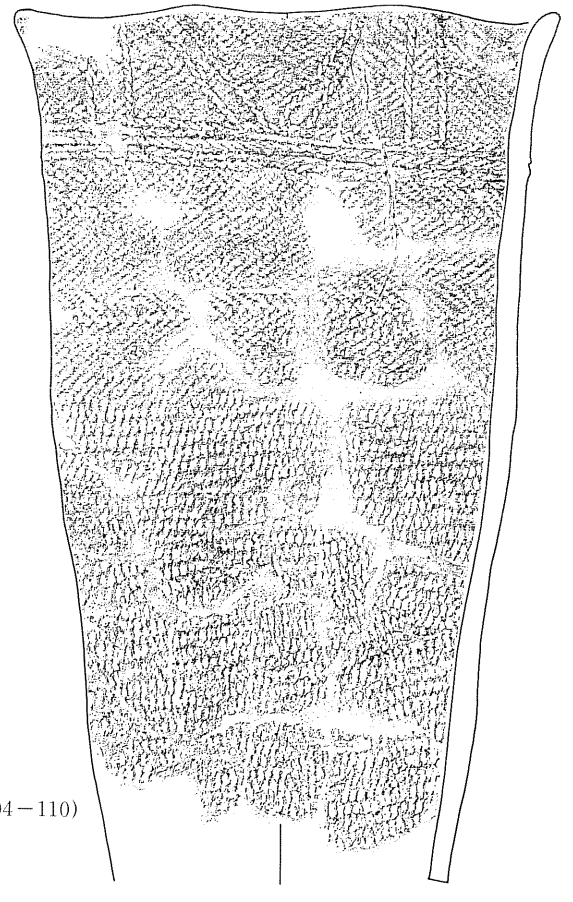
第583図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（18）



1（396・504－108）



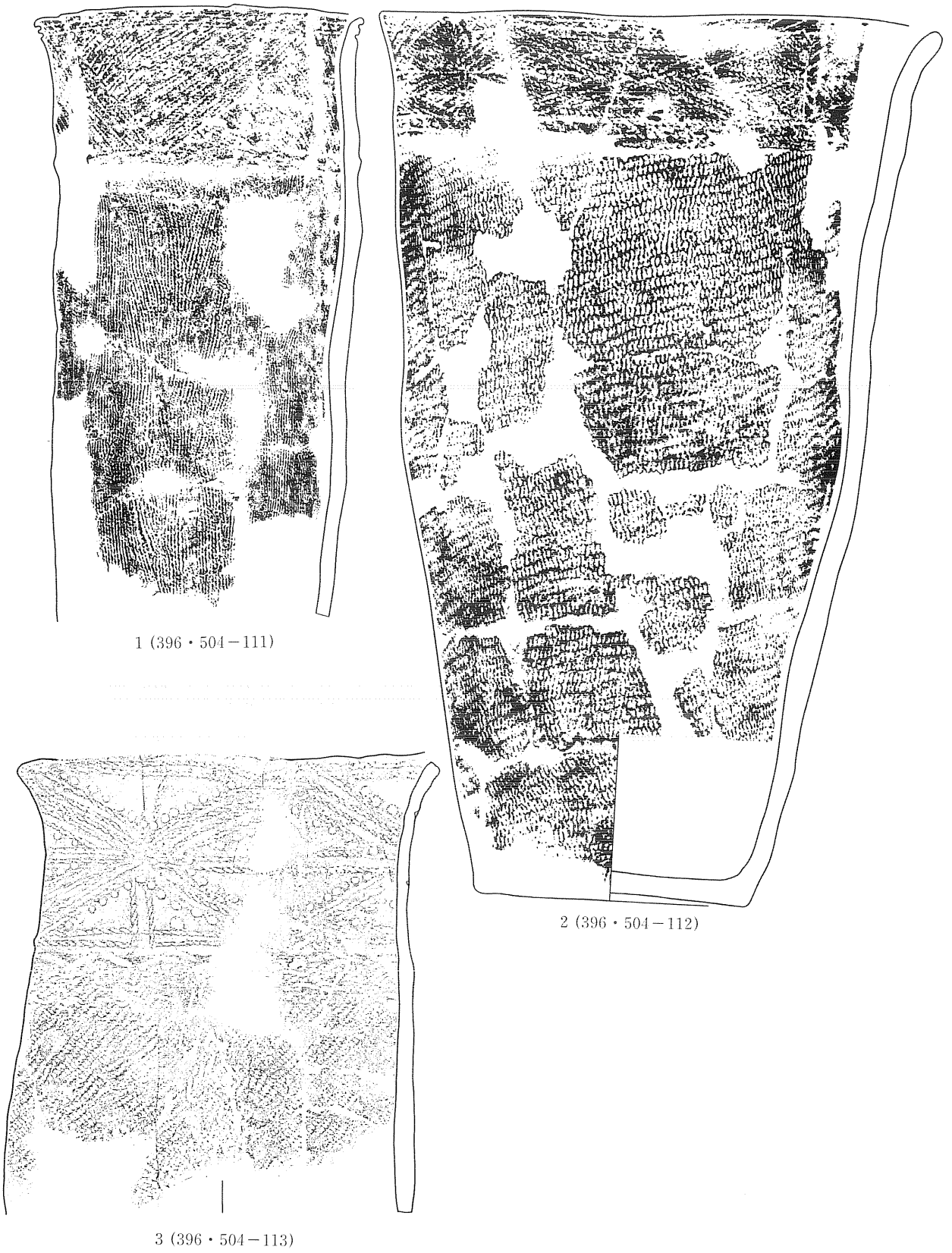
2（396・504－109）



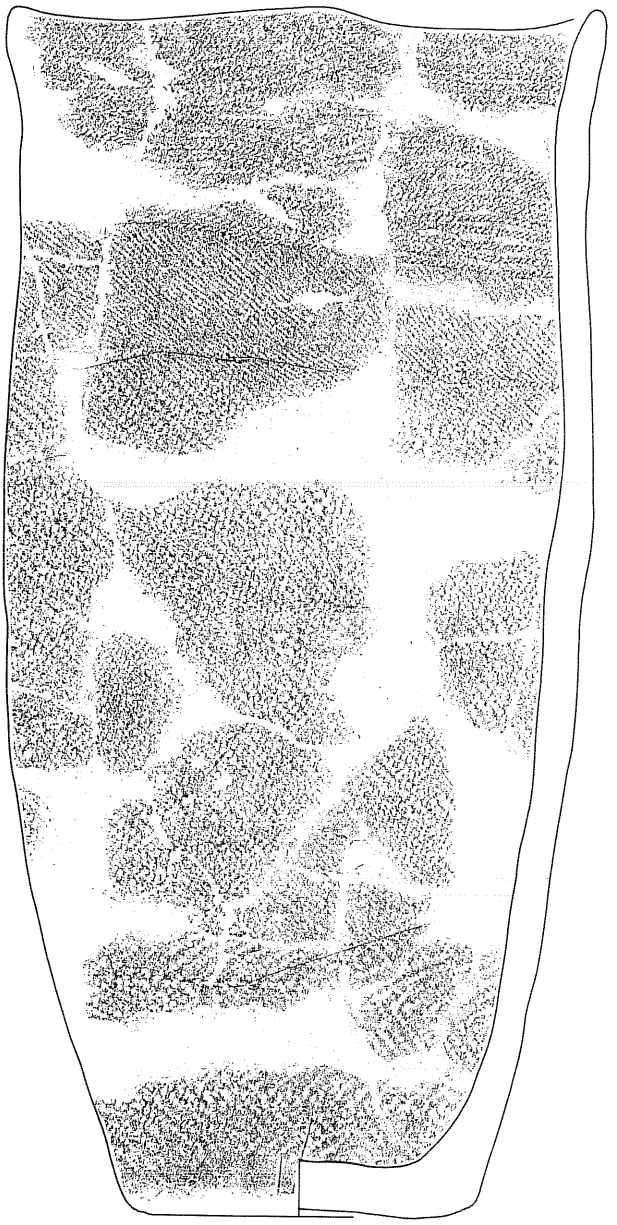
3（396・504－110）

0　10cm

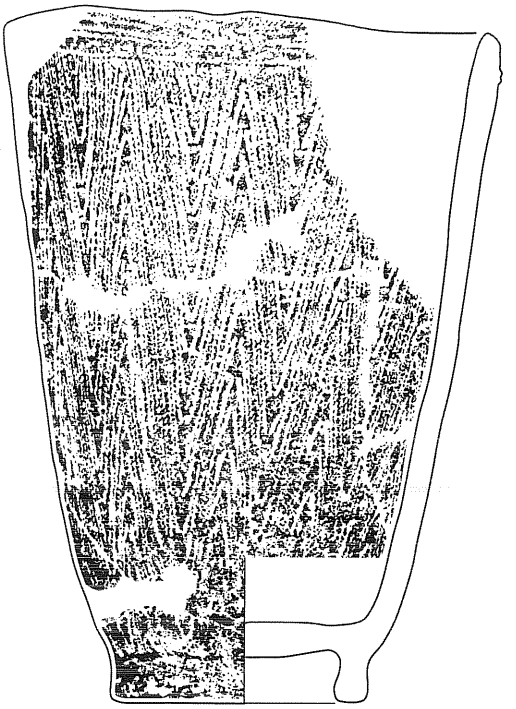
第584図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（19）



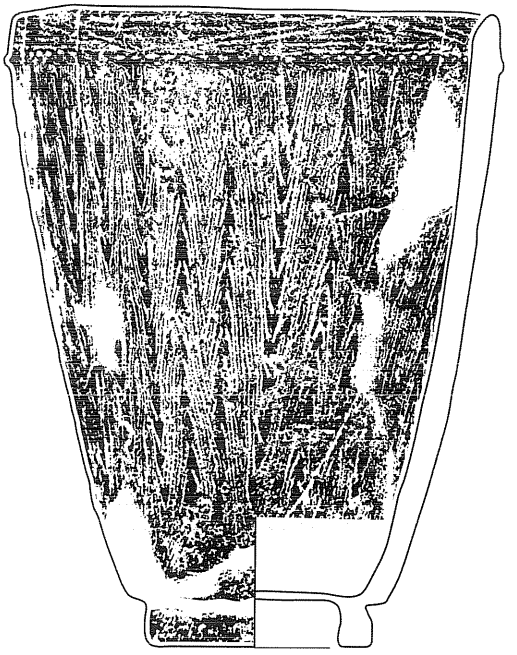
第585図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（20）



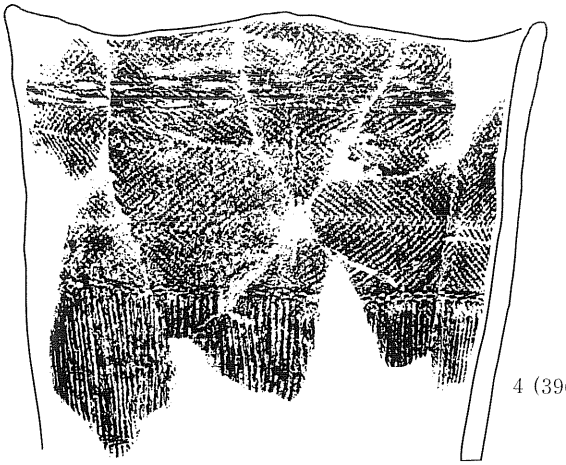
1（396・504－114）



2（396・504－115）



3（396・504－116）

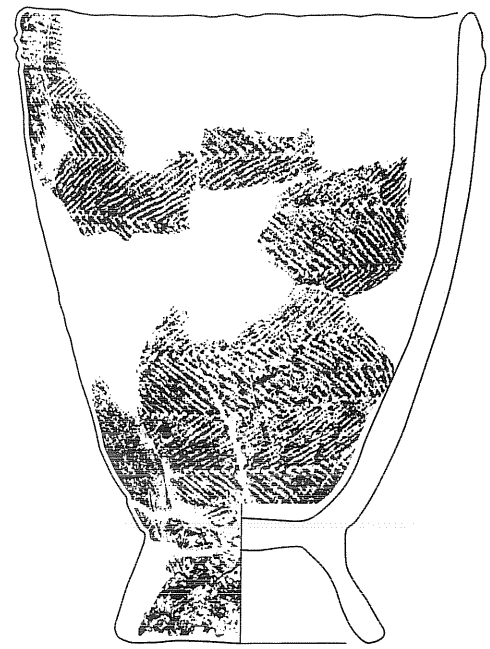


4（396・504－117）

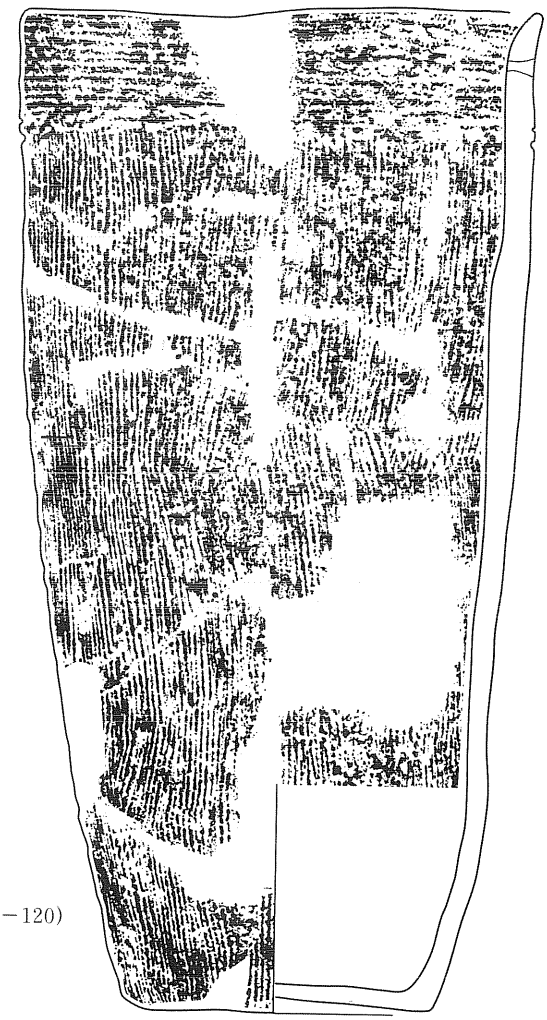
0　10cm

第586図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（21）

1（396・504－118）



2（396・504－119）

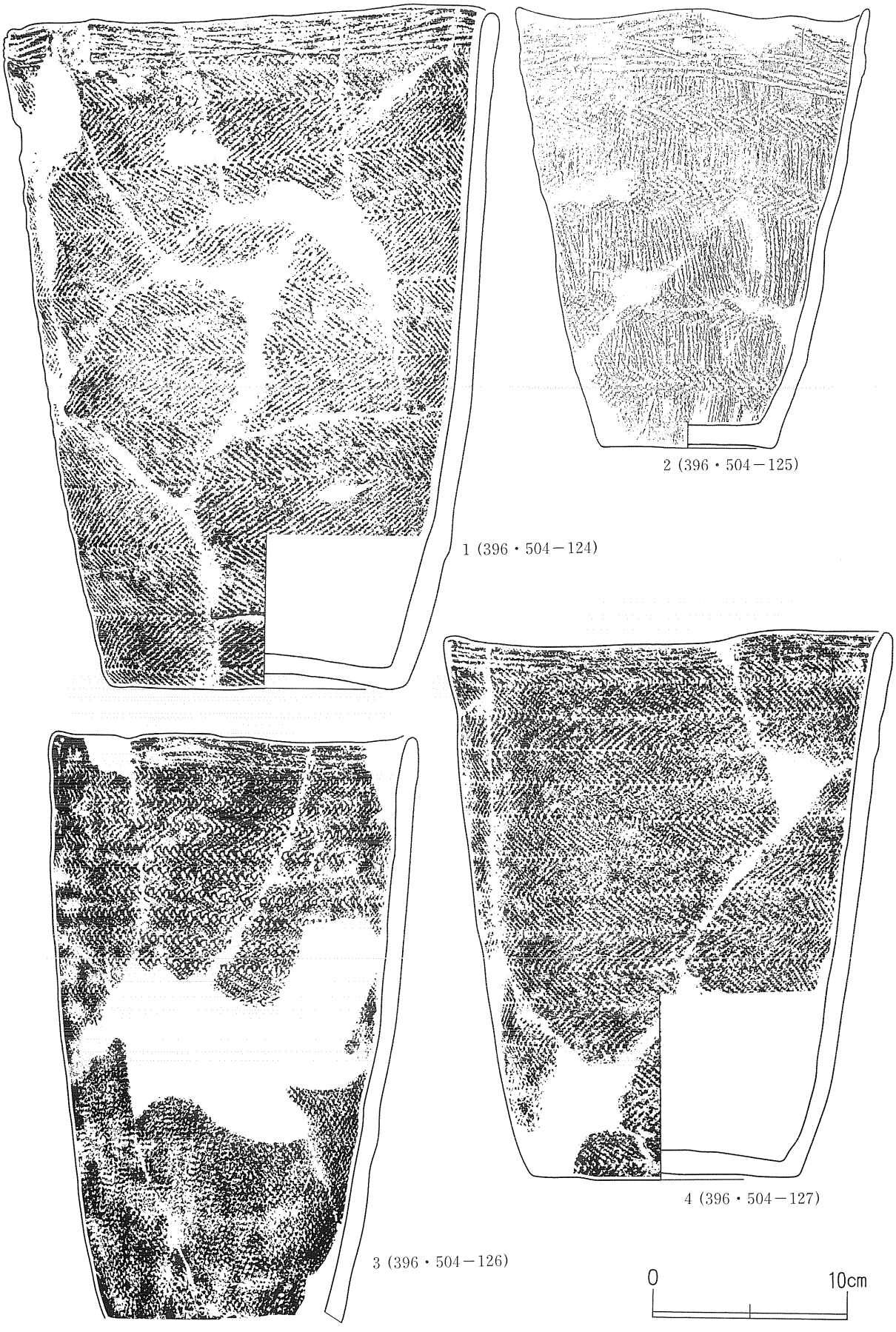


3（396・504－120）

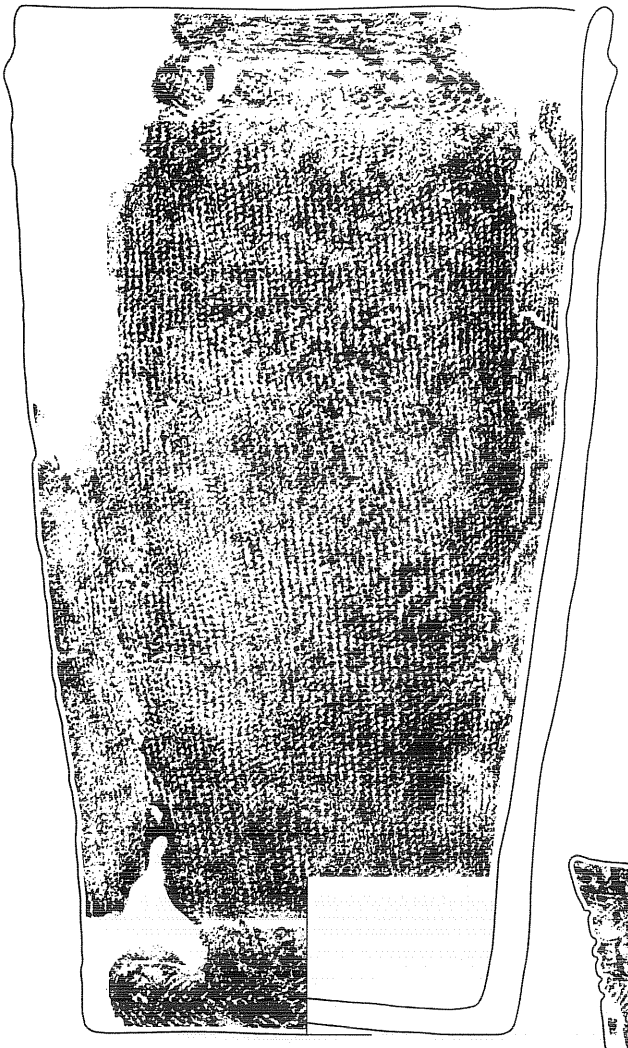
0　10cm

第587図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（22）

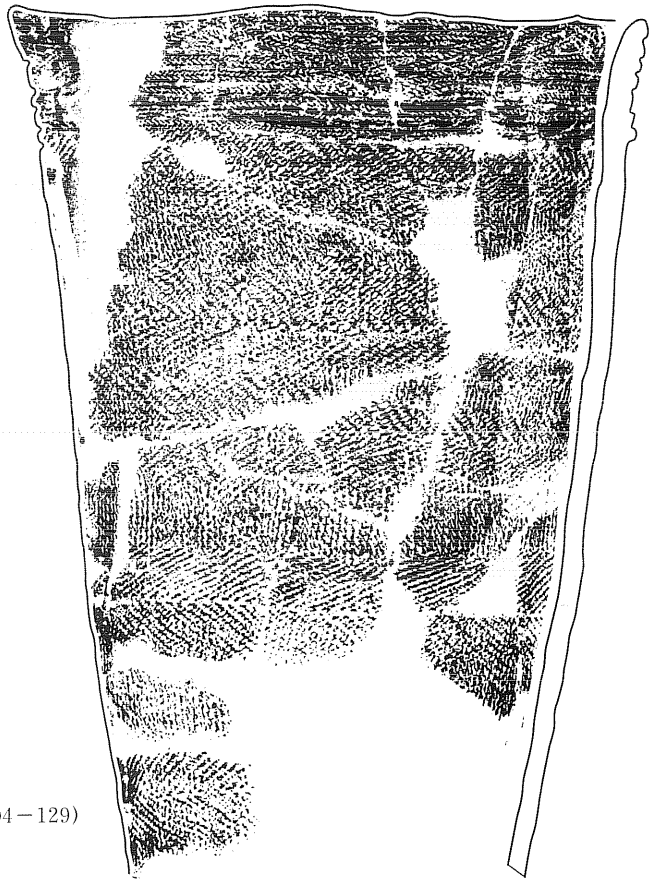
第588図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（23）



第589図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（24）



1（396・504－128）

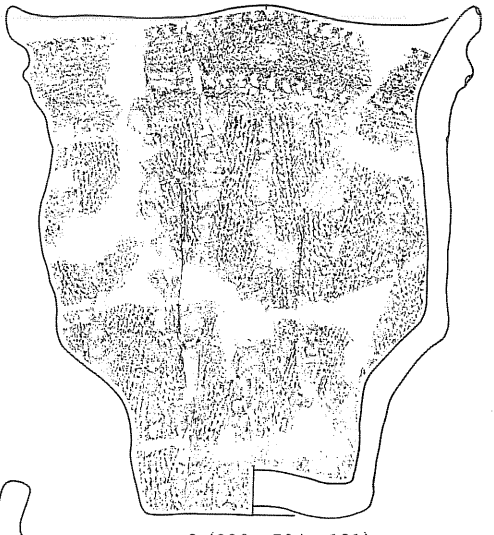


2（396・504－129）

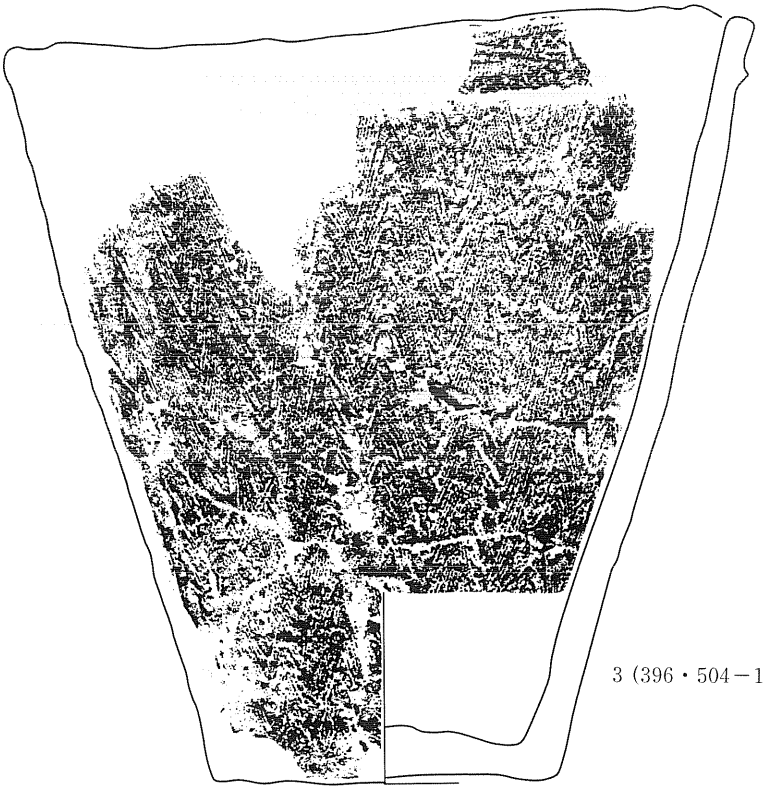
0　10cm

第590図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（25）

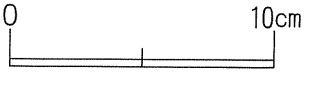
1（396・504－130）



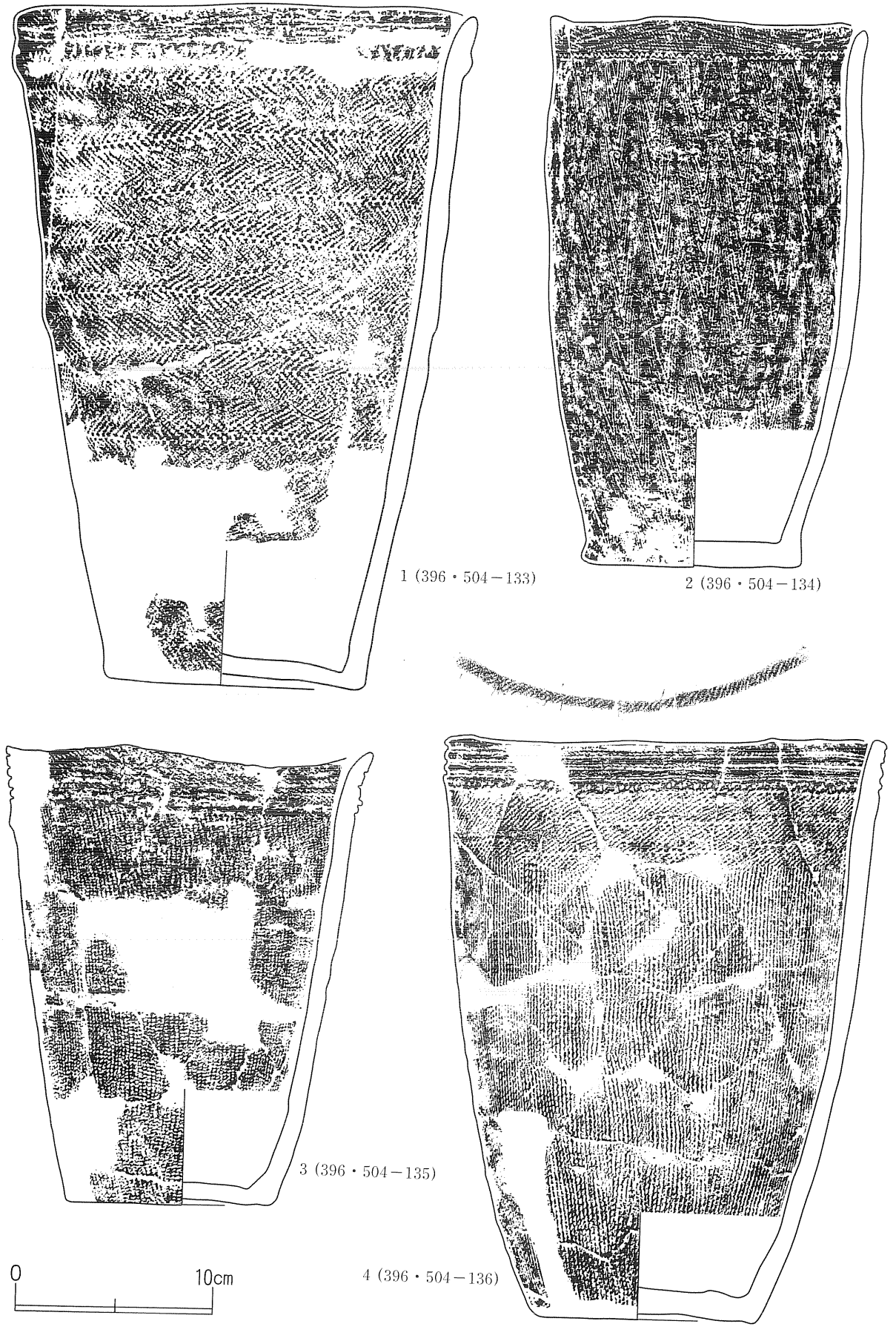
2（396・504－131）



3（396・504－132）

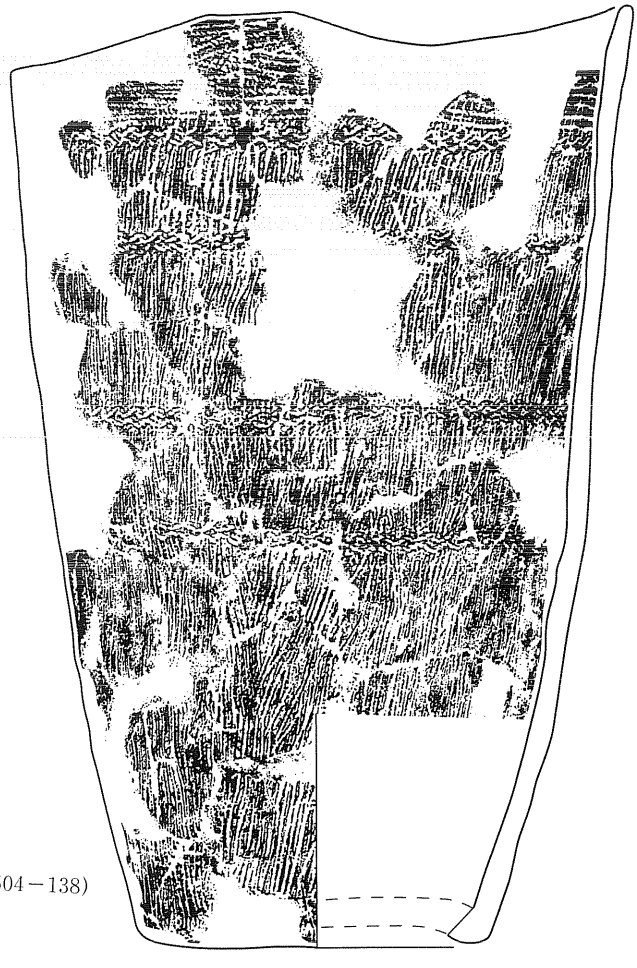


第591図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（26）



第592図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（27）

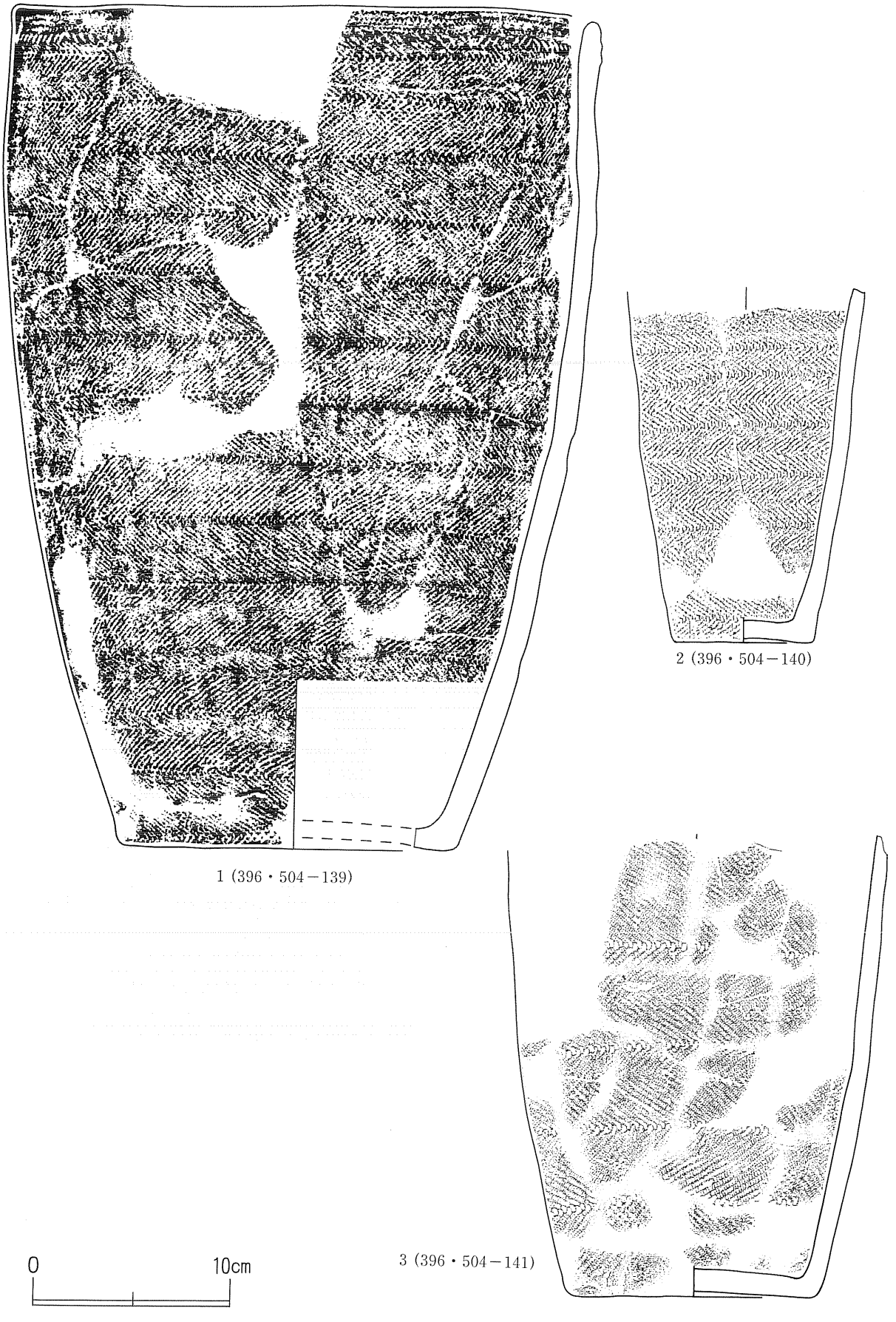
1（396・504・137）



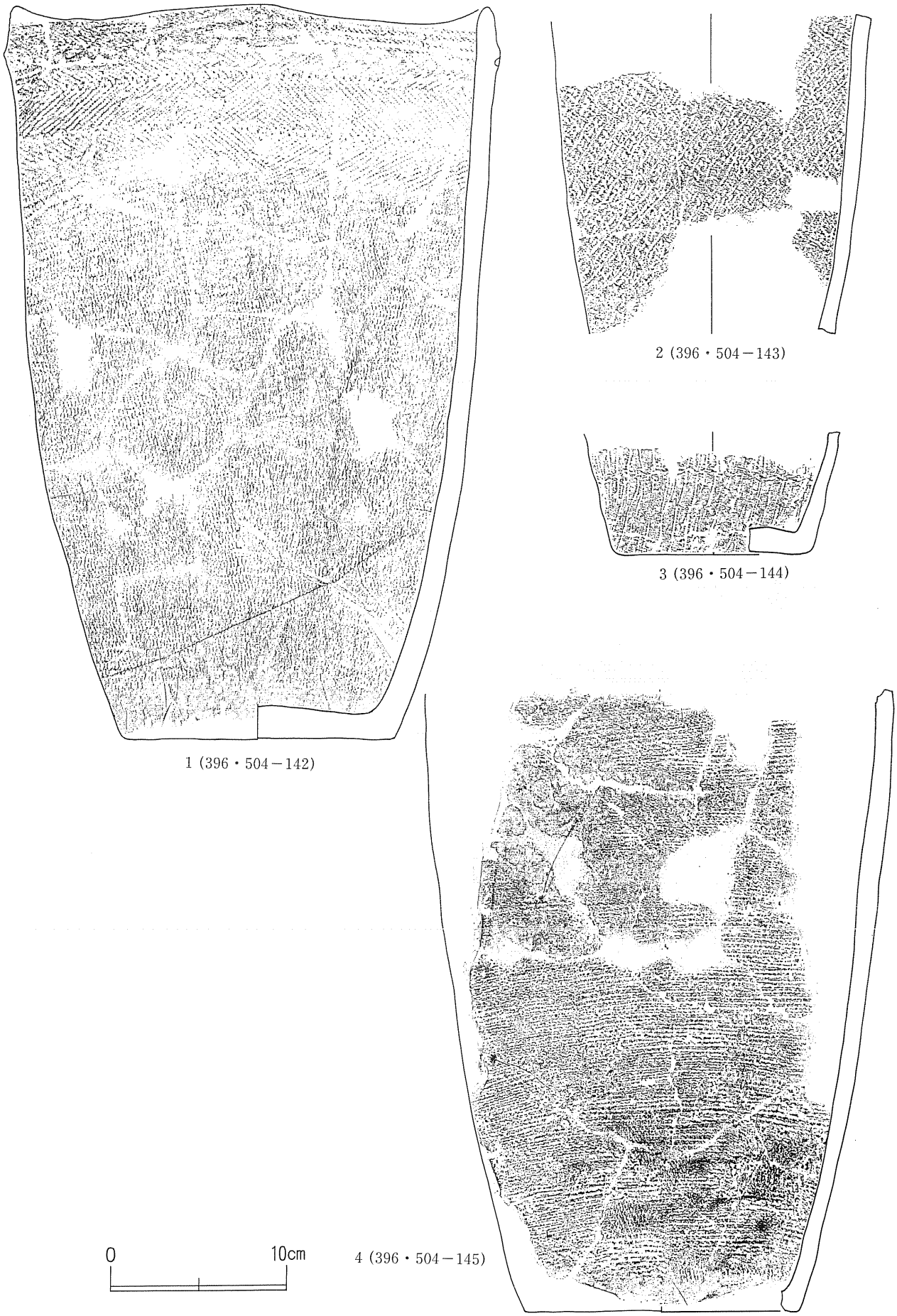
2（396・504－138）

0　10cm

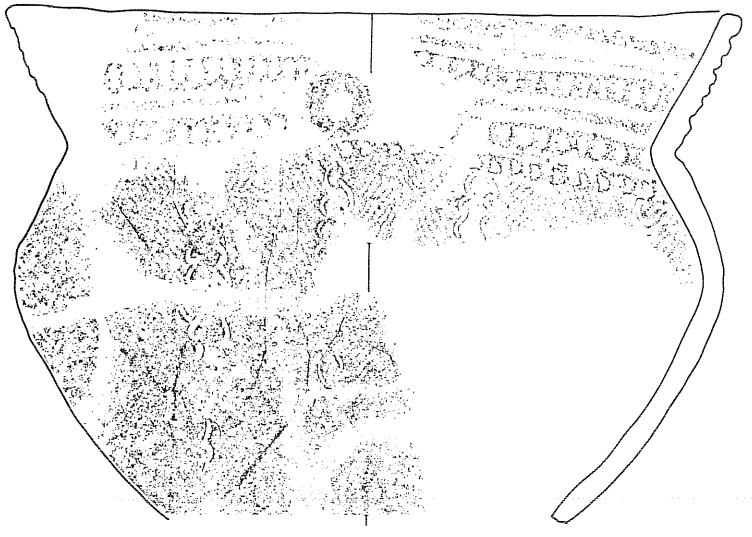
第593図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（28）



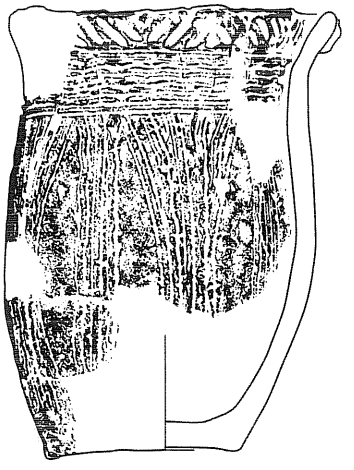
第594図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（29）



第595図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（30）

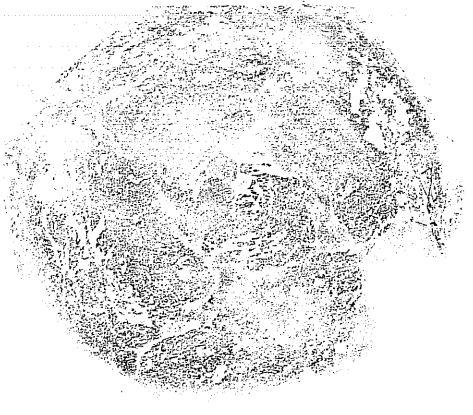


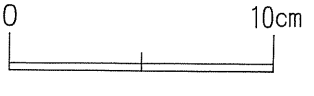
1（396・504－146）



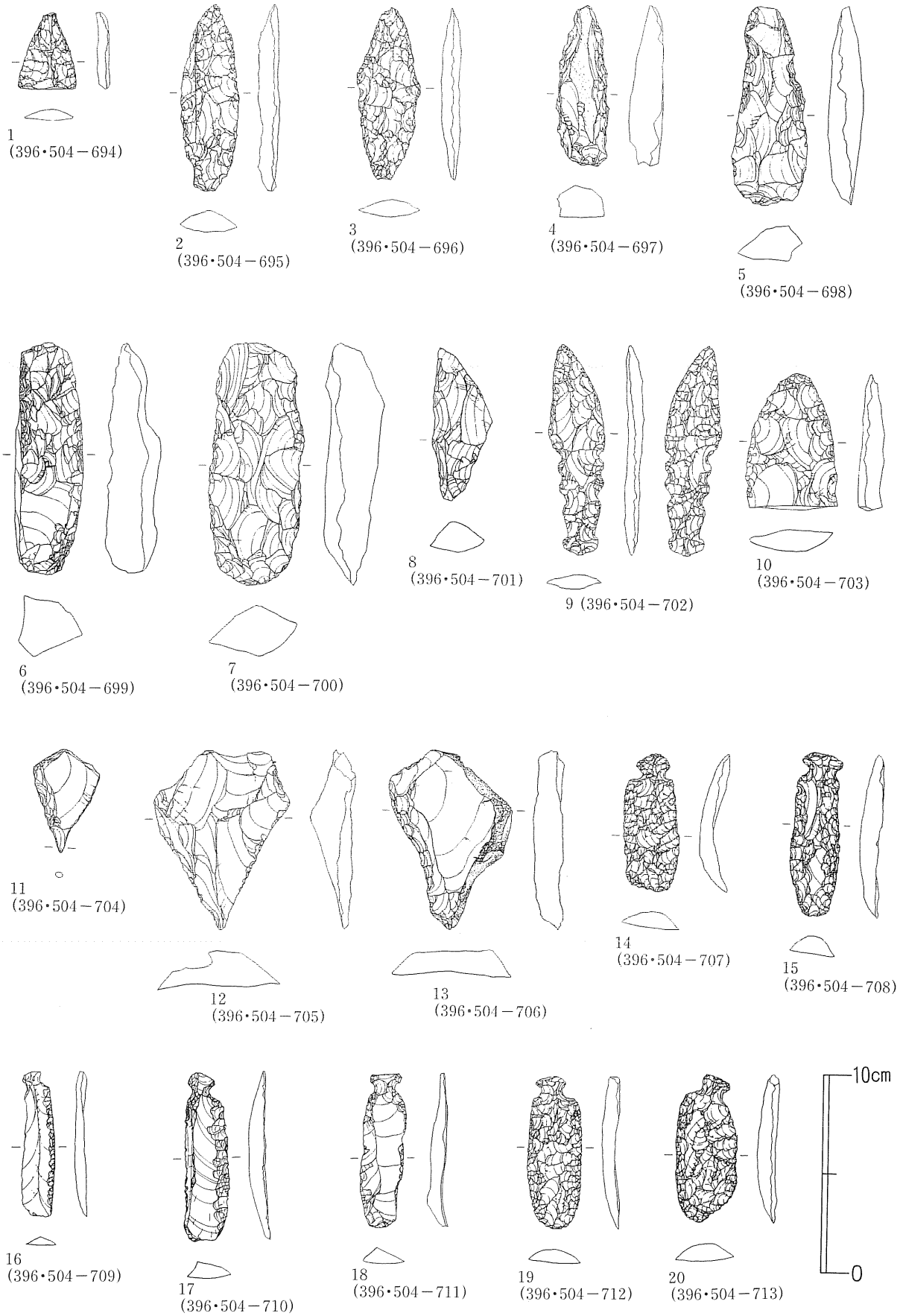
2（396・504－147）

3（396・504－148）

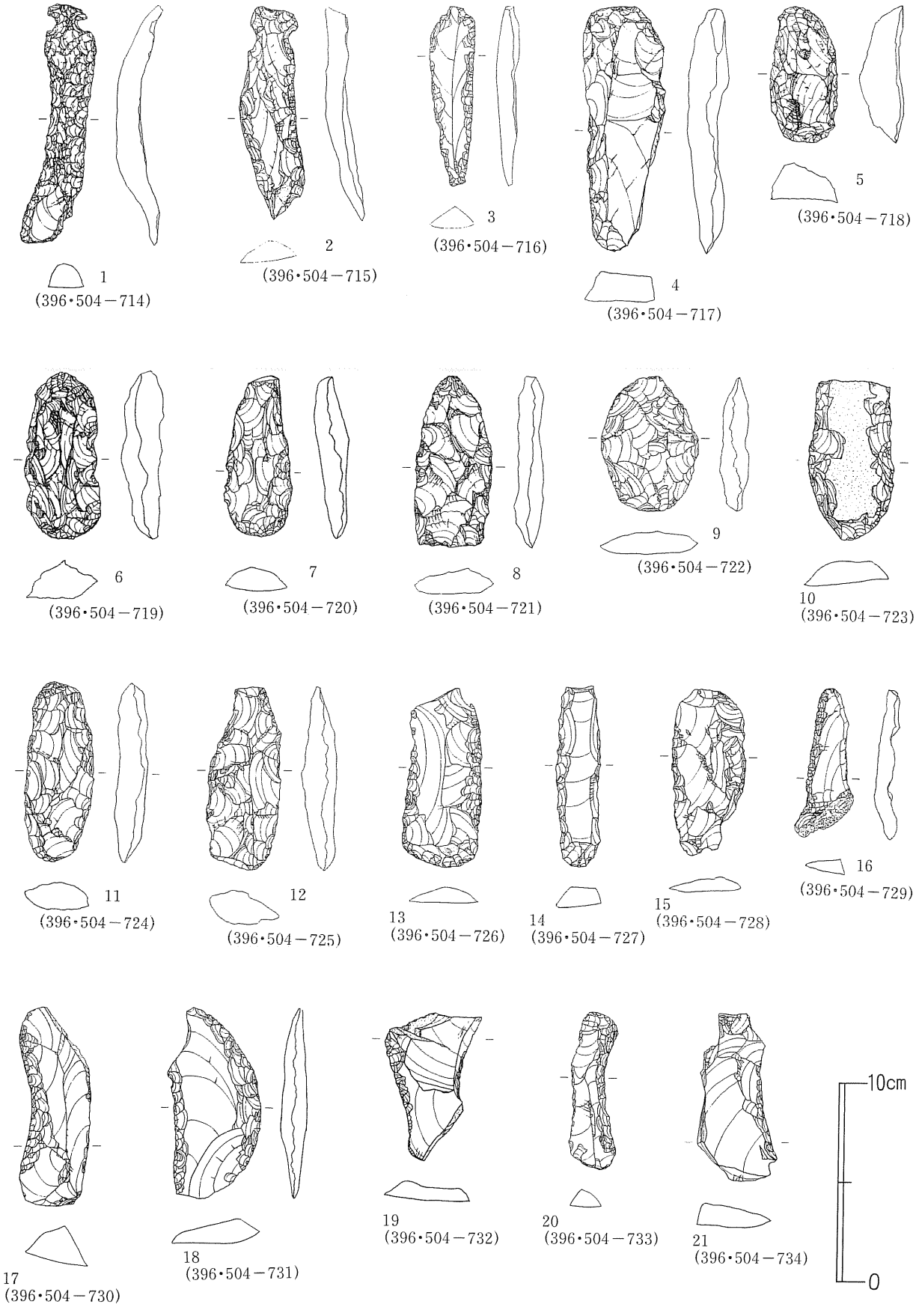




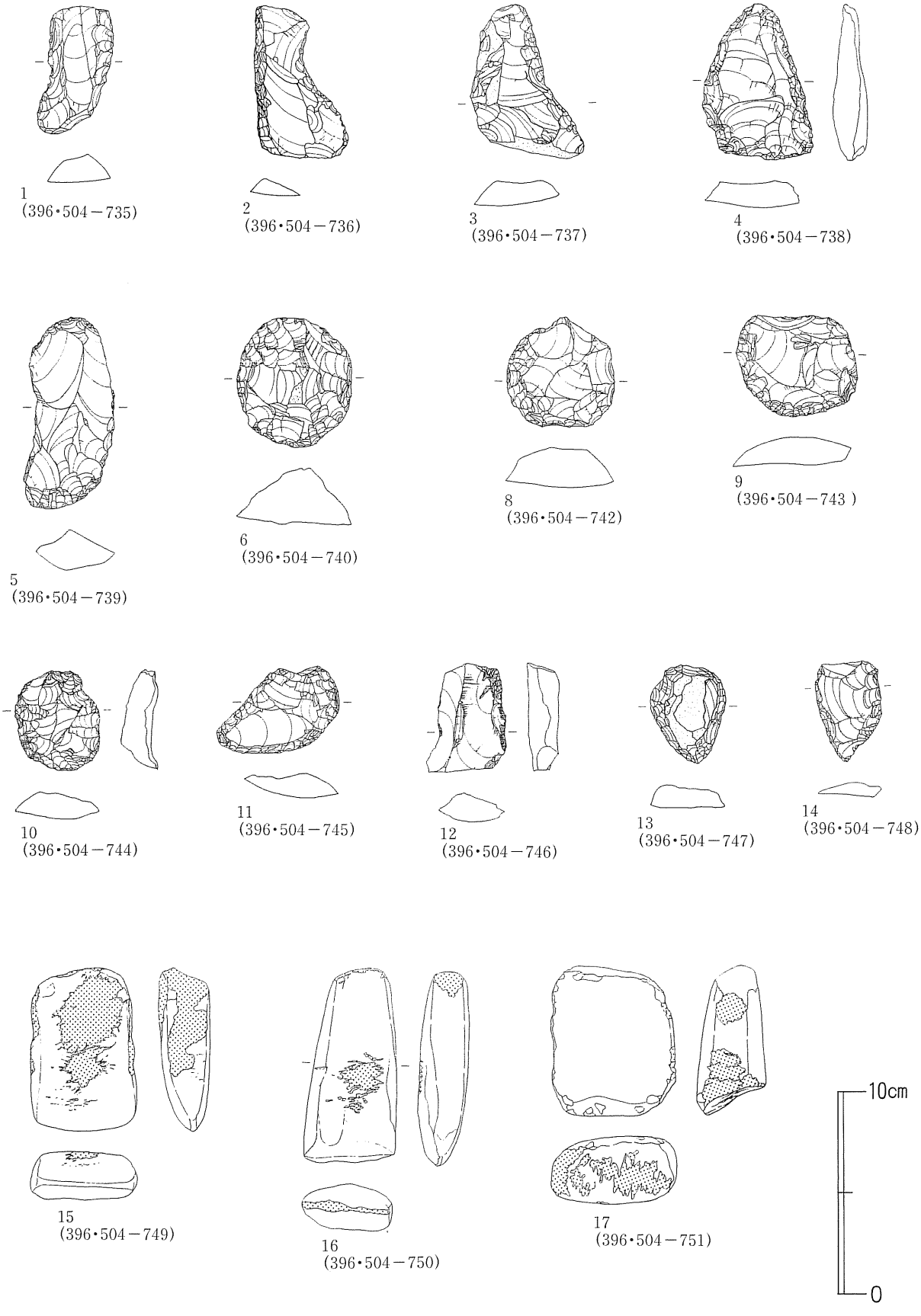
第596図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土土器（31）



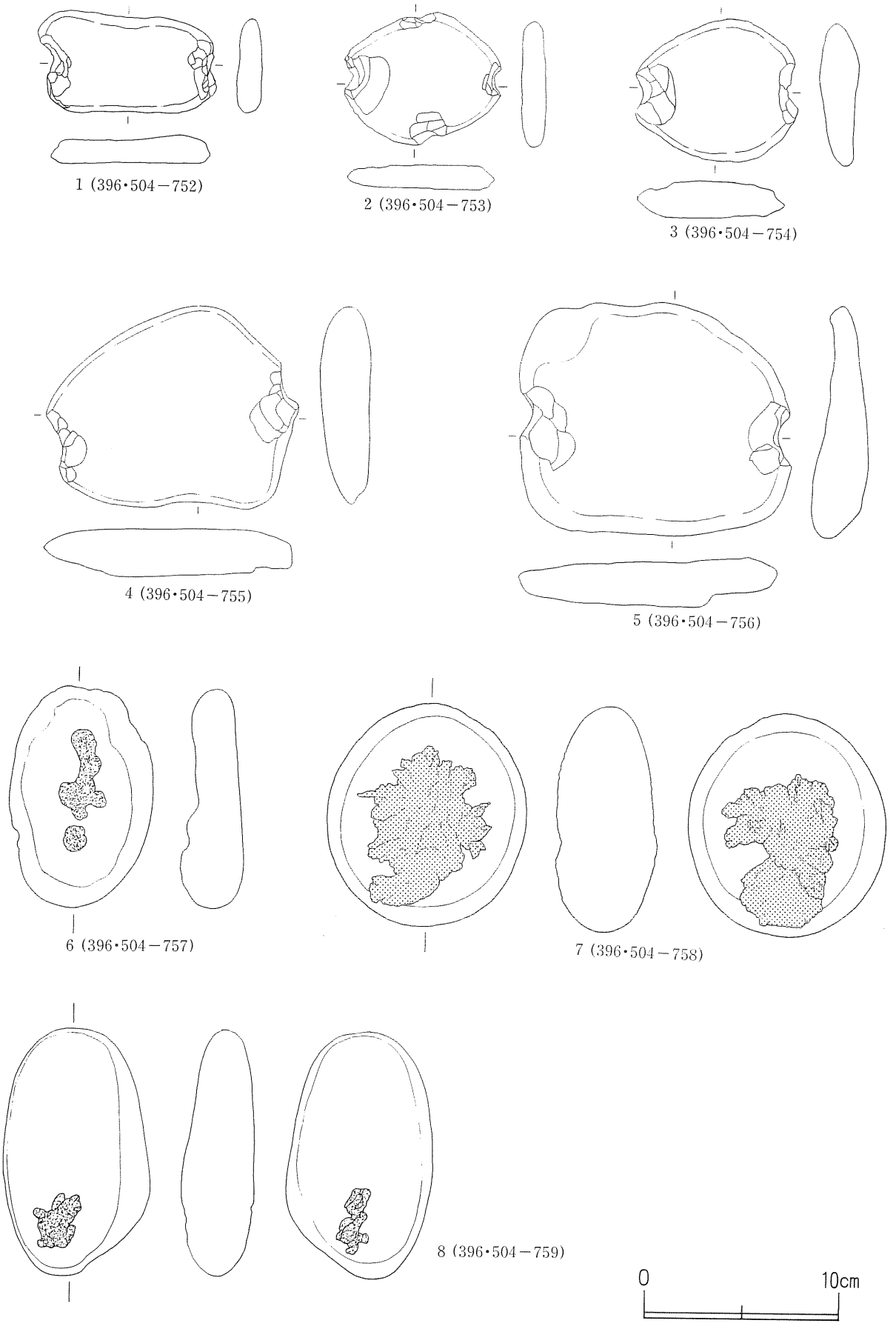
第597図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土石器（１）



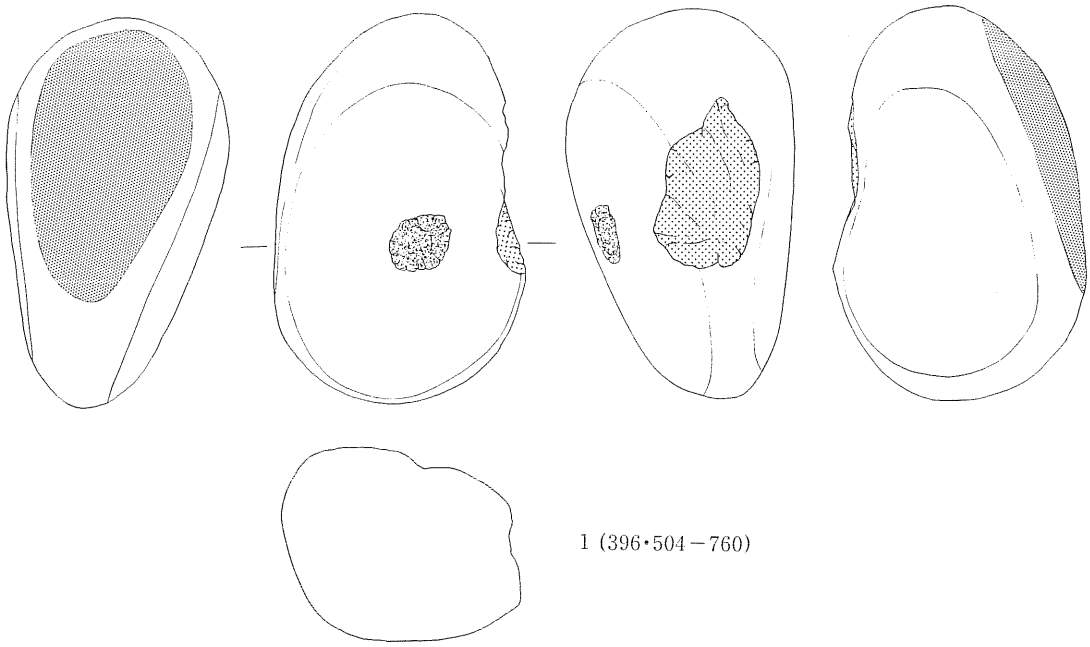
第598図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土石器（２）



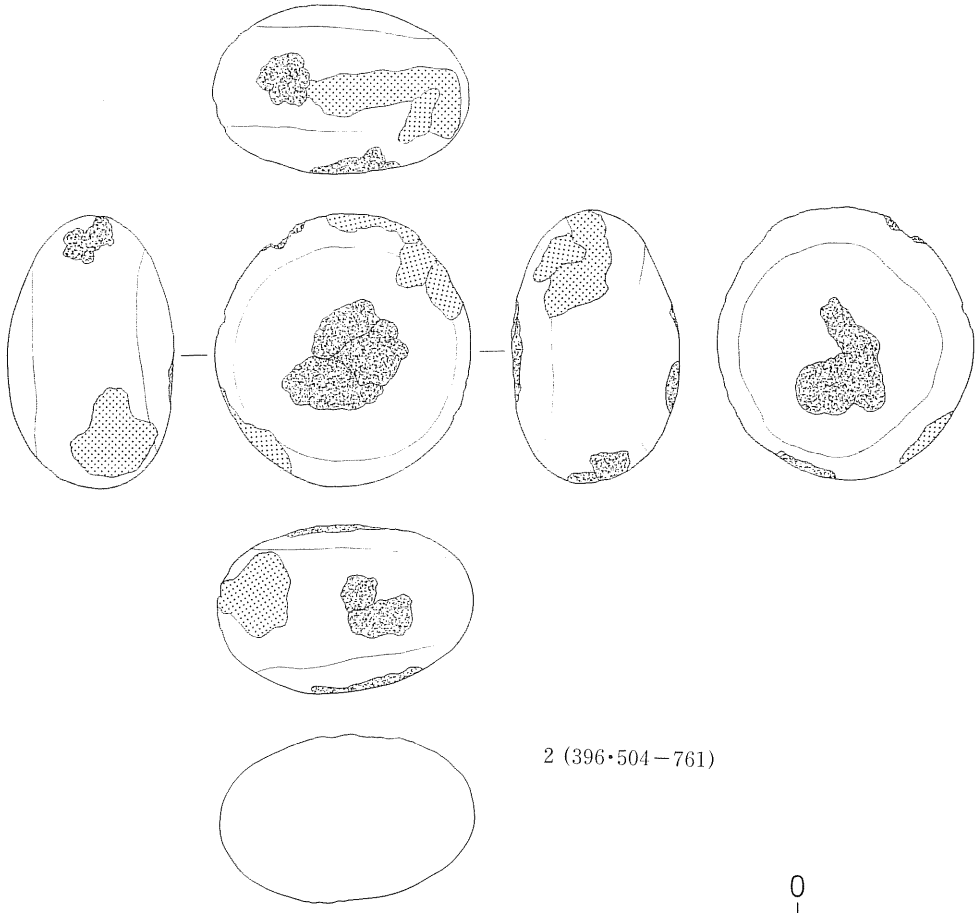
第599図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土石器（３）



第600図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土石器（４）



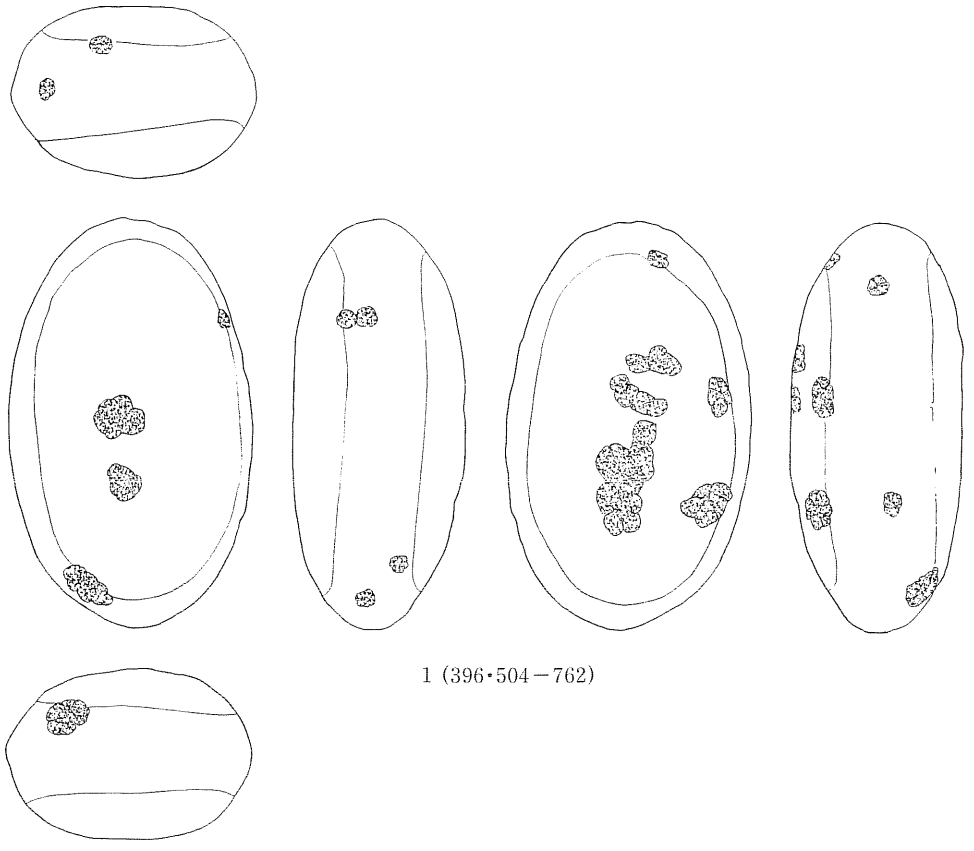
1（396・504－760）



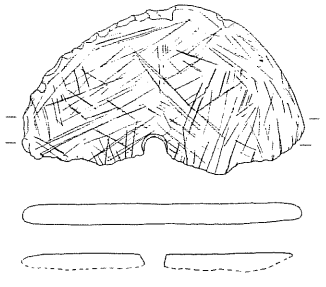
2（396・504－761）

0　10cm

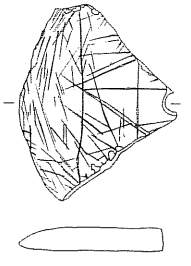
第601図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土石器（５）



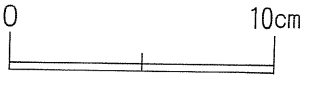
1（396・504－762）



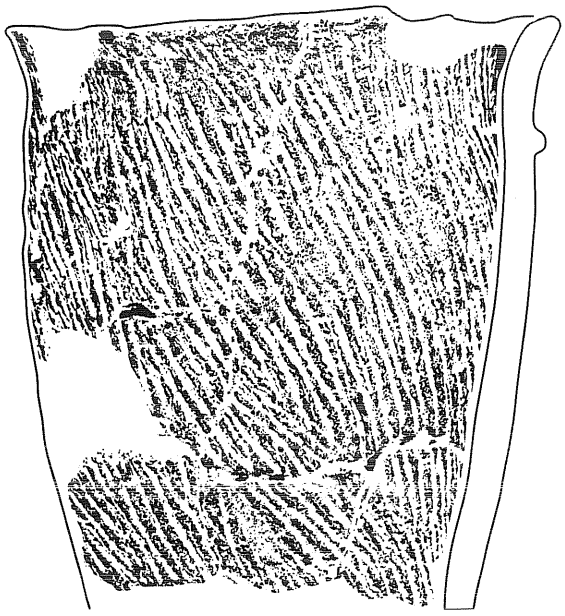
2（396・504－763）



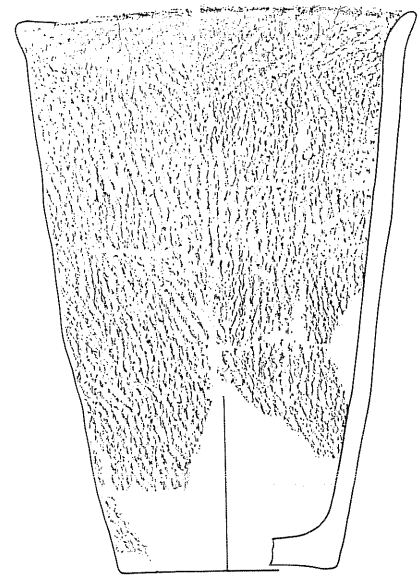
3（396・504－764）



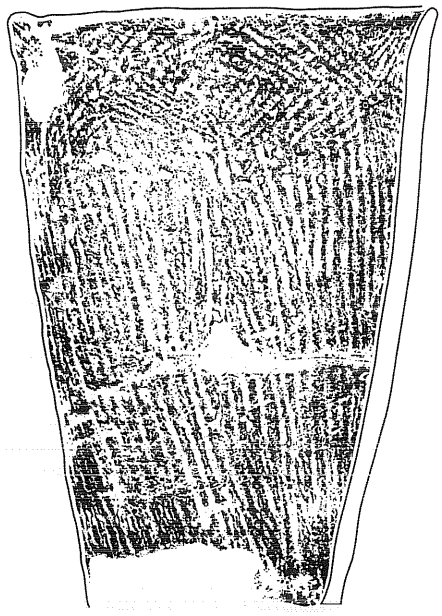
第602図　ＳＴ396・504谷Ⅲ層出土石器（６）



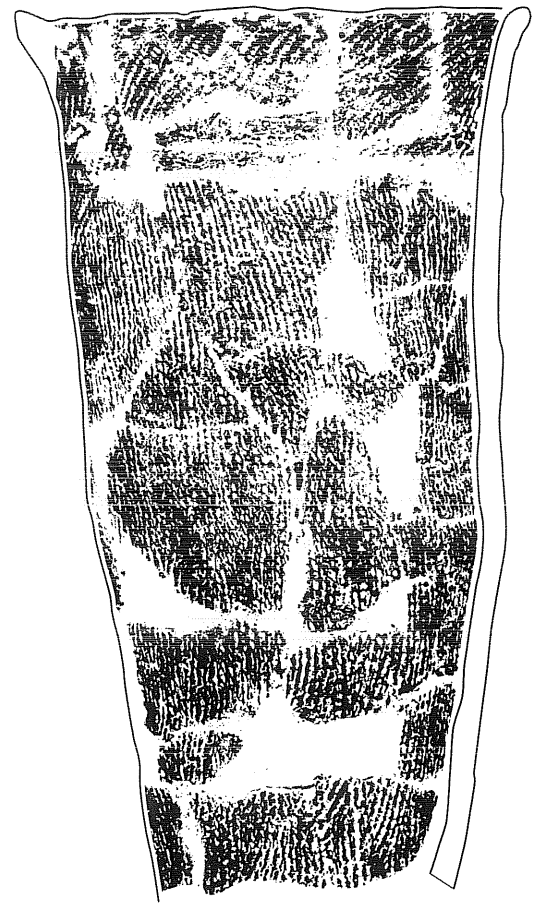
1 (396・504－149)



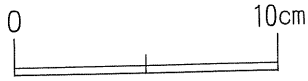
2 (396・504－150)



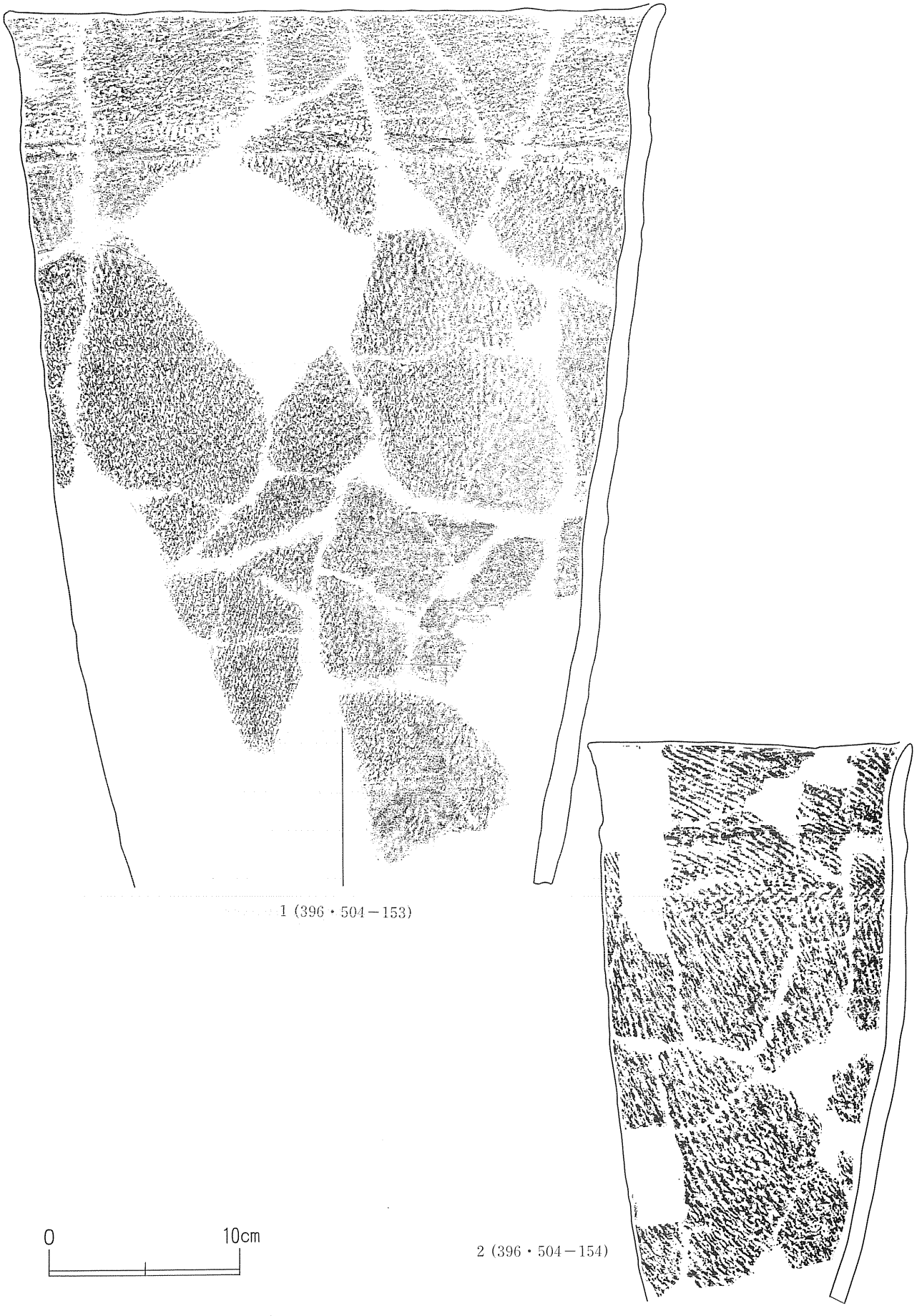
3 (396・504－151)



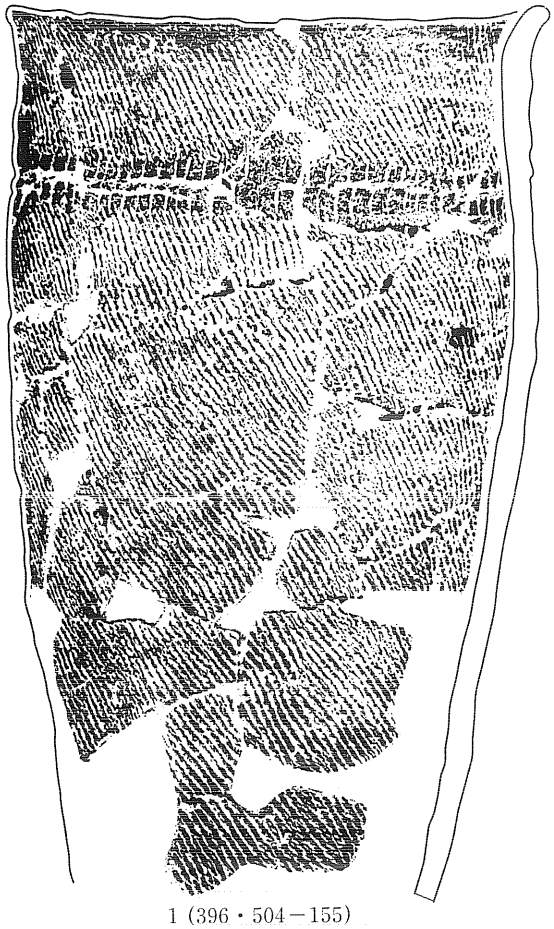
4 (396・504－152)



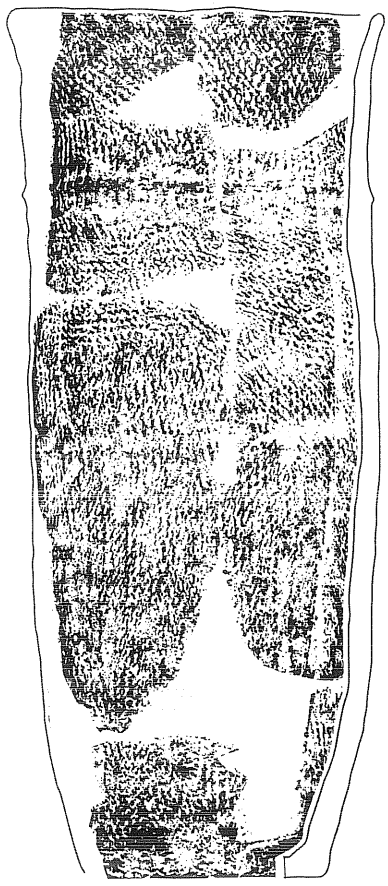
第603図　ＳＴ396・504谷Ⅳ層出土土器（１）



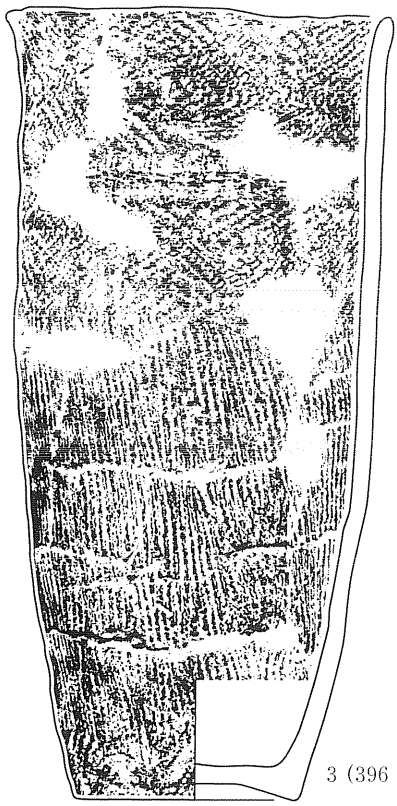
第604図　ＳＴ396・504谷Ⅳ層出土土器（２）



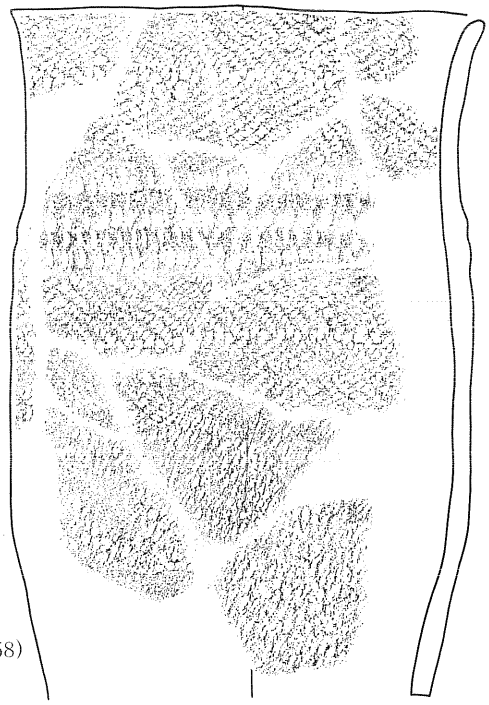
1（396・504－155）



2（396・504－156）



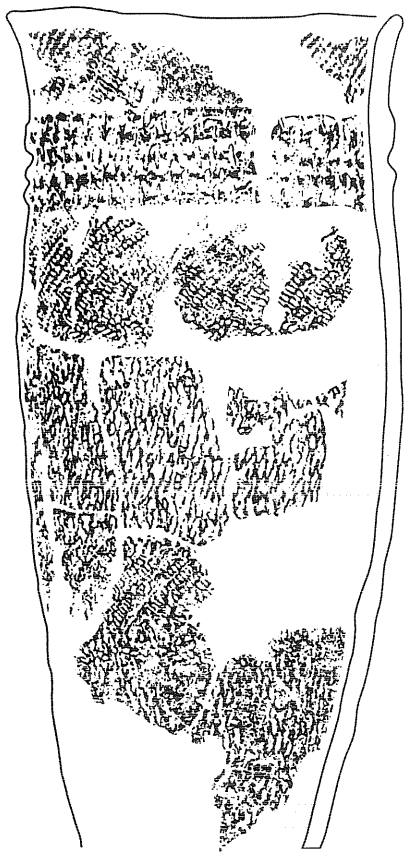
3（396・504－157）



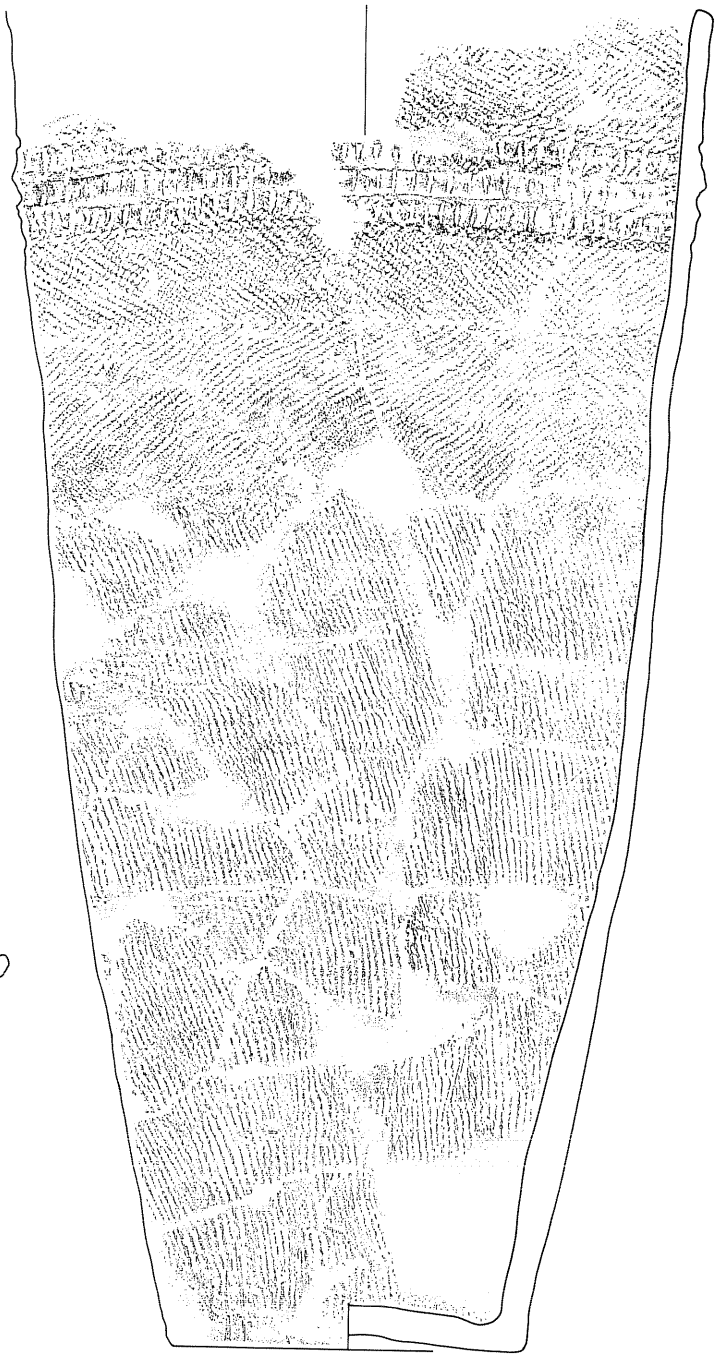
4（396・504－158）

0　10cm

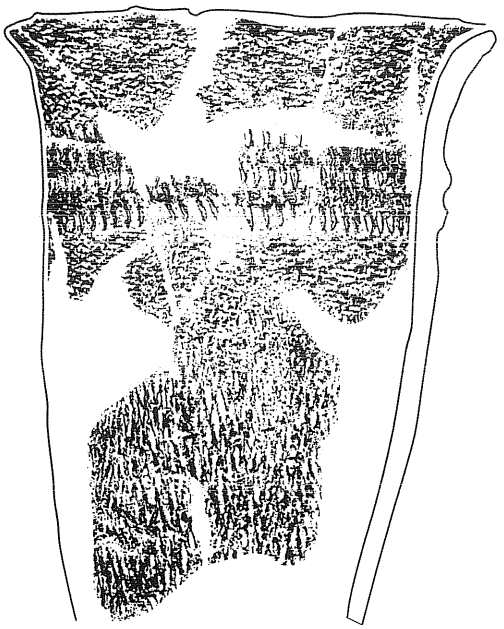
第605図　ＳＴ396・504谷Ⅳ層出土土器（３）



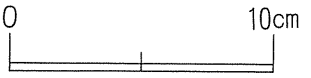
1（396・504－159）



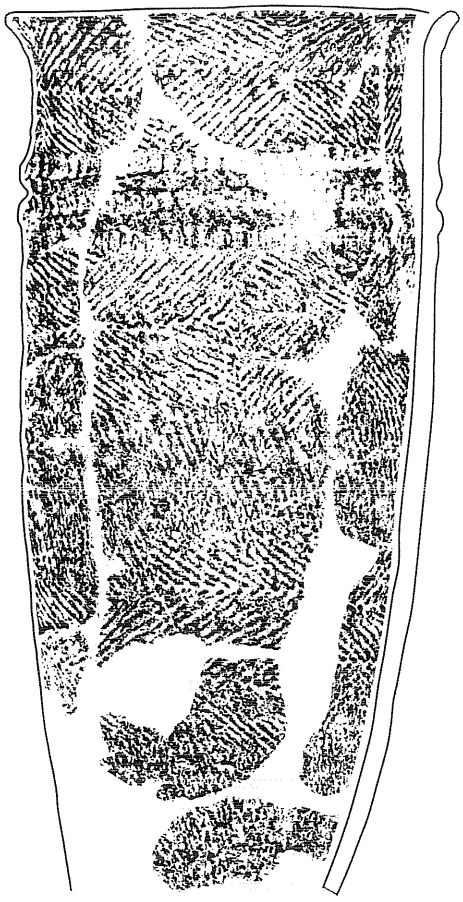
2（396・504－160）



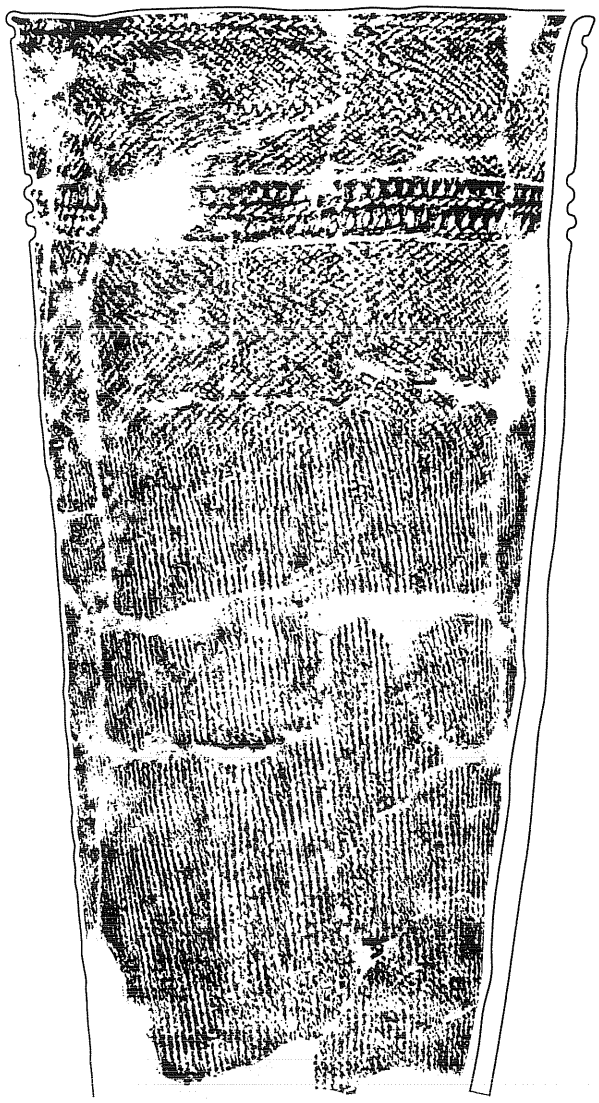
3（396・504－161）



第606図　ＳＴ396・504谷Ⅳ層出土土器（４）



1（396・504－162）

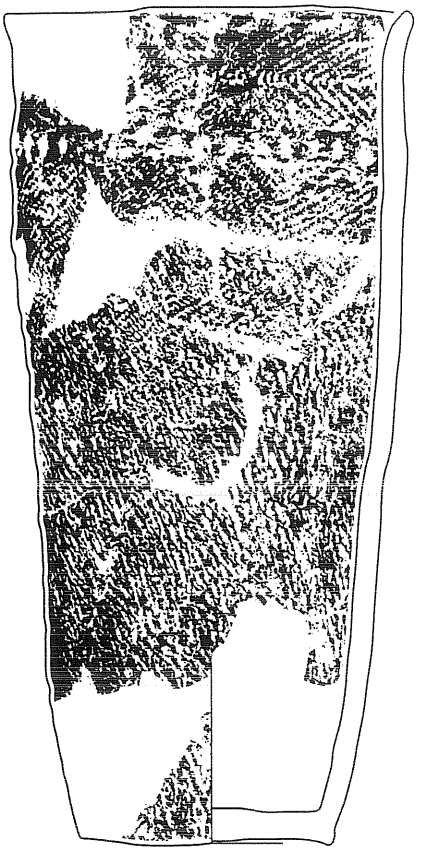


2（396・504－163）

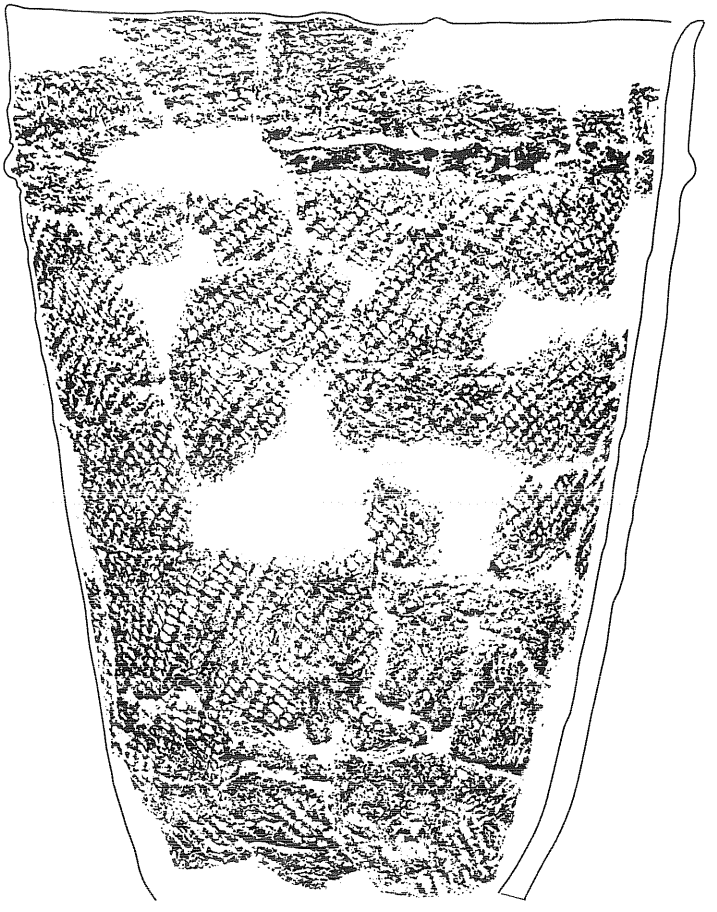
3（396・504－164）

0　10cm

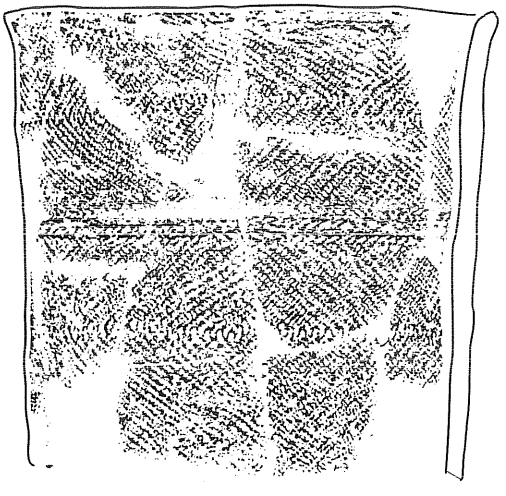
第607図　ＳＴ396・504谷Ⅳ層出土土器（５）



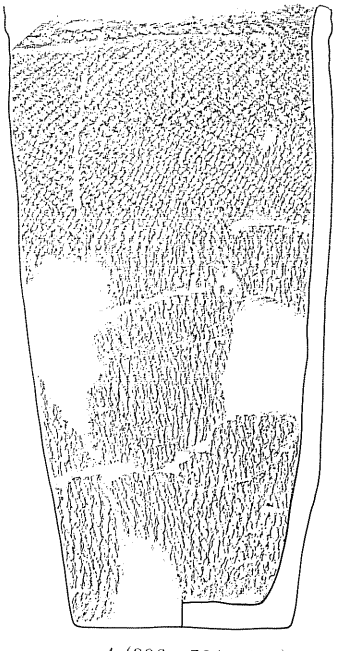
1（396・504－165）



2（396・504－166）



3（396・504－167）

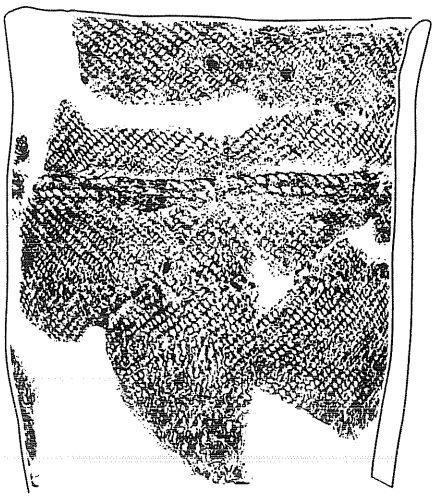


4（396・504－168）

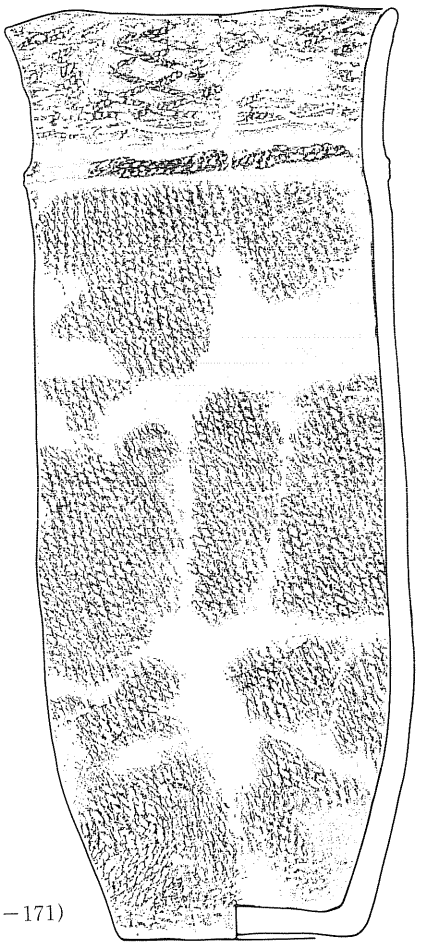
0　10cm

第608図　ＳＴ396・504谷Ⅳ層出土土器（６）

1（396・504－169）



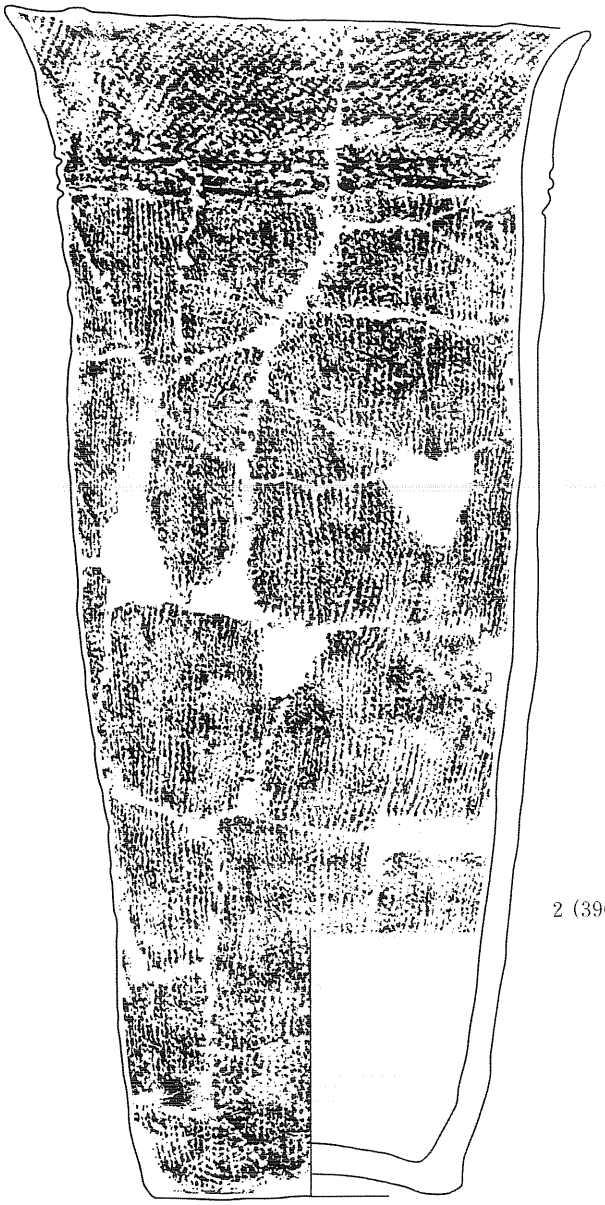
2（396・504－170）



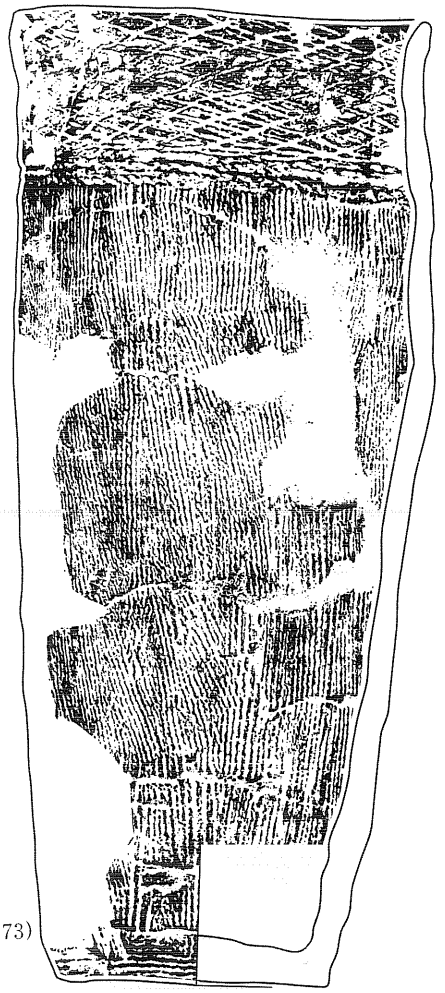
3（396・504－171）

0　10cm

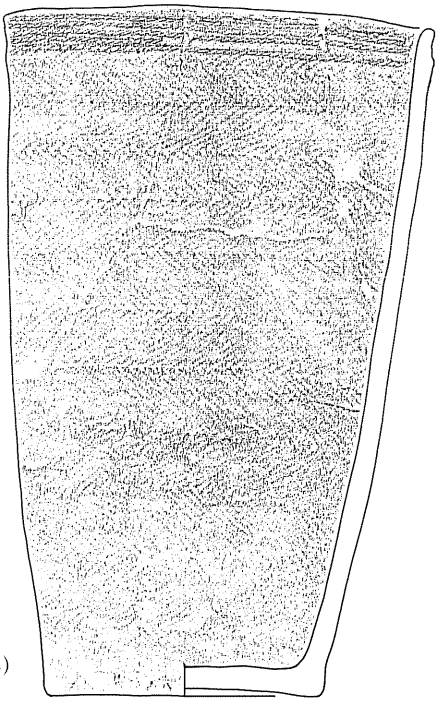
第609図　ＳＴ396・504谷Ⅳ層出土土器（７）



1（396・504－172）



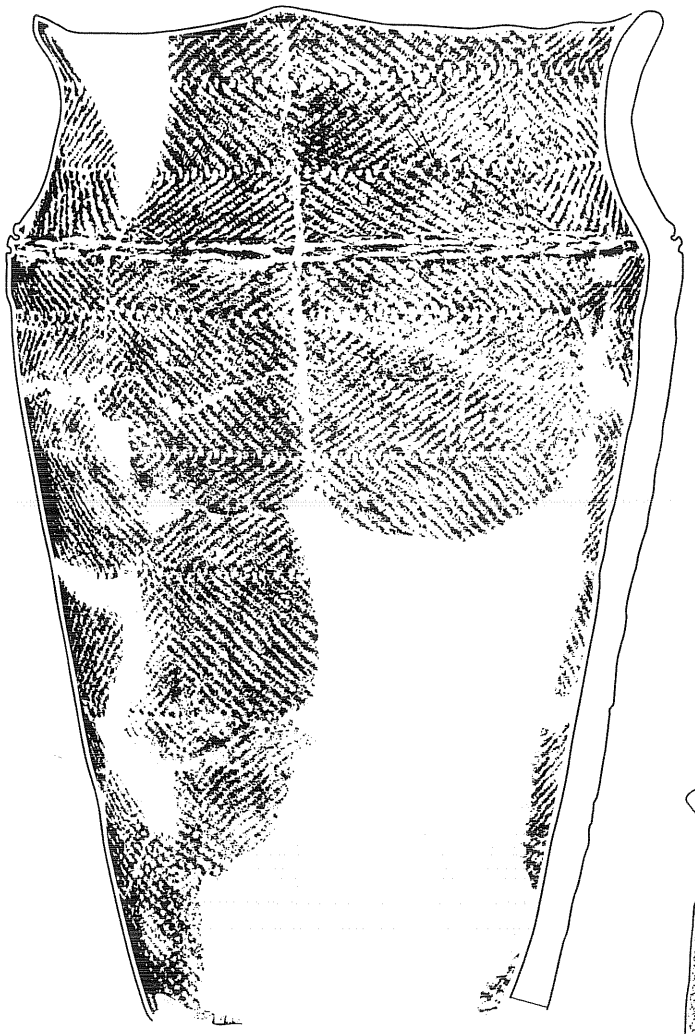
2（396・504－173）



3（396・504－174）

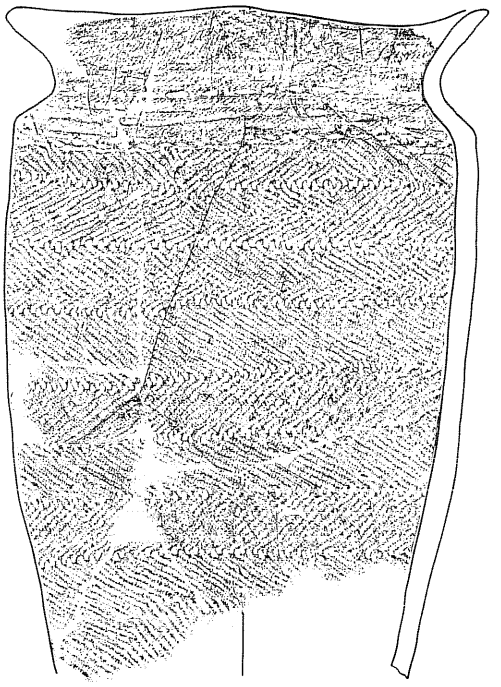
0　10cm

第610図　ＳＴ396・504谷Ⅳ層出土土器（８）

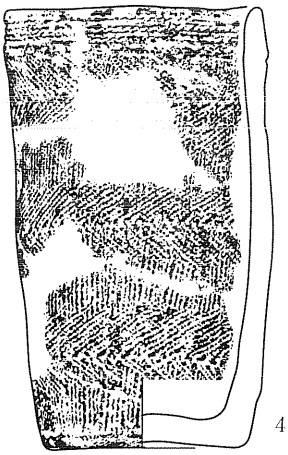


1（396・504－175）

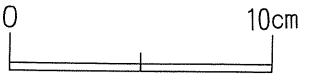
2（396・504－176）



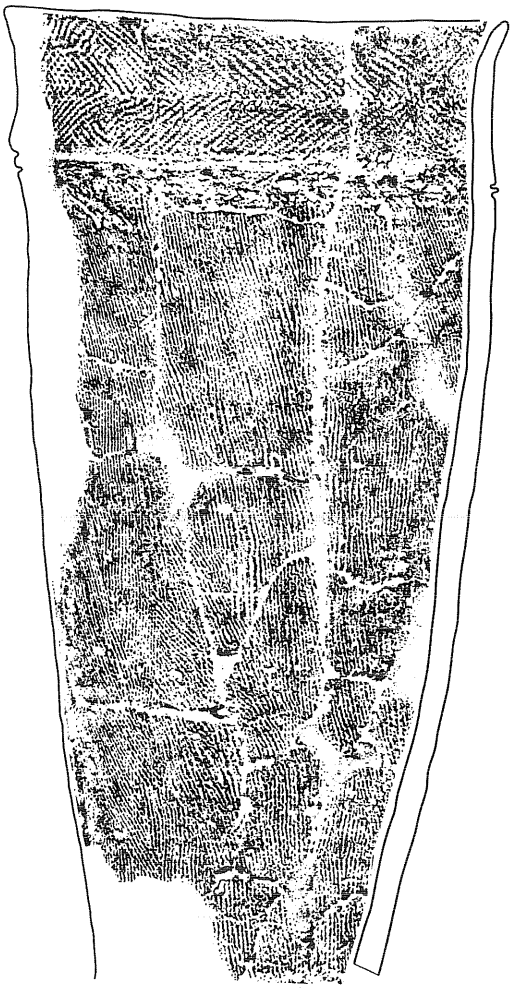
3（396・504－177）



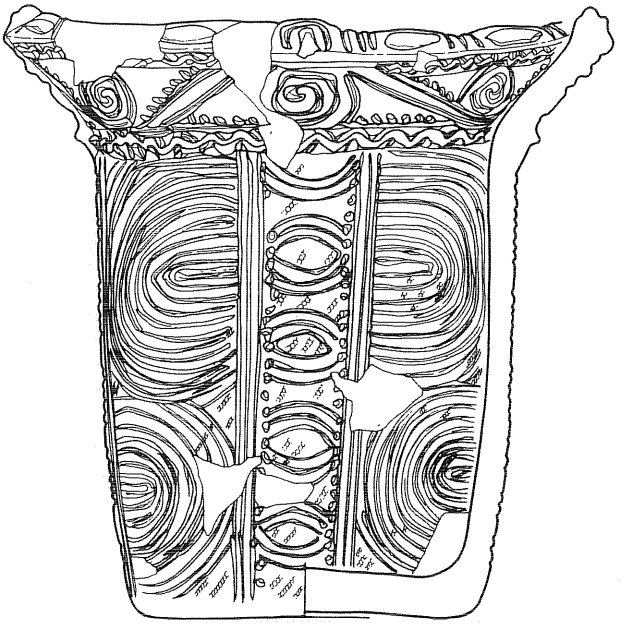
4（396・504－178）



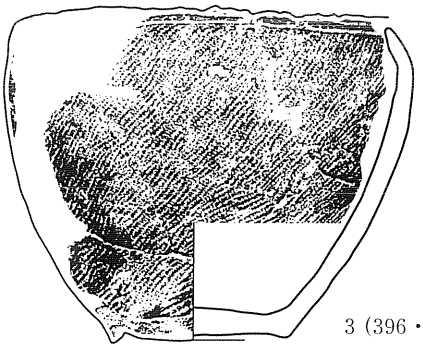
第611図　ＳＴ396・504谷Ⅳ層出土土器（９）



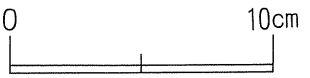
1（396・504－179）



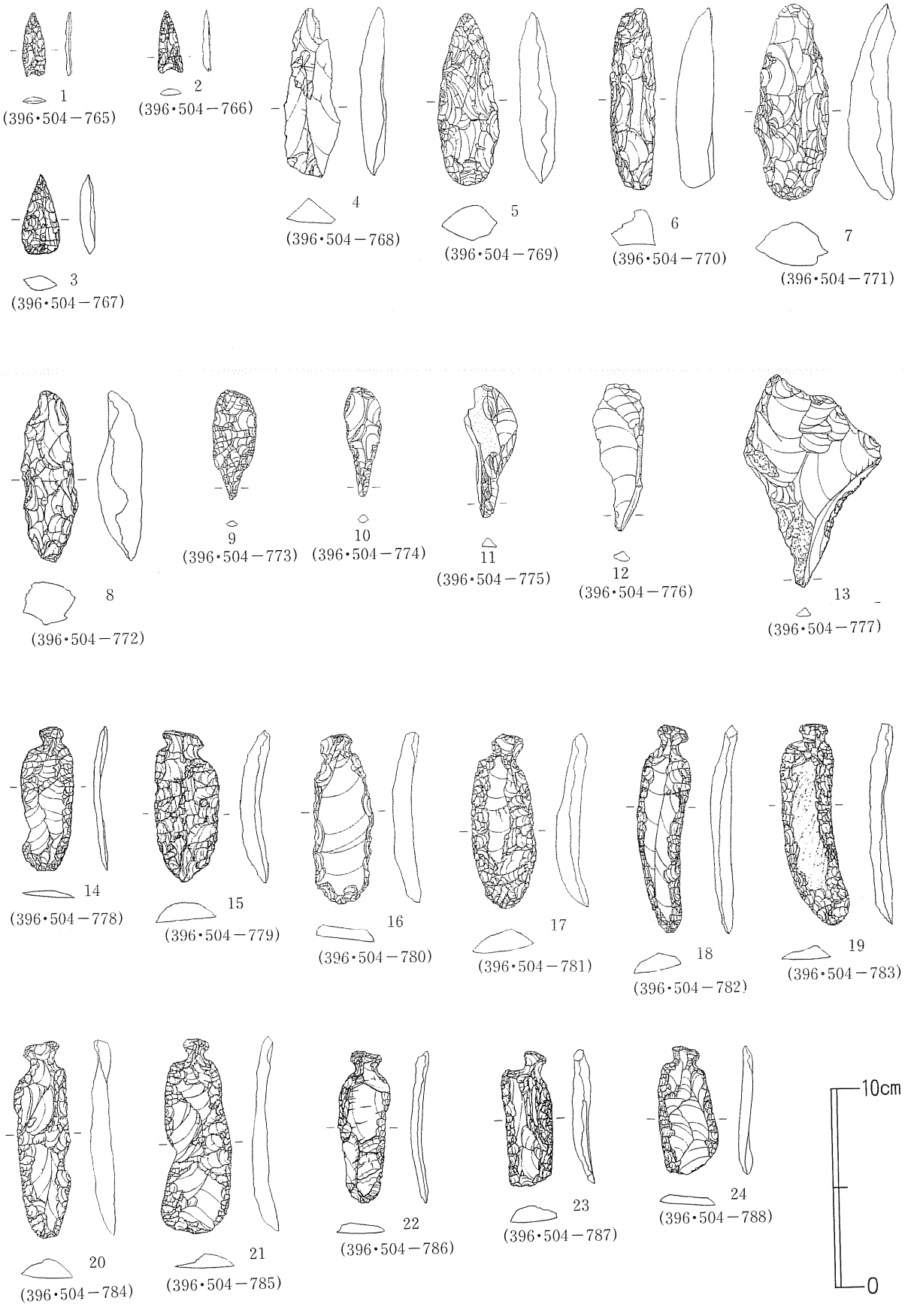
2（396・504－180）



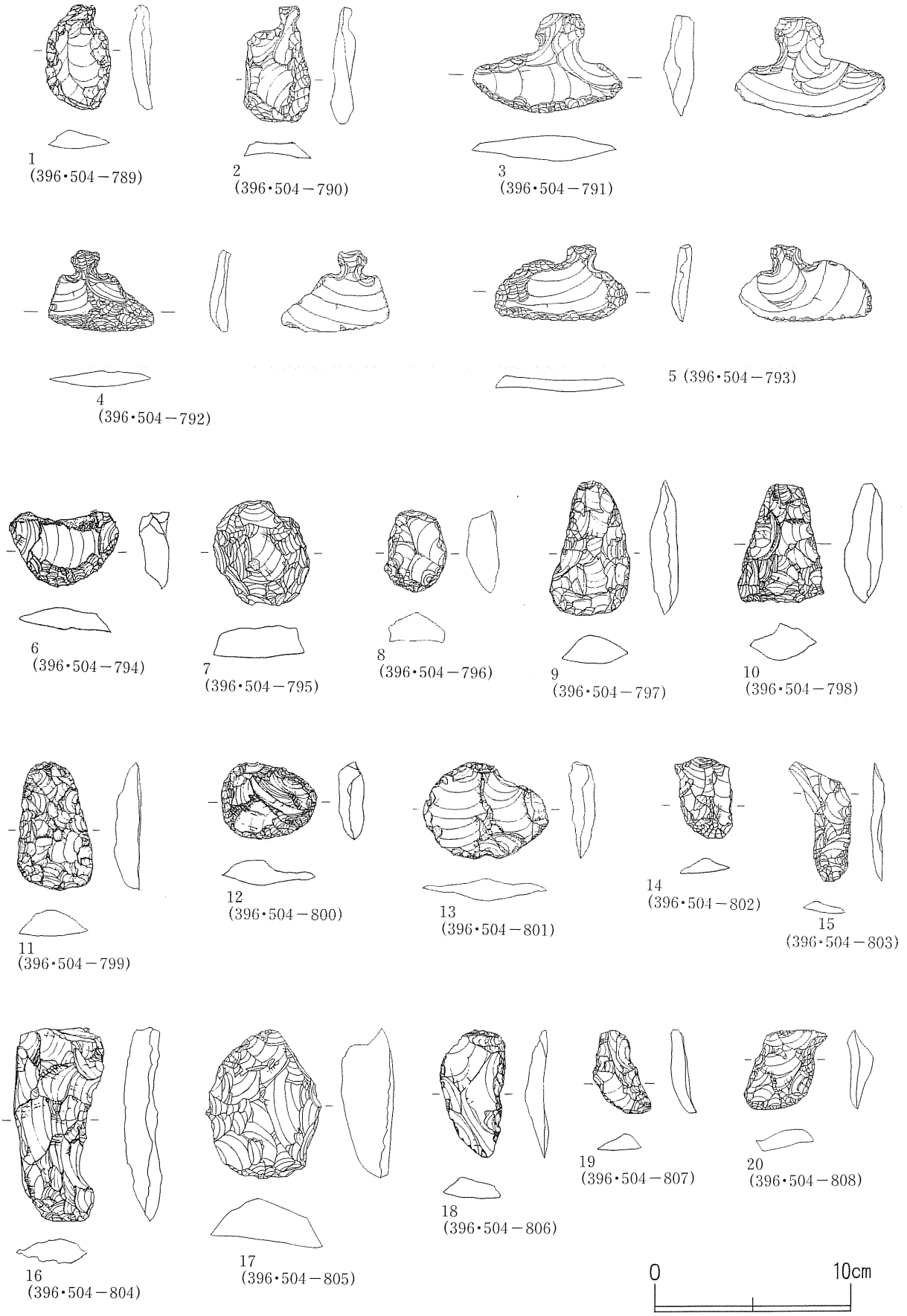
3（396・504－181）



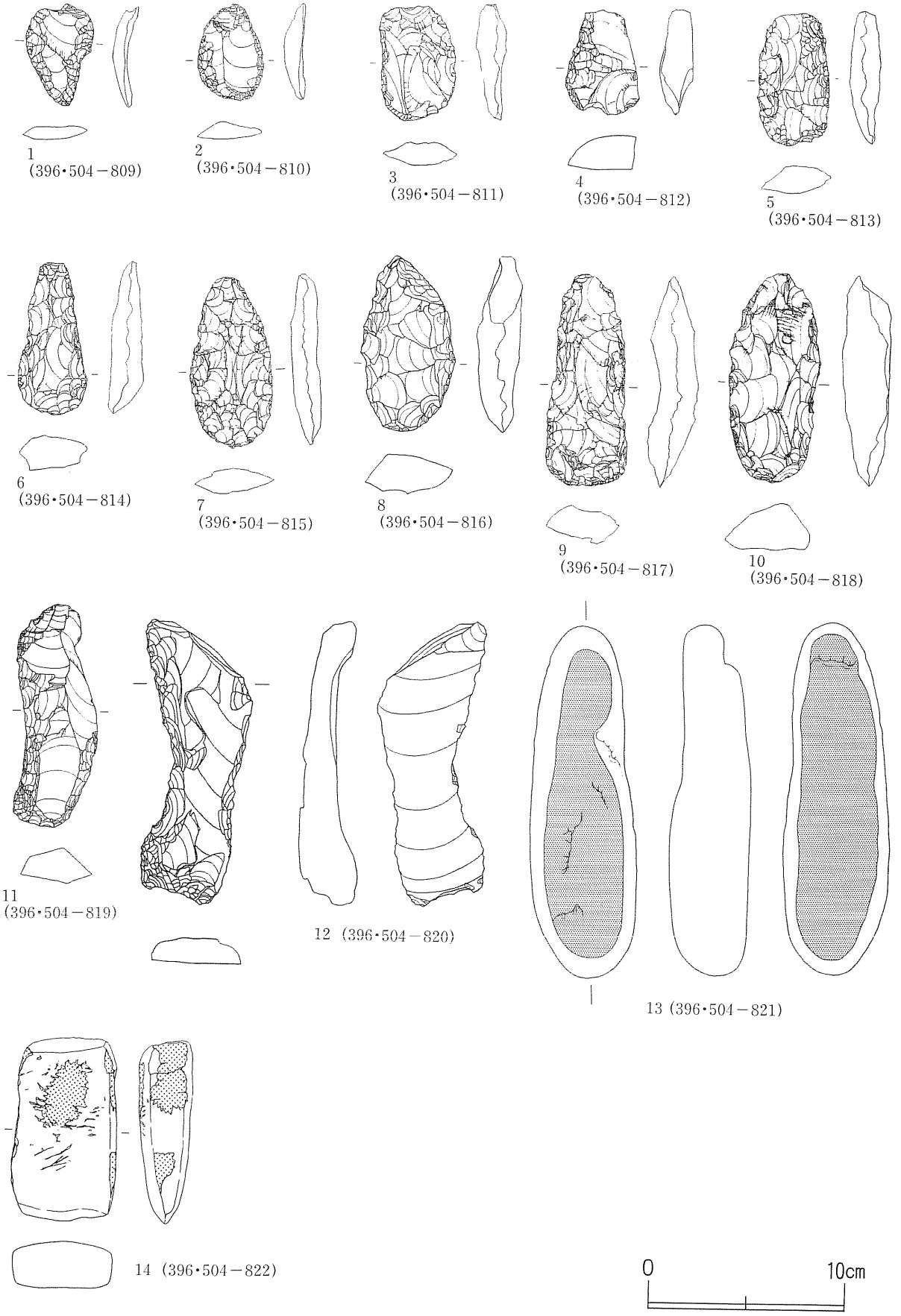
第612図　ＳＴ396・504谷Ⅳ層出土土器（10）



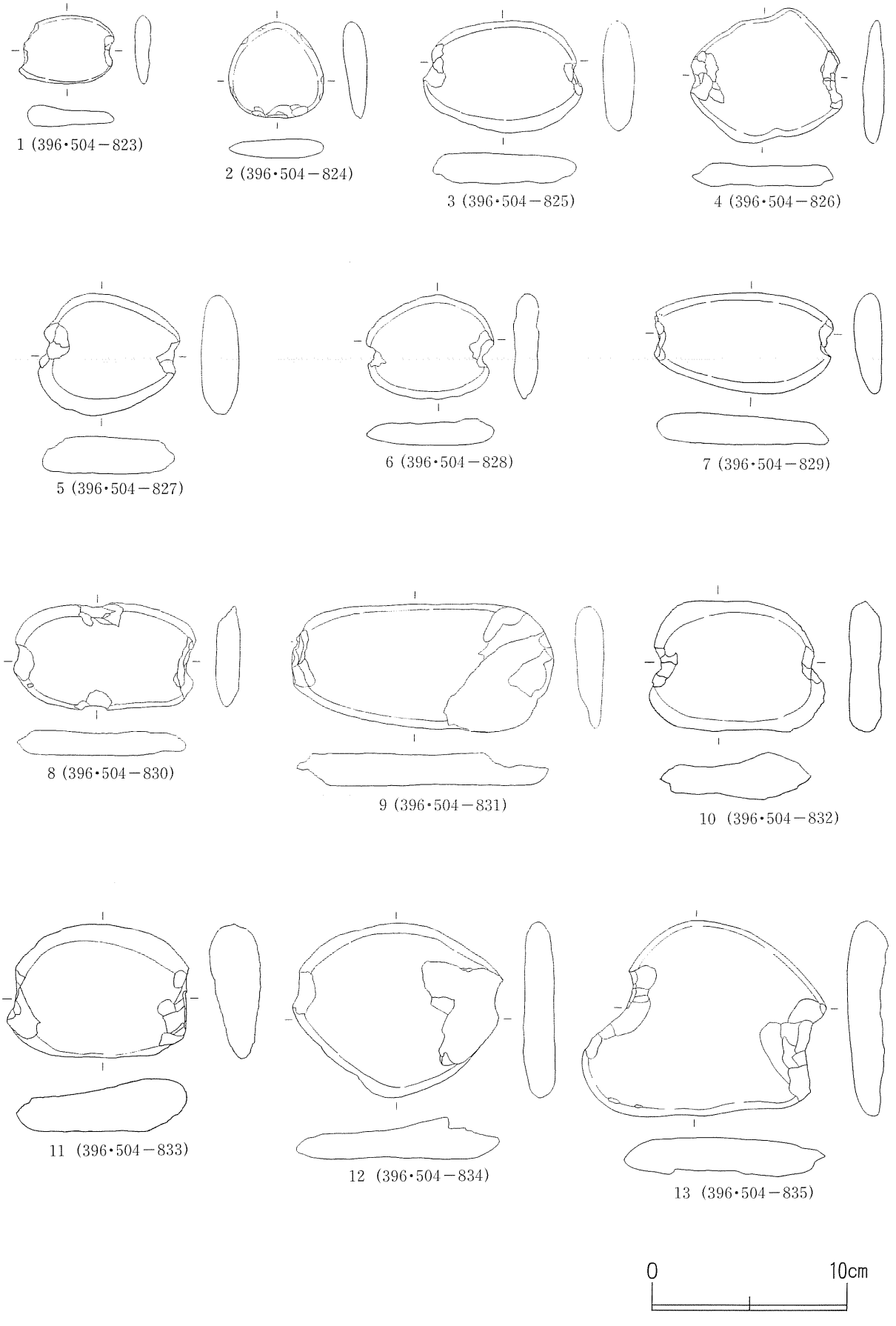
第613図　ＳＴ396・504谷Ⅳ層出土石器（１）



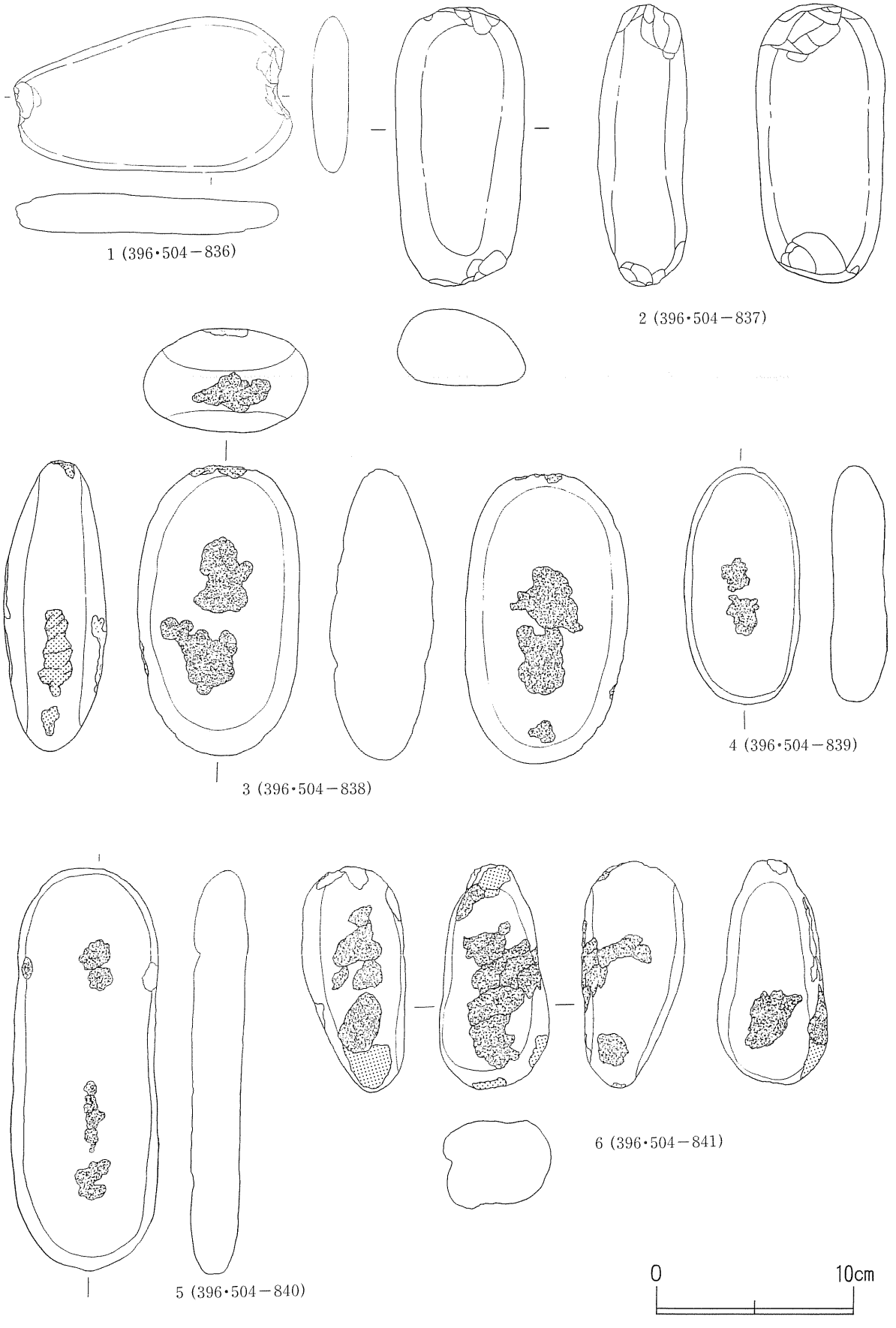
第614図　ＳＴ396・504谷Ⅳ層出土石器（２）



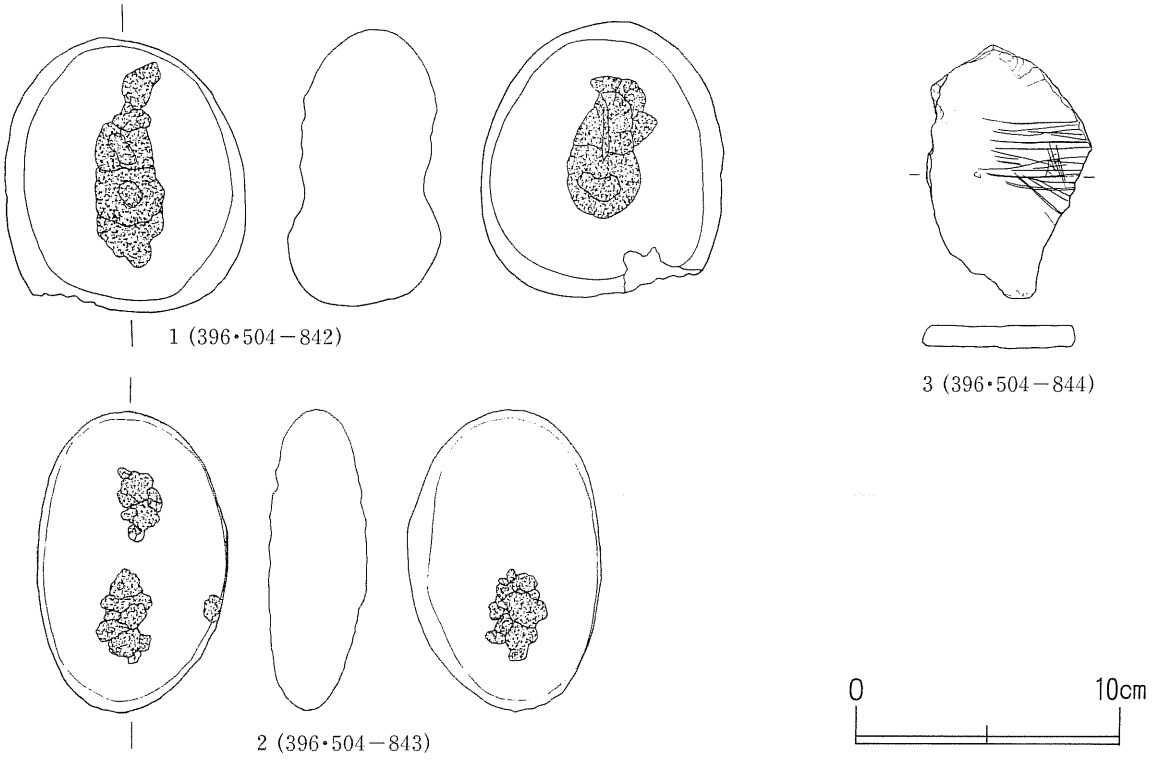
第615図　ＳＴ396・504谷Ⅳ層出土石器（３）



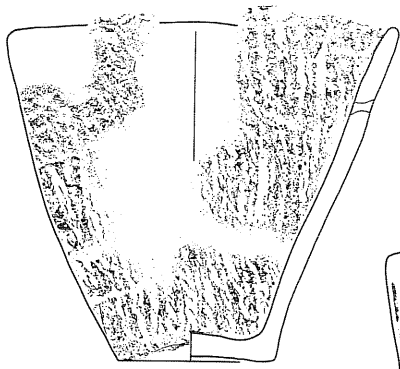
第616図　ＳＴ396・504谷Ⅳ層出土石器（４）



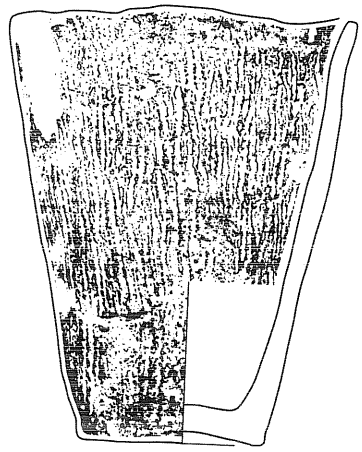
第617図　ＳＴ396・504谷Ⅳ層出土石器（５）



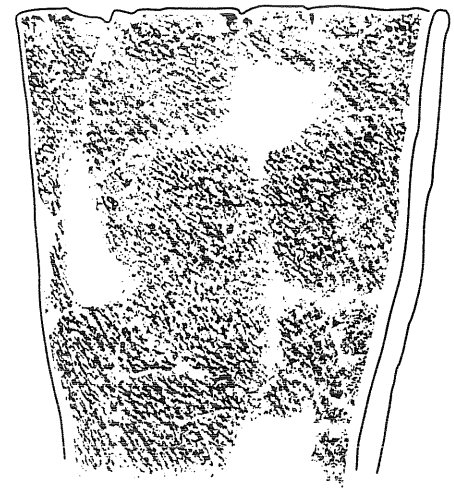
第618図　ＳＴ396・504谷Ⅳ層出土石器（６）



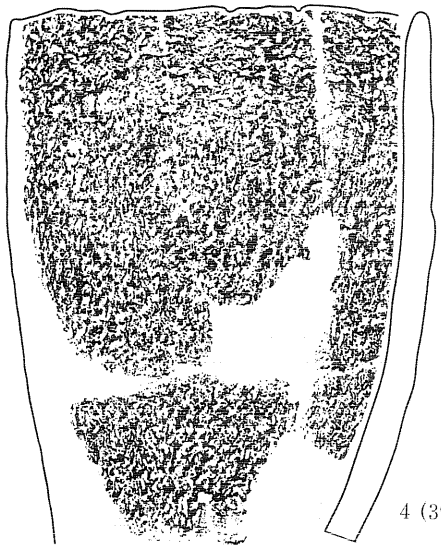
1（396・504－182）



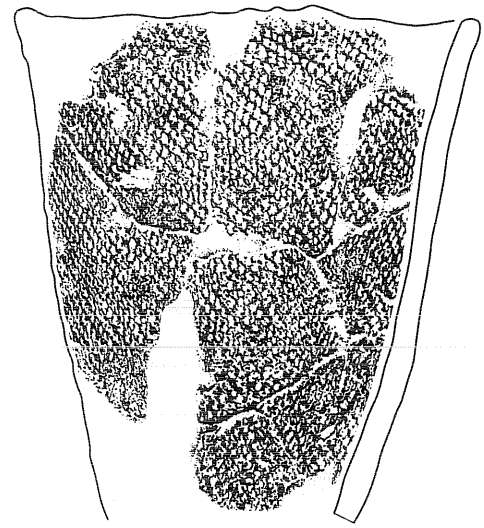
2（396・504－183）



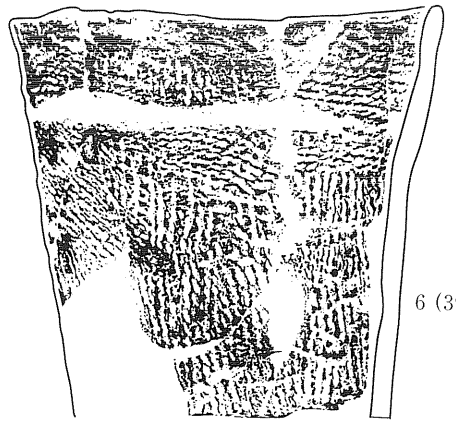
3（396・504－184）



4（396・504－185）



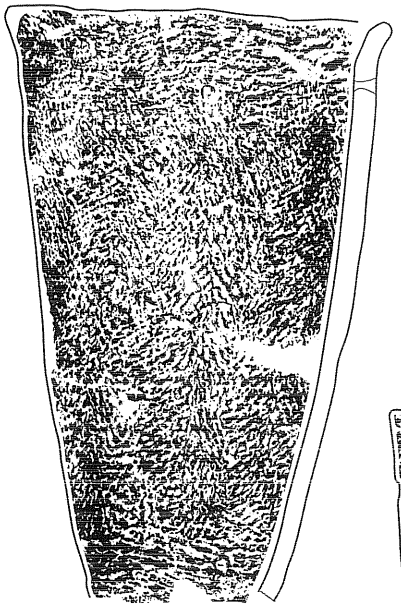
5（396・504－186）



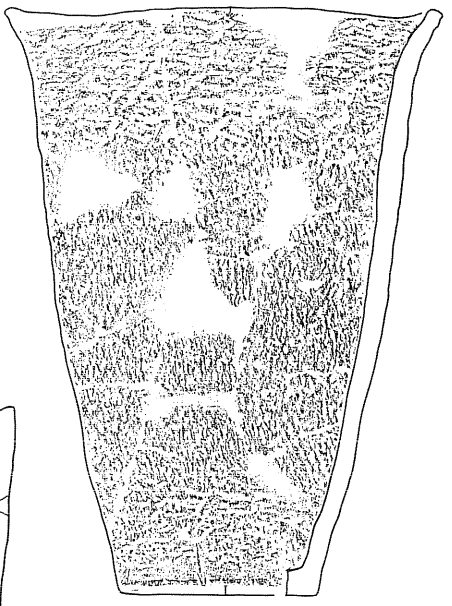
6（396・504－187）

0　10cm

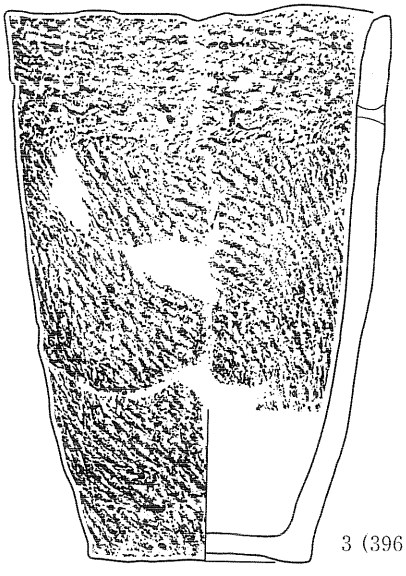
第619図　ＳＴ396・504谷Ⅴ層出土土器（１）



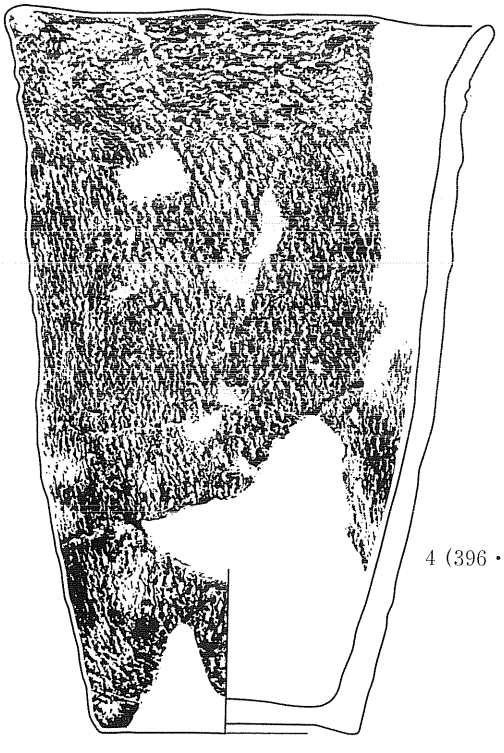
1（396・504－188）



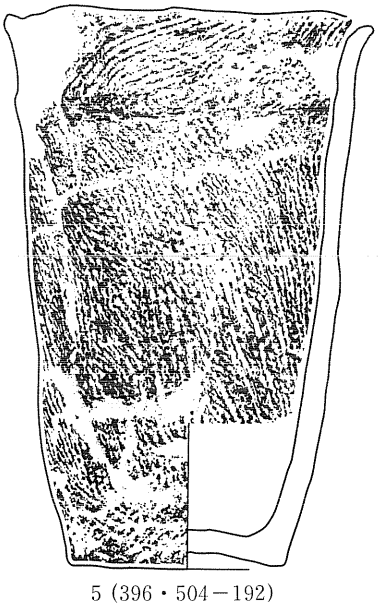
2（396・504－189）



3（396・504－190）



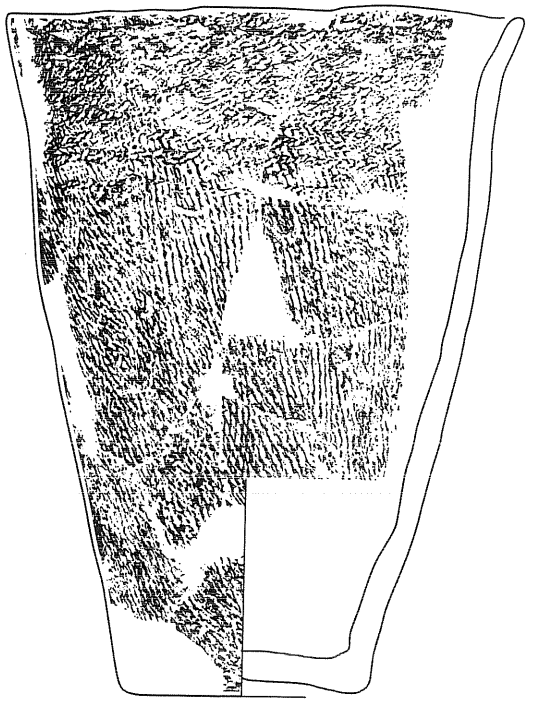
4（396・504－191）



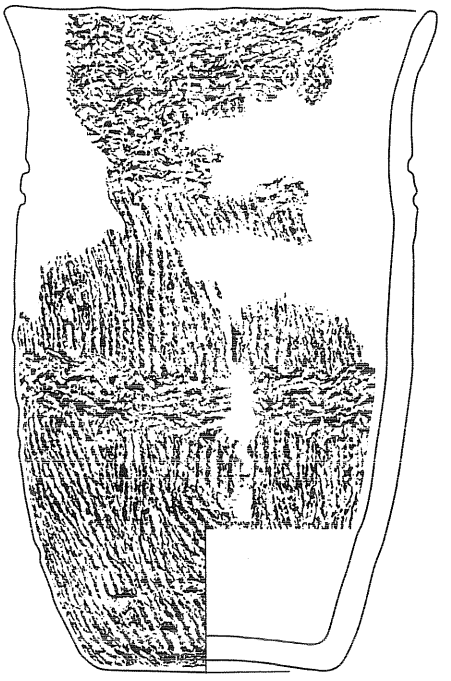
5（396・504－192）

0　10cm

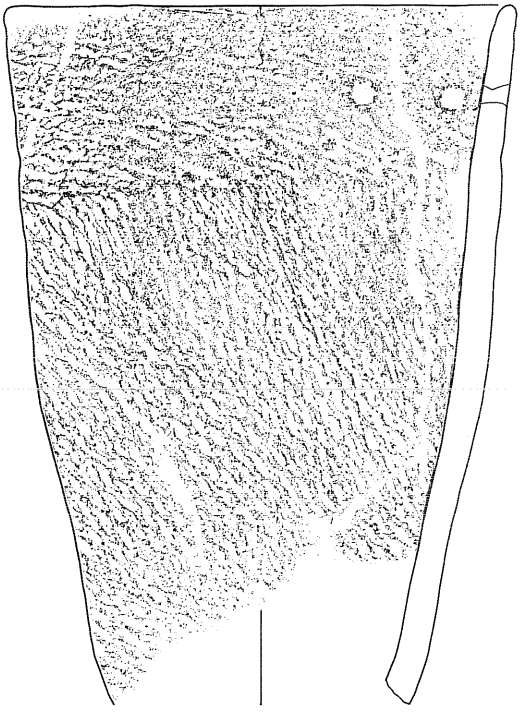
第620図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（２）



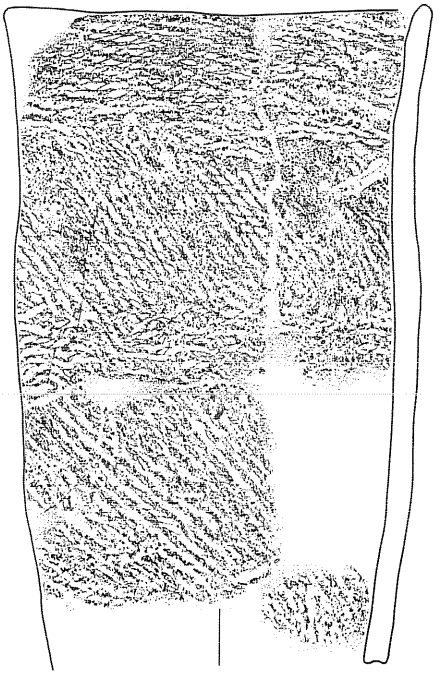
1（396・504－193）



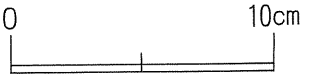
2（396・504－194）



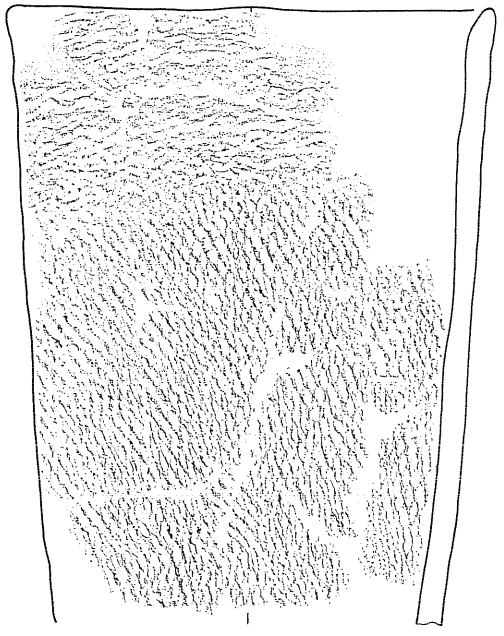
3（396・504－195）



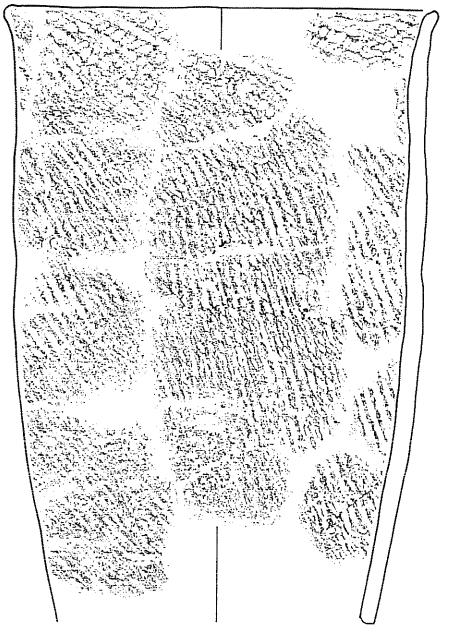
4（396・504－196）



第621図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（３）

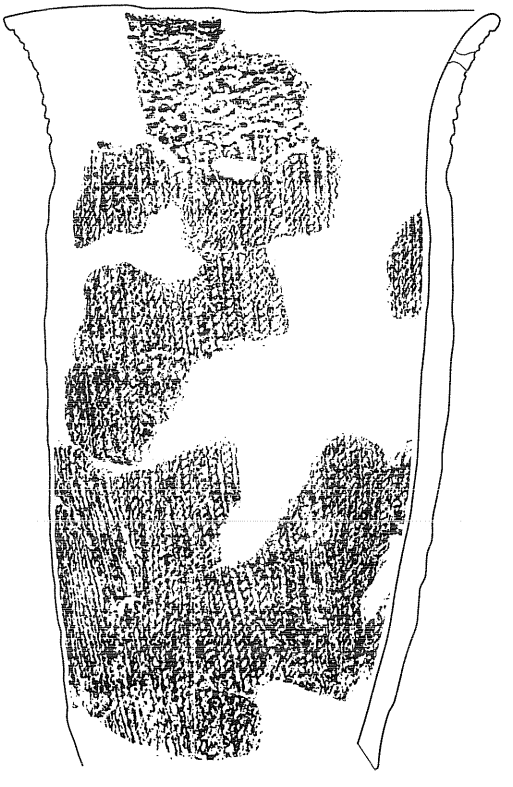


1（396・504－197）



2（396・504－198）

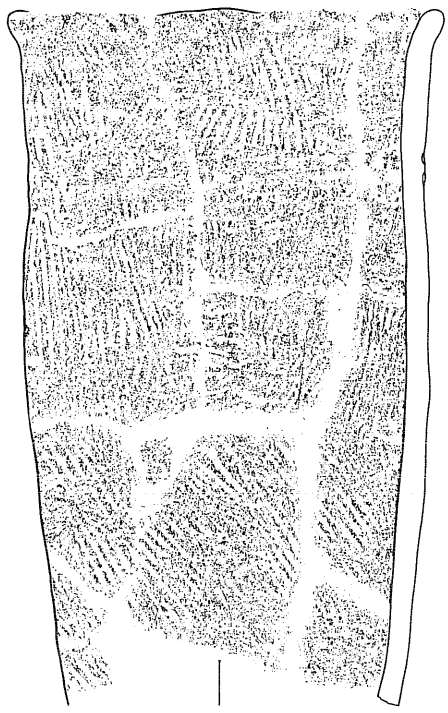
3（396・504－199）



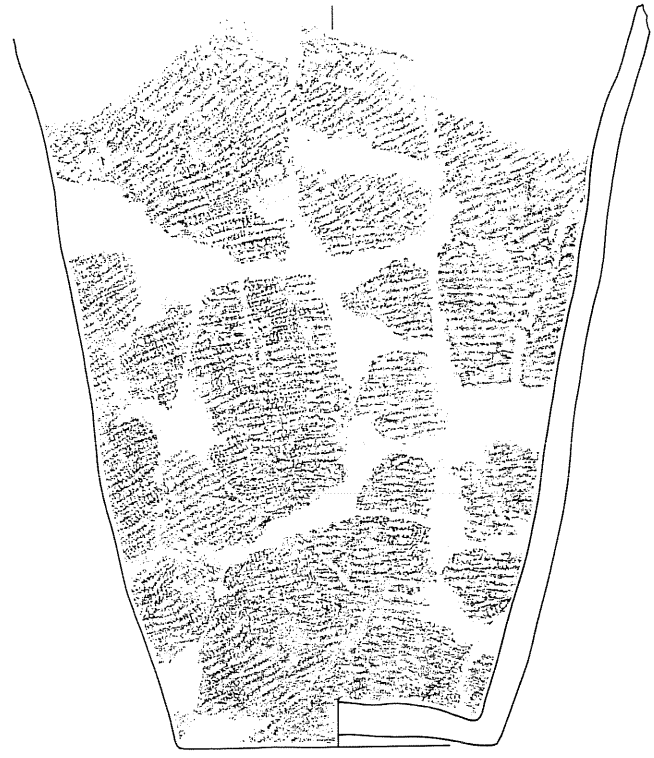
4（396・504－200）

0　10cm

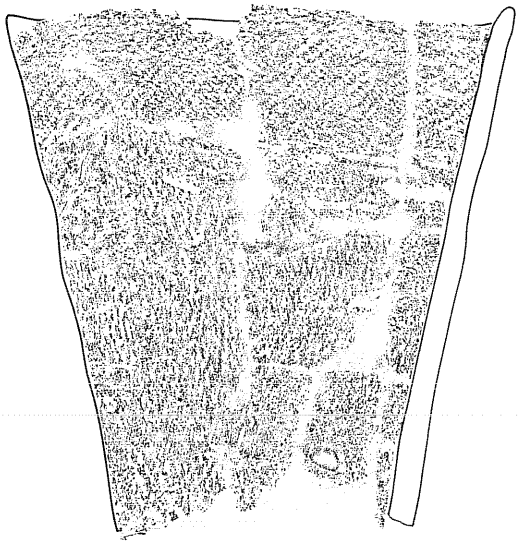
第622図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（４）



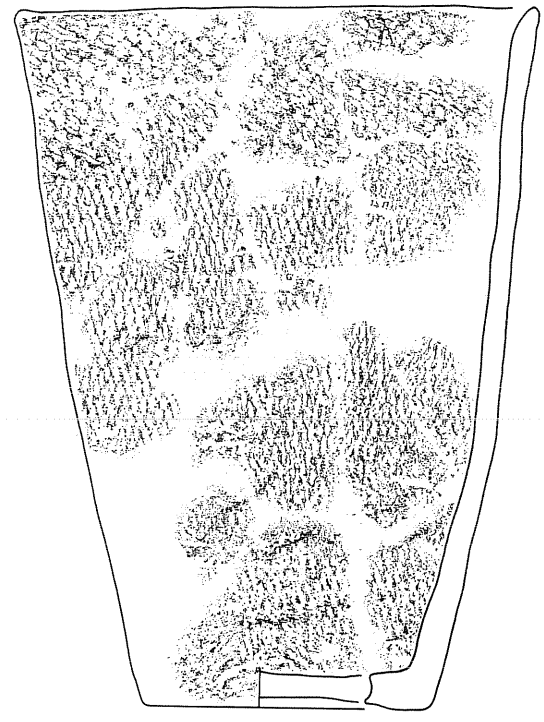
1（396・504－201）



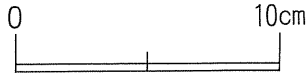
2（396・504－202）



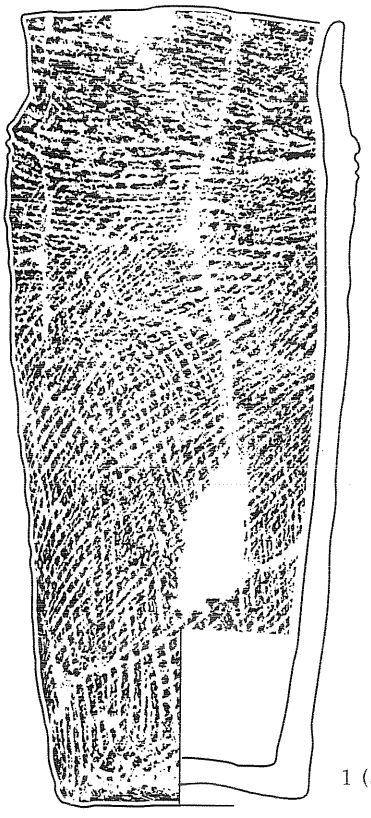
3（396・504－203）



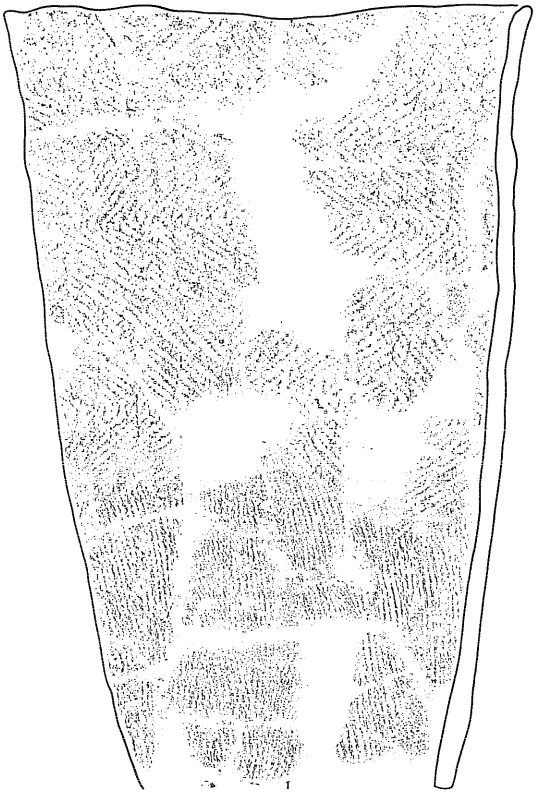
4（396・504－204）



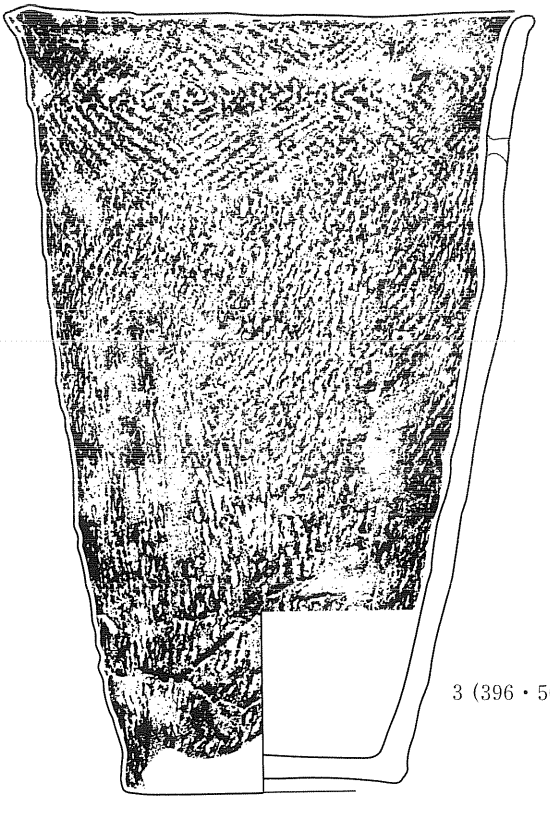
第623図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（５）



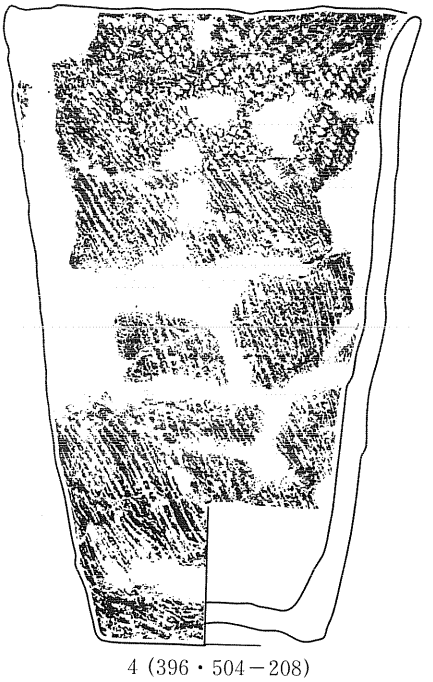
1（396・504－205）



2（396・504－206）



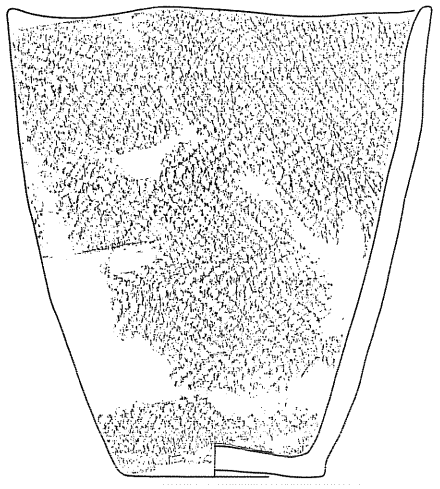
3（396・504－207）



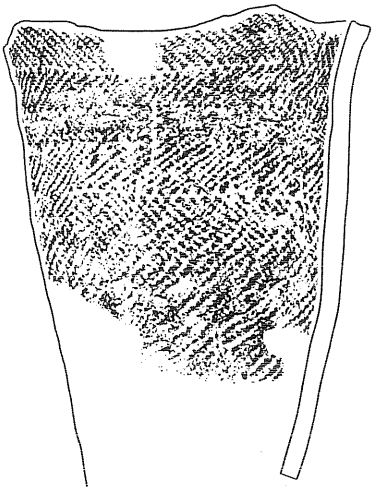
4（396・504－208）

0　10cm

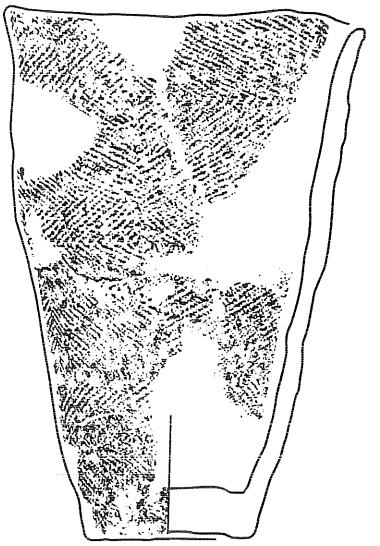
第624図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（６）



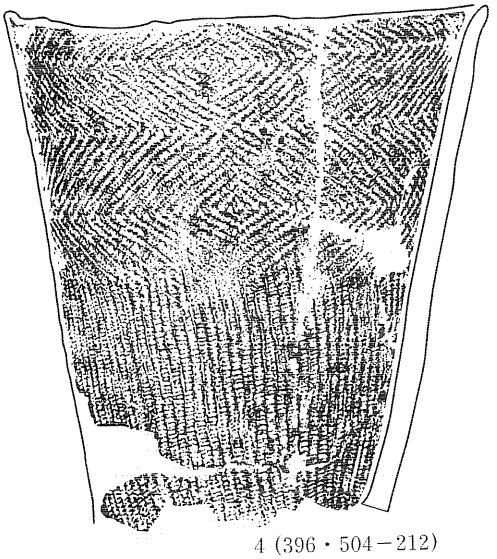
1 (396・504－209)



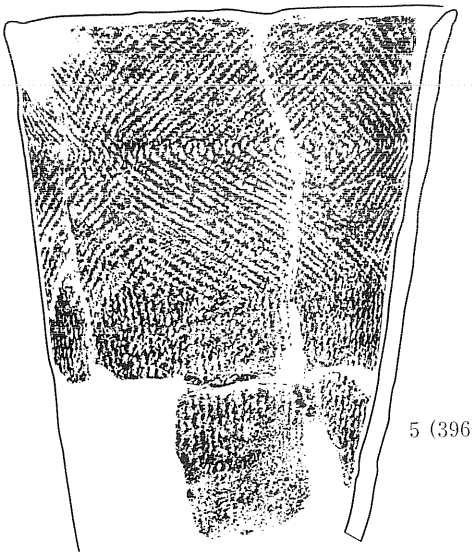
2 (396・504－210)



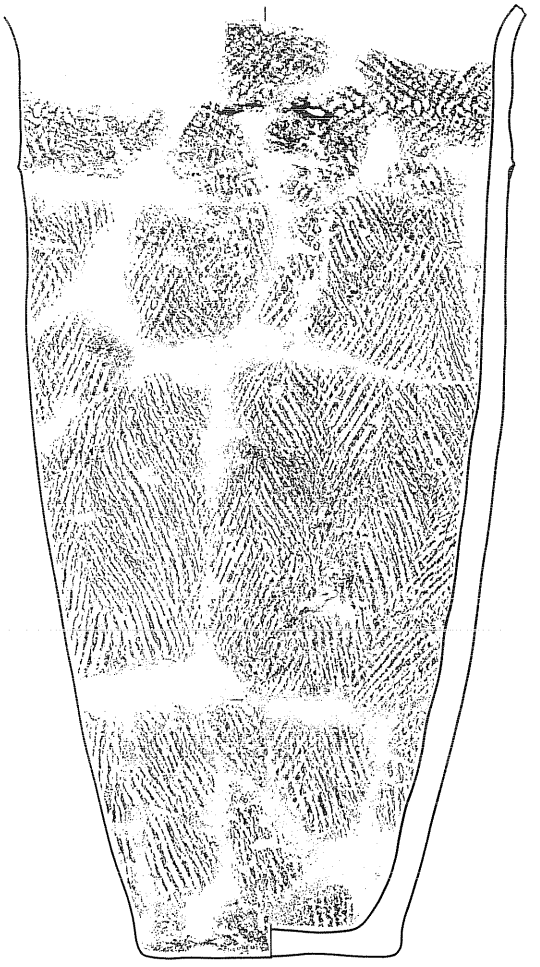
3 (396・504－211)



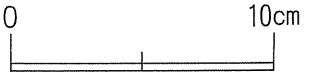
4 (396・504－212)



5 (396・504－213)

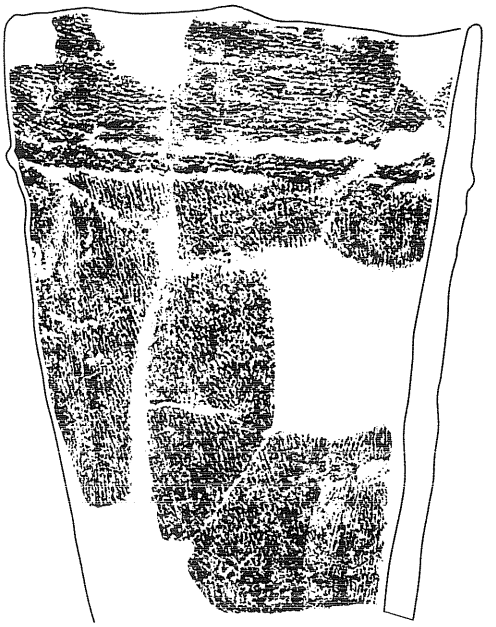


6 (396・504－214)

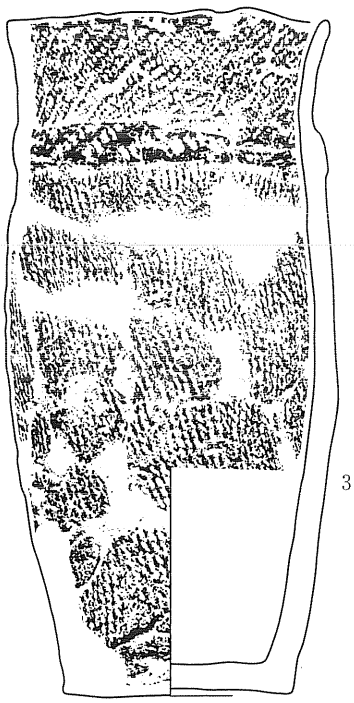


第625図　ＳＴ396・504谷Ⅴ層出土土器（７）

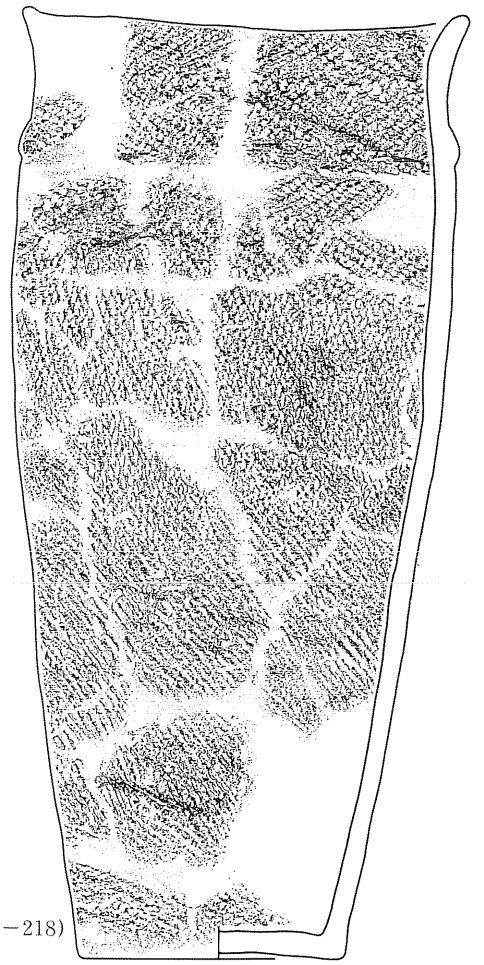
1（396・504－215）



2（396・504－216）



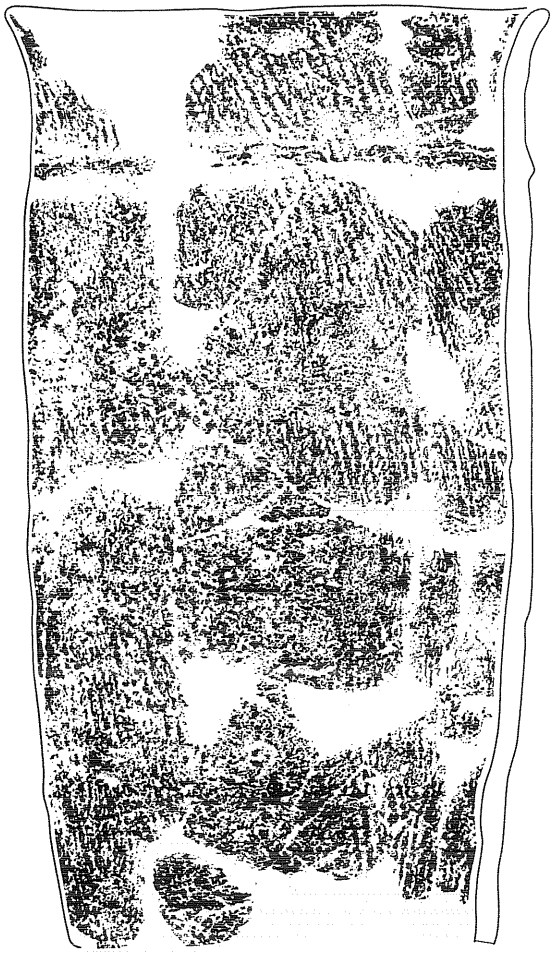
3（396・504－217）



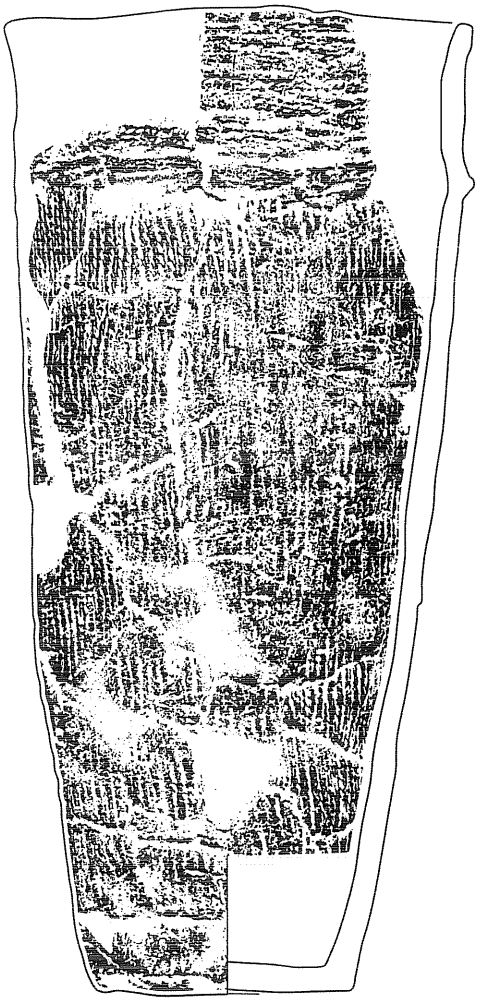
4（396・504－218）

0　10cm

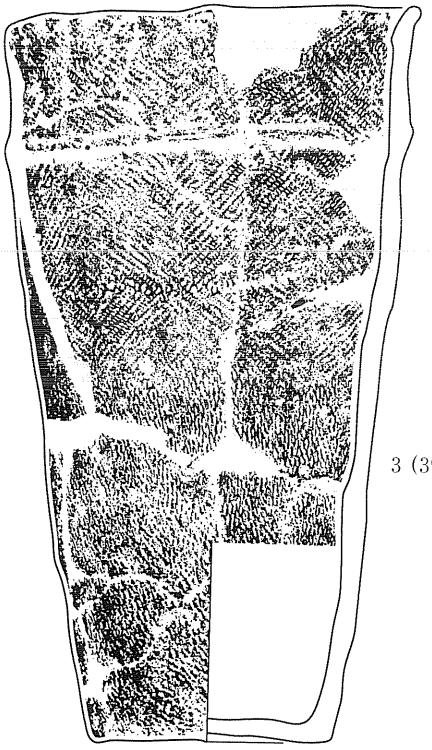
第626図　ＳＴ396・504谷Ⅴ層出土土器（８）



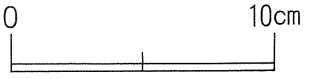
1（396・504－219）



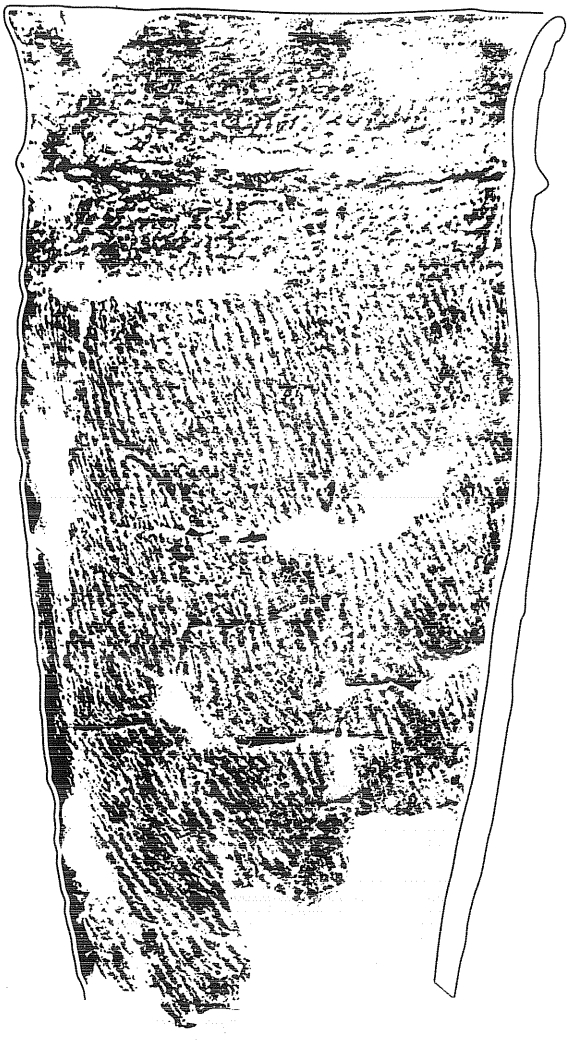
2（396・504－220）



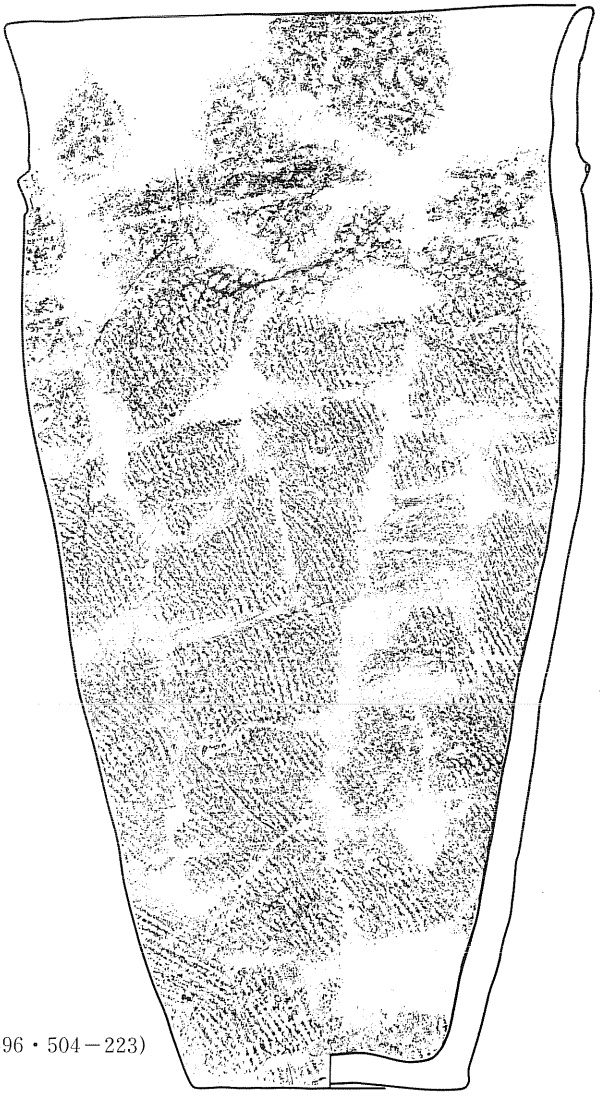
3（396・504－221）



第627図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（９）



1（396・504－222）

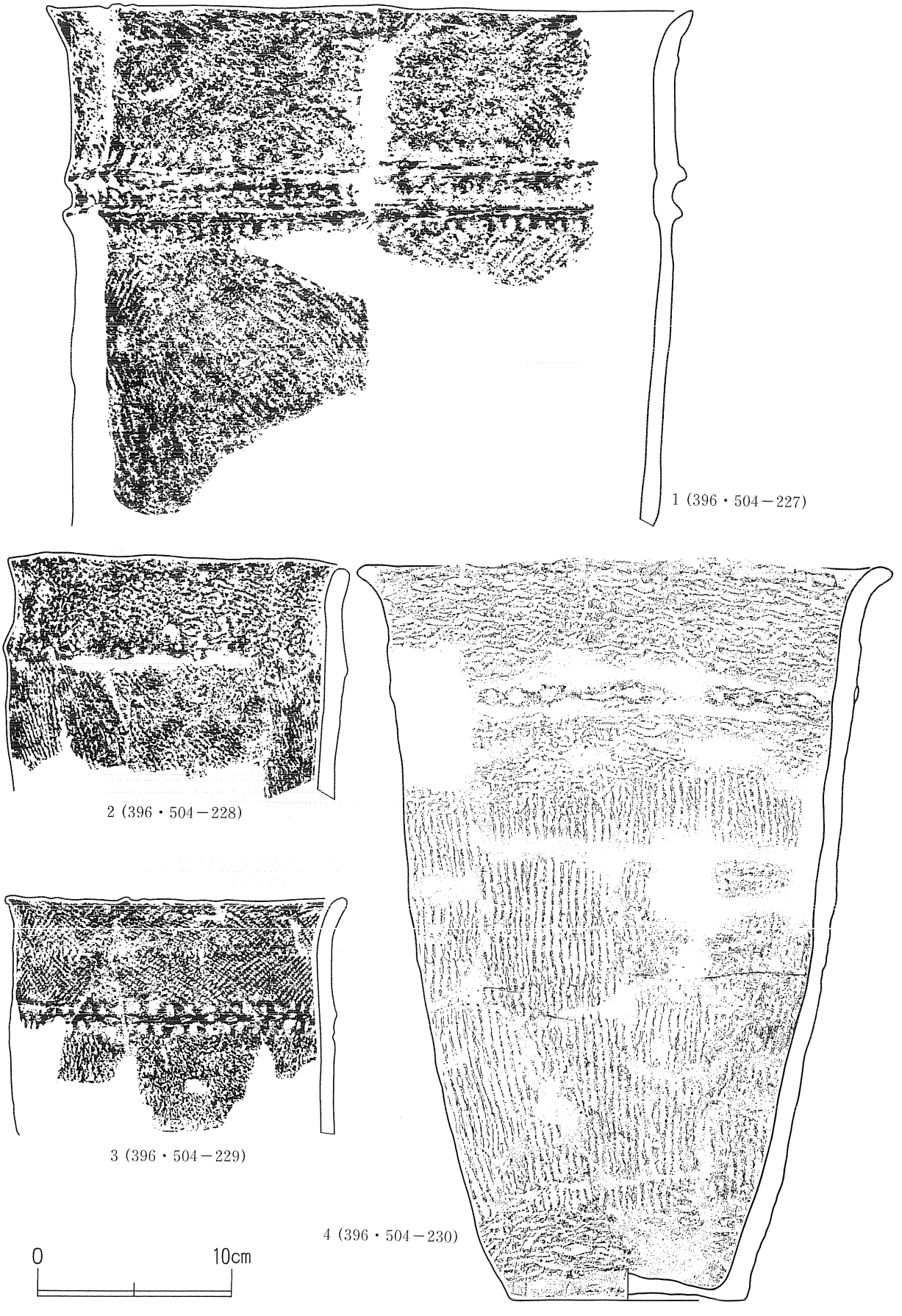


2（396・504－223）

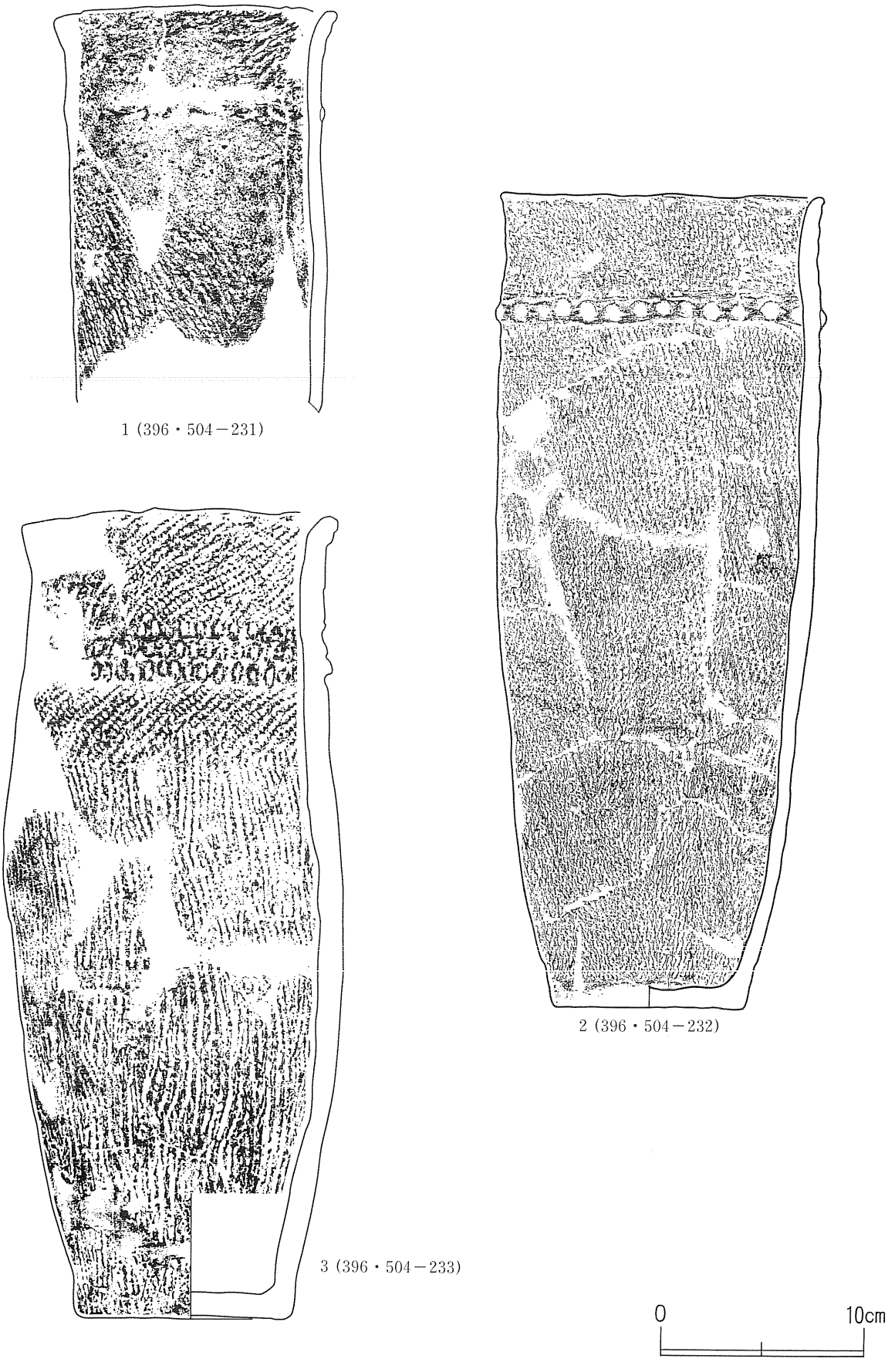
0　10cm

第628図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（10）

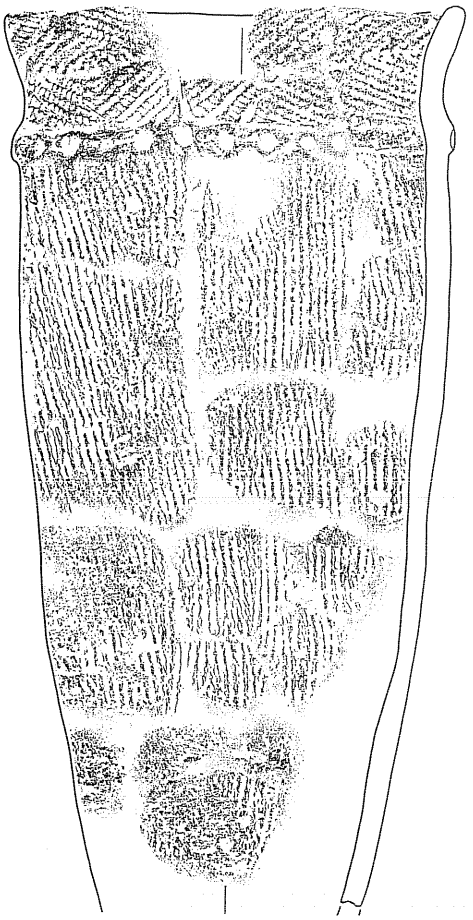
第629図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（11）



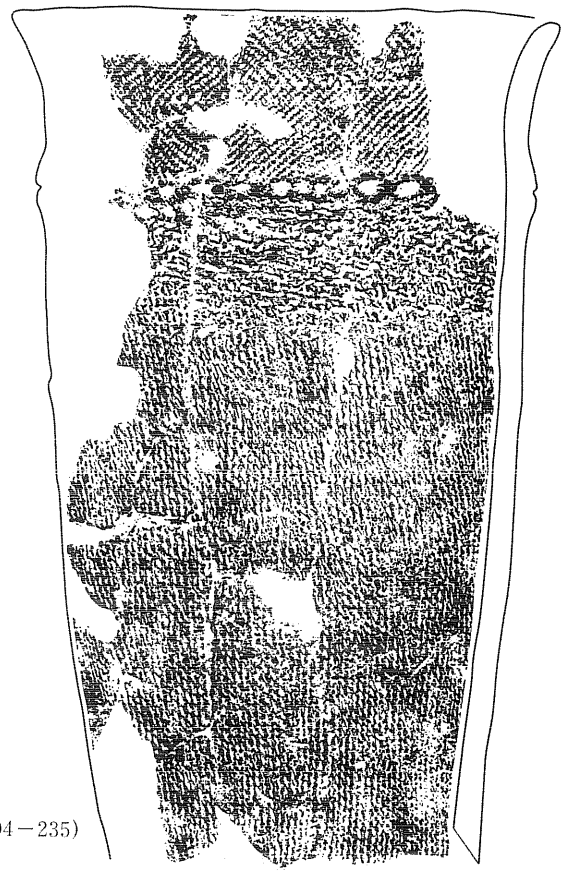
第630図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（12）



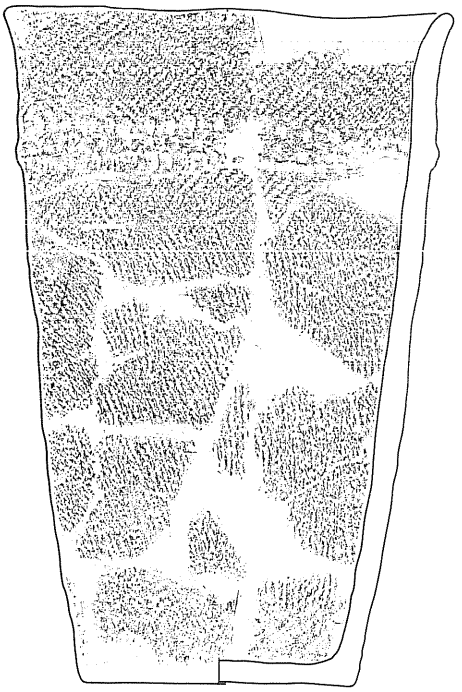
第631図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（13）



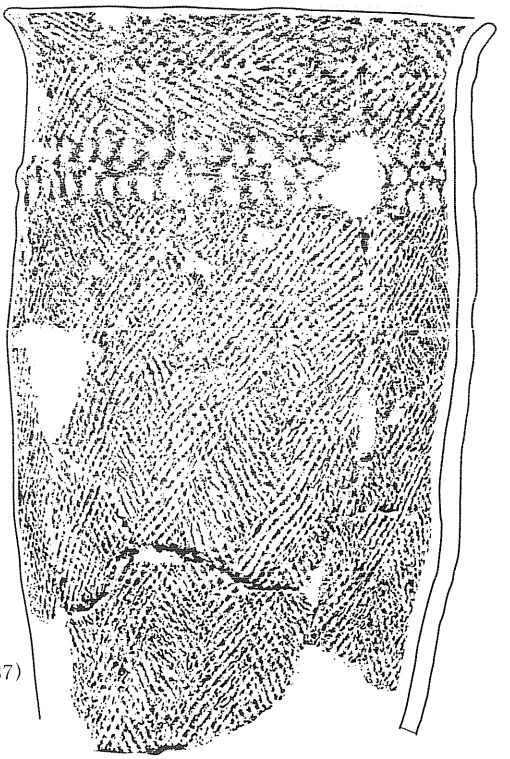
1（396・504－234）



2（396・504－235）



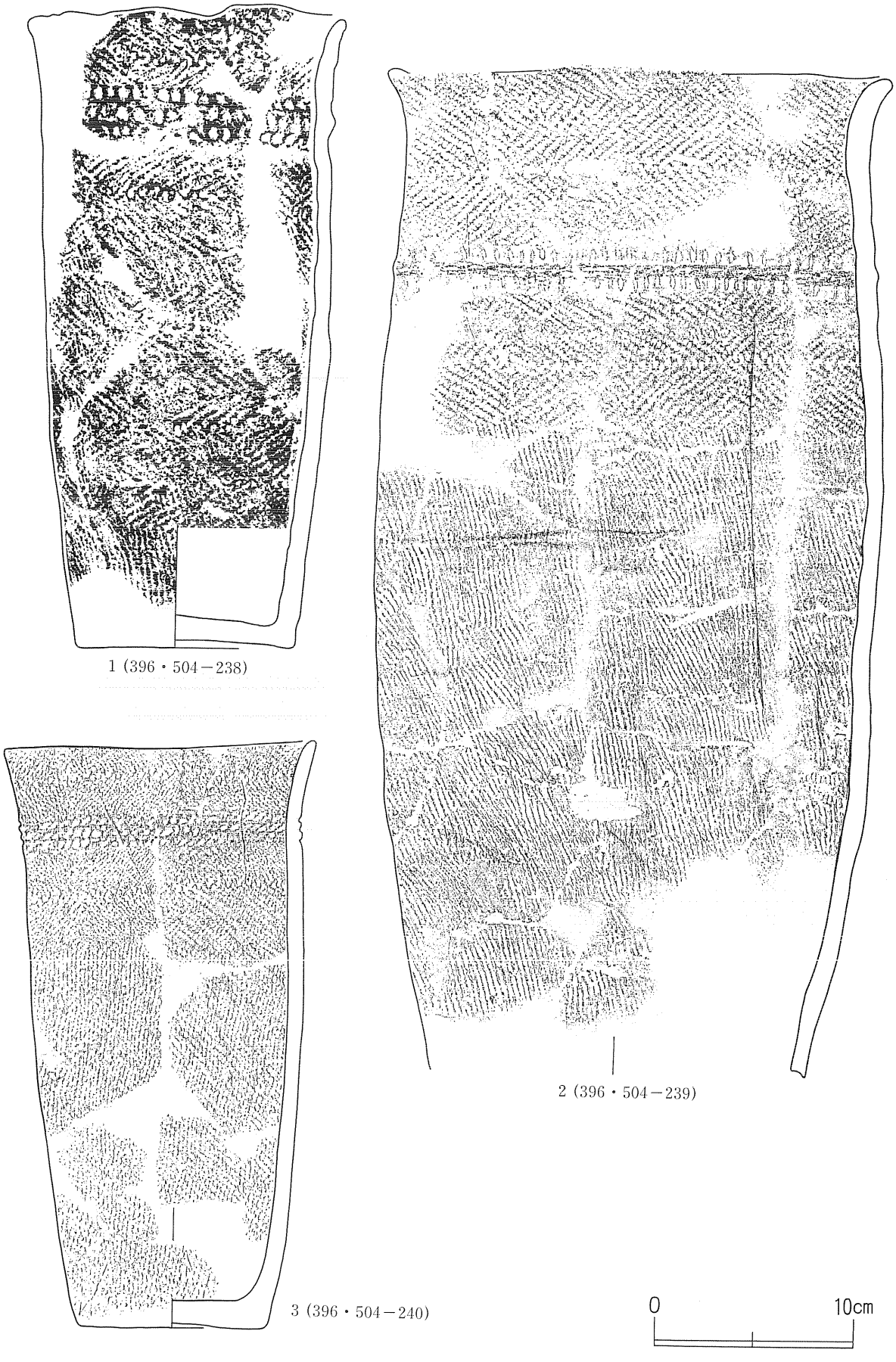
3（396・504－236）



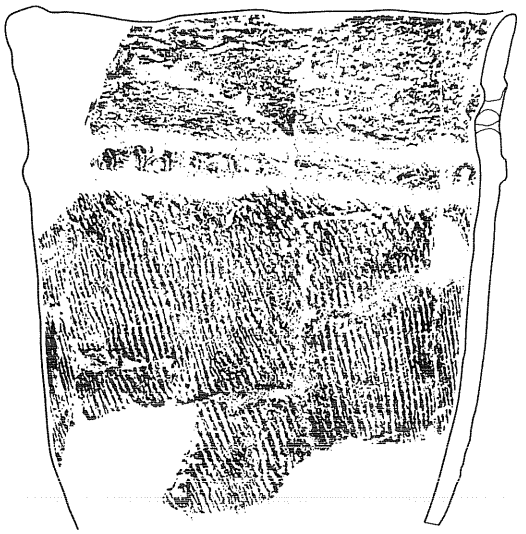
4（396・504－237）

0　10cm

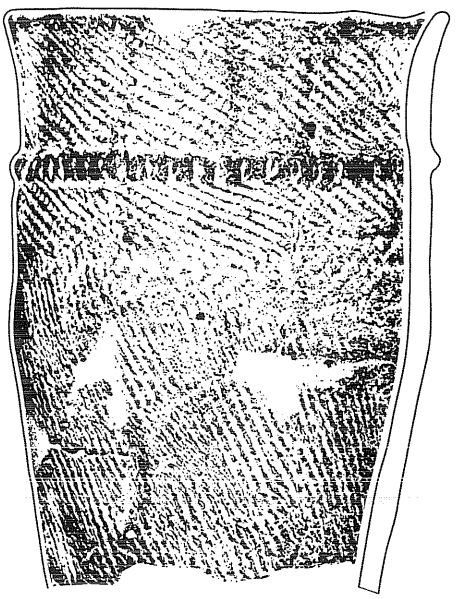
第632図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（14）



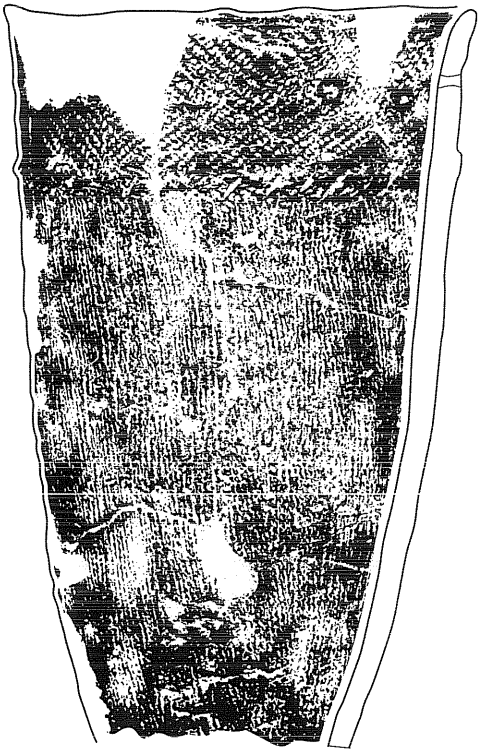
第633図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（15）



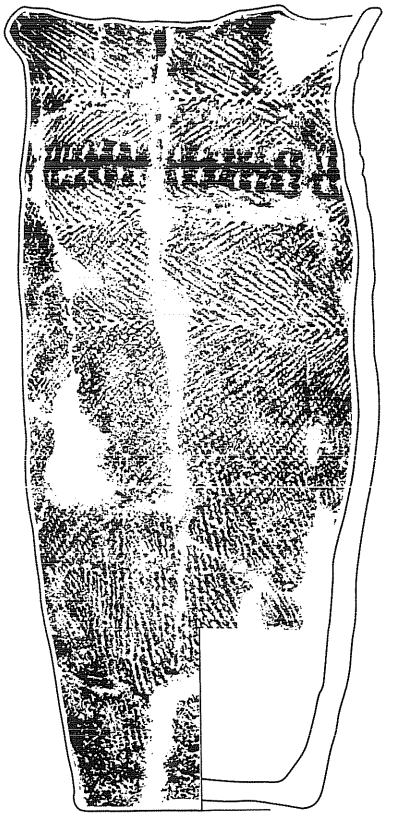
1（396・504－241）



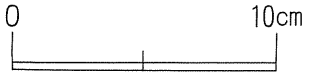
2（396・504－242）



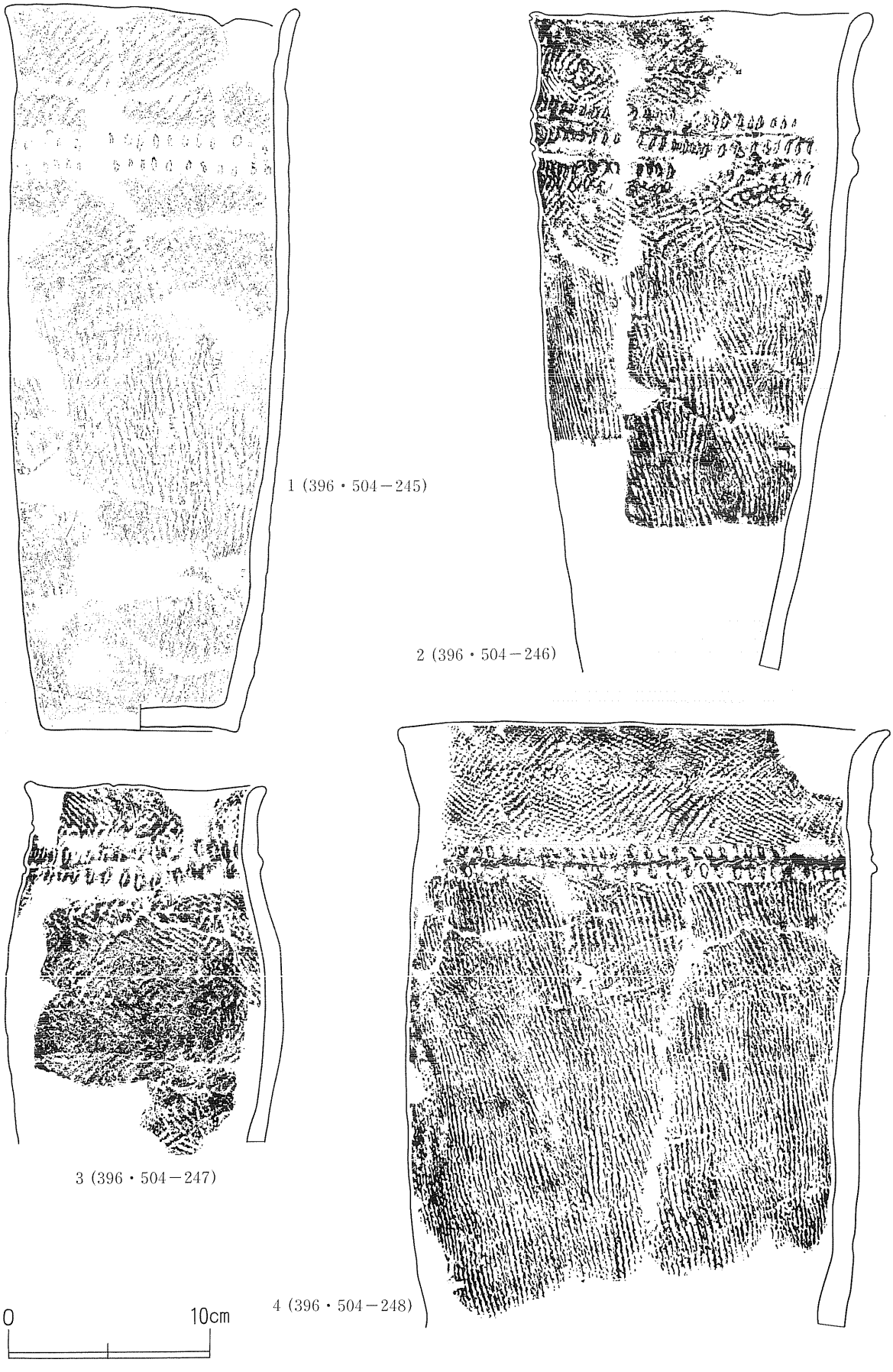
3（396・504－243）



4（396・504－244）

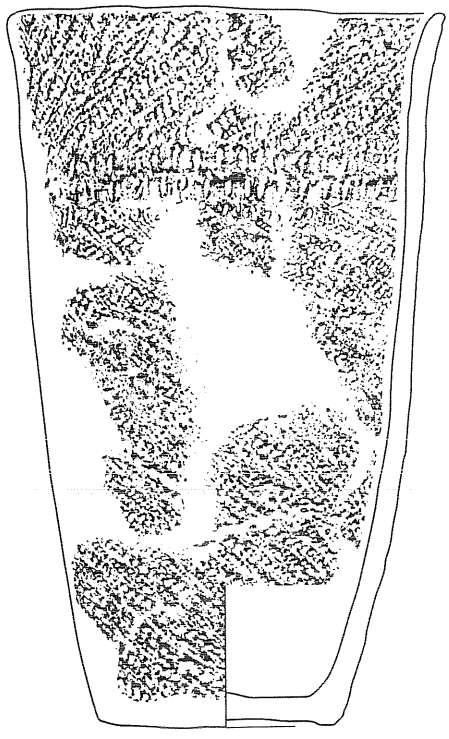


第634図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（16）

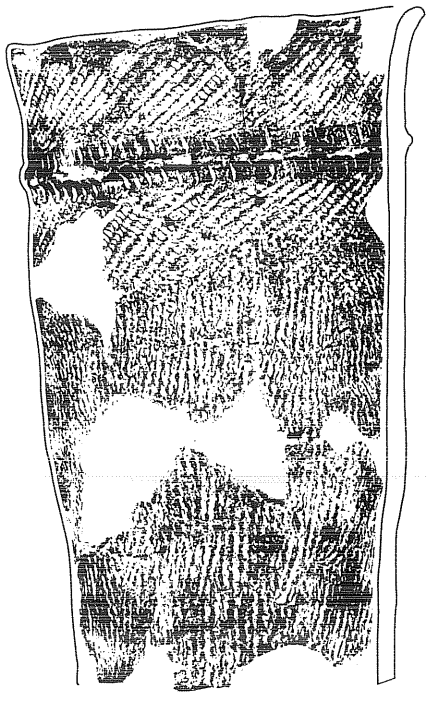


第635図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（17）

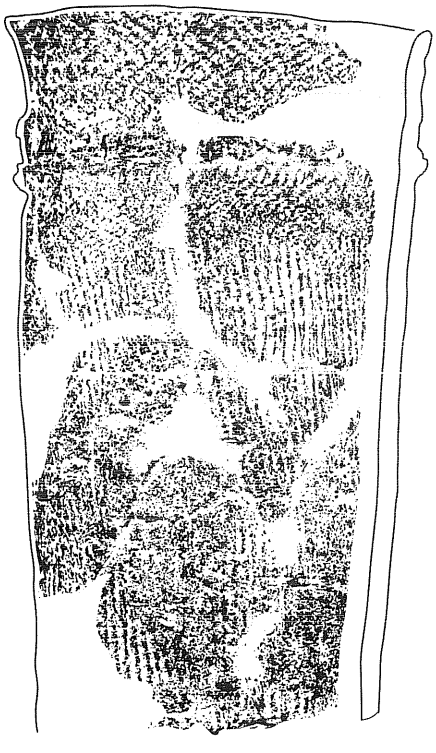
第636図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（18）



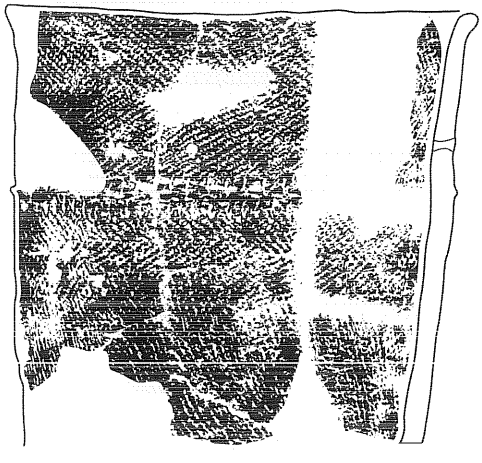
1（396・504－252）



2（396・504－253）



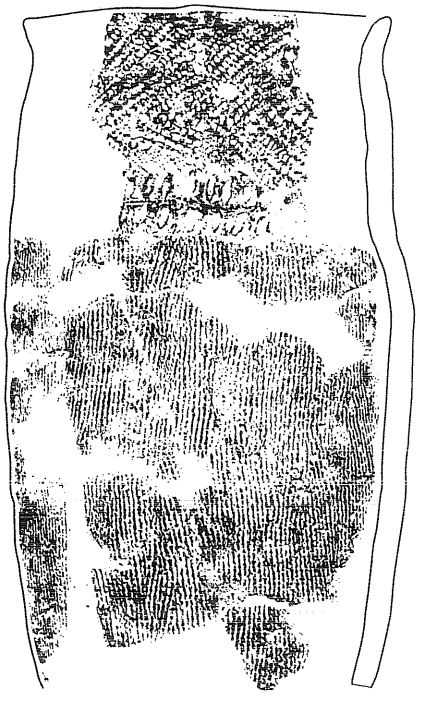
3（396・504－254）



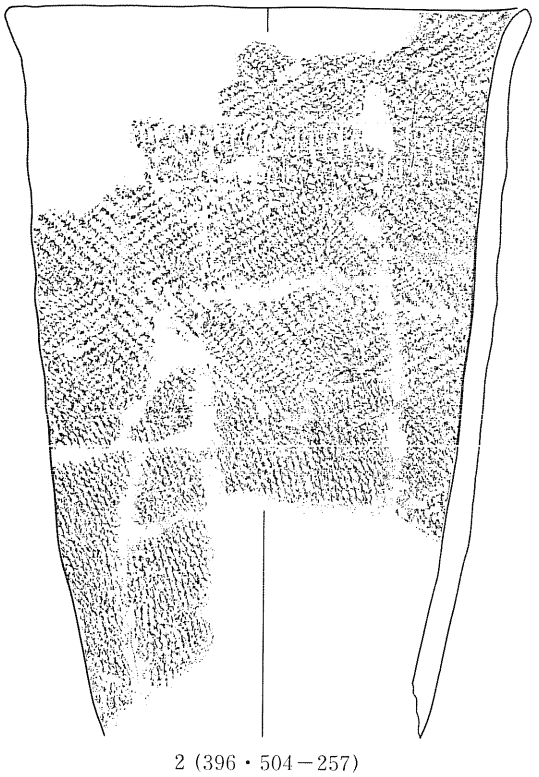
4（396・504－255）

0　10cm

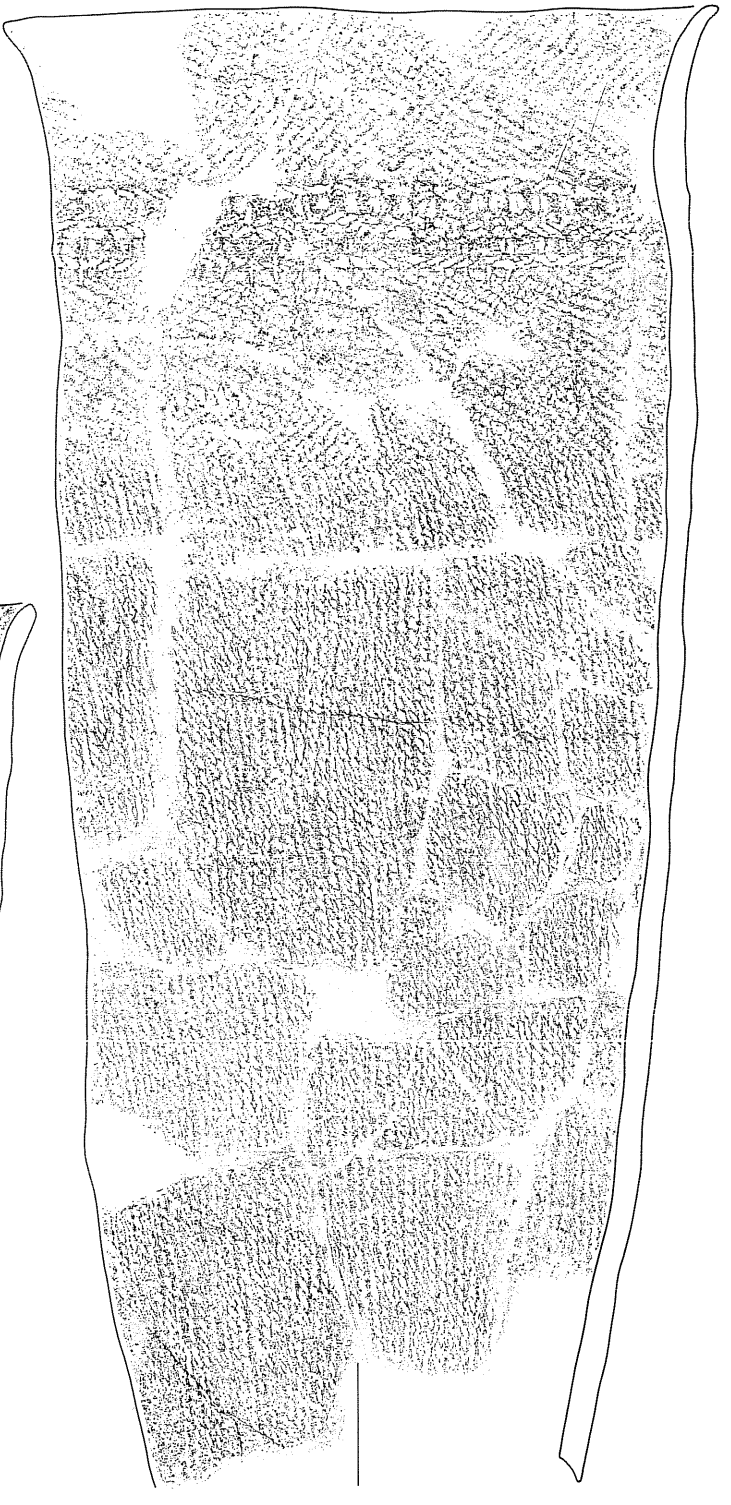
第637図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（19）



1（396・504－256）



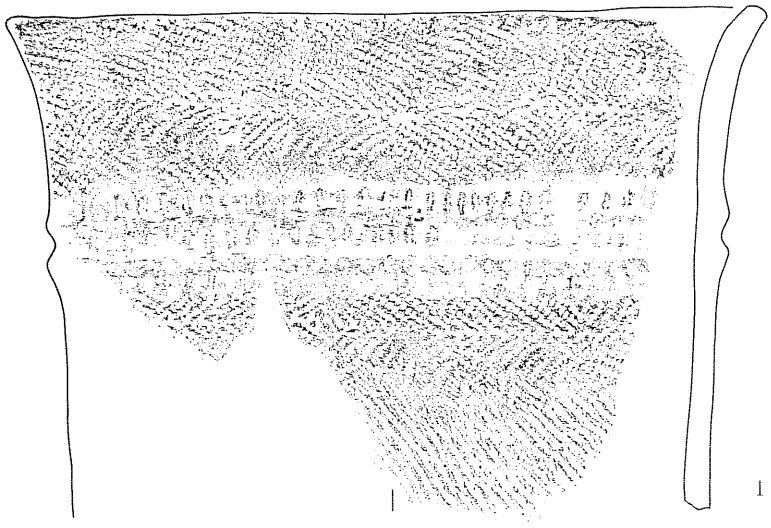
2（396・504－257）



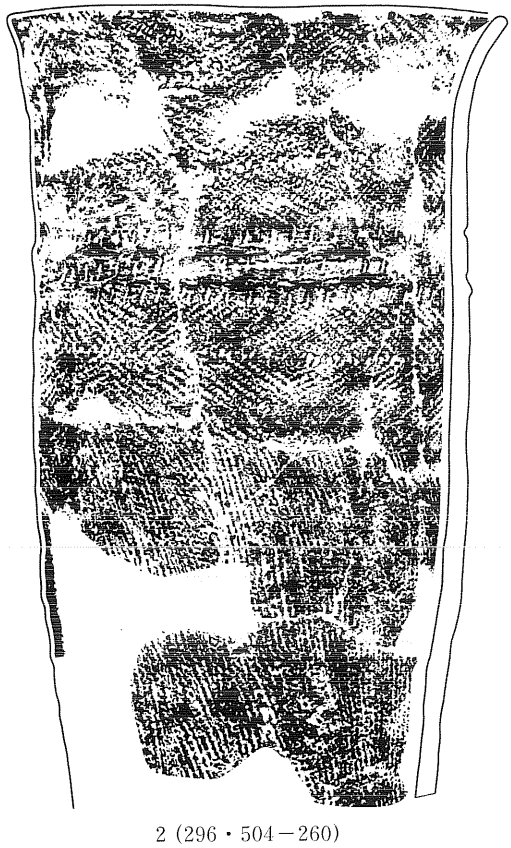
3（396・504－258）

0　10cm

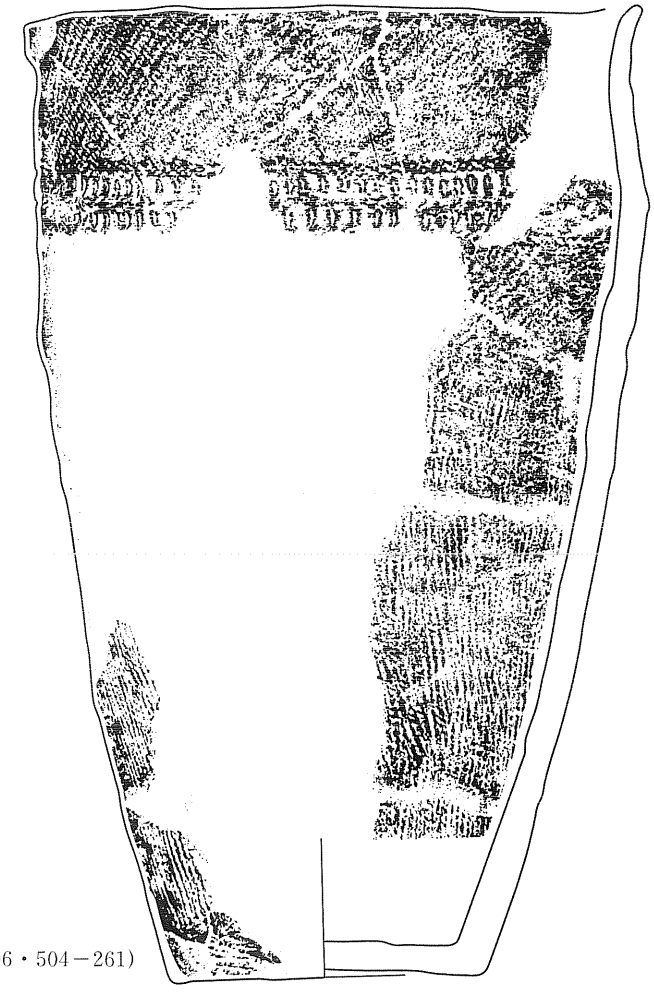
第638図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（20）



1（396・504－259）



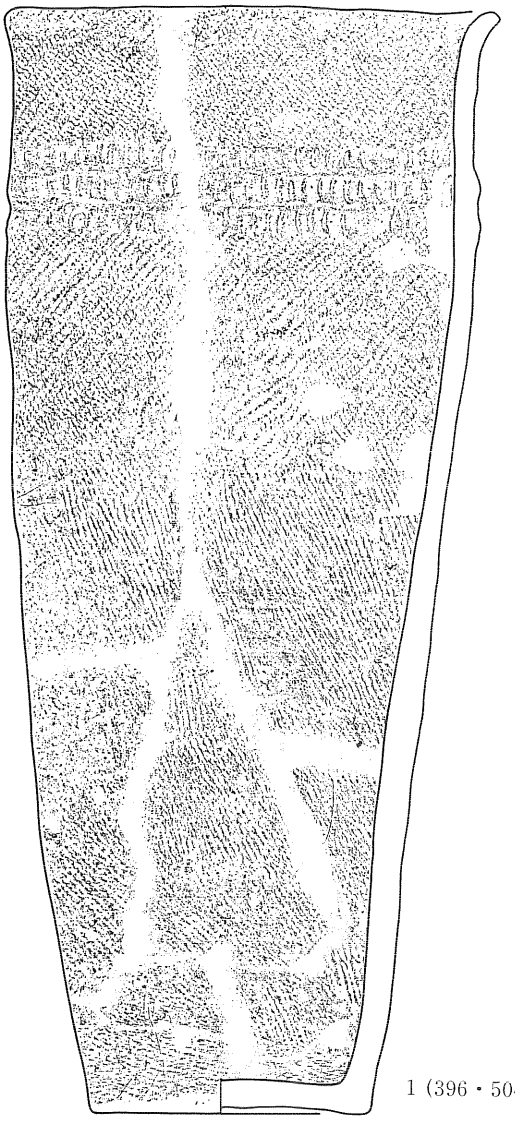
2（296・504－260）



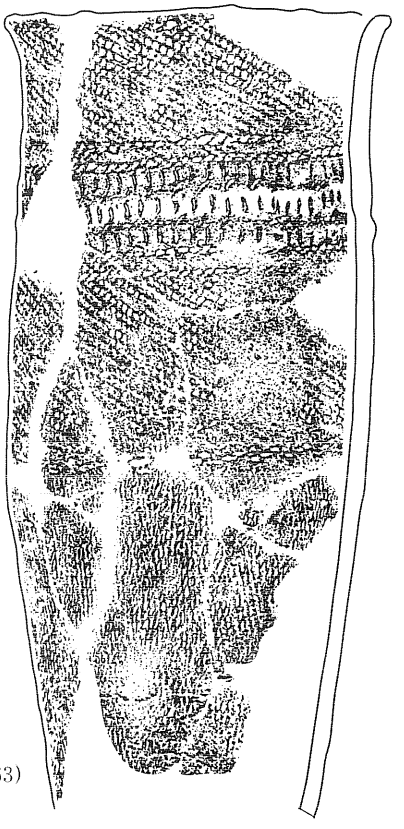
3（396・504－261）

0　10cm

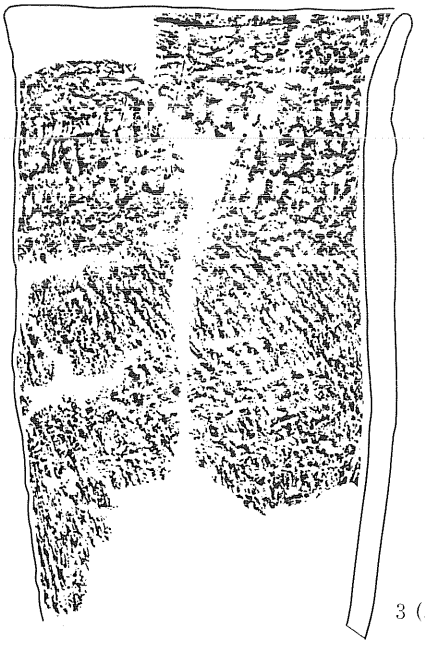
第639図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（21）



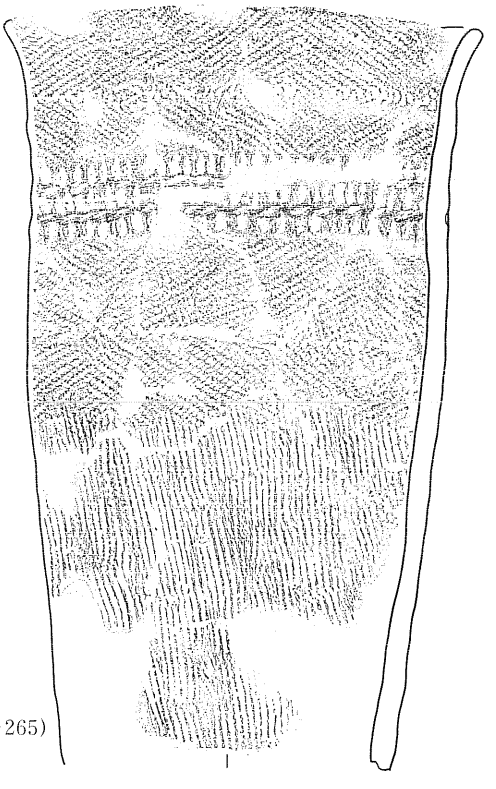
1（396・504－262）



2（396・504－263）



3（396・504－264）



4（396・504－265）

0　10cm

第640図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（22）